

平成 29 年度宮城県外国人県民アンケート

調査結果報告書

平成 30 年 3 月

宮 城 県

目 次

I	調査の概要	5
	(1) 調査の目的	5
	(2) 調査対象	5
	(3) 調査方法	5
	(4) 調査期間	5
	(5) 調査票言語	5
	(6) 調査項目	5
	(7) 回収結果	6
	(8) 宮城県における在留外国人の概況	7
II	調査結果	13
1	基本属性	13
	(1) 国籍	13
	(2) 居住地	15
	(3) 性別	17
	(4) 年齢	19
	(5) 婚姻状況	21
	(6) 同居人	23
	(7) 在留資格	26
	(8) 今後の居住予定	28
	(9) 日本国籍の取得予定	30
2	日常生活	32
	(10) 生活満足度	32
	(11) 個別の事柄の満足度	35
3	言語	42
	(12) 日本語能力	42
	(13) 日本語の必要性	52
	(14) 日本語の学習状況	53
	(15) 日本語の学習方法	56
	(16) 日本語を学習しない理由	57
4	情報	58
	(17) 生活に必要な情報の入手先	58
5	居住	68
	(18) 居住年数	68
	(19) 以前の居住地	70
6	医療・福祉	72

(20)	保健・医療・介護サービスの利用経験	72
(21)	病院での困った経験	73
(22)	病院に求める言語支援	75
7	育児・教育	76
(23)	18歳未満の子どもの有無・年齢	76
(24)	子どもと会話する言語	80
(25)	育児で困っていること	82
(26)	子育て支援制度の利用経験	85
(27)	教育で困っていること	86
(28)	日本語教育のサポート制度の利用経験	90
(29)	母国語・母国文化の教育	91
(30)	母国語・母国文化の教育をしていない理由	93
8	労働	94
(31)	現在の雇用形態	94
(32)	現在の職業	96
(33)	現在の仕事の見つけ方	98
(34)	仕事上の困りごと・不満	100
(35)	今後の勤務地	103
(36)	仕事を探していない理由	105
9	社会生活一般	108
(37)	日本人との付き合い	108
(38)	相談相手	110
(39)	日本人との交流希望	115
(40)	差別経験	116
(41)	いやな経験、つらい思いの具体的内容	118
(42)	現在困っていること	119
(43)	社会活動	121
10	防災	123
(44)	東日本大震災の被災経験	123
(45)	地震直後に知りたかった情報	124
(46)	地震直後に得た情報の入手先	126
(47)	地震についての知識	130
(48)	津波についての知識	132
(49)	地震・津波についての知識の入手先	135
(50)	防災用語についての知識	136
(51)	災害から身を守る方法	139

(5 2) 震災の経験で感じたこと【自由記述】	140
1 1 行政.....	145
(5 3) 行政施設を利用する上で困ったこと	145
(5 4) 充実してほしい行政情報	148
(5 5) 行政に求めること	155
(5 6) 生活で困っていること・行政に取り組んでほしいこと【自由記述】	162
1 2 自由記載【全意見】	170
(5 7) 東日本大震災の経験で感じたこと【自由記載】	170
(5 8) 生活の中で困っていることや、行政に取り組んでほしいこと	176
Ⅲ アンケート調査票	189

I 調査の概要

I 調査の概要

(1) 調査の目的

外国人県民の生活実態や社会環境、意識を把握し、今後の多文化共生の社会づくりを進める上での基礎データとする。

(2) 調査対象

宮城県内に住民登録のある20歳以上の外国人県民から無作為抽出した方を対象

(3) 調査方法

郵送による送付・回収

(4) 調査期間

平成29年12月5日～平成29年12月25日

(5) 調査票言語

日本語（ふりがな付き）、中国語（簡体字）、韓国語、英語、ベトナム語、ネパール語

(6) 調査項目

1 基本属性(9問)	7 育児・教育(8問)
2 日常生活(2問)	8 労働(6問)
3 言語(5問)	9 社会生活一般(7問)
4 情報(1問)	10 防災(9問)
5 居住(2問)	11 行政(3問)
6 医療・福祉(3問)	12 自由意見
	全56問

(7) 回収結果

- ①調査票配布数 1, 890件
- ②回答数 396件 (有効回収率 21.0%)
- ③地域別回収状況

	調査票配布数	回収数	回収率(%)
仙台市	1130	217	19.2
仙台市以外	760	179	23.6
仙南地域	107	31	29.0
仙台地域	265	46	17.4
大崎地域	118	23	19.5
栗原地域	38	13	34.2
登米地域	34	4	11.8
石巻地域	140	23	16.4
気仙沼地域	58	14	24.1
無回答	-	25	-
宮城県合計	1890	396	21.0

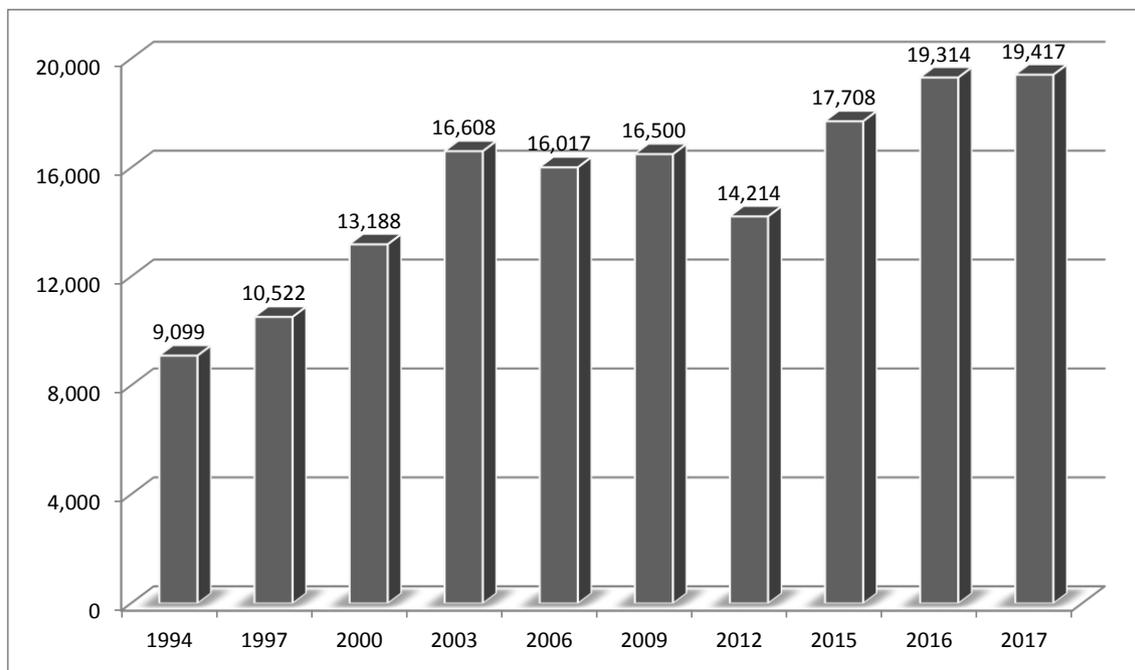
④有効回答の言語別内訳

	日本語	中国語	韓国語	英語	ベトナム語・ ネパール語	計
仙台市	93	53	19	46	7	218
仙台市以外	86	20	24	38	10	178
仙南地域	12	4	7	5	1	29
仙台地域	30	5	1	10	0	46
大崎地域	8	4	6	4	0	22
栗原地域	8	1	3	1	0	13
登米地域	1	1	1	1	0	4
石巻地域	12	2	4	5	0	23
気仙沼地域	11	1	0	2	0	14
無回答	4	2	2	10	9	27
宮城県合計	179 (45.2%)	73 (18.4%)	43 (10.9%)	84 (21.2%)	17 (4.3%)	396 (100%)

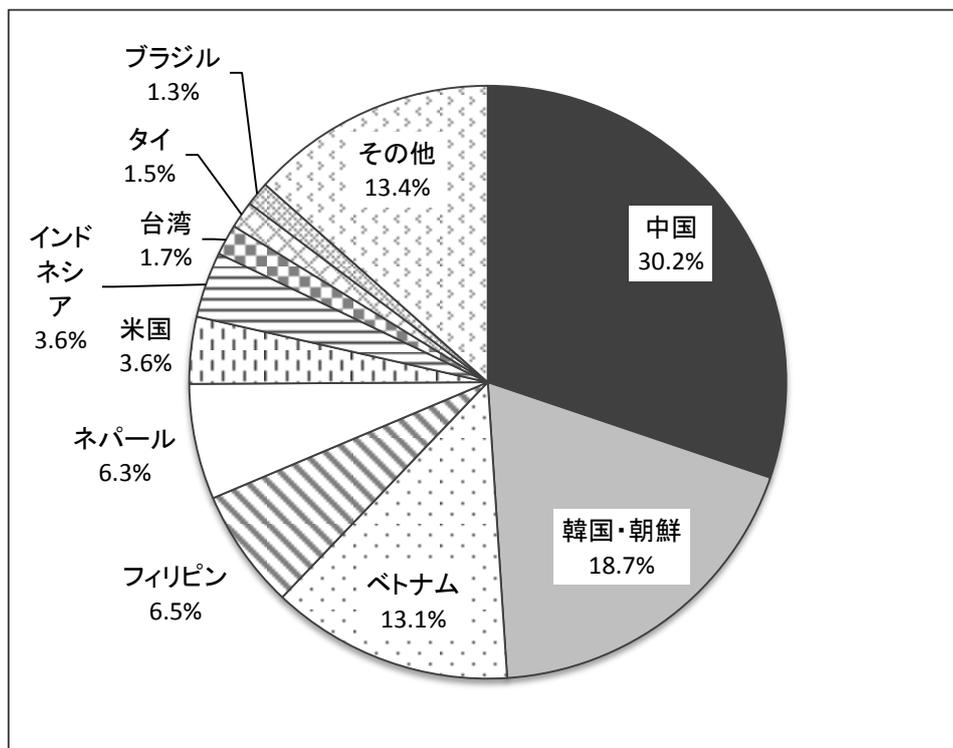
(8) 宮城県における在留外国人の概況

(【出典】法務省「在留外国人統計」)

①在留外国人数の推移 (人)

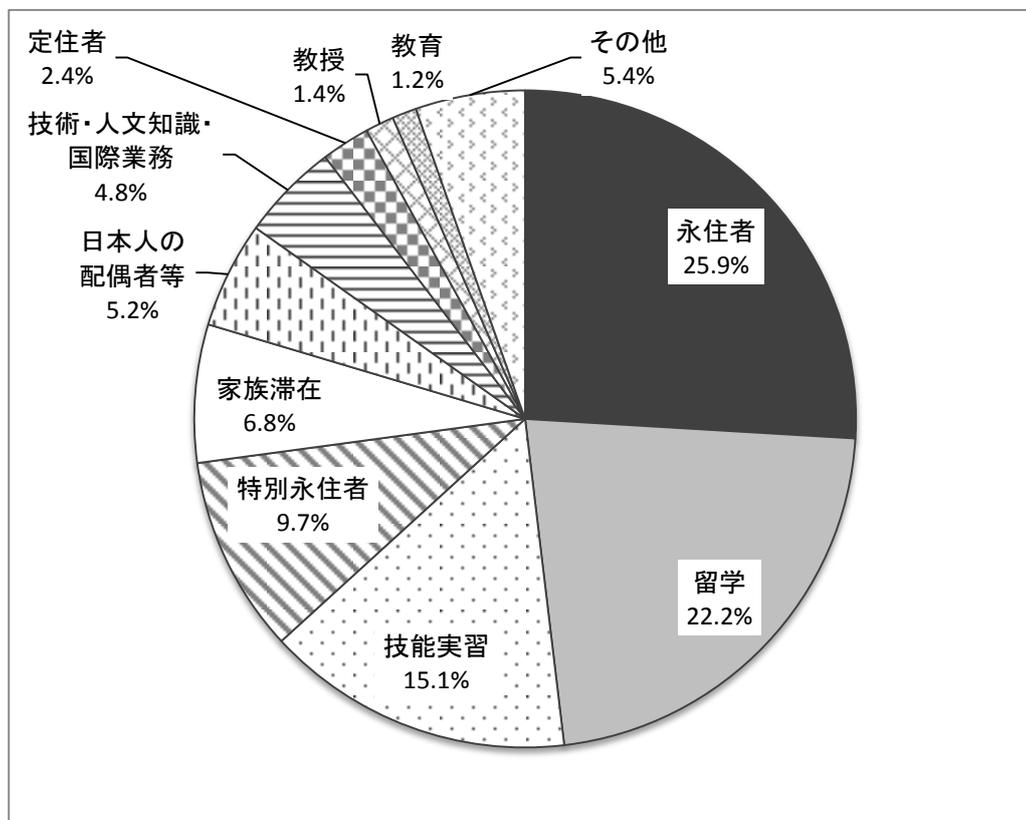


②国籍別登録者数



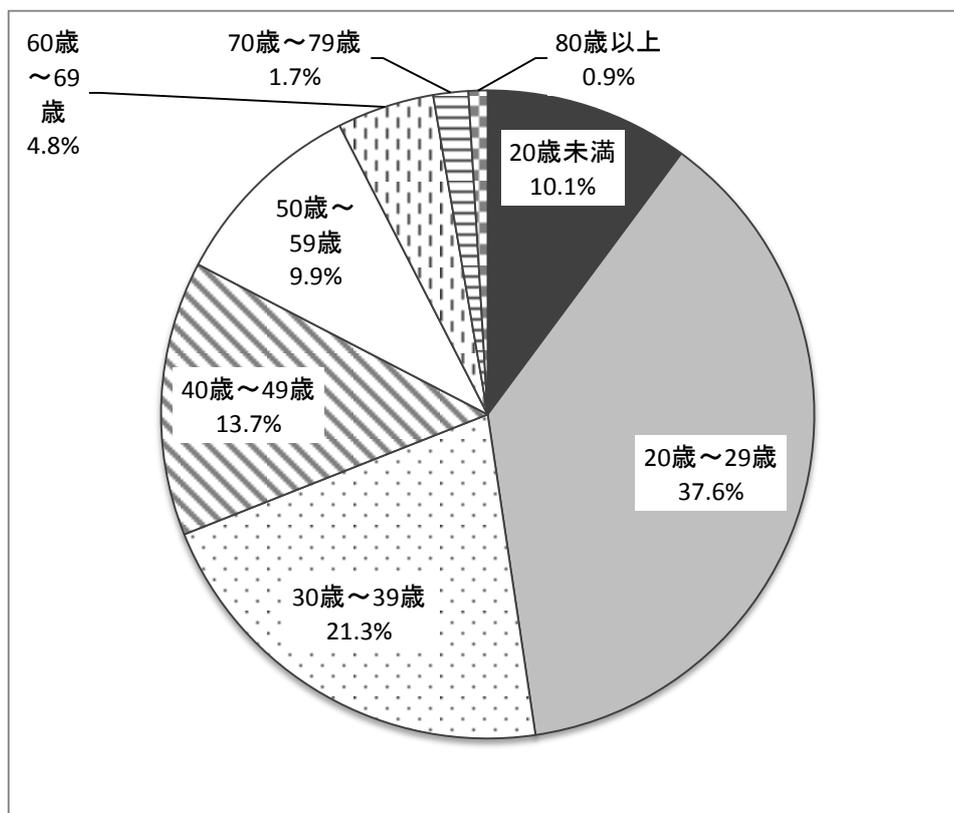
		N	%
1	中国	5,868	30.2%
2	韓国・朝鮮	3,639	18.7%
3	ベトナム	2,548	13.1%
4	フィリピン	1,266	6.5%
5	ネパール	1,224	6.3%
6	米国	708	3.6%
7	インドネシア	696	3.6%
8	台湾	326	1.7%
9	タイ	287	1.5%
10	ブラジル	256	1.3%
-	その他	2,599	13.4%
	計	19,417	100.0%

③在留資格別登録者数



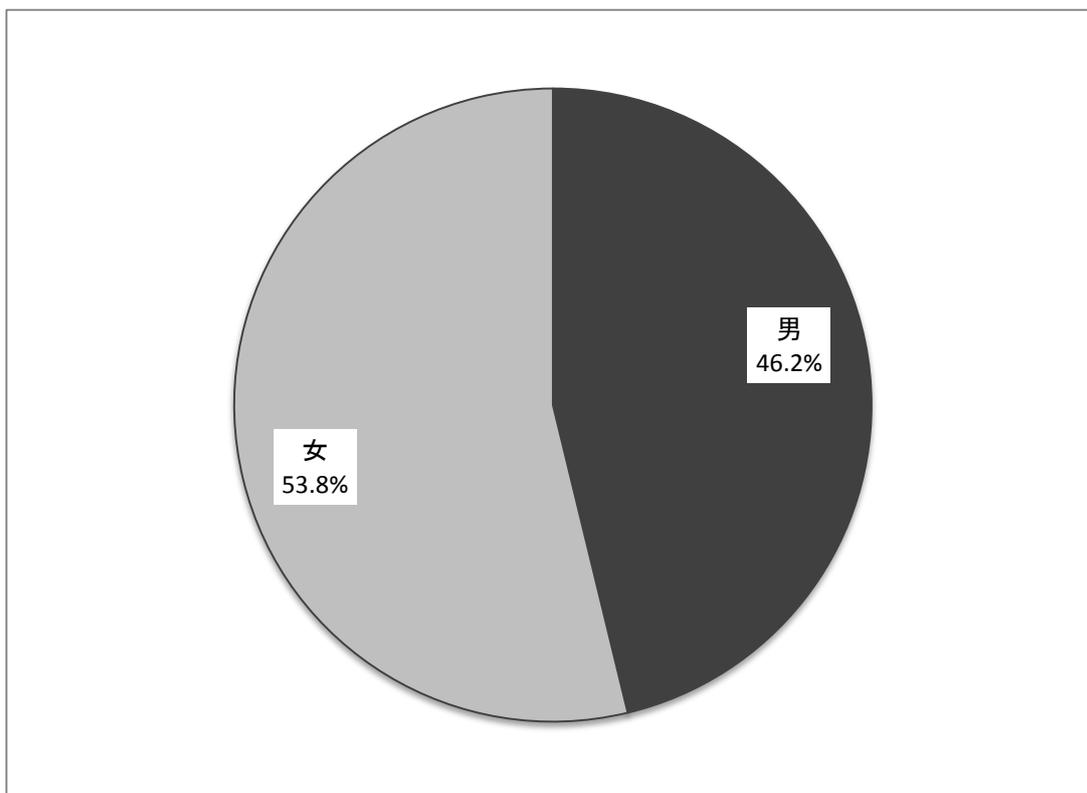
		N	%
1	永住者	5,038	25.9%
2	留学	4,304	22.2%
3	技能実習	2,926	15.1%
4	特別永住者	1,878	9.7%
5	家族滞在	1,319	6.8%
6	日本人の配偶者等	1,015	5.2%
7	技術・人文知識・国際業務	933	4.8%
8	定住者	460	2.4%
9	教授	273	1.4%
10	教育	231	1.2%
-	その他	1,040	5.4%
	計	19,417	100.0%

④年齢別登録者数



		N	%
1	20歳未満	1,961	10.1%
2	20歳～29歳	7,293	37.6%
3	30歳～39歳	4,137	21.3%
4	40歳～49歳	2,659	13.7%
5	50歳～59歳	1,913	9.9%
6	60歳～69歳	935	4.8%
7	70歳～79歳	336	1.7%
8	80歳以上	183	0.9%
	計	19,417	100.0%

⑤男女別登録者数



	N	%
男	8,976	46.2%
女	10,441	53.8%
計	19,417	100.0%

Ⅱ 調査結果

II 調査結果

1 基本属性

(1) 国籍

国籍の分布を見ると、中国籍者が 33.6%、韓国籍者が 23.2%を占めており、以下、フィリピンが 7.3%、ベトナムが 5.3%、アメリカ及びインドネシアが各 3.3%と続いている。

問1 あなたの国籍は次のどれですか

表1 国籍

	N	%
中国	133	33.6%
韓国	92	23.2%
フィリピン	29	7.3%
ベトナム	21	5.3%
米国	13	3.3%
インドネシア	13	3.3%
タイ	9	2.3%
台湾	7	1.8%
朝鮮	5	1.3%
ネパール	5	1.3%
パキスタン	2	0.5%
バングラデシュ	0	0.0%
その他	63	15.9%
無回答	4	1.0%
計	396	100.0%

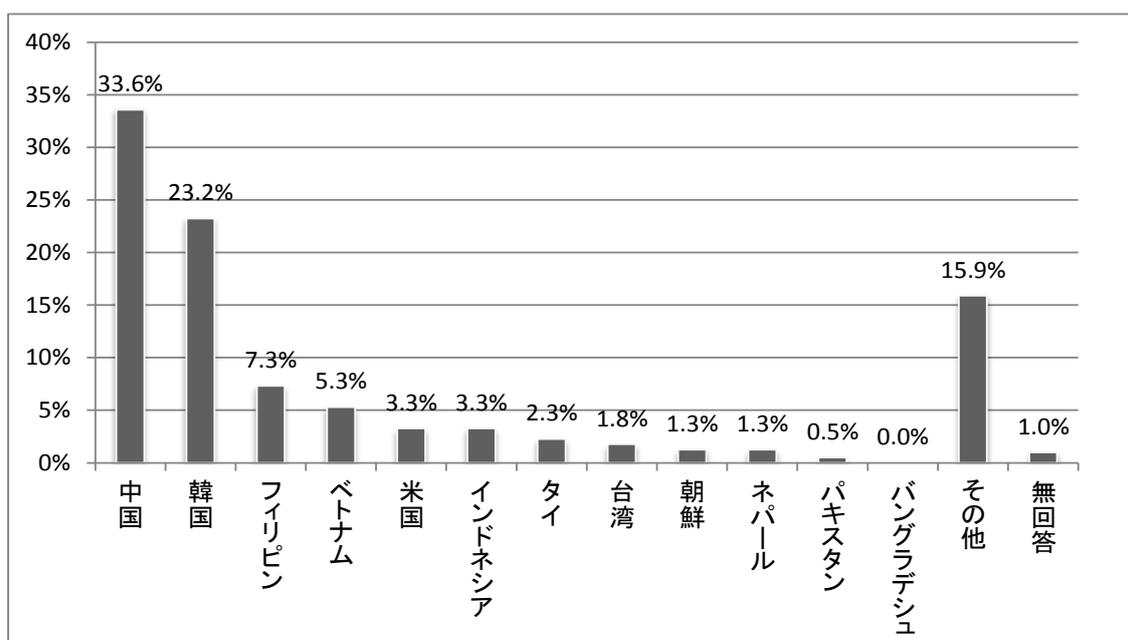


図1 国籍

居住地別に国籍の分布を見ると、登米地域では韓国・朝鮮籍の割合が50%を占めるほか、大崎地域でも48%と他の地域と比較して高い割合を占めている。仙台市、栗原地域では中国籍の割合が高くなっている。

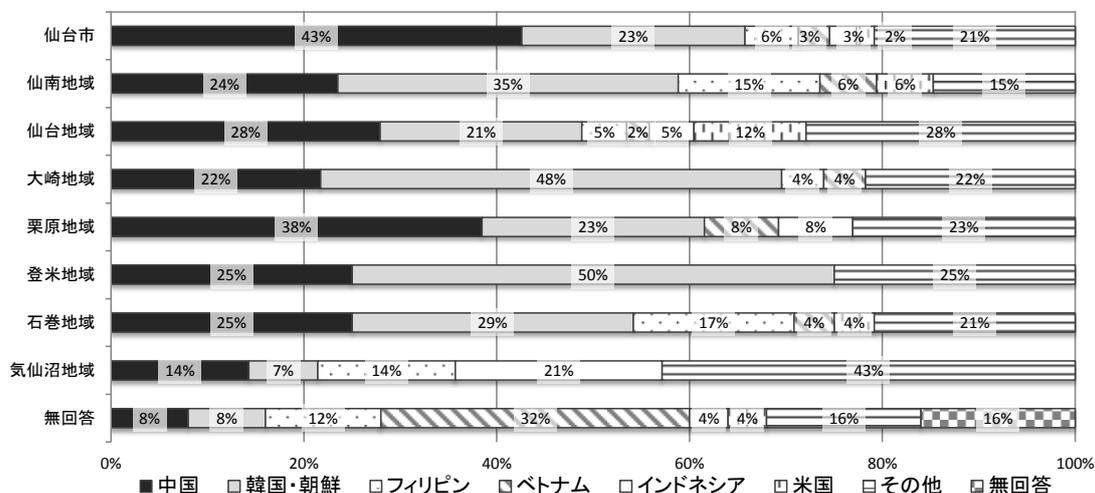


図1-2 居住地別国籍の分布(N=396)

在留資格別に国籍の分布を見ると、中国籍では留学が48%と半数近いほか、永住者、家族滞在、技術・人文知識・国際業務、定住者、その他においても30%以上を占めている。韓国・朝鮮籍は特別永住者が87%を占めるほか、日本人の配偶者でも29%と最も割合が高い。このほかベトナム籍は技能実習が50%を超える割合を占めるほか、米国籍では教育が43%と高い割合を占めている。

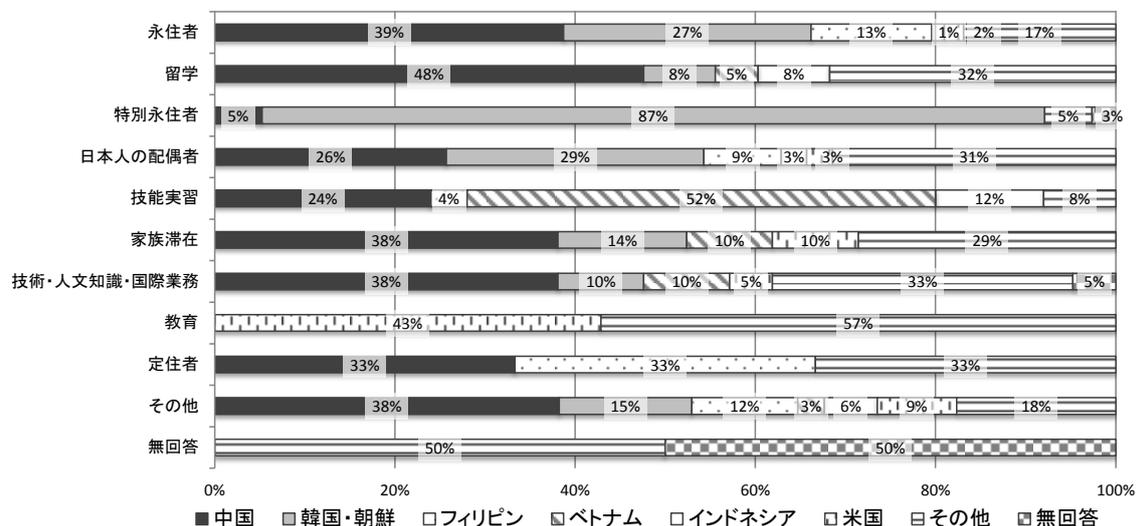


図1-3 在留資格別国籍の分布(N=396)

(2) 居住地

回答者の居住地の分布を見ると、仙台市が全体の 54.8%を占めており、次いで仙台地域が 11.6%、仙南地域が 7.8%、大崎地域及び石巻地域が各 5.8%となっている。

問 2 あなたが住んでいる市町村はどこですか

表 2 居住地

	N	%		N	%		N	%
仙台市	217	54.8%	仙台地域	46	11.6%	加美町	3	9.7%
青葉区	74	18.7%	塩竈市	6	1.5%	涌谷町	1	0.3%
宮城野区	19	4.8%	名取市	7	1.8%	美里町	2	0.5%
太白区	17	4.3%	多賀城市	10	2.5%	栗原地域	13	3.3%
若林区	14	3.5%	岩沼市	6	1.5%	栗原市	13	3.3%
泉区	18	4.5%	富谷市	5	1.3%	登米地域	4	1.0%
無回答	75	18.9%	亶理町	0	0.0%	登米市	4	1.0%
仙南地域	31	7.8%	山元町	1	0.3%	石巻地域	23	5.8%
白石市	6	1.5%	松島町	3	0.8%	石巻市	19	4.8%
角田市	6	1.5%	七ヶ浜町	2	0.5%	東松島市	1	0.3%
蔵王町	1	0.3%	利府町	2	0.5%	女川町	3	0.8%
七ヶ宿町	3	0.8%	大和町	3	0.8%	気仙沼地域	14	3.5%
大河原町	4	1.0%	大郷町	0	0.0%	気仙沼市	13	3.3%
村田町	1	0.3%	大衡村	0	0.0%	南三陸町	1	0.3%
柴田町	5	1.3%	無回答	1	0.3%	その他	5	1.3%
川崎町	0	0.0%	大崎地域	23	5.8%	無回答	20	5.1%
丸森町	3	0.8%	大崎市	17	4.3%			
無回答	2	0.5%	色麻町	0	0.0%			
						計	396	100.0%

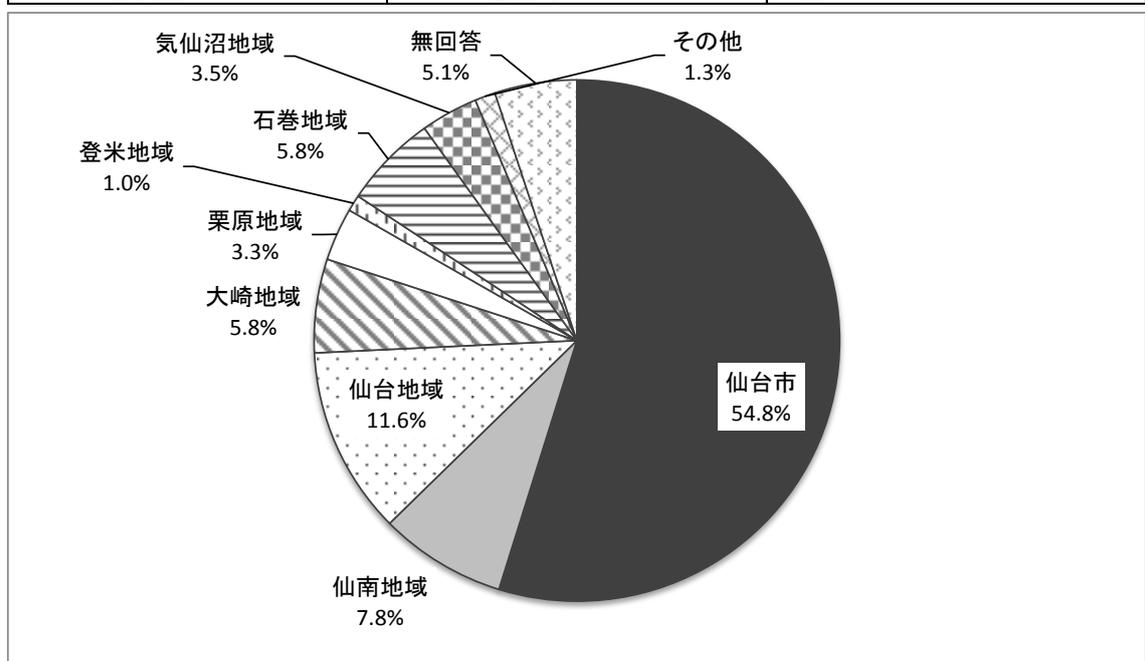


図 2 居住地

在留資格別に居住地を見ると、留学と家族滞在では 80%以上を仙台市が占めている。技能実習は各地域に幅広く分布しているが、中でも栗原地域と気仙沼地域が 20%と割合が高い。

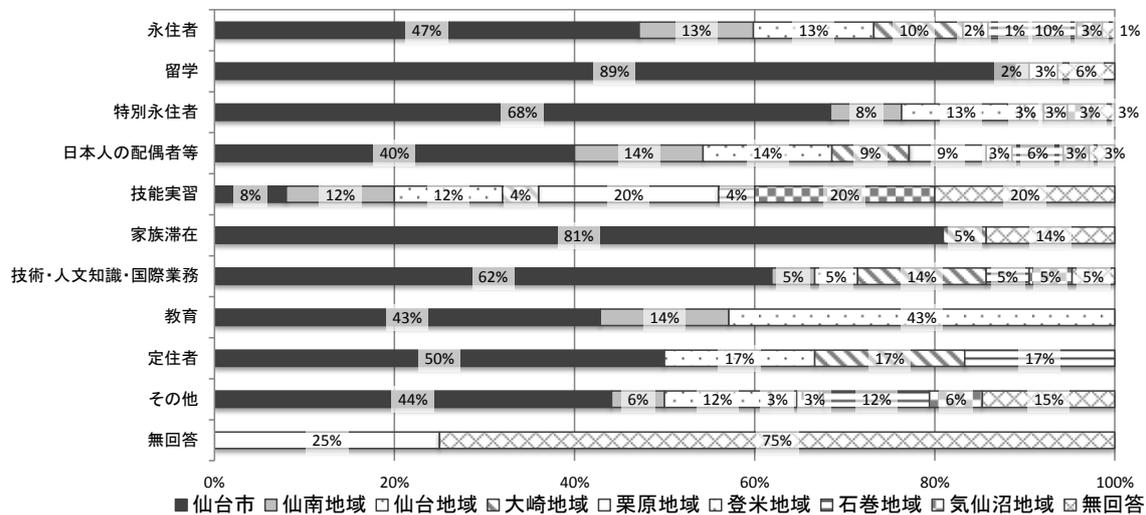


図2-2 在留資格別居住地の分布 (N=396)

(3) 性別

性別の分布を見ると、女性が64.4%、男性が34.1%となっており、女性の割合が高くなっている。2017年6月の法務省在留外国人統計を見ると、宮城県に在住する外国籍者のうち女性が53.8%、男性が46.2%となっているため、今回の調査では女性の回答者数がやや高くなっていることがわかる。

問3 あなたの性別はどちらですか

表3 性別

	N	%
男	135	34.1%
女	255	64.4%
無回答	6	1.5%
計	396	100.0%

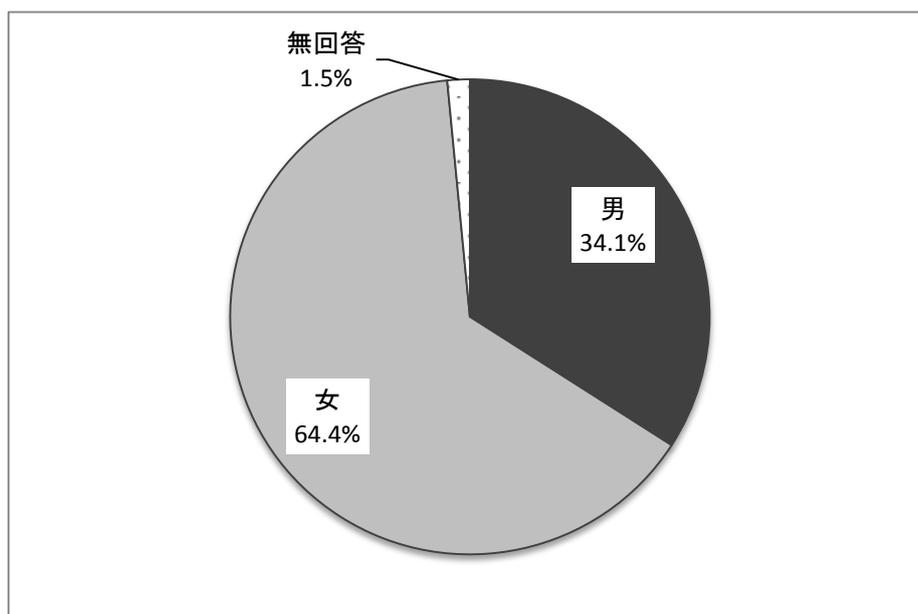


図3 性別

居住地別に性別の分布を見ると、登米地域は男女の割合が拮抗したものの、その他の地域では女性の割合が高くなっている。特に、大崎地域、石巻地域、気仙沼地域では女性の割合が80%を超えている。

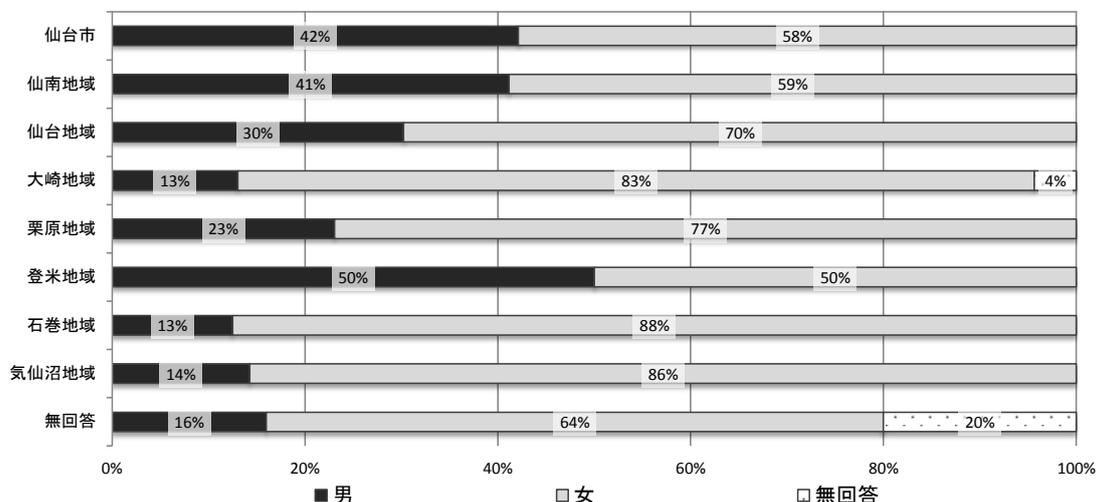


図3-2 居住地別性別の分布 (N=396)

在留資格別に性別を見ると、技術・人文知識・国際業務で女性の割合が95%を占めたほか、永住者、日本人の配偶者等、技能実習、家族滞在では女性の割合が高くなった。対して、留学、教育、定住者では男性の割合が高い。特別永住者では男女同程度の割合となっている。

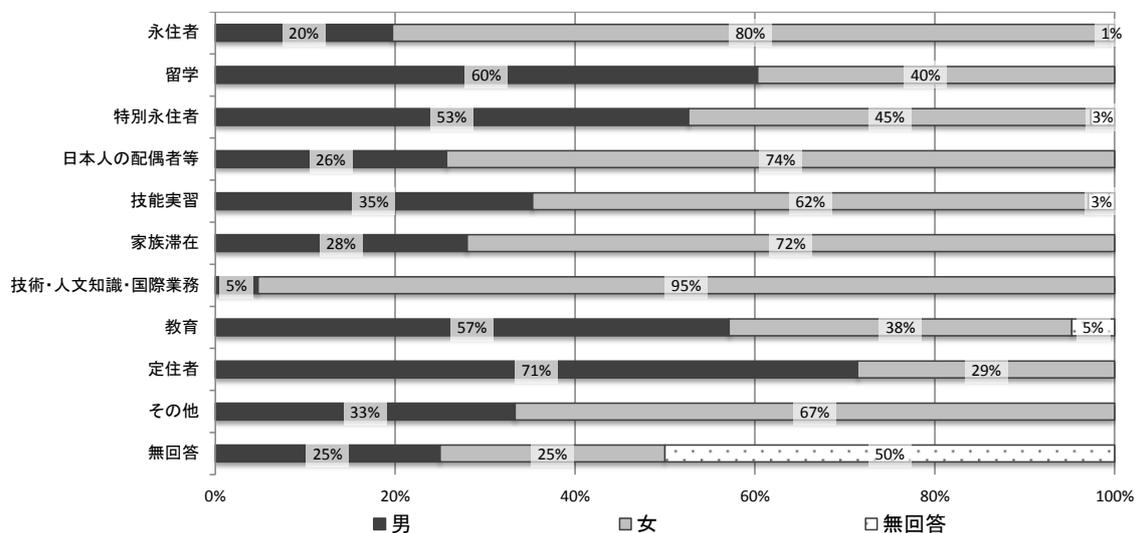


図3-3 在留資格別性別の分布 (N=396)

(4) 年齢

年齢の分布を見ると、30歳代が28.5%、20歳代が24.2%、40歳代が22.2%となっており、40歳代以下で全体の約75%を占めている。

問4 あなたの年齢は以下のどれにあてはまりますか

表4 年齢

	N	%
20歳未満	0	0.0%
20歳代	96	24.2%
30歳代	113	28.5%
40歳代	88	22.2%
50歳代	50	12.6%
60歳代	29	7.3%
70歳代	11	2.8%
80歳代	4	1.0%
無回答	5	1.3%
計	396	100.0%

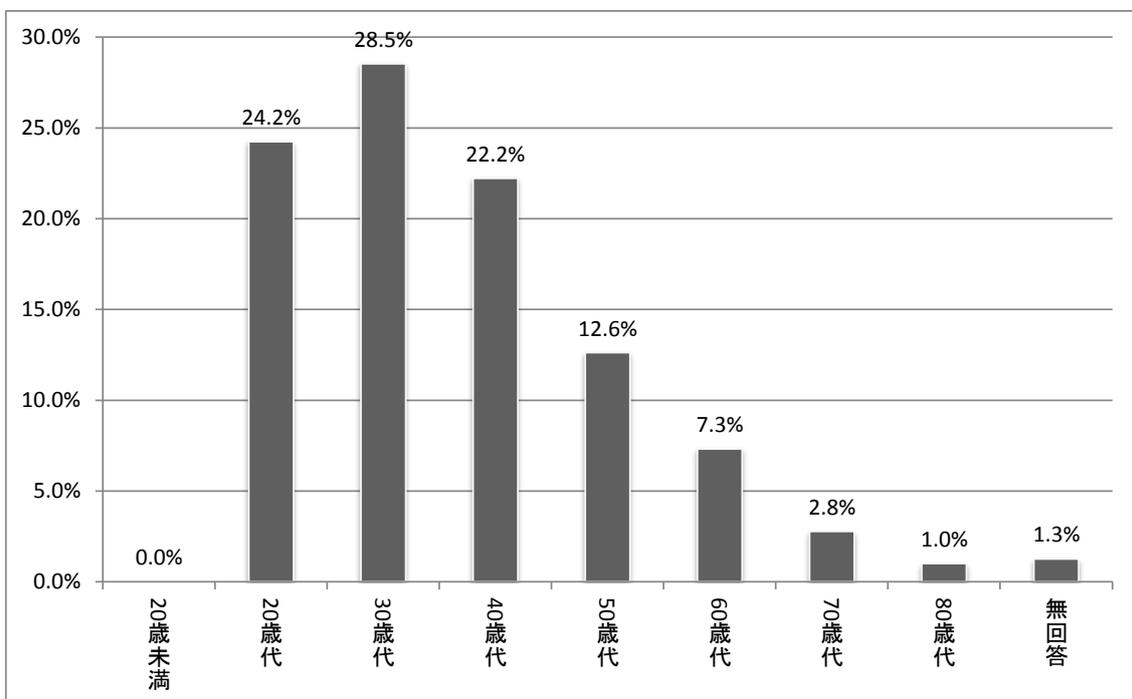


図4 年齢

居住地域別に年齢の分布を見ると、仙台市と気仙沼地域では20歳代が30%を超えている。また、30歳代は石巻地域で46%となるなど相対的に高い割合を示した。仙台市、栗原地域、石巻地域、気仙沼地域では20歳代、30歳代の合計が50%を超えるなど若年層の割合が高い。これに対し、仙南地域、大崎地域、登米地域では50歳以上の割合が高く、特に登米地域では50歳以上の割合が50%となっている。

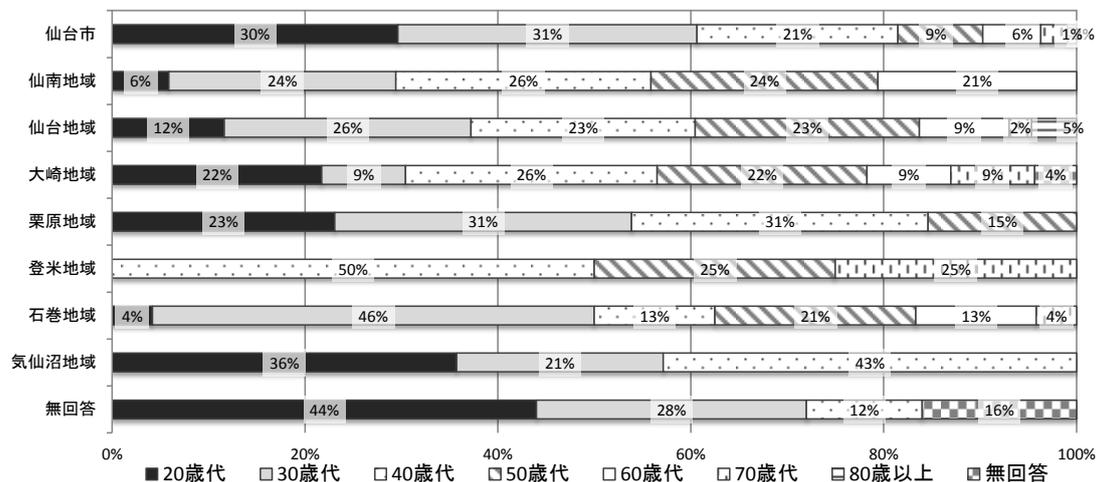


図4-2 居住地域別年齢の分布(N=396)

在留資格別に年齢の分布を見ると、留学、技能実習、家族滞在、教育では20歳代、30歳代の割合が高く合わせて90%を超えており、これらの在留資格では低い年齢層の割合が高い。日本人の配偶者、定住者では30歳代、40歳代を中心とした校正になっている。永住者、特別永住者では全年齢区分に分布しているが、特別永住者では50歳以上の割合が50%を超えており、年齢層が高いことがわかる。

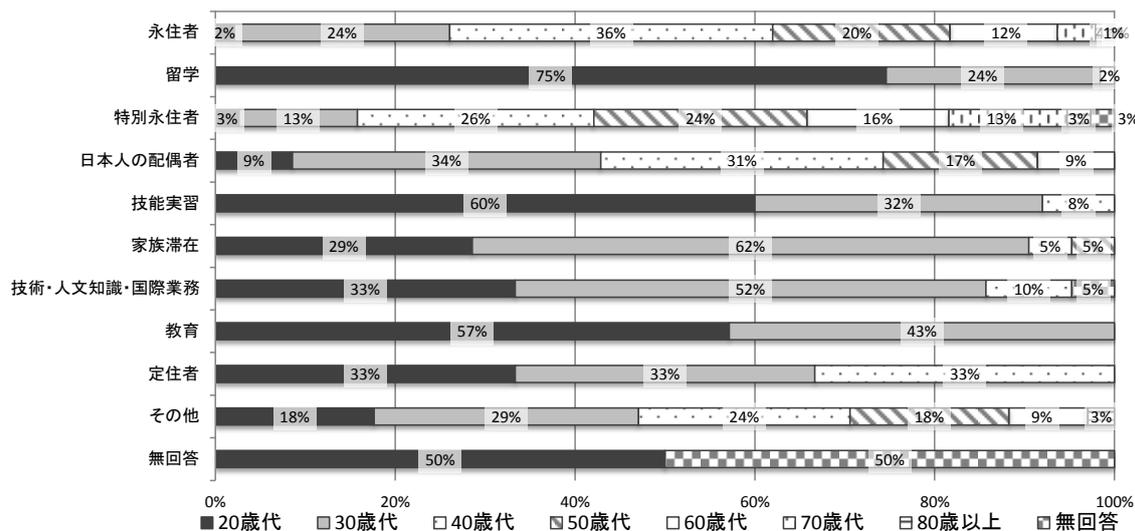


図4-3 在留資格別年齢の分布(N=396)

(5) 婚姻状況

回答者の婚姻状況は、61.4%が既婚、29.0%が未婚となっている。既婚者のうち 55.1% (全体で見ると 33.8%) は配偶者が日本国籍を持っており、30.8% (全体で見ると 18.9%) は配偶者が回答者と同国籍である。

問 5 あなたは結婚していますか

表 5 婚姻状況

	N	%
している	243	61.4%
配偶者国籍		
日本	134	33.8%
同じ国籍	75	18.9%
その他	7	1.8%
無回答	27	6.8%
していない	115	29.0%
していたが、死別又は離別した	33	8.3%
無回答	5	1.3%
計	396	100.0%

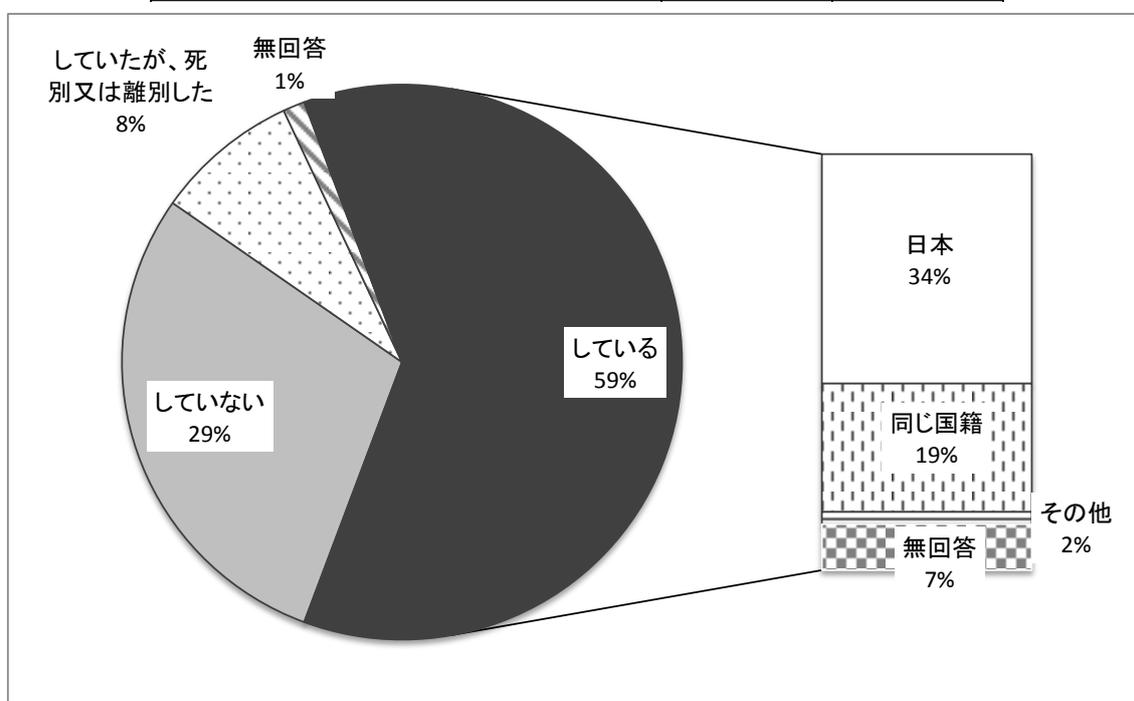


図 5 婚姻状況

居住地域別に婚姻状況を見ると、栗原地域では結婚している割合が 85%と最も高くなった。対して気仙沼地域での結婚している割合は 50%と他の地域に比較して低い。結婚していない割合は仙台地域と気仙沼地域のみが 30%を超えている。

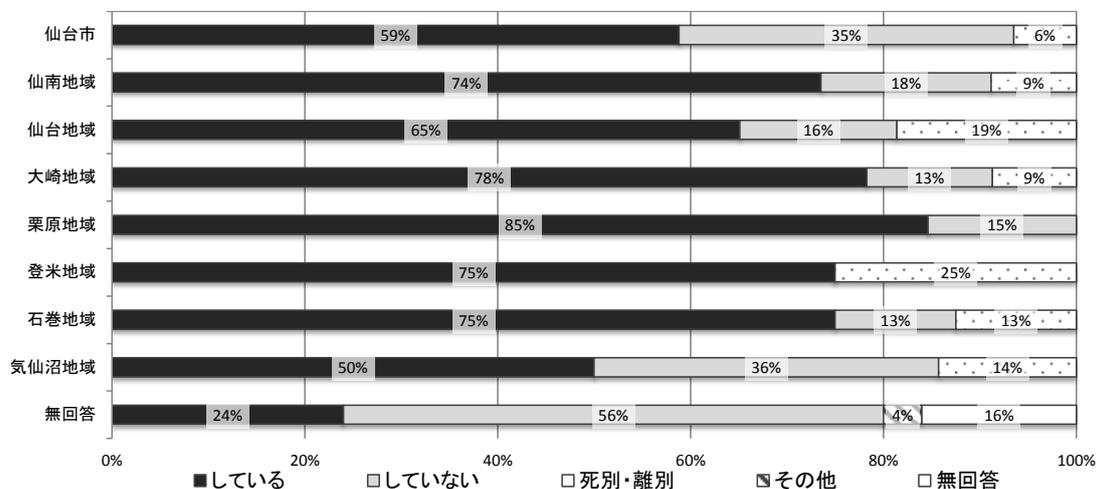


図5-2 居住地域別婚姻状況の分布(N=396)

在留資格別に婚姻状況を見ると、永住者、日本人の配偶者、家族滞在で結婚している割合が 80%を超え、特に家族滞在では 100%となった。一方の結婚していない割合は、留学、技能実習、教育で 60%を超えており、特に教育では 100%となっている。

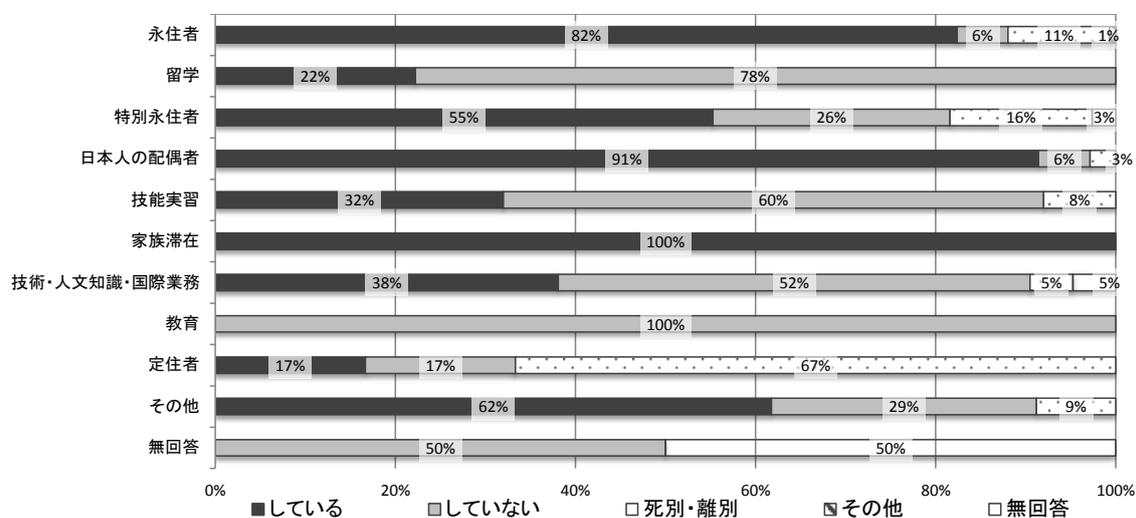


図5-3 在留資格別婚姻状況の分布(N=396)

(6) 同居人

回答者の同居の有無、誰と同居しているのかについて見ると、73.0%が誰かと同居していると答えており、一人暮らしをしている人は全体の22.7%である。同居している相手としては、配偶者の割合が最も高く56.3%となっている。次いで、子どもと同居している割合が36.1%、友人・知人と同居している割合が10.1%、父親・母親と同居している割合が8.3%となっている。

問6 現在あなたと同居している人はいますか（複数回答）

表 6-1 同居人

	N	%
配偶者	223	56.3%
子ども	143	36.1%
父親・母親	33	8.3%
祖父母	5	1.3%
孫	5	1.3%
その他の親族(兄弟姉妹を含む)	11	2.8%
友人・知人	40	10.1%
ひとり暮らし	90	22.7%
無回答	17	4.3%
計	396	100.0%

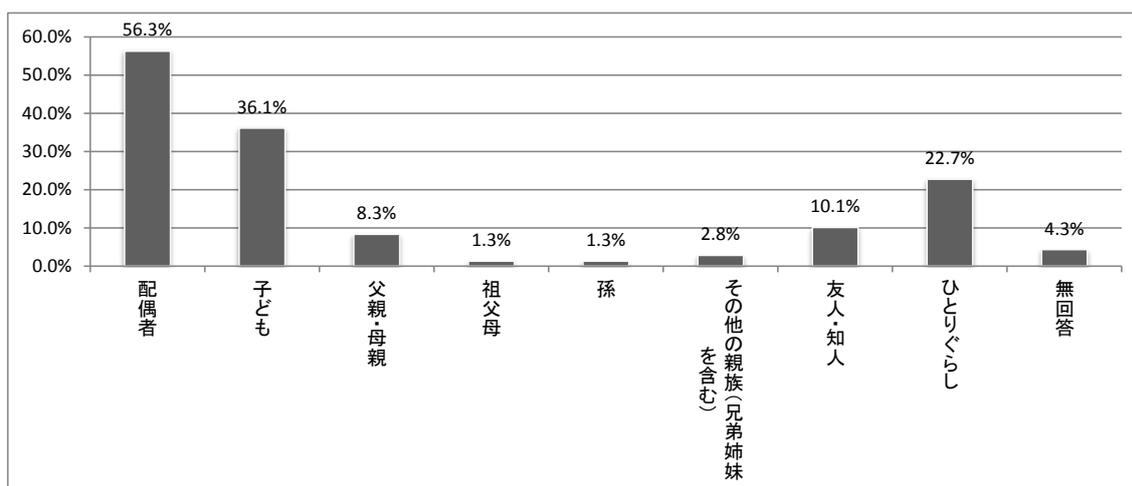


図 6-1 同居人

表 6-2 同居者の国籍

	N	%
日本	119	41.2%
自分と同じ国籍	100	34.6%
その他の国籍	10	3.5%
無回答	82	28.4%
総計	289	100.0%

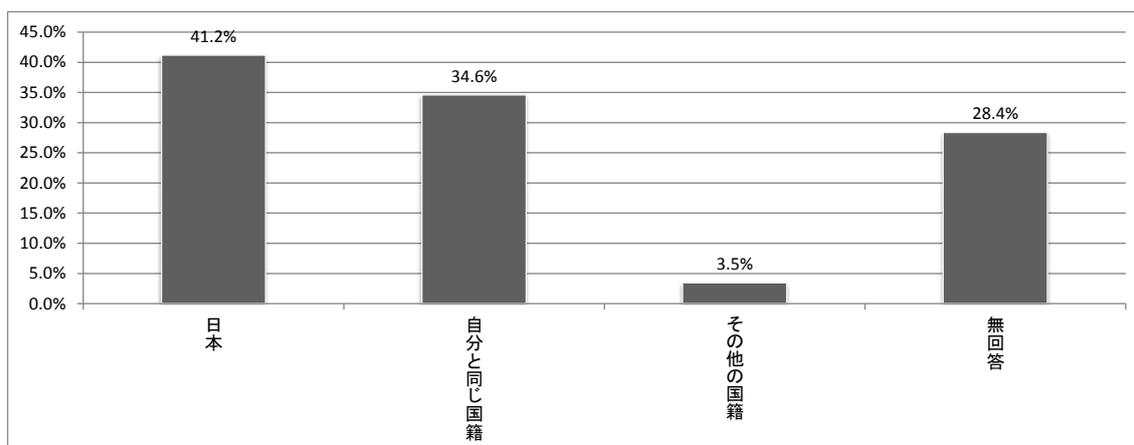


図 6-2 同居人の国籍

居住地域別に同居人の分布を見ると、仙南地域、仙台地域、大崎地域、石巻地域では配偶者・子どもの割合が70%以上を占めた。登米地域、仙南地域、登米地域では両親・祖父母などのその他家族が20%を超える割合となった。栗原地域と気仙沼地域では友人・知人が30%程度を占めた。仙台市、大崎地域、登米地域、石巻地域ではひとりぐらしの割合が20%を超える割合となっている。

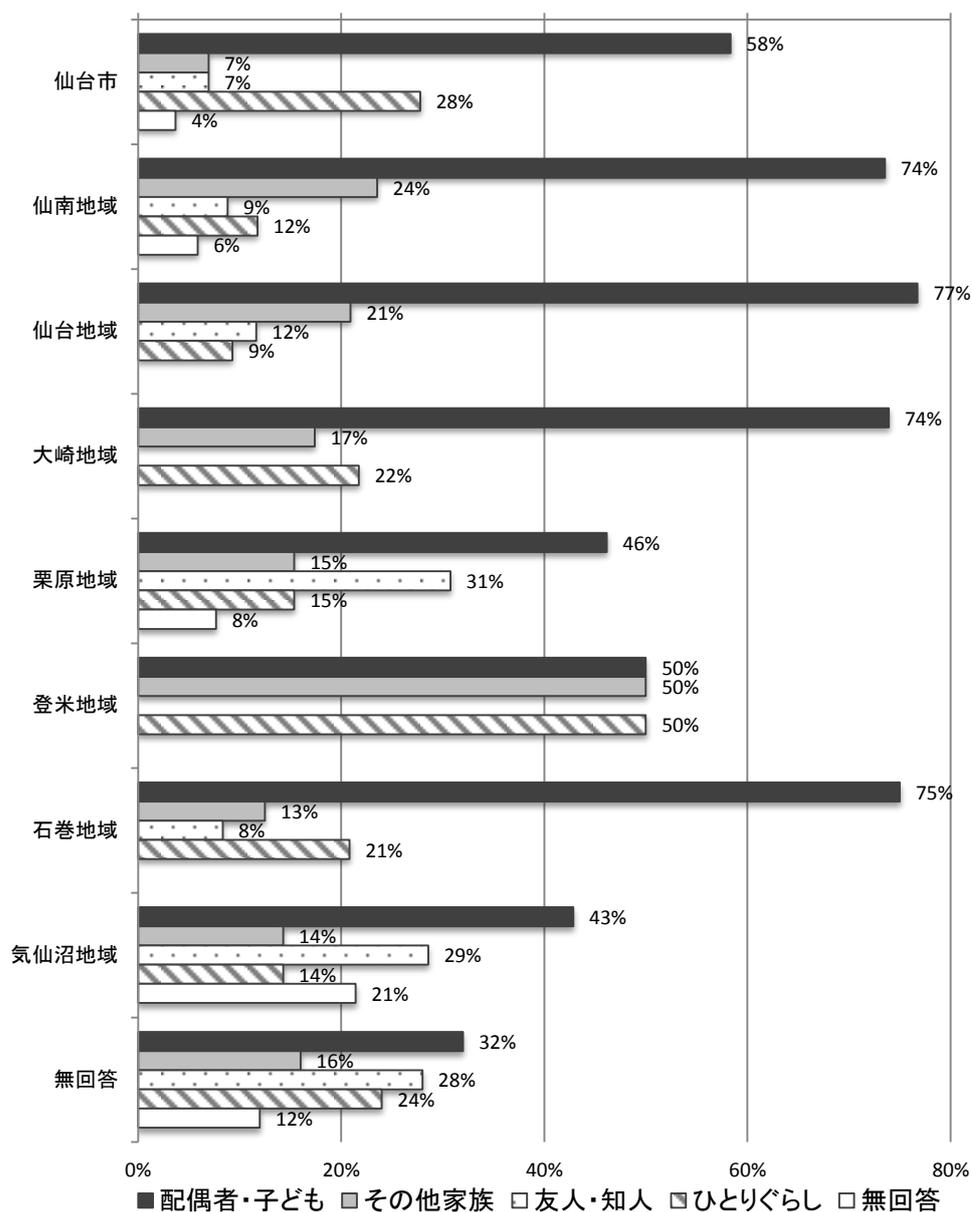


図6-2 居住地域別同居人の分布(N=396)

(7) 在留資格

回答者の在留資格の分布を見ると、永住者が 38.9%と最も高く、次いで留学が 15.9%、特別永住者が 9.8%、日本人の配偶者等が 9.1%となっている。

問 7 あなたの在留資格は以下のどれですか

表 7 在留資格

	N	%
永住者	154	38.9%
留学	63	15.9%
日本人の配偶者等	36	9.1%
特別永住者	39	9.8%
技能実習	25	6.3%
家族滞在	21	5.3%
技術・人文知識・国際業務	21	5.3%
定住者	6	1.5%
教育	7	1.8%
特定活動	5	1.3%
教授	4	1.0%
技能	3	0.8%
宗教	3	0.8%
その他	5	1.3%
無回答	4	1.0%
計	396	100.0%

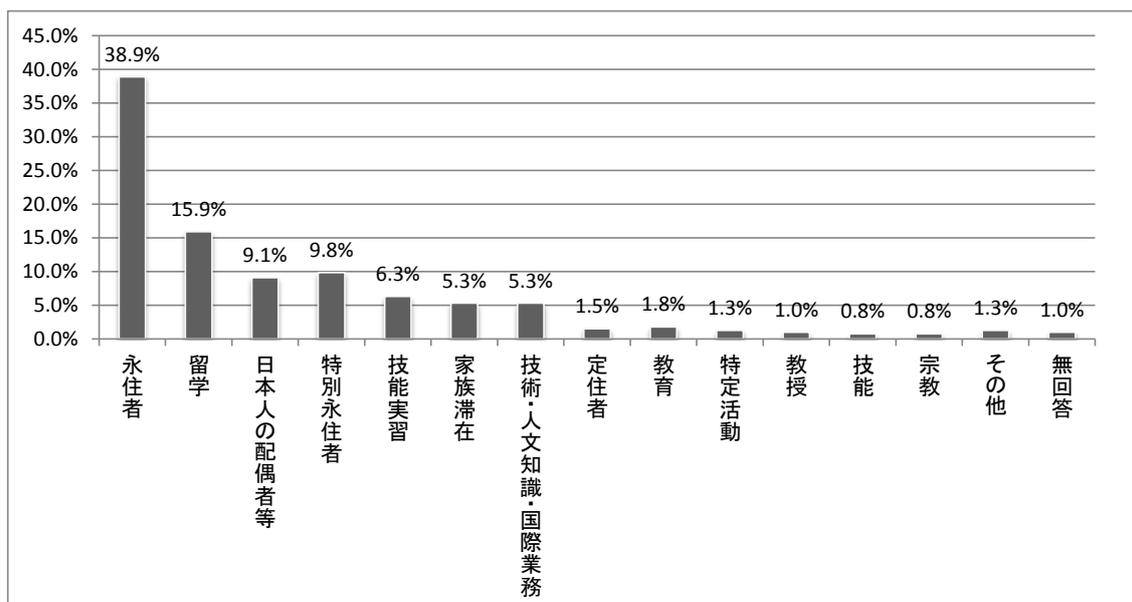


図 7 在留資格

国籍別に在留資格の分布を見ると、永住者は中国籍、韓国・朝鮮籍、フィリピン籍、米国籍で最も高い割合を示しており、特にフィリピン籍では66%を占めている。中国籍では留学が23%と永住者に次ぐ割合を占める。また、韓国・朝鮮籍では特別永住者が34%と高い割合を占める。ベトナム籍では技能実習が62%を占めるなど他の国籍と比べ割合が高い。インドネシア籍では留学が38%を占めるが、技能実習の割合も23%となっている。米国籍では教育の割合が23%と他の国籍と比べ割合が高い。

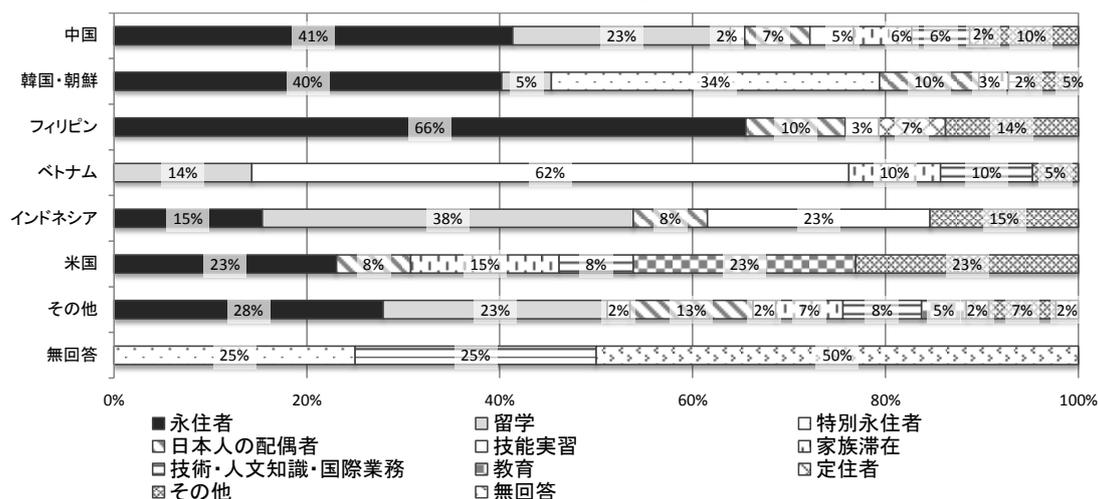


図7-2 国籍別在留資格の分布 (N=396)

居住地域別に在留資格の分布を見ると、仙台市、仙南地域、仙台地域、大崎地域、石巻地域では永住者が最も高い割合を占めている。仙台市では留学生が26%と他の地域に比べ割合が高い。栗原地域と登米地域では日本人の配偶者の割合が20%を超える。また、栗原地域と気仙沼地域では30%以上を技能実習となっている。

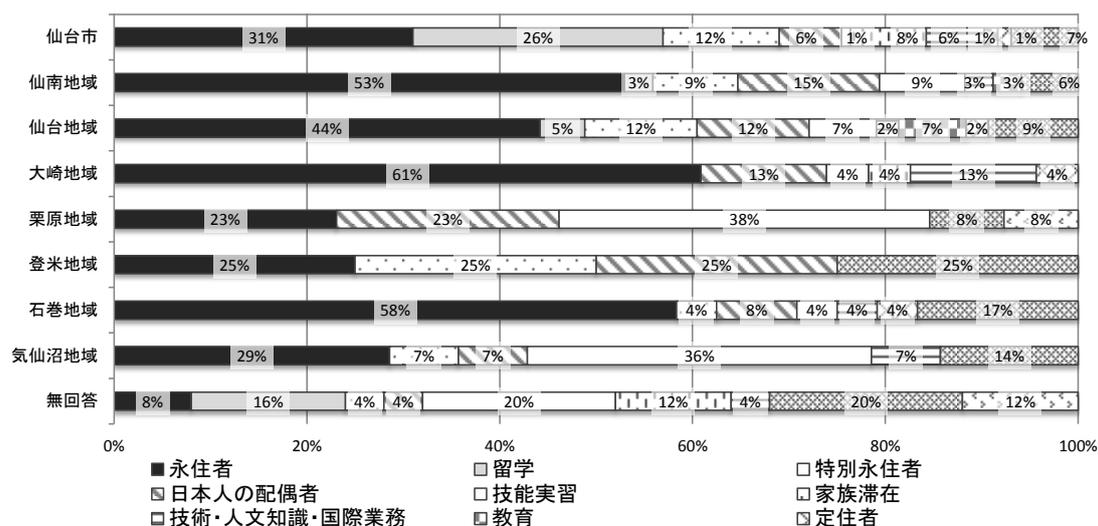


図7-3 居住地域別在留資格の分布 (N=396)

(8) 今後の居住予定

今後の居住予定の分布を見ると、ずっと宮城県に住み続ける予定の人が最も多く、全体の43.2%を占めている。宮城県以外で日本に定住する予定の人（「日本には永住するが、宮城から転出する」または「日本には永住するが、宮城に住み続けるかわからない」）の割合は18.9%で、日本を離れるかどうかわからない人（16.4%）や将来日本を離れる予定の人（14.9%）をやや上回っている。

問8 あなたは今後どれくらい、宮城県または日本に住もうと思っていますか

表8 今後の居住予定

	N	%
ずっと宮城県に住み続ける	171	43.2%
日本には永住するが、宮城県からは転出する	12	3.0%
日本には永住するが、宮城県に住み続けるかわからない	63	15.9%
将来は日本を離れる	59	14.9%
日本を離れるかどうかわからない	65	16.4%
その他	23	5.8%
無回答	3	0.8%
計	396	100.0%

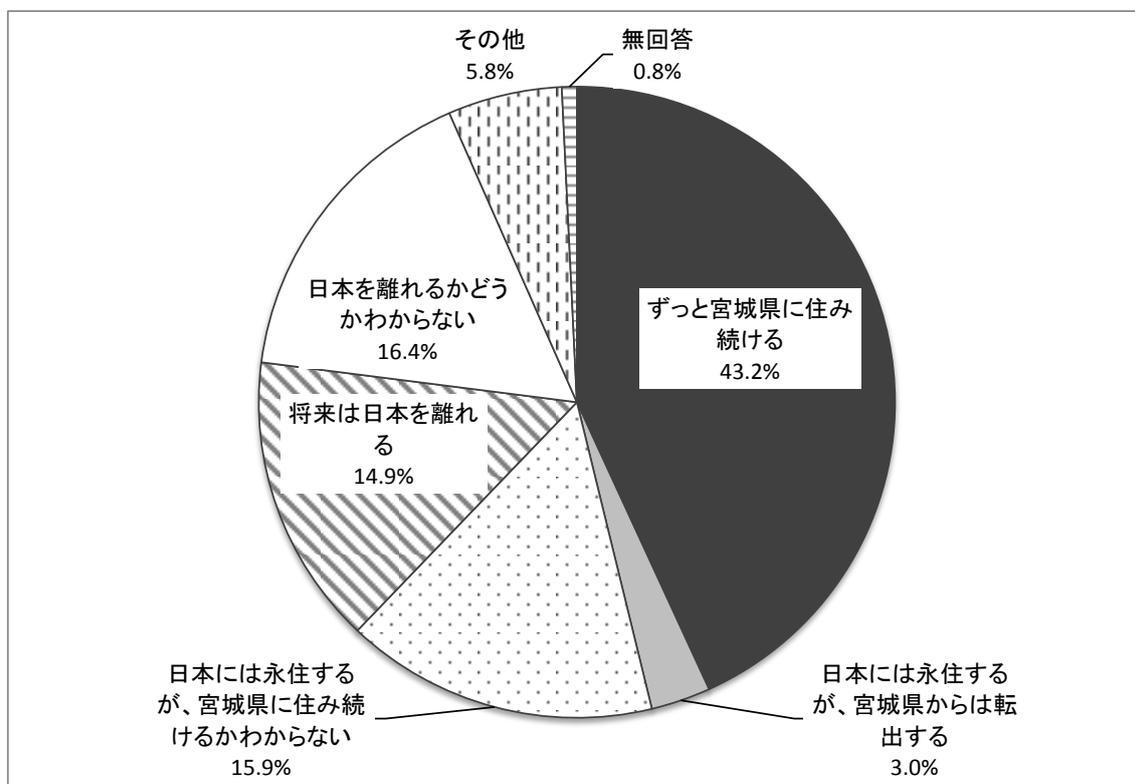


図8 今後の居住予定

在留資格別に今後の居住予定の分布を見ると、永住者、特別永住者、日本人の配偶者、定住者では宮城に永住が50%を超えている。技能実習では日本を離れるが84%を占めている。留学では日本国内に永住する予定であるのは20%と技能実習に次いで低いものの、永住するか未定の割合が40%と全ての在留資格の中で最も高くなっている。

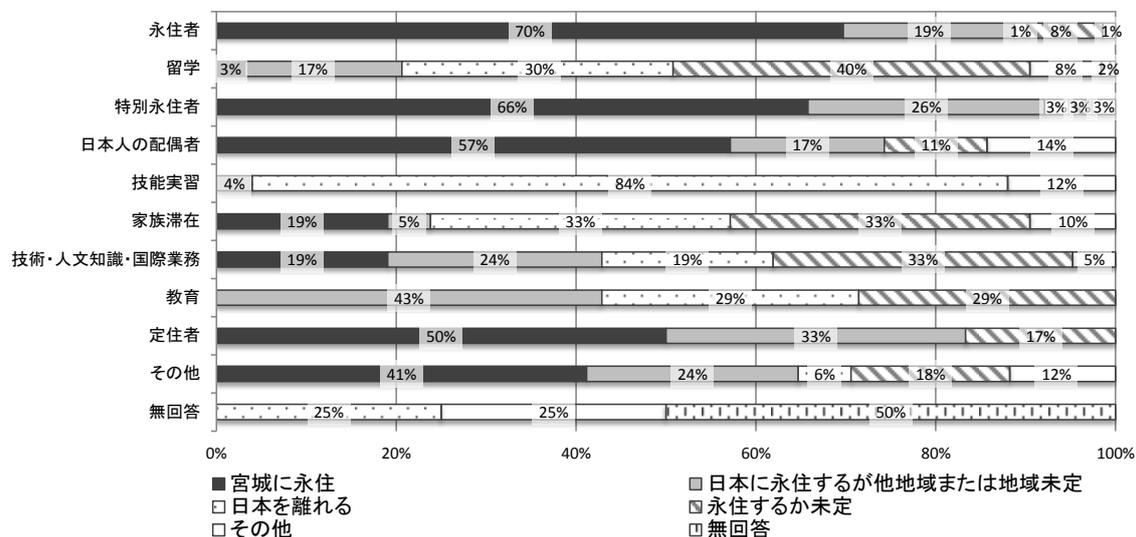


図8-2 在留資格別今後の居住予定の分布(N=396)

(9) 日本国籍の取得予定

国籍取得予定の分布を見ると、取得する予定のない人が 42.9%と最も多く、わからないと答えた人が 36.4%、取得する予定の人は 17.7%にとどまる。

問 9 あなたは日本国籍を取得しようと思っていますか

表 9 日本国籍の取得予定

	N	%
取得する	70	17.7%
取得しない	170	42.9%
わからない	144	36.4%
無回答	12	3.0%
計	396	100.0%

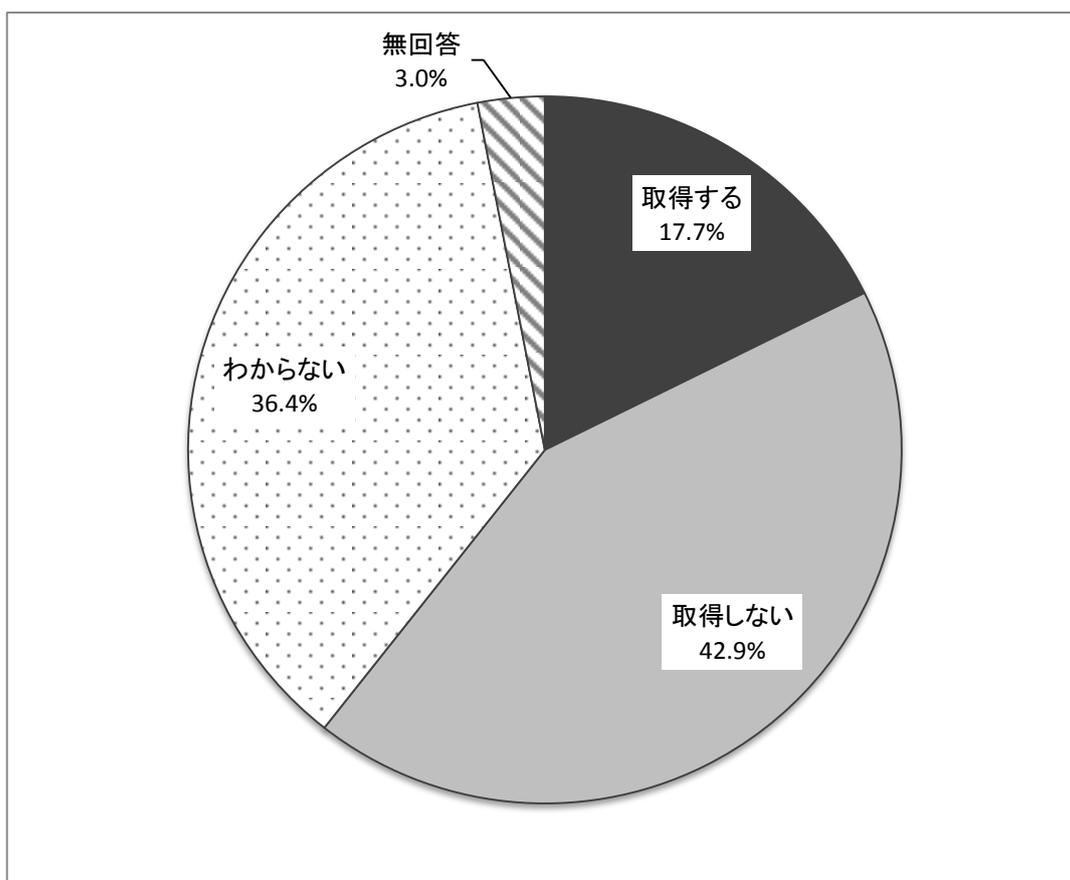


図 9 日本国籍の取得予定

在留資格別に国籍取得予定の分布を見ると、定住者では67%が取得するとしたものの、他の在留資格で取得するは30%以下となった。留学では54%、技能実習では72%が取得しないとしており割合が高い。教育ではわからないが57%を占めたほか、家族滞在、技術・人文知識・国際業務でもわからないは50%近くとなっている。

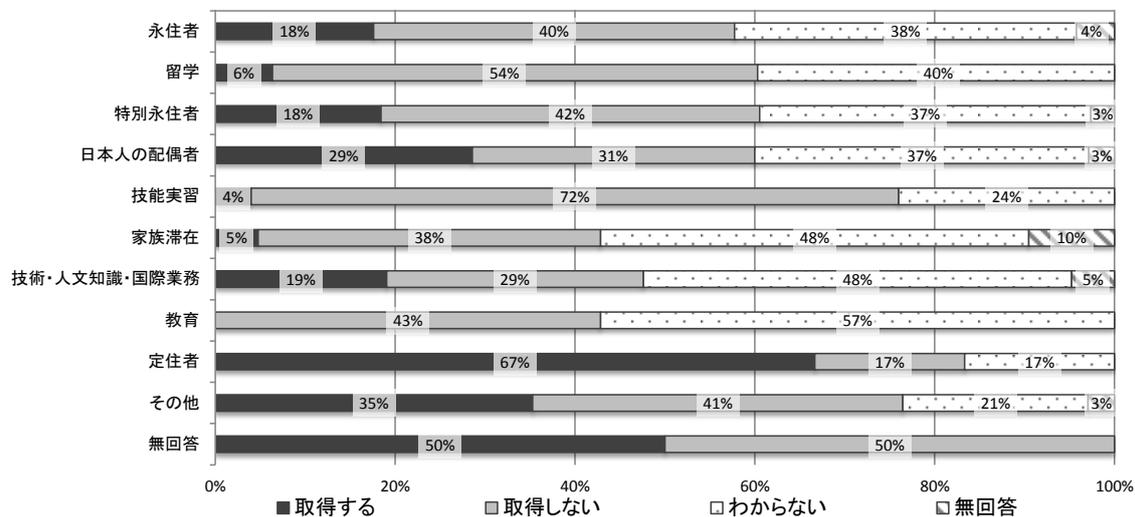


図9-2 在留資格別国籍取得予定の分布(N=396)

2 日常生活

(10) 生活満足度

生活満足度の分布を見ると、全体の80%以上が「満足」(45.7%)または「やや満足」(37.9%)と答えており、「不満」(5.8%)または「やや不満」(2.3%)と答える人は全体の10%に満たない。

問10 お住まいの地域の日常生活について、総合的に、どのように感じていますか

表10 生活満足度

	N	%
満足	181	45.7%
やや満足	150	37.9%
やや不満	23	5.8%
不満	9	2.3%
どちらともいえない	23	5.8%
無回答	10	2.5%
総計	396	100.0%

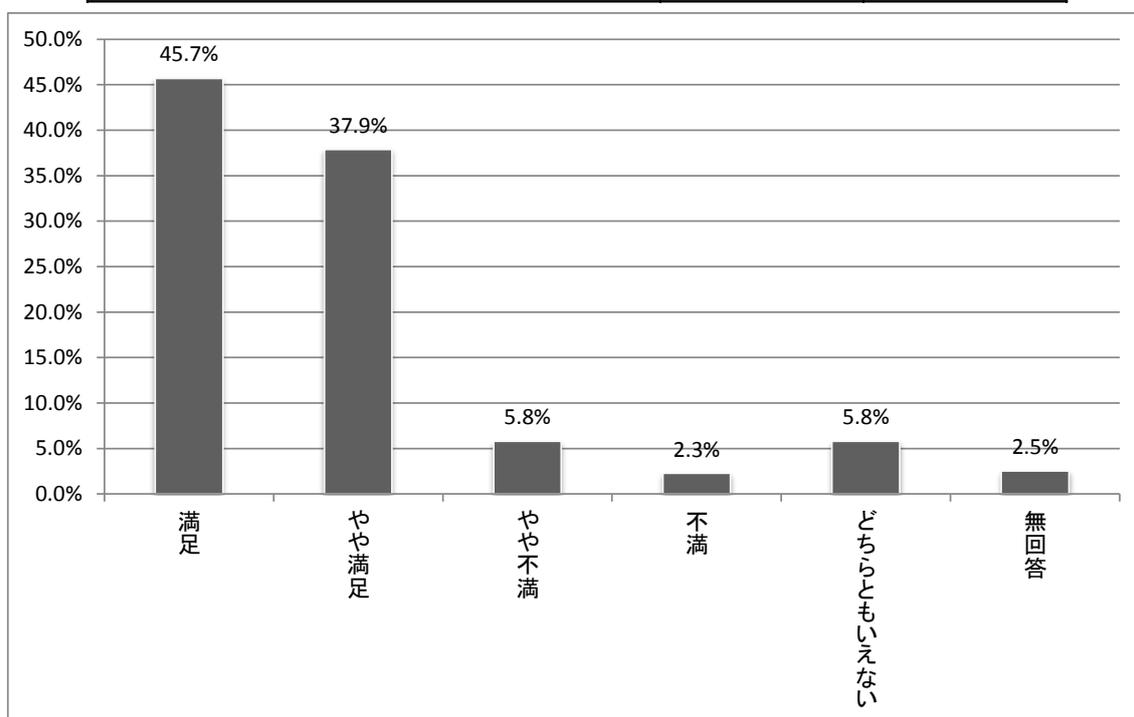


図10 生活満足度

居住地域別に生活満足度の分布を見ると、仙台市と気仙沼地域では50%以上が満足としたほか、満足、やや満足を合わせた回答は全ての地域で50%を超えた。一方、登米地域では不満・やや不満も50%を占めており、満足、やや満足と拮抗する形となっている。また、栗原地域ではどちらともいえないが23%と他の地域と比べ高くなっている。

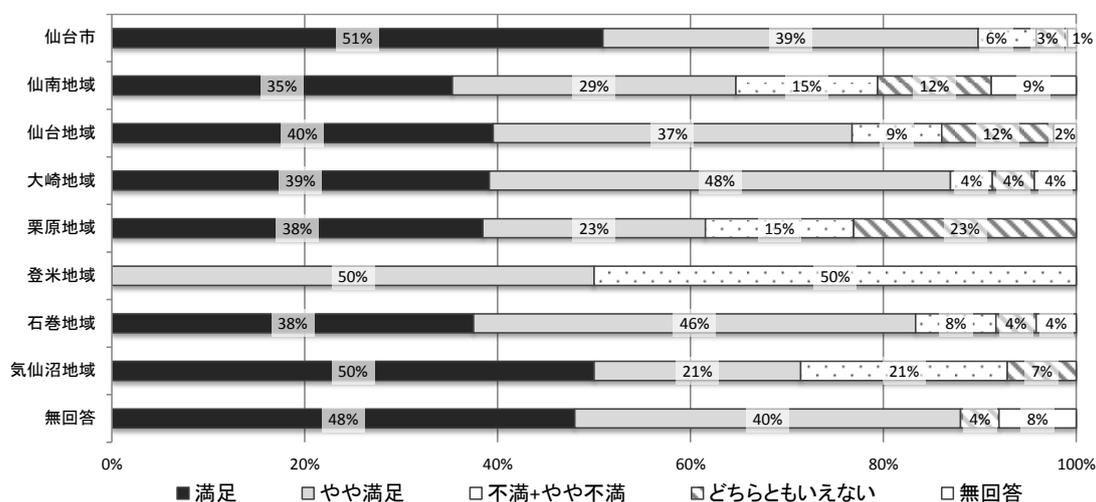


図10-2 居住地域別生活満足度の分布 (N=396)

在留資格別に生活満足度の分布を見ると、特別永住者、技能実習、家族滞在、教育、定住者では50%以上が満足としたほか、満足、やや満足を合わせた回答は全ての在留資格で50%を超えた。一方、教育では不満・やや不満が29%と他に比べ割合が高い。このほか日本人の配偶者、技能実習、教育ではどちらともいえないが10%以上を占めている。

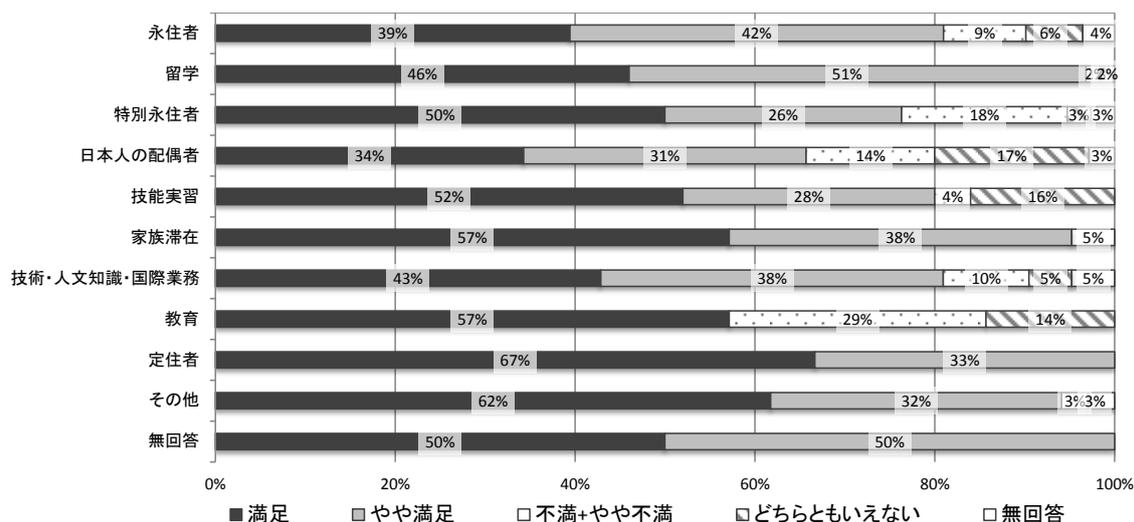


図10-3 在留資格別生活満足度の分布 (N=396)

就労形態別に生活満足度の分布を見ると、50%以上が満足としたのは無職（仕事を探していない）のみとなったが、満足とやや満足を合わせた回答は、全ての就労形態で70%を超えており、特に学生では97%となっている。不満・やや不満は経営者・自営、無職（仕事を探している）の2つで15%を超えたものの、どちらともいえないは全ての就労形態で10%未満となっている。

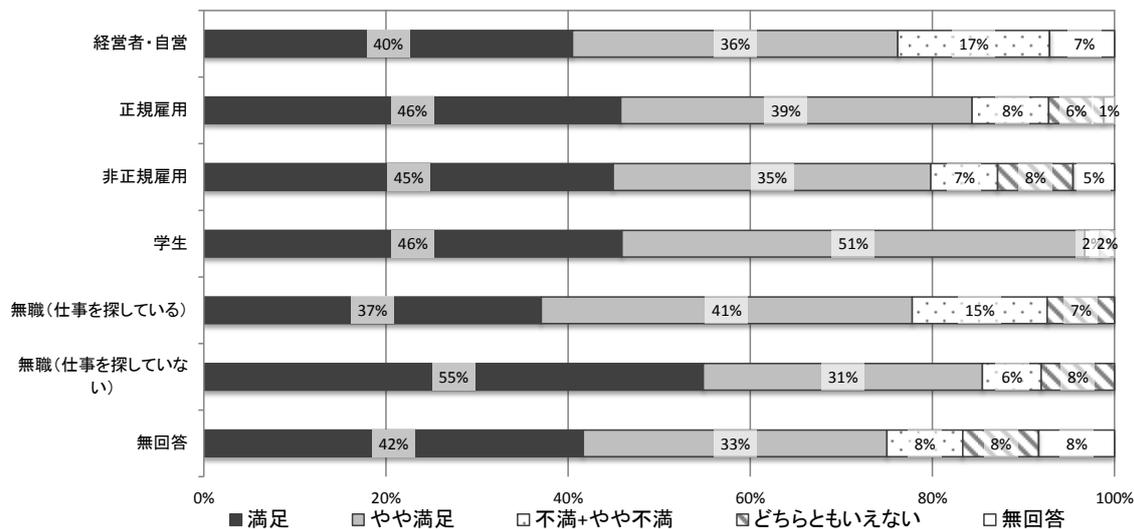


図10-4 就労形態別生活満足度の分布(N=396)

日本居住年数別に生活満足度の分布を見ると、満足は1年未満が最も高く61%となったものの、10年未満は35%に留まった。満足とやや満足を合わせた回答はすべての区分で70%を上回り、1年未満と5年未満では90%を超えている。不満・やや不満は20年未満で12%となったほか、10年未満、20年以上でも10%近くとなり、居住年数の長い区分で比較的割合が高い。

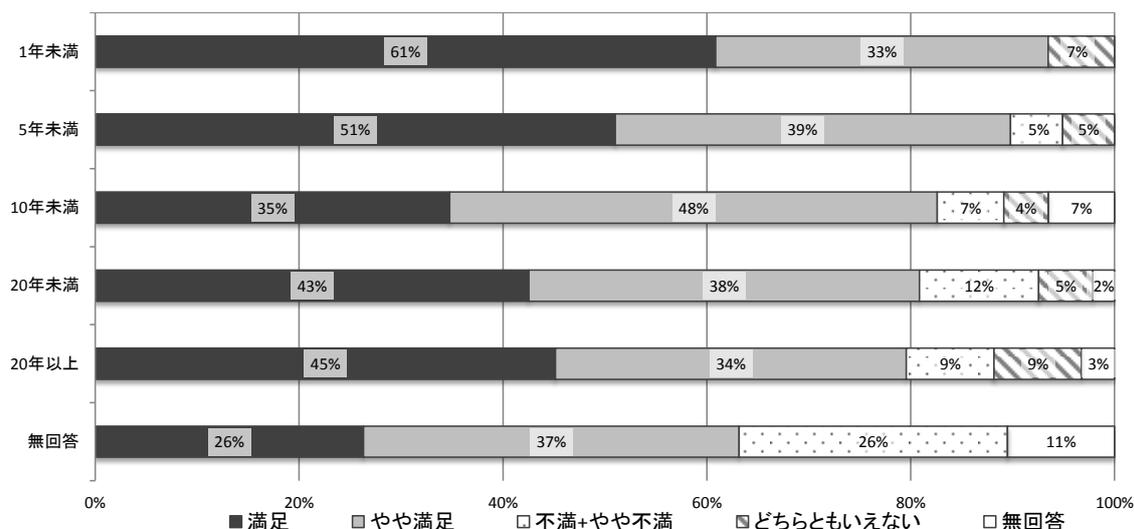


図10-5 日本居住年数別生活満足度の分布(N=396)

(11) 個別の事柄の満足度

日常生活における個々の事項についての満足度の分布を見ると、生活情報や住環境、災害に対する備え、医療・福祉については、40%を上回る回答者が「満足」と回答し、「やや満足」と合わせると、80%程度となっている。これに対して、「近所付き合い」や「県や市町村が提供するサービス」については「満足」及び「やや満足」を合わせて約70%と満足度がやや低くなっており、「どちらともいえない」と回答する人が約16%となっている。

問 11 日常生活に関する次の個別の事柄について、どのように感じていますか

表 11 個別の事柄の満足度

	生活情報		住宅環境		災害に対する備え		医療・福祉		近所付き合い		県や市町村が提供するサービス	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
満足	159	40.2%	177	44.7%	188	47.5%	181	45.7%	126	31.8%	143	36.1%
やや満足	152	38.4%	141	35.6%	116	29.3%	129	32.6%	153	38.6%	134	33.8%
やや不満	26	6.6%	38	9.6%	34	8.6%	30	7.6%	25	6.3%	24	6.1%
不満	16	4.0%	13	3.3%	14	3.5%	15	3.8%	16	4.0%	18	4.5%
どちらともいえない	31	7.8%	16	4.0%	32	8.1%	30	7.6%	64	16.2%	66	16.7%
無回答	12	3.0%	11	2.8%	12	3.0%	11	2.8%	12	3.0%	11	2.8%
計	396	100%	396	100.0%	396	100%	396	100%	396	100%	396	100%

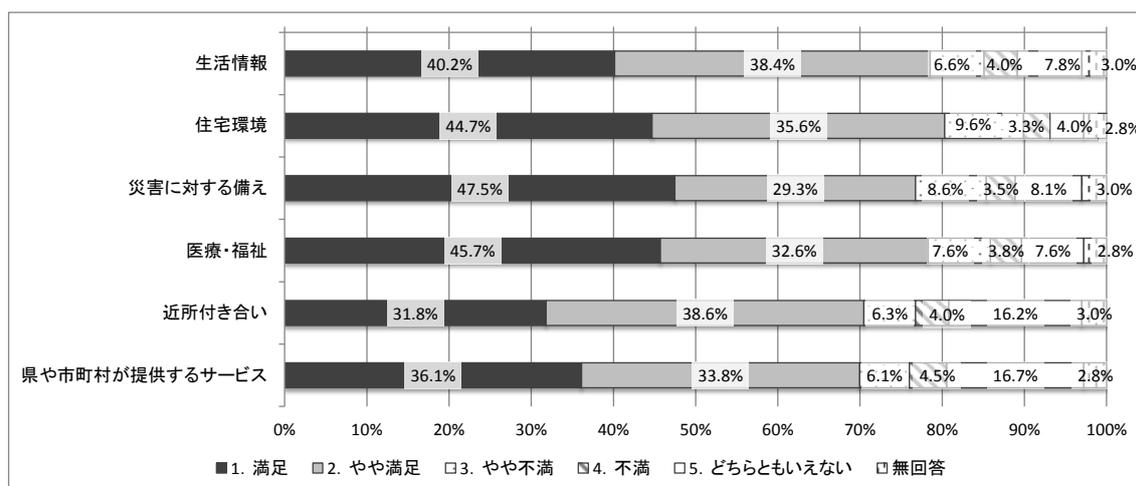


図 11 個別の事柄の満足度

① 生活情報

生活情報についての満足度を詳しく見ると、居住地域別では仙台市、大崎地域、栗原地域では不満・やや不満の回答が10%未満に留まったのに対して、登米地域と気仙沼地域では30%近くが不満・やや不満と回答している。在留資格別では日本人の配偶者と定住者で不満・やや不満の割合が17%となったが、技能実習で不満と感じる回答はなかった。国籍別ではフィリピン籍で不満・やや不満が17%と最も多いが、ベトナム籍で不満と感じる回答はなかった。日本語能力（読み）別では満足度に大きな差は見られなかった。

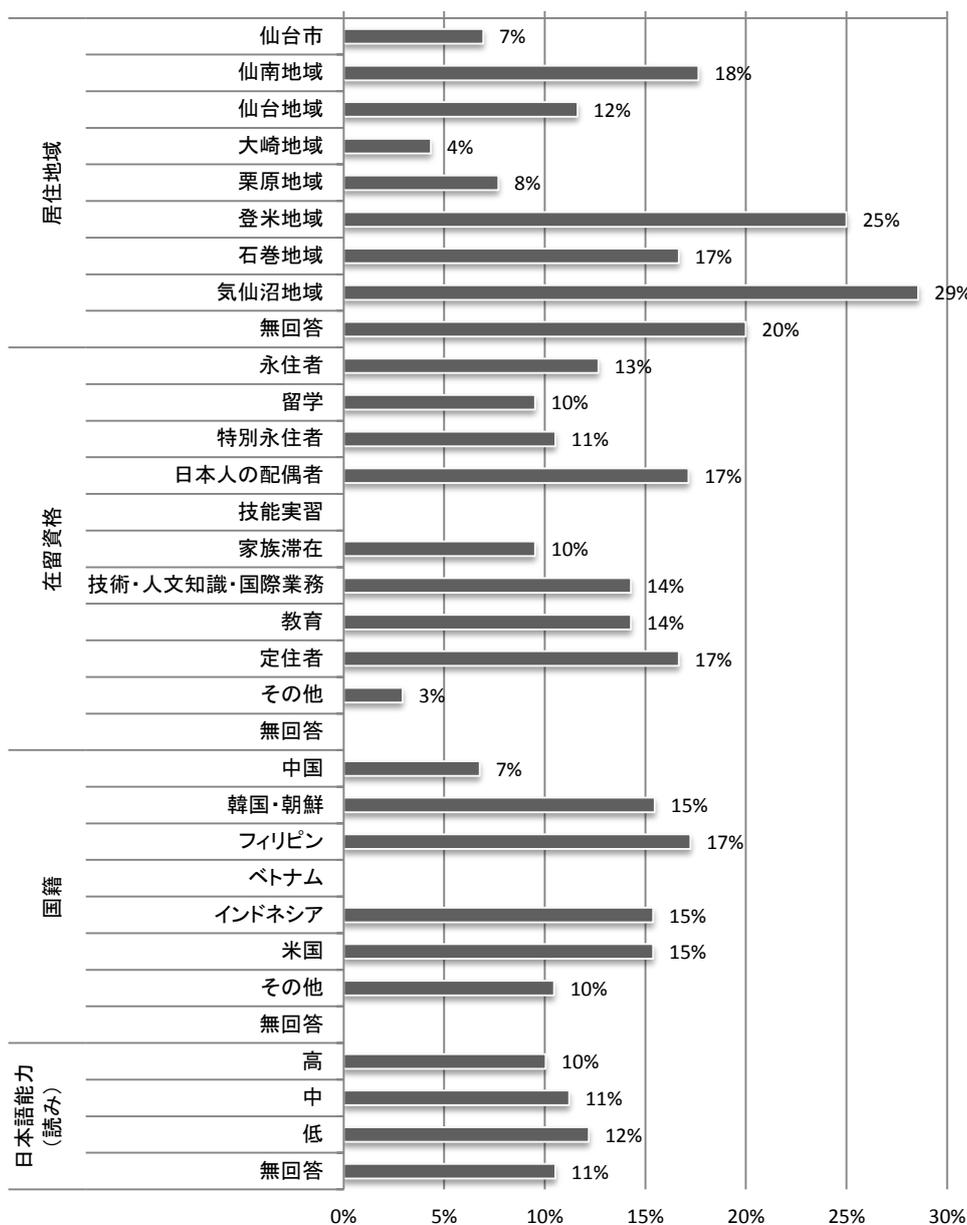


図11-2 生活情報が「不満」または「やや不満」の割合(N=396)

② 住宅環境

住宅環境についての満足度を詳しく見ると、居住地域別では仙南地域、栗原地域では不満・やや不満が10%未満と割合が低いのに対し、登米地域、気仙沼地域では割合が20%を超えている。在留資格別で見ると教育で57%と不満・やや不満と感じている割合が特に高いほか、特別永住者でも21%となっているのに対し、技能実習で不満を感じる回答はなかった。国籍別では韓国・朝鮮籍で不満・やや不満が18%となっているのに対し、フィリピン、ベトナム、インドネシアでは10%未満に留まった。家族形態別では単身の不満・やや不満の割合が18%と最も高いが、配偶者との二世帯、子どものいる世帯、父母、祖父母などとの同居世帯と家族の世代が増えるにつれ不満の割合が低下する傾向にある。

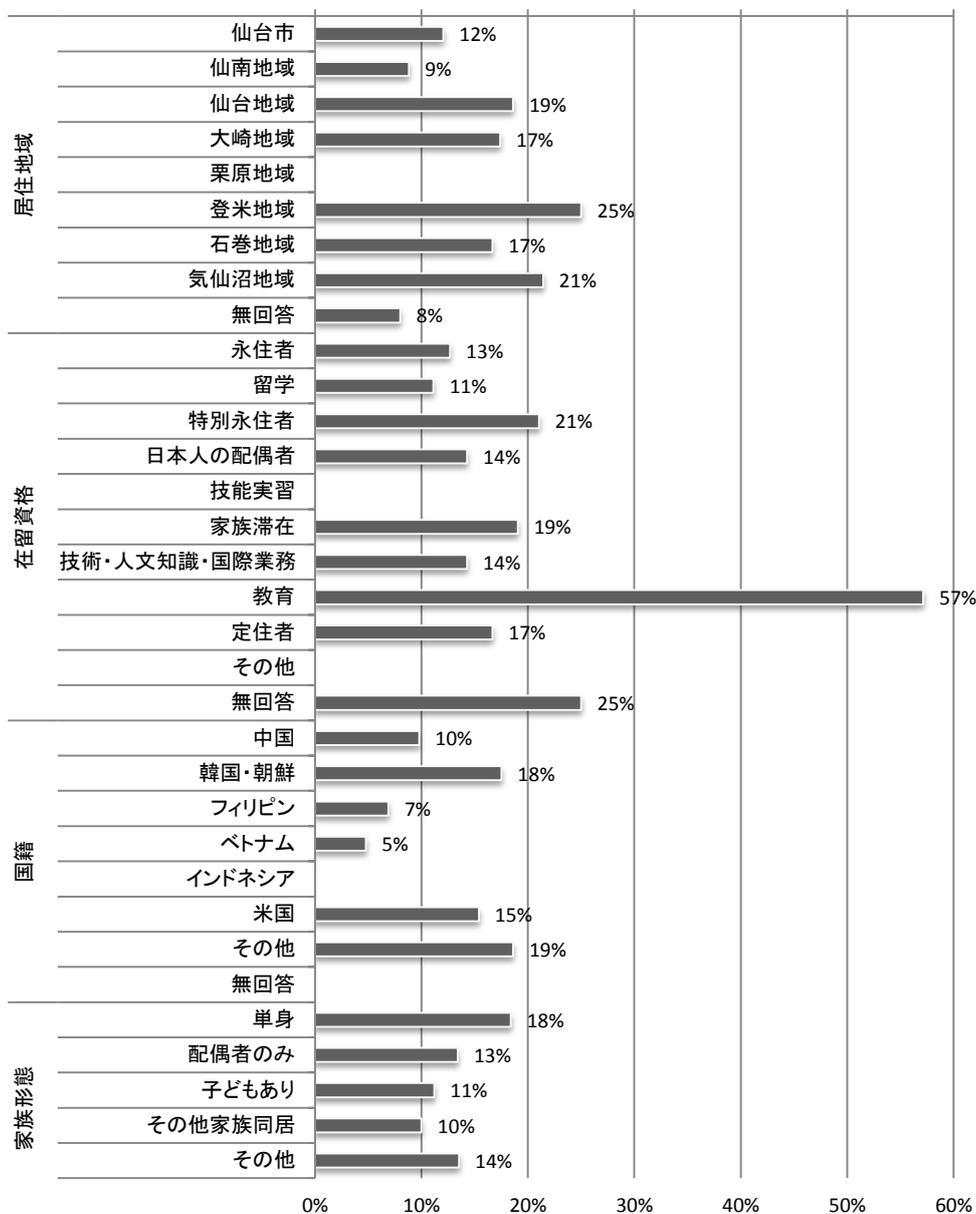


図11-3 住宅環境が「不満」または「やや不満」の割合(N=396)

③ 災害に対する備え

災害に対する備えへの満足について詳しく見ると、居住地別では登米地域で不満・やや不満の割合が50%と高くなったほか、石巻地域でも25%を占めているのに対し、仙南地域、大崎地域、栗原地域では10%未満となった。在留資格別では特別永住者の不満・やや不満の割合が18%となったのに対し、技能実習、技術・人文知識・国際業務は5%以下となり、教育では不満と感じる回答はなかった。国籍別では韓国・朝鮮籍で19%が不満・やや不満となったが、中国籍、ベトナム籍では10%未満となった。被災場所別では震災を経験している、していないに因らず、不満度に大きな差は見られない。

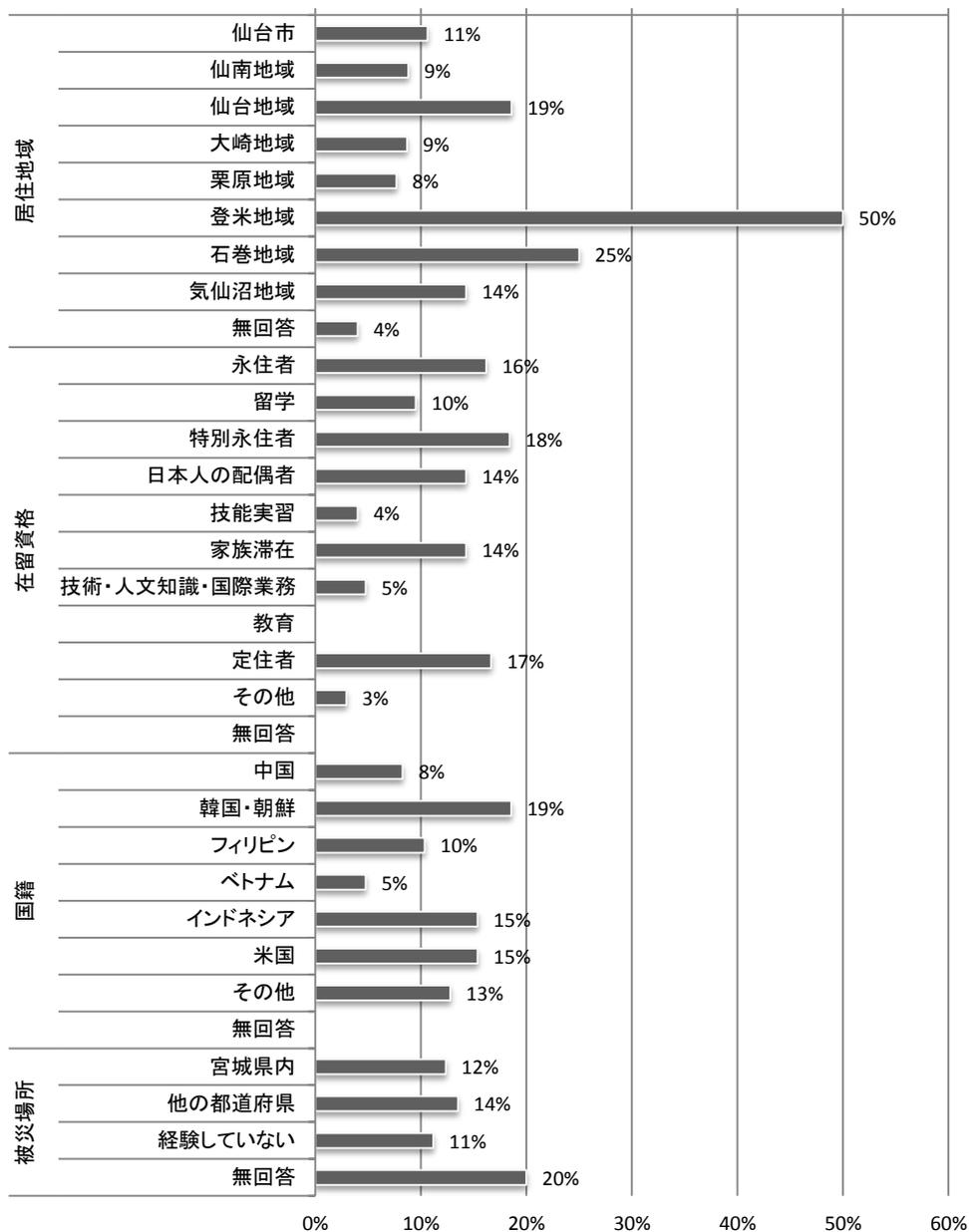


図11-4 災害に対する備えが「不満」または「やや不満」の割合(N=396)

④ 医療・福祉

医療・福祉についての満足度を詳しく見ると、居住地域別では登米地域で不満・やや不満とする割合が50%となったのに対し、仙台市、大崎地域、栗原地域では10%未満に留まった。在留資格別では特別永住者の21%が不満・やや不満としたのに対し、留学、技能実習、家族滞在では10%未満となり、定住者では不満と感じる回答はなかった。国籍別では韓国・朝鮮籍で不満・やや不満とする回答が22%となったが、中国籍、フィリピン籍、ベトナム籍、インドネシア籍では10%未満となった。年齢別では60歳代で24%が不満・やや不満としたのに対し、20歳代、70歳代では10%未満に留まったほか、80歳代以上で不満と感じる回答はなかった。

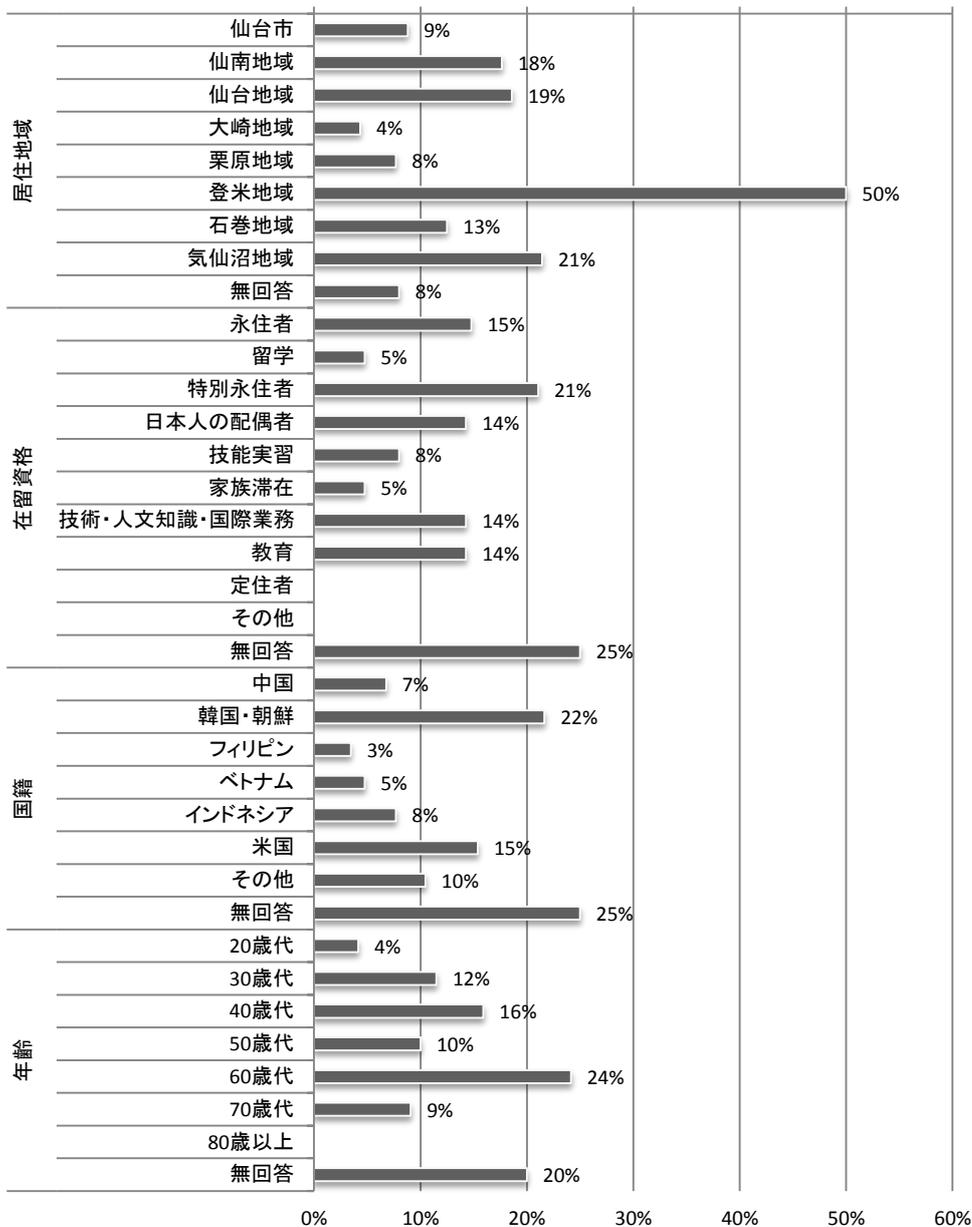


図11-5 医療・福祉が「不満」または「やや不満」の割合(N=396)

⑤ 近所付き合い

近所づきあいの満足度について詳しく見ると、居住地域別では登米地域で不満・やや不満が25%となったのに対し、仙台地域、栗原地域、石巻地域、気仙沼地域では10%未満に留まった。在留資格別では教育で43%が不満・やや不満と回答したのに対し、永住者、技能実習での割合は10%未満となった。国籍別ではインドネシア籍で31%、米国籍で23%が不満・やや不満と回答したが、中国籍、韓国・朝鮮籍、フィリピン籍では10%未満となり、ベトナム籍では不満とする回答はなかった。家族形態別では子どもありの不満・やや不満の割合が10%未満となったが、他の回答でも特に高い割合はでていない。日本語能力（話す・聞く）別では、能力によって満足度に差はなかった。

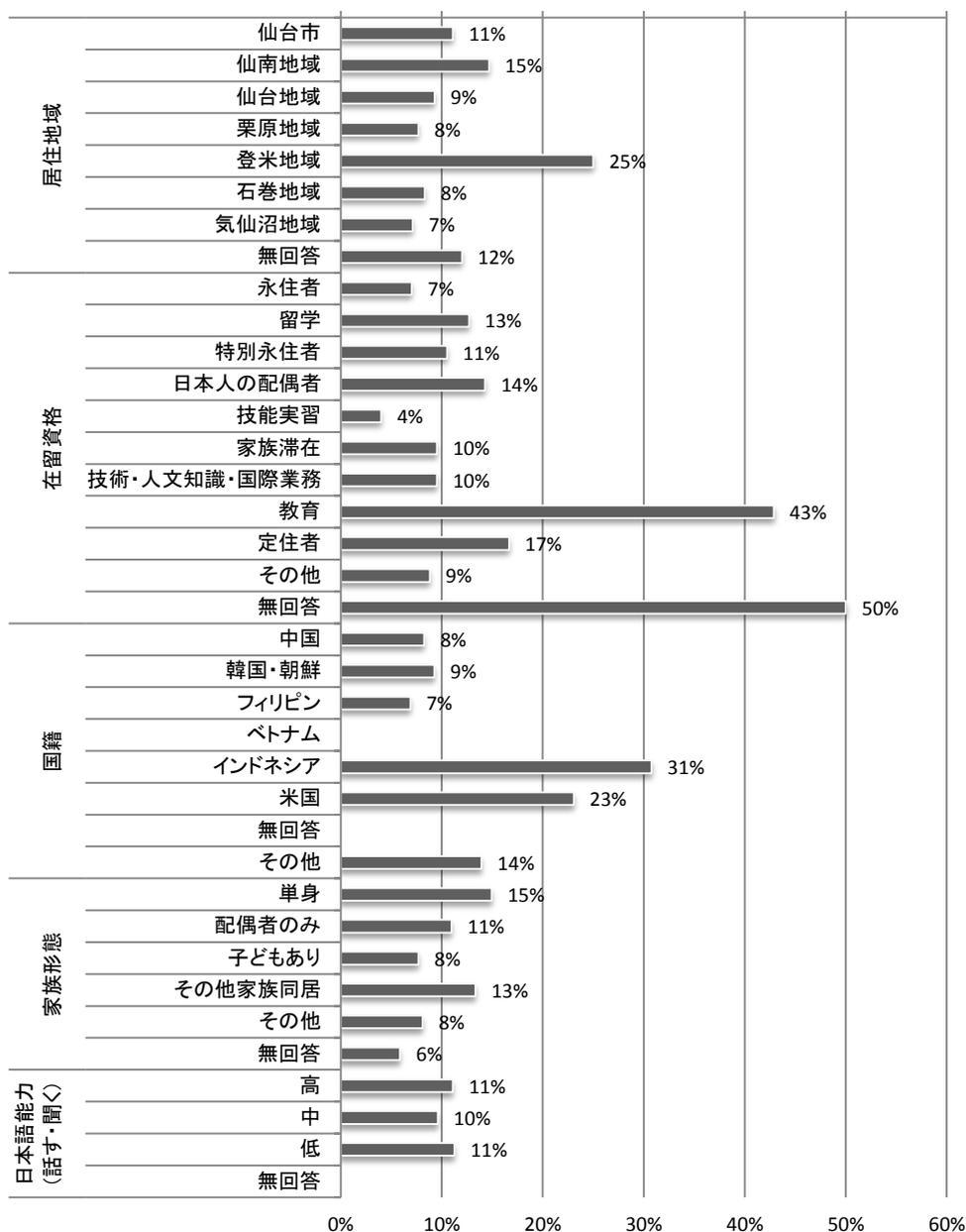


図11-6 近所づきあいが「不満」または「やや不満」の割合(N=396)

⑥ 県や市町村が提供するサービス

県や市町村が提供するサービスに対する満足度について詳細を見ると、居住地域別では登米地域で50%、石巻地域で25%が不満・やや不満としたのに対し、仙台市、大崎地域、栗原地域では10%未満となった。在留資格別では日本人の配偶者、定住者で17%が不満・やや不満としたが、留学、技能実習、家族滞在では10%未満に留まり、教育では不満とする回答はなかった。国籍別ではインドネシア籍で15%が不満・やや不満と回答したのに対し、米国籍では8%に留まり、ベトナム籍では不満とする回答はなかった。宮城県居住年数別では20年未満で19%が不満・やや不満とするなどやや割合が高くなった。

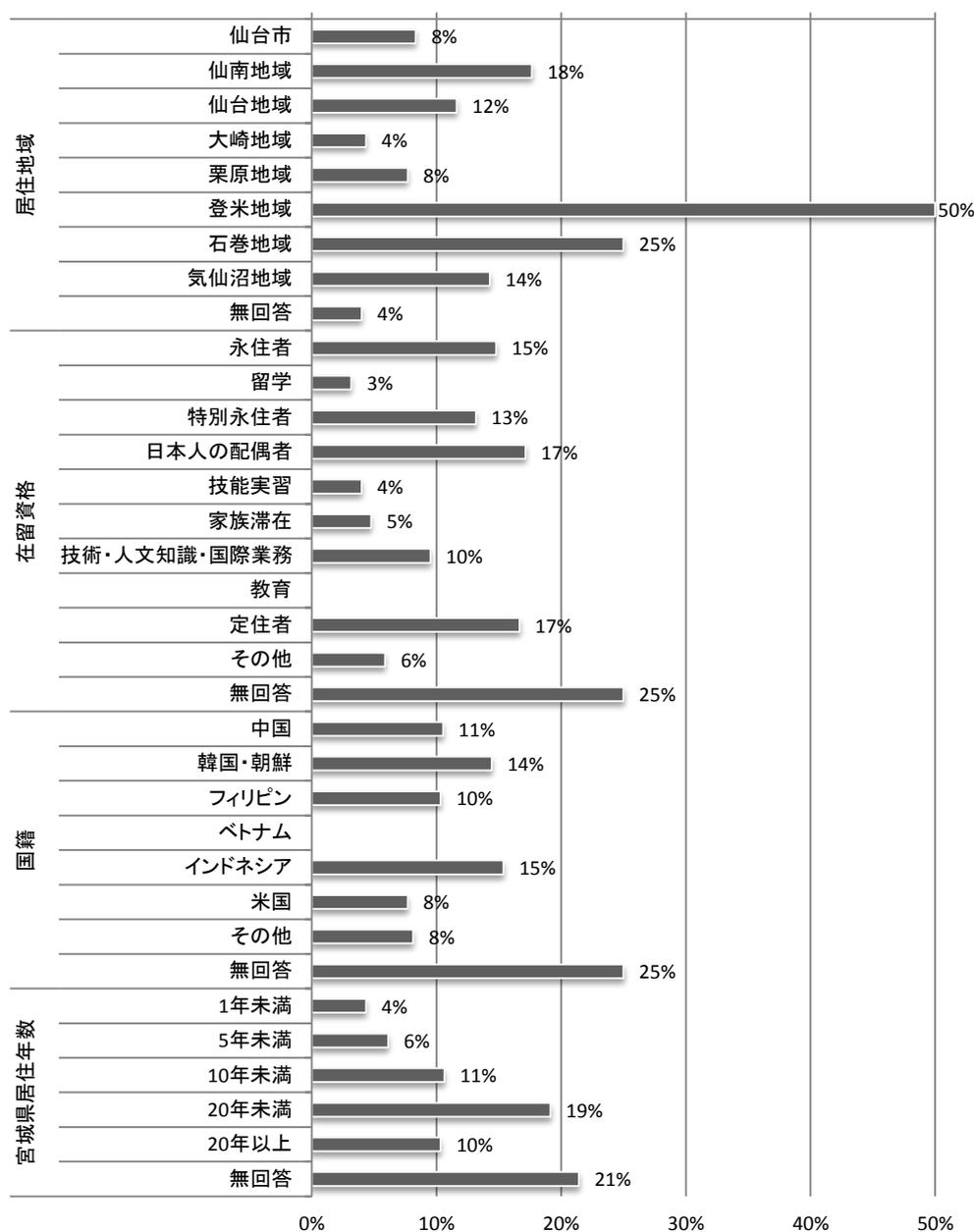


図11-7 県や市町村が提供するサービスが「不満」または「やや不満」とする割合(N=396)

3 言語

(12) 日本語能力

① 話す能力

日本語を話す能力については、不自由なく話せる人が 38.4%、だいたい話せる人が 36.4% となり、「あまり話せない」または「ほとんど話せない」と回答した人は全体の 23.5% となっている。

問 12 あなたの日本語能力を自分で判断するとすれば、次のどれにあたりますか

表 12-1 話す能力

A 話す	N	%
不自由なく話せる	152	38.4%
だいたい話せる	144	36.4%
あまり話せない	65	16.4%
ほとんど話せない	28	7.1%
無回答	7	1.8%
計	396	100%

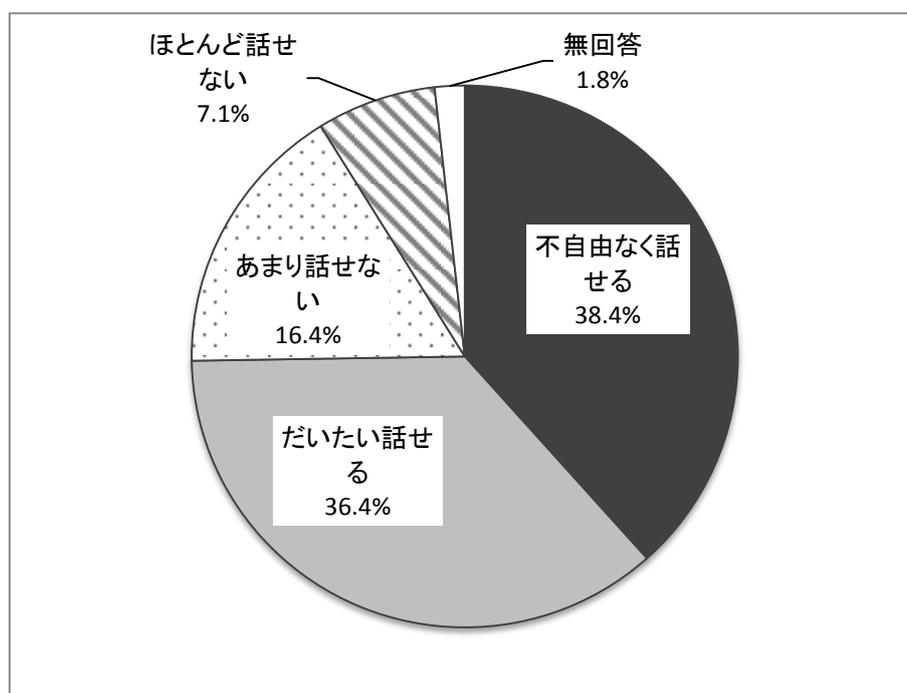


図 12-1 話す能力

日本語を話す能力を居住地別に見ると、仙台地域、登米地域では50%以上が不自由なく話せるとしたのに対し、大崎地域では不自由なく話せるは17%と最も少なく、だいたい話せるが57%となった。不自由なく話せる、だいたい話せるを合わせた回答は栗原地域、気仙沼地域以外では70%以上となっており、仙台地域と石巻地域では80%を超えている。一方、気仙沼地域ではあまり話せないが57%を占めたほか、栗原地域ではあまり話せない、ほとんど話せないが23%となり、他の地域と比較して高い割合となった。

在留資格別に見ると、特別永住者では95%が不自由なく話せると回答するなど特に高い割合を示した。このほか永住者、日本人の配偶者、技術・人文知識・国際業務では不自由なく話せる、だいたい話せるの割合が70%以上となった。対して、家族滞在ではあまり話せない、ほとんど話せないの割合が67%を占めたほか、技能実習、定住者でも50%近くと割合が高くなっている。

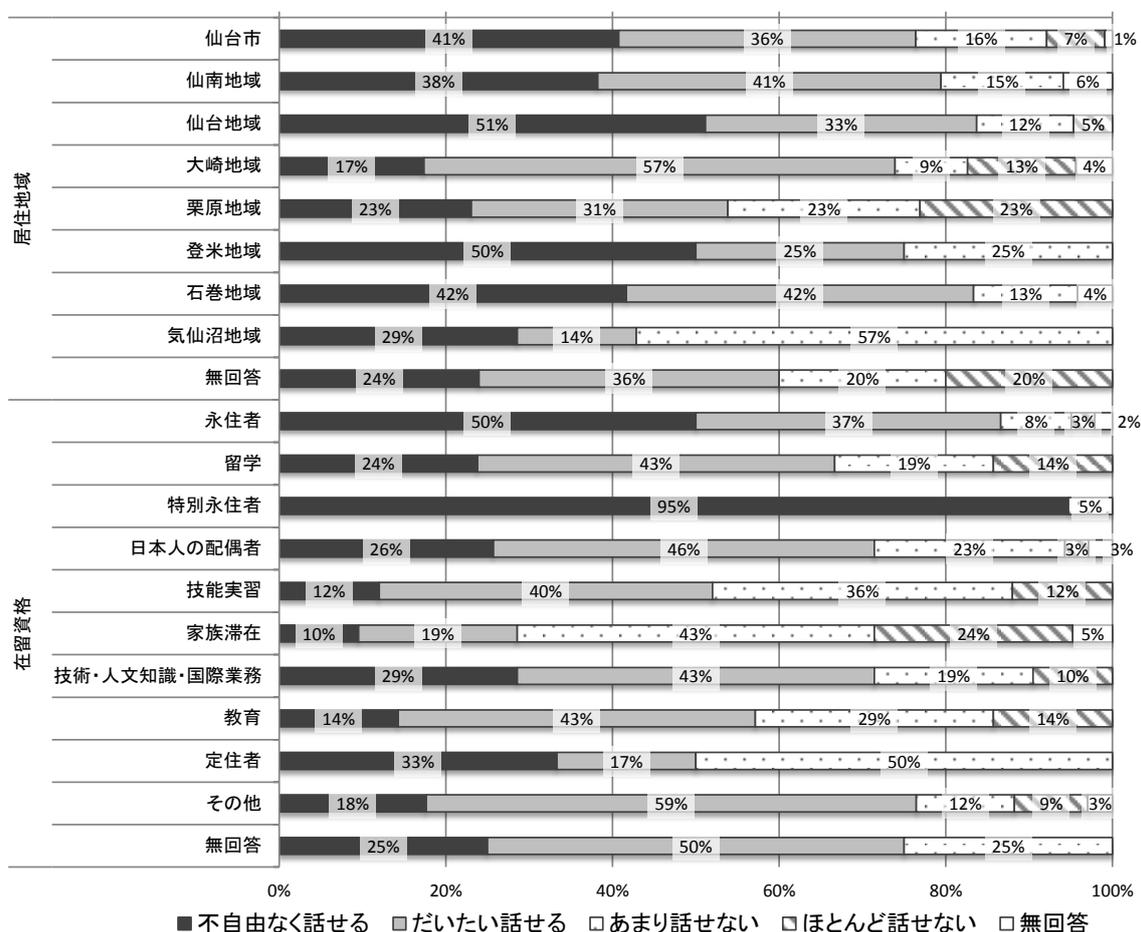


図12-1-2 居住地・在留資格別日本語能力(話す)の分布(N=396)

国籍別に見ると、韓国・朝鮮籍では65%が不自由なく話せると回答しており、だいたい話せると合わせると90%を超える。中国籍、フィリピン籍、米国籍でも不自由なく話せる、だいたい話せるを合わせた回答は70%近くを占めている。不自由なく話せる、だいたい話せるを合わせた回答が最も低くなったインドネシア籍でも60%を超える割合となっている。

日本人との交流別に見ると、なんでも話せる人がいるの回答では不自由なく話せる、だいたい話せるを合わせた回答は82%を占めている。立ち話をする人がいる、あいさつをする人がいるの回答でも、不自由なく話せる、だいたい話せるを合わせた回答は70%を超えている。これに対して、まったくいないの回答では、不自由なく話せる、だいたい話せるを合わせた回答は36%と他と比べて低い割合となっている。

日本の居住年数別では、1年未満の回答では、不自由なく話せる、だいたい話せるを合わせた回答は37%であるが、居住年数が長くなるにつれ日本語を話す能力が高い割合が伸びてゆき、10年未満になると70%近く、20年未満では90%近くが不自由なく話せる、だいたい話せると回答している。

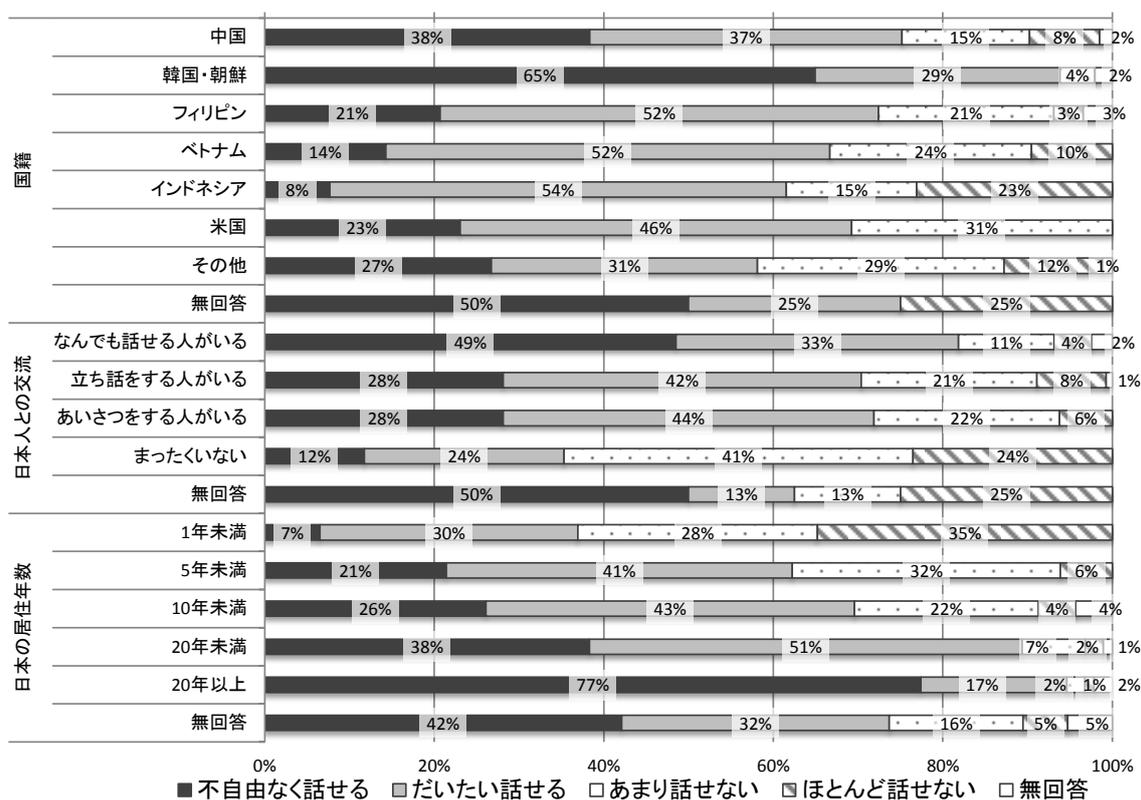


図12-1-3 国籍・日本人との交流・日本居住年数別日本語能力(話す)の分布(N=396)

② 聞く能力

日本語を聞く能力の分布を見ると、「だいたい聞き取れる」と回答した人が40%を超えており、「不自由なく聞き取れる」と回答した人と合わせると、全体の約80%となっている。一方で、「あまり聞き取れない」または「ほとんど聞き取れない」と回答した人の割合は全体の20%未満にとどまる。

表 12-2 聞く能力

B 聞く	N	%
不自由なく聞き取れる	151	38.1%
だいたい聞き取れる	163	41.2%
あまり聞き取れない	52	13.1%
ほとんど聞き取れない	22	5.6%
無回答	8	2.0%
計	396	100%

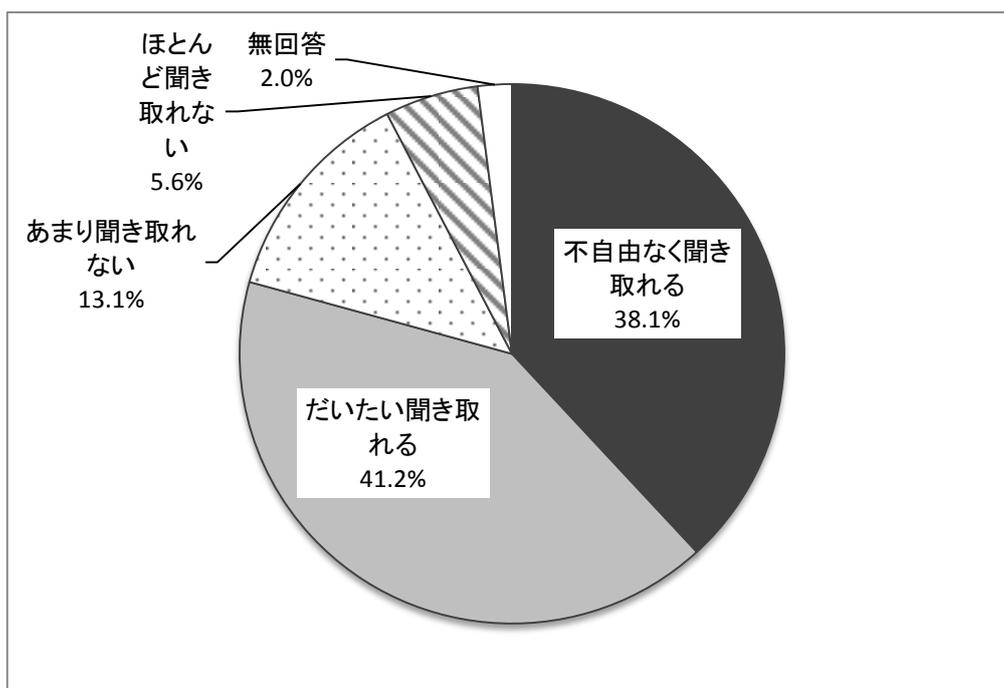


図 12-2 聞く能力

居住地域別に日本語を聞く能力の分布を見ると、仙台市、仙南地域、仙台地域、登米地域、石巻地域では80%程が不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れると回答している。一方の栗原地域と気仙沼地域では不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れるを合わせた回答は60%台となっている。

在留資格別に見ると、永住者、特別永住者、日本人の配偶者、技術・人文知識・国際業務、定住者では80%以上が不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れると回答している。一方、家族滞在と教育では不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れると回答した割合は50%以下の割合となっている。

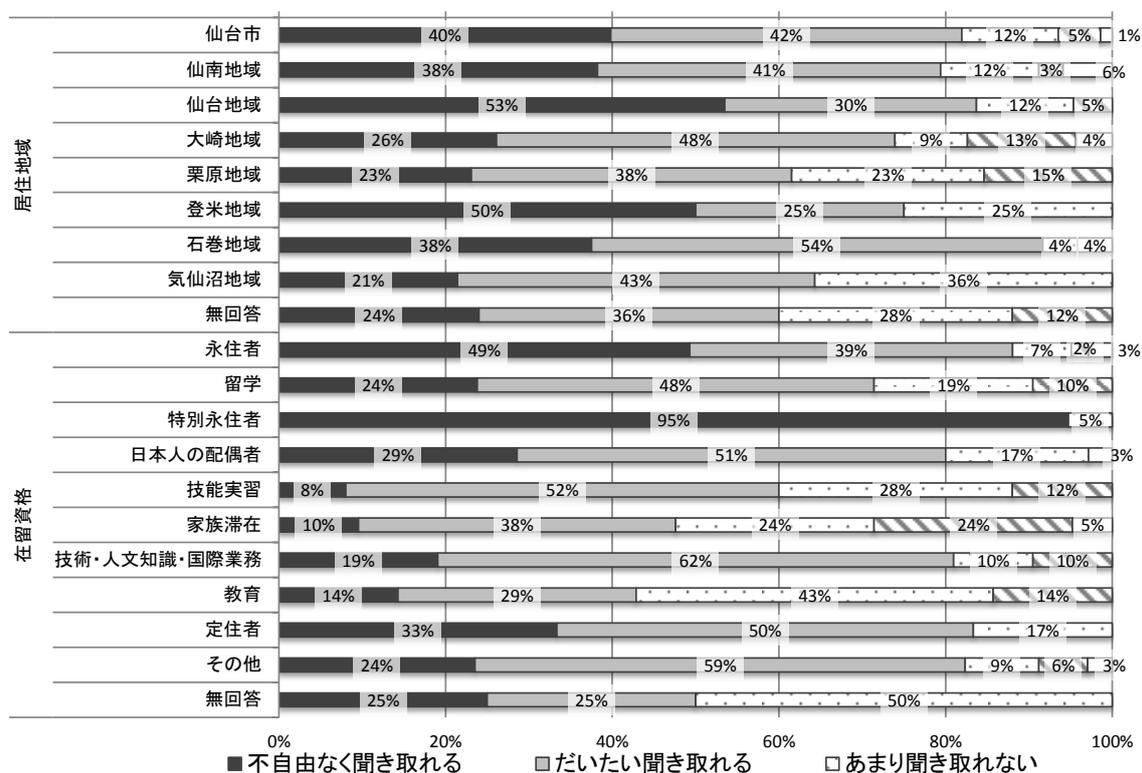


図12-2-2 居住地域・在留資格別日本語能力(聞く)の分布(N=396)

国籍別に見ると、韓国・朝鮮籍では不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れると回答した割合が97%に上っている。また、中国籍、フィリピン籍でも80%以上が不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れると回答している。これに対してインドネシア籍では不自由なく聞き取れるとした回答はなく、だいたい聞き取れるの割合も62%となっている。

日本人との交流別に見ると、なんでも話せる人がいると回答した人では、85%が不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れるとしており、立ち話をする人がいる、あいさつをする人がいるでも70%以上が不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れると回答している。だが、まったくいないの回答では不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れるが36%と他の区分と比較して低い割合となっている。

日本の居住年数別に見ると、1年未満では不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れると回答した割合は44%であるが、居住年数が長くなるにつれ日本語の聞き取り能力は高くなってゆき、10年未満で76%、20年未満で90%が不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れると回答している。

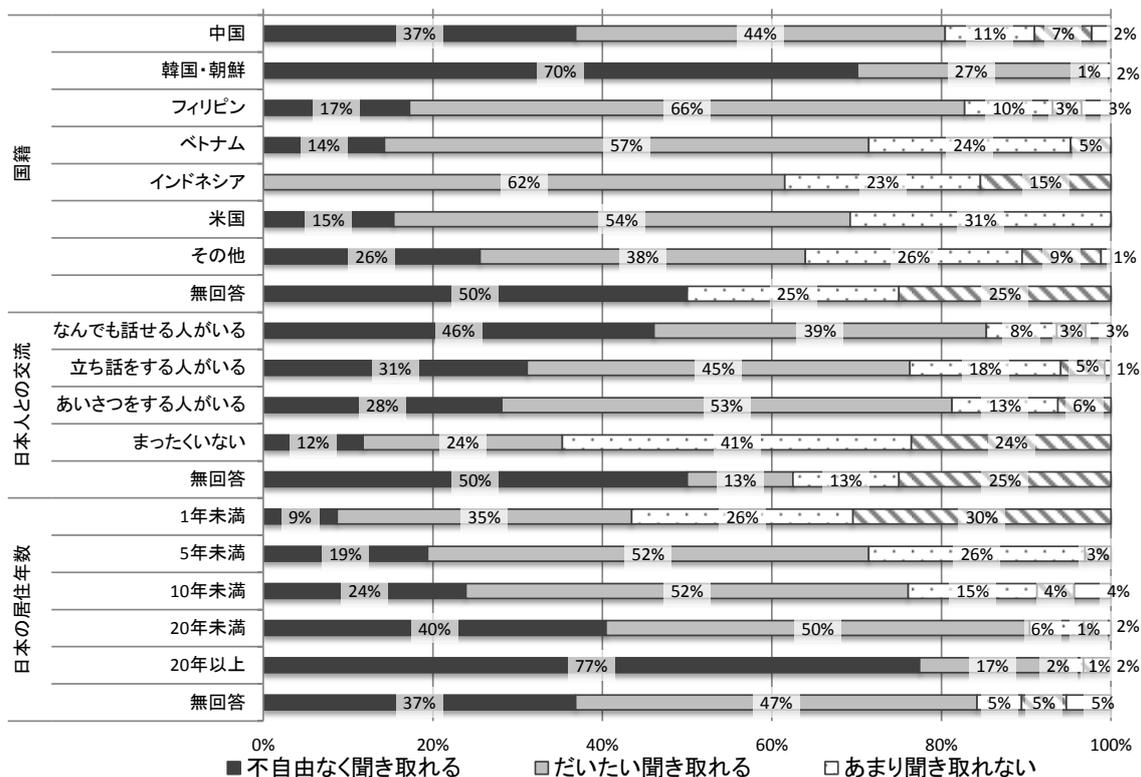


図12-2-3 国籍・日本人との交流・日本居住年数別日本語能力(聞く)の分布 (N=396)

③ 読む能力

日本語を読む能力の分布を見ると、ひらがなやカタカナを読める割合は高く、ひらがなは63.1%が「不自由なく読める」、21.7%が「だいたい読める」、カタカナについては56.1%が「不自由なく読める」、27.3%が「だいたい読める」と回答している。これに比べて漢字を読むことができる割合はやや低く、「不自由なく読める」割合は31.3%、「あまり読めない」と「ほとんど読めない」を合わせると37.7%となっている。

表 12-3 読む能力

C 読む	漢字		ひらがな		カタカナ	
	N	%	N	%	N	%
不自由なく読める	124	31.3%	250	63.1%	222	56.1%
だいたい読める	116	29.3%	86	21.7%	108	27.3%
あまり読めない	89	22.5%	23	5.8%	26	6.6%
ほとんど読めない	60	15.2%	20	5.1%	24	6.1%
無回答	7	1.8%	17	4.3%	16	4.0%
計	396	100%	396	100%	396	100%

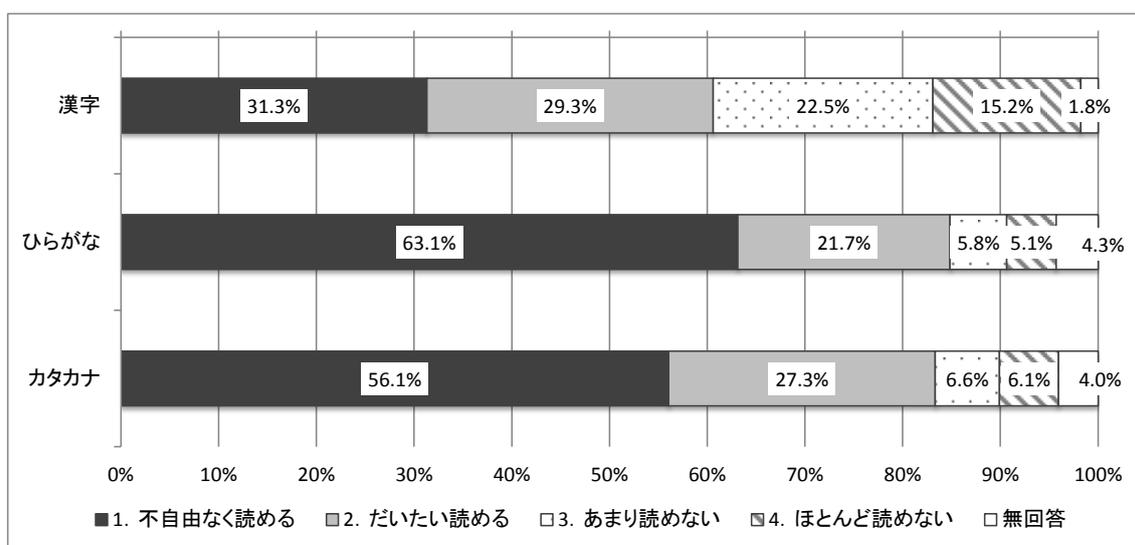


図 12-3 読む能力

国籍別に漢字を読む能力の分布を見ると、中国籍、韓国・朝鮮籍では80%以上が不自由なく読める、だいたい読めると回答しているのに対して、フィリピン籍、ベトナム籍、インドネシア籍、米国籍ではおよそ70%以上があまり読めない、ほとんど読めないと回答している。

日本の居住年数別に見ると、1年未満では不自由なく読める、だいたい読めると回答した割合は28%に留まるが、居住年数が長くなるにつれ漢字を読む能力は高くなってゆき、20年以上では82%が不自由なく読める、だいたい読めると回答している。

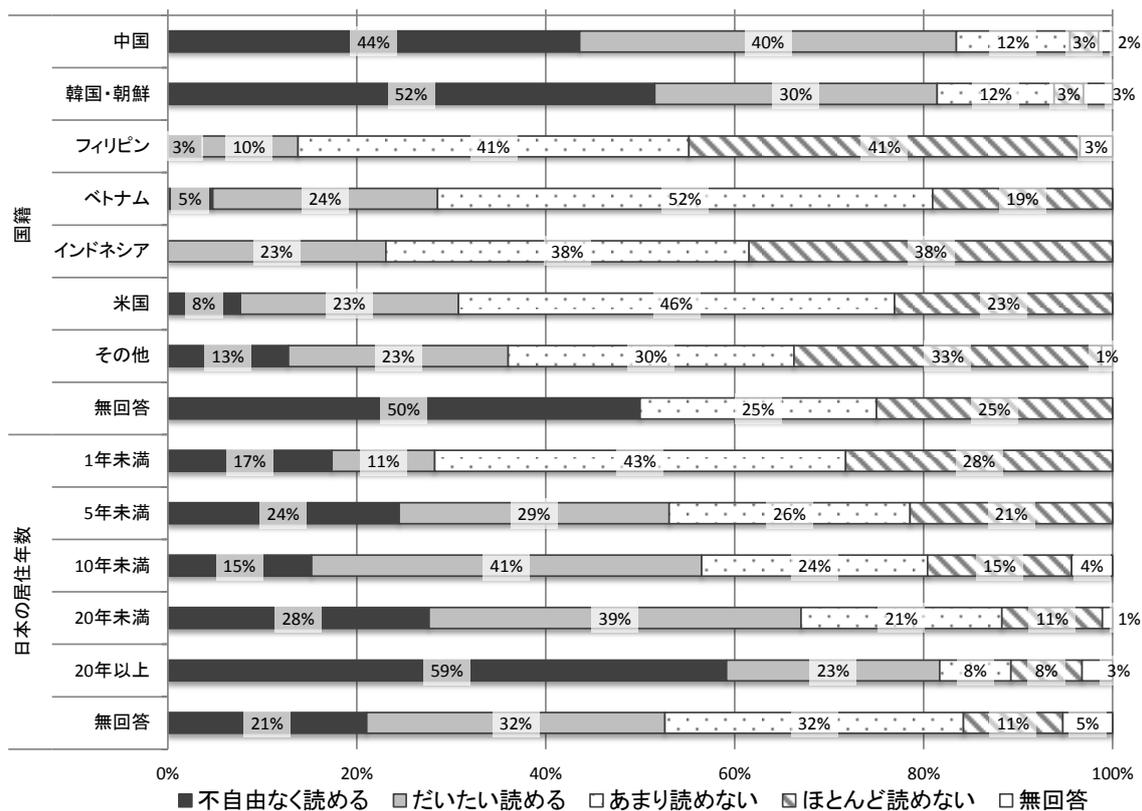


図12-3-2 国籍・日本居住年数別日本語能力(読む・漢字)の分布(N=396)

国籍別にひらがなを読む能力を見ると、中国籍、韓国・朝鮮籍、ベトナム籍では80%以上が不自由なく読める、だいたい読めると回答しており、インドネシア籍と米国籍では不自由なく読める、だいたい読めると回答した割合は100%となっている。一方のフィリピン籍では不自由なく読める、だいたい読めると回答したのは65%と他の国籍と比較して低くなっている。

日本居住年数別に見ると、1年未満で80%が不自由なく読める、だいたい読めると回答しており、20年以上でも不自由なく読める、だいたい読めると回答した割合は87%となっている。このことから早い段階でひらがなを読む能力を習得できている傾向が窺える。

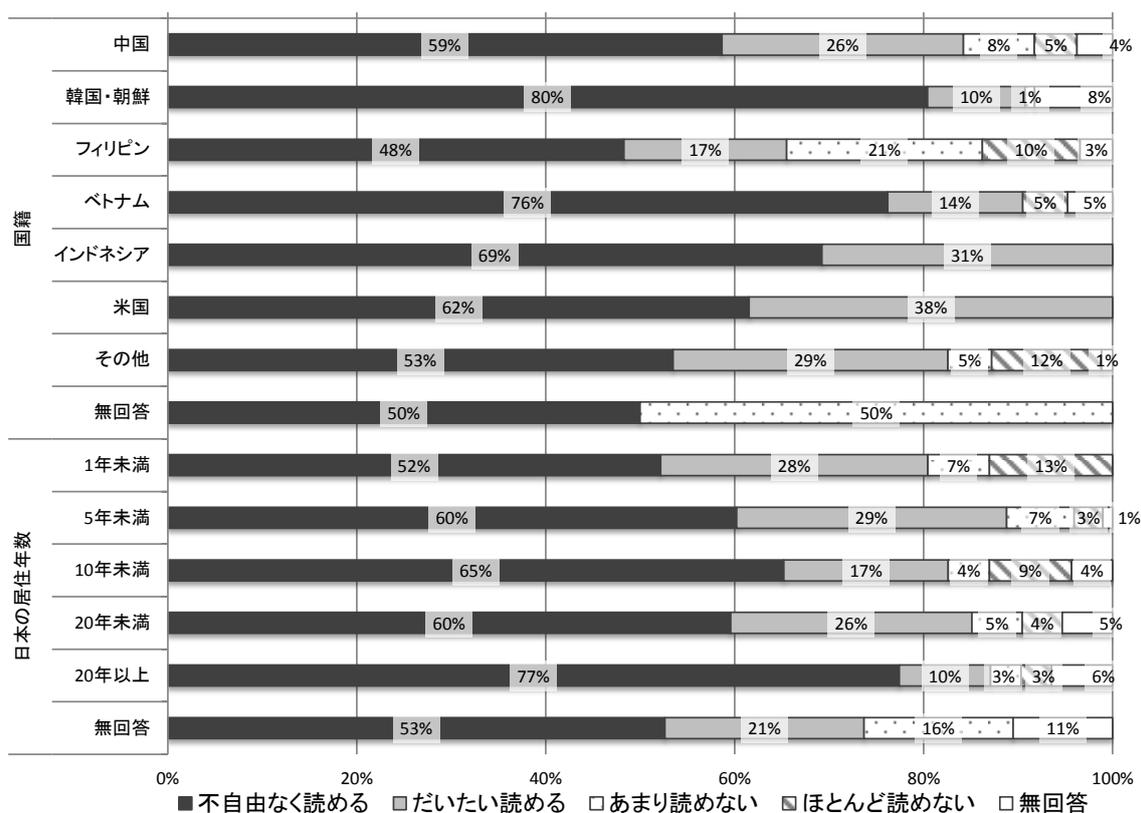


図12-3-3 国籍・日本居住年数別日本語能力(読む・ひらがな)の分布(N=396)

④ 書く能力

日本語を書く能力については、読む能力と同様、ひらがなとカタカナを書ける割合は高く、80%程度が「不自由なく書ける」もしくは「だいたい書ける」と回答している。一方、漢字については、「不自由なく書ける」または「だいたい書ける」割合は53.8%にとどまり、「あまり書けない」または「ほとんど書けない」と回答している割合が40%を超えている。

表 12-4 書く能力

D 書く	漢字		ひらがな		カタカナ	
	N	%	N	%	N	%
不自由なく書ける	111	28.0%	227	57.3%	206	52.0%
だいたい書ける	102	25.8%	96	24.2%	100	25.3%
あまり書けない	99	25.0%	32	8.1%	41	10.4%
ほとんど書けない	76	19.2%	27	6.8%	36	9.1%
無回答	8	2.0%	14	3.5%	13	3.3%
計	396	100%	396	100%	396	100%

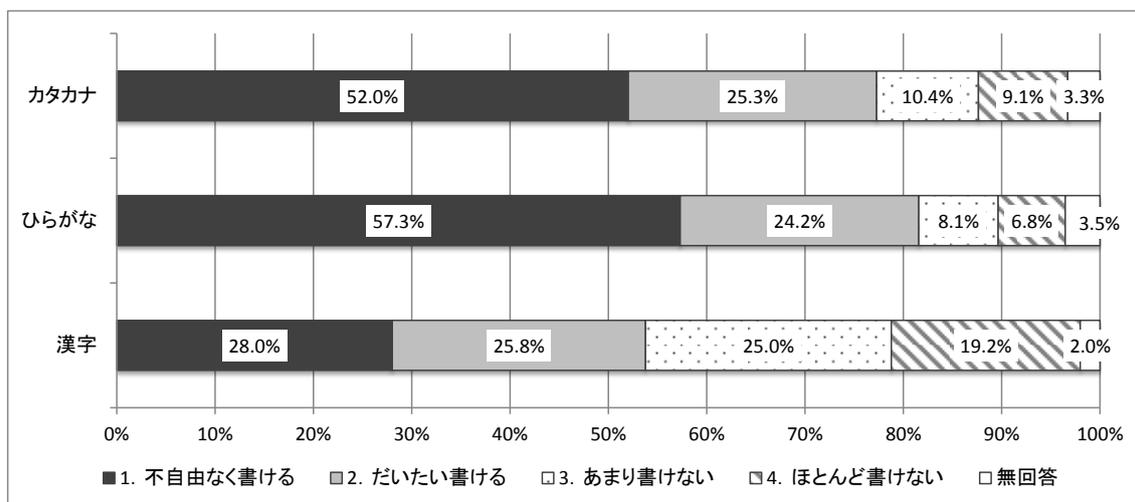


図 12-4 書く能力

(13) 日本語の必要性

日本語の必要性についての意見の分布を見ると、「日常生活のために必要」と考える人が69.7%と最も多く、次いで「現在の仕事・勉強をしていくために必要」が52.3%、「日本人とつきあうために必要」が46.7%となっている。一方、日本語が必要ないと考える人は少数であり、「必要ない」、「いずれ帰国するのであれば必要ない」、「母国語で暮らせるのであれば必要ない」と答えた人はいずれも3%に満たない。

問 13 日本語の必要性についてどのように考えますか (複数回答)

表 13 日本語の必要性

	N	%
日常生活のために必要	276	69.7%
現在の仕事・勉強をしていくために必要	207	52.3%
日本人とつきあうために必要	185	46.7%
日本に永住するために必要	147	37.1%
希望する仕事を見つけるために必要	111	28.0%
必要ない	9	2.3%
いずれ帰国するのであれば必要ない	7	1.8%
母国語で暮らせるのであれば必要ない	4	1.0%
その他	17	4.3%
無回答	6	1.5%
計	396	100%

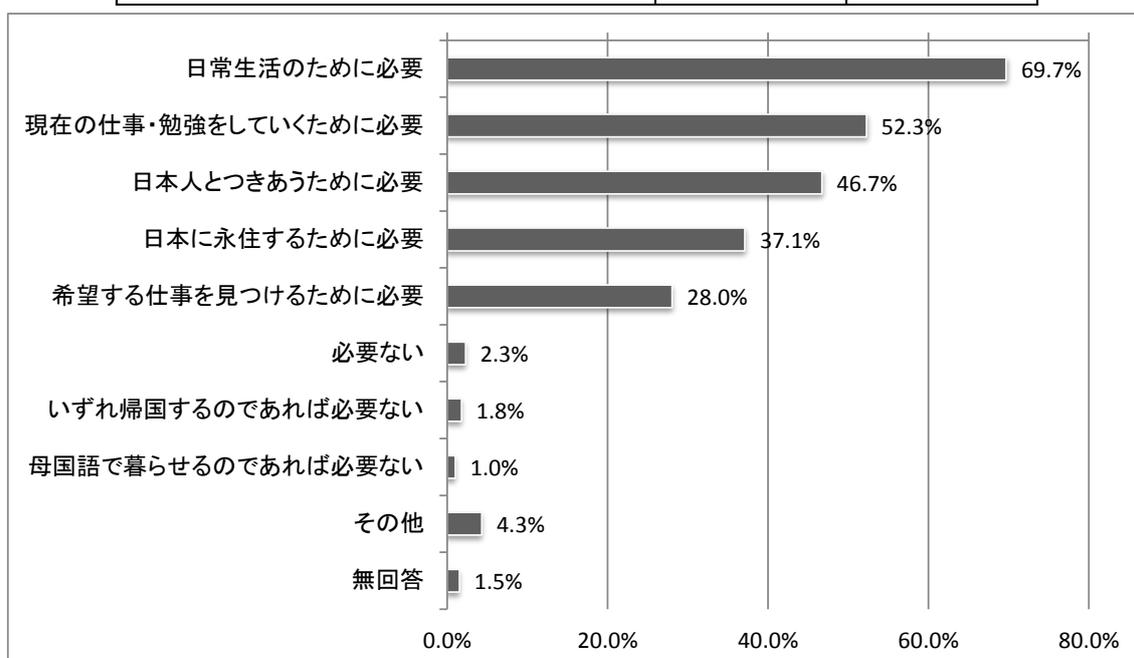


図 13 日本語の必要性

(14) 日本語の学習状況

日本語の学習状況の分布を見ると、「現在、学習している」が 35.1%と最も多く、次いで「日本語に不自由はないので、学習の必要はない」が 30.8%、「現在は学習していないが、できれば学習したい」が 28.0%、「現在は学習していないし、学習するつもりはない」が 3.8%となっている。

問 14 あなたの日本語の学習状況は、次のどれにあてはまりますか。

表 14 日本語の学習状況

	N	%
現在、学習している	139	35.1%
日本語に不自由はないので、学習の必要はない	122	30.8%
現在は学習していないが、できれば学習したい	111	28.0%
現在は学習していないし、学習するつもりもない	15	3.8%
無回答	9	2.3%
計	396	100%

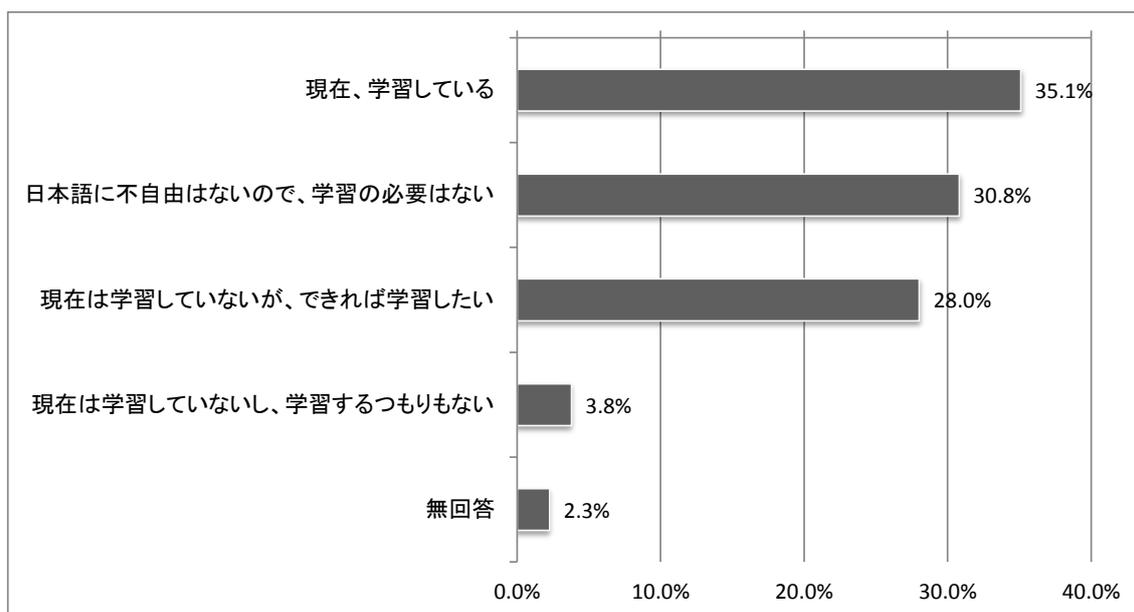


図 14 日本語の学習状況

在留資格別の日本語の学習状況を見ると、特別永住者では89%が日本語に不自由はないと回答している。すでに学習している人の割合は技能実習で84%と最も高くなり、留学、技術・人文知識・国際業務、教育で60%以上となる。定住者では83%ができれば学習したいとしており、永住者、日本人の配偶者、家族滞在、教育でもおよそ30%以上を占めている。一方、日本人の配偶者では日本語を学習するつもりはないの割合が9%と最も高い。

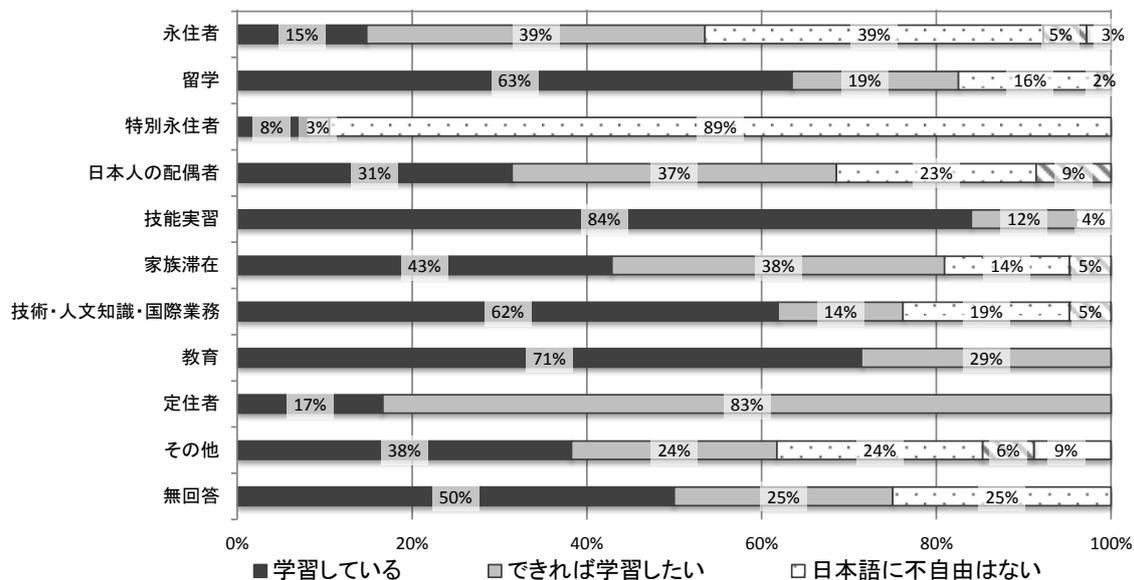


図14-2 在留資格別日本語の学習状況の分布(N=396)

日本の居住年数別に見ると、1年未満では76%が学習していると回答している。居住年数が長くなるにつれ割合は低下し、10年未満では30%、20年未満では20%となっている。一方、20年未満ではできれば学習したいの割合が最も高く41%となっている。20年以上では学習しているが9%、できれば学習したいも13%と最も低くなっているが、日本語に不自由はないも72%を占めており、居住年数が長くなるにつれ日本語に不自由なくなる割合が高くなっている。

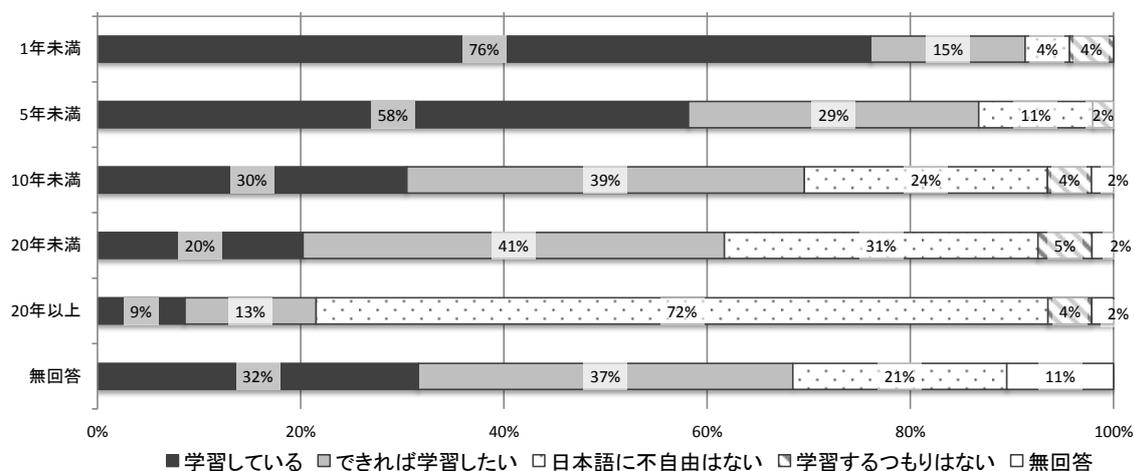


図14-3 日本居住年数別日本語の学習状況の分布(N=396)

家族形態別に日本語の学習状況の分布を見ると、単身者では学習しているが47%と最も高いが、子どもあり、その他家族同居では20%となっている。一方、日本語に不自由はないは子どもあり、その他家族同居では40%を超えているが、単身者では23%に留まっている。できれば学習したいの割合は各区分によって大きな差は見られない。

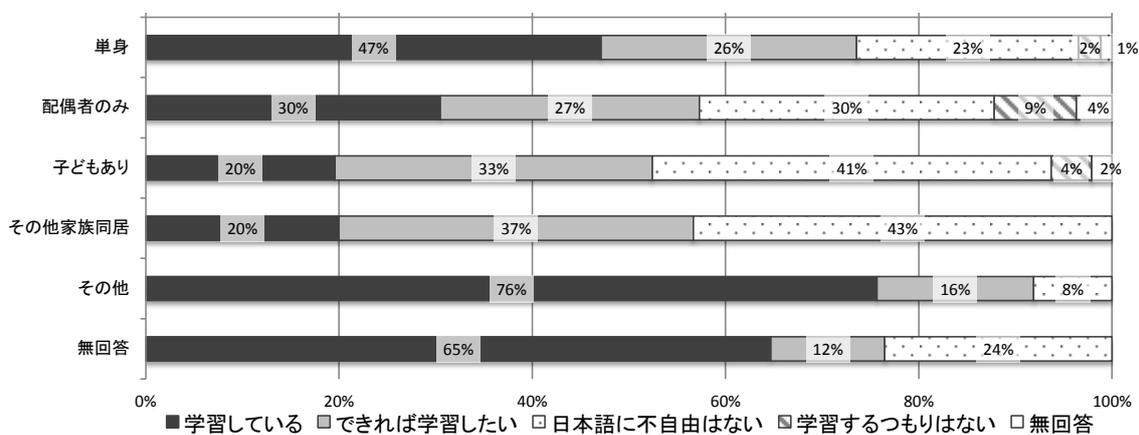


図14-4 家族形態別日本語の学習状況の分布 (N=396)

(15) 日本語の学習方法

日本語の学習方法を見ると、「教材やインターネットまたはオンラインなどを通じて自分で勉強している」の割合が最も高く、現在日本語を学習している人のうちの61.2%となっている。次いで、「日本人の知人・友人に教えてもらっている」または「通っている大学や学校で学んでいる」が各22.3%、「ボランティアの日本語教室に通っている」が14.4%となっている。

問15 あなたはどのように日本語を学んでいますか（複数回答）

（問14で「現在、学習している」を選択した人）

表15 日本語の学習方法

	N	%
教材やインターネットまたはオンラインなどで自分で勉強している	85	61.2%
日本人の知人・友人に教えてもらっている	31	22.3%
通っている大学や学校で学んでいる	31	22.3%
家族に教えてもらっている	16	11.5%
ボランティアの日本語教室に通っている	20	14.4%
語学学校（日本語学校）に通っている	11	7.9%
自宅に講師を招き、個人指導を受けている	3	2.2%
その他	16	11.5%
無回答	1	0.7%
計	139	100%

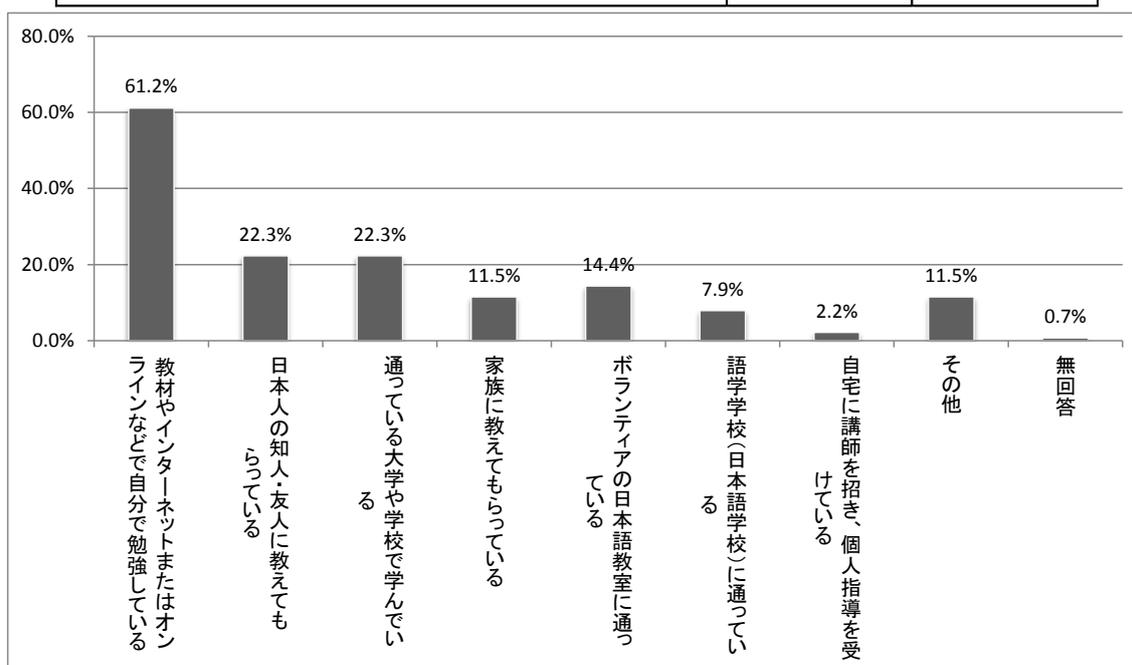


図15 日本語の学習方法

(16) 日本語を学習しない理由

日本語を学習しない理由の分布を見ると、「忙しくて勉強する時間がないから」と答えた人が最も多く、現在学習していない人のうち 55.6% を占めている。次いで、「近くに学べる場がないから」を選択する人が 33.3%、「日本語教室や日本語学校の情報がないから」を選択する人が 23.8%、「勉強するお金がないから」を選択する人が 21.4% となっている。

問 16 あなたが日本語を学ばない、学んでいない理由は何ですか（複数回答）

（問 14 で「現在は学習していないが、できれば学習したい」または「現在は学習していないし、学習するつもりもない」と選択した人）

表 16 日本語を学習しない理由

	N	%
忙しくて勉強する時間がないから	70	55.6%
近くに学べる場がないから	42	33.3%
日本語教室や日本語学校の情報がないから	30	23.8%
勉強するお金がないから	27	21.4%
家族や友人などが通訳してくれるから	25	19.8%
母国の言葉だけで生活できるから	3	2.4%
その他	16	12.7%
無回答	4	3.2%
計	126	100%

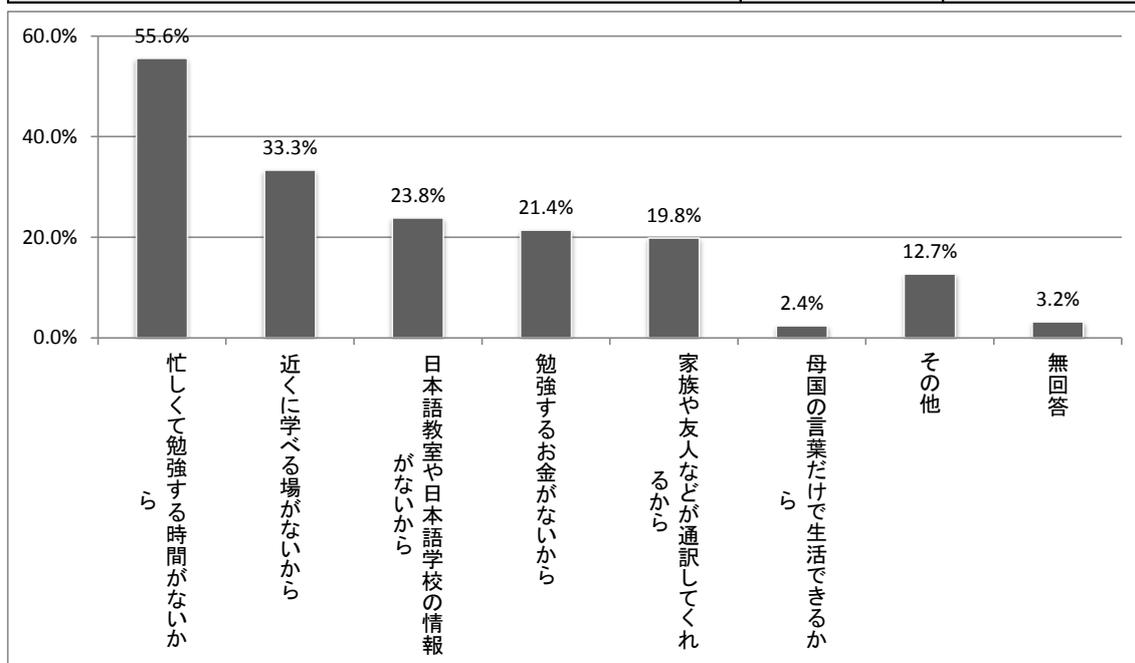


図 16 日本語を学習しない理由

4 情報

(17) 生活に必要な情報の入手先

生活に必要な情報の入手手段として、最も多くの人々が携帯電話を使用したインターネットと答え、47.2%を占める。次いで、テレビ・ラジオを選んだ人が45.7%、日本人の友人・知人を選んだ人が42.7%、パソコンを使用したインターネットを選んだ人が41.4%となっている。メディアや個人的なネットワークを利用して情報を入手する人が多い一方、母国の大使館や領事館、外国籍住民向け相談窓口などの公的機関や団体などを通して情報を入手している人の割合は低いと言える。

問 17 あなたは、生活に必要な情報をどこから得ていますか（複数回答）

表 17 生活に必要な情報の入手先

	N	%
携帯電話を使用したインターネット	187	47.2%
テレビ・ラジオ	181	45.7%
日本人の友人・知人	169	42.7%
パソコンを使用したインターネット	164	41.4%
職場・学校	138	34.8%
家族	131	33.1%
母国出身の友人・知人	103	26.0%
新聞・雑誌	86	21.7%
近所の日本人、町内会の回覧	72	18.2%
外国籍住民向け相談窓口(みやぎ外国人相談センターなど)	22	5.6%
母国の大使館・領事館	14	3.5%
ボランティア団体	9	2.3%
入手する方法がない	9	2.3%
その他	11	2.8%
無回答	20	5.1%
計	396	100%

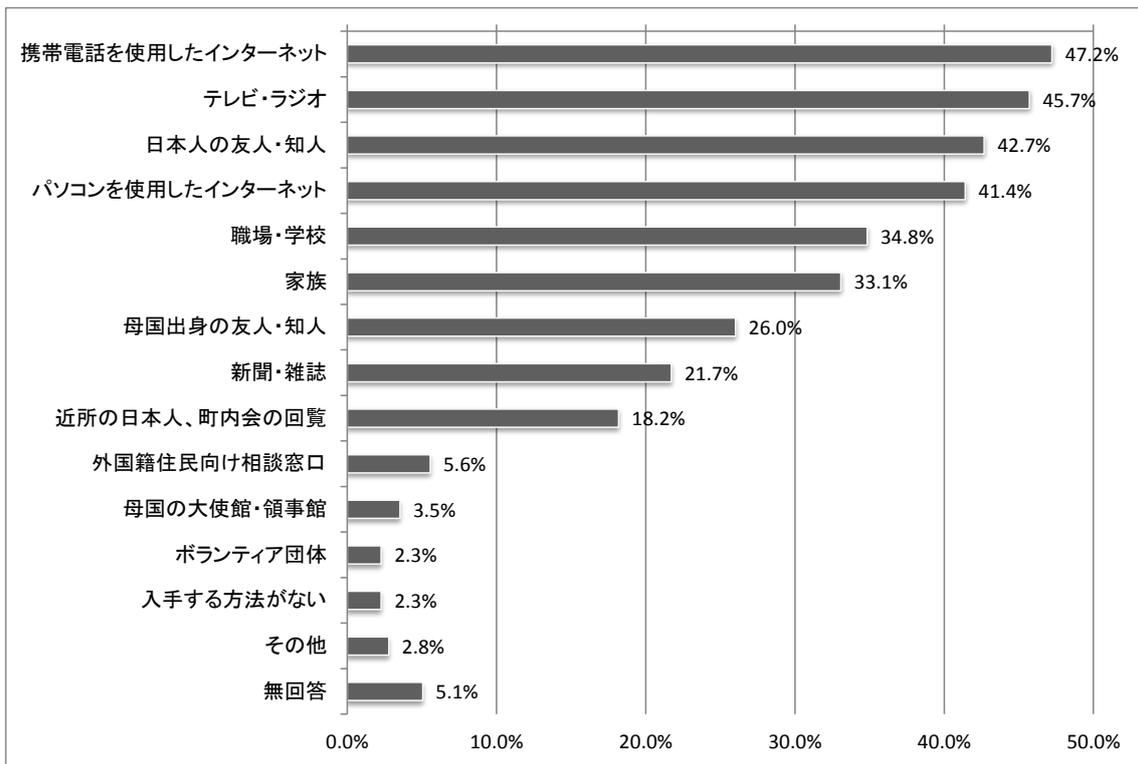


図 17 生活に必要な情報の入手先

在留資格別の生活情報の入手手段について見ると、まずメディアを用いた情報の入手については、特別永住者ではテレビ・ラジオが92%、新聞・雑誌が69%と他の在留資格と比較して割合が高くなっている。テレビ・ラジオについては、永住者、日本人の配偶者、定住者で50%を超えている。新聞・雑誌については10%未満から回答なしの在留資格も多くなった。パソコンによるネットは留学、特別永住者、家族滞在、技術・人文知識・国際業務、教育で50%を超える割合となった。携帯によるネットは留学、特別永住者、華族滞在、技術・人文知識・国際業務、定住者で50%を超えたほか、全ての在留資格で40%以上の割合を占めている。

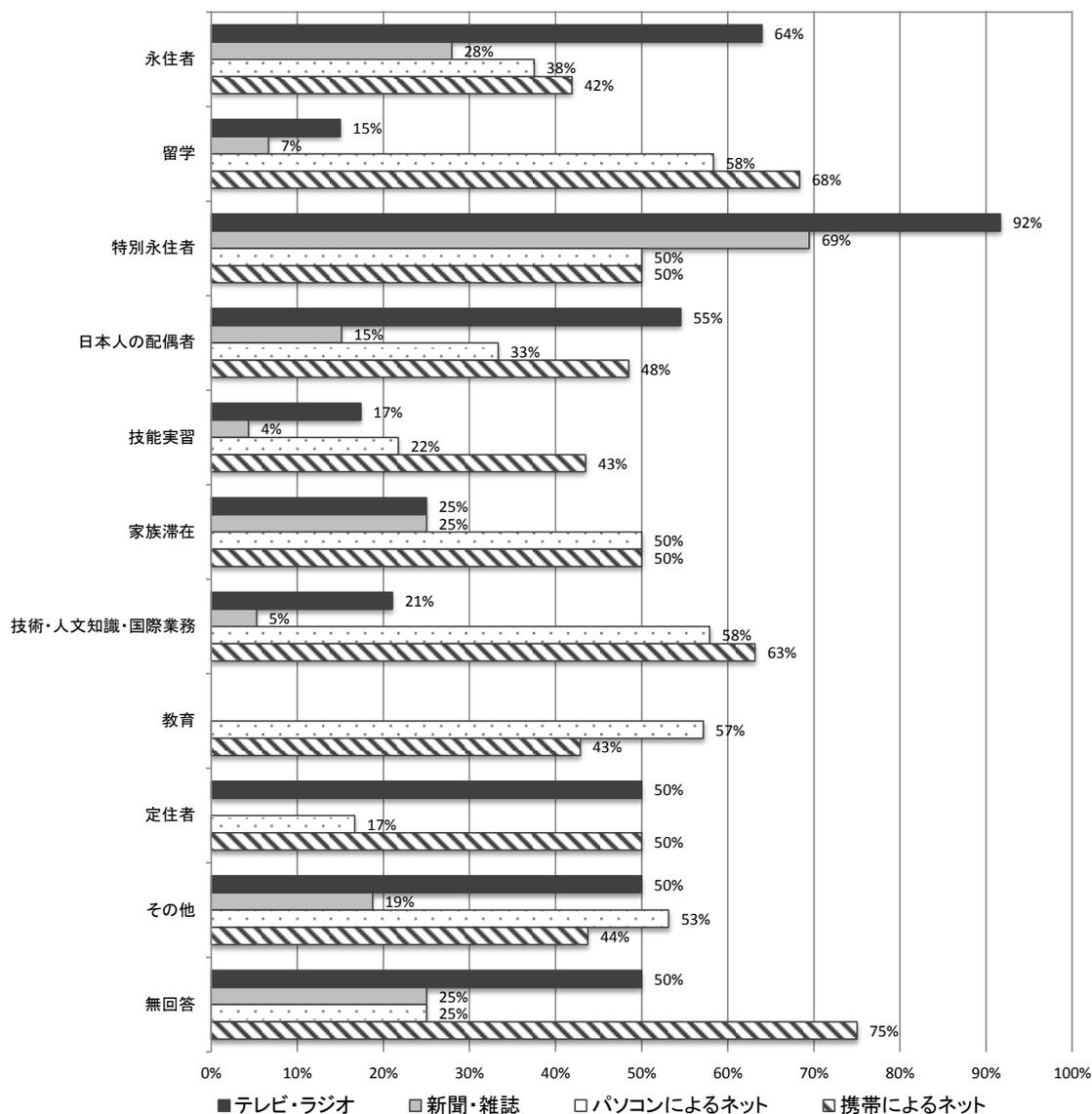


図17-2a 在留資格別生活情報入手手段(メディア)(N=376、問17に無回答の回答者を除いた割合)

次に、友人や家族などのネットワークを用いた情報入手について在留資格による違いを見ると、職場・学校では教育が86%となり、留学、技能実習、定住者で50%以上の割合となった。家族では永住者が58%、日本人の配偶者で52%以上となり、技術・人文知識・国際業務、教育では回答がなかった。日本人の友人・知人では特別永住者が58%、定住者で50%となった。母国出身の友人・知人では50%以上の割合となった在留資格はなく、最も高いもので留学の43%となった。近所の日本人・回覧でも50%以上の割合となった在留資格はなく、最も高いもので特別永住者の39%となっており、技術・人文知識・国際業務、教育、定住者では回答はなかった。

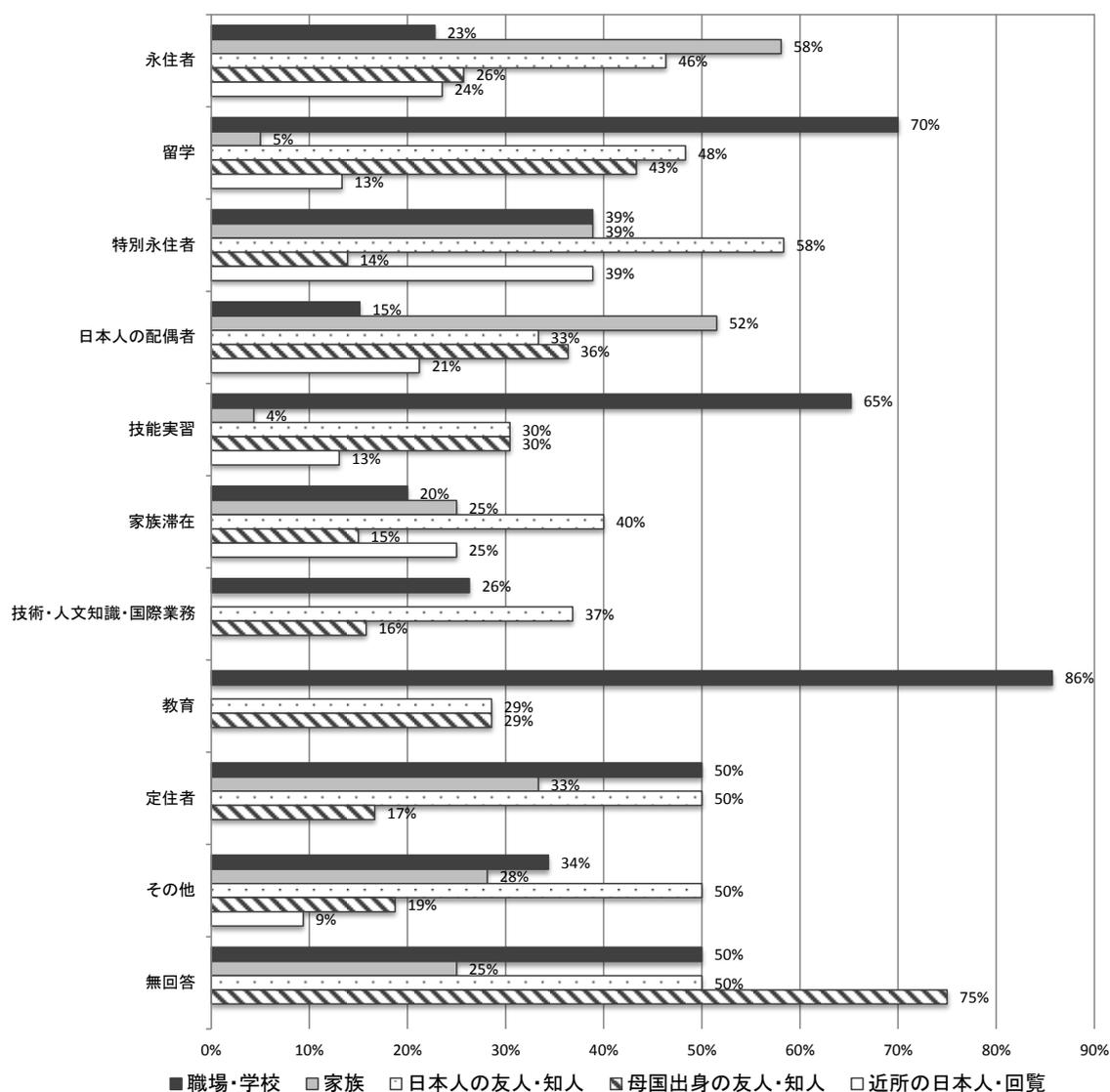


図17-2b 在留資格別生活情報入手手段(ネットワーク)(N=376、問17に無回答の回答者を除いた割合)

機関・団体・その他を用いた情報入手は、相談窓口で家族滞在が15%となったのが最も大きな割合で、大多数は10%未満となっており、全ての在留資格で主要な情報入手の手段として利用されていないことがわかる。入手手段がないは技能実習で9%と、全ての在留資格で10%未満となっている。

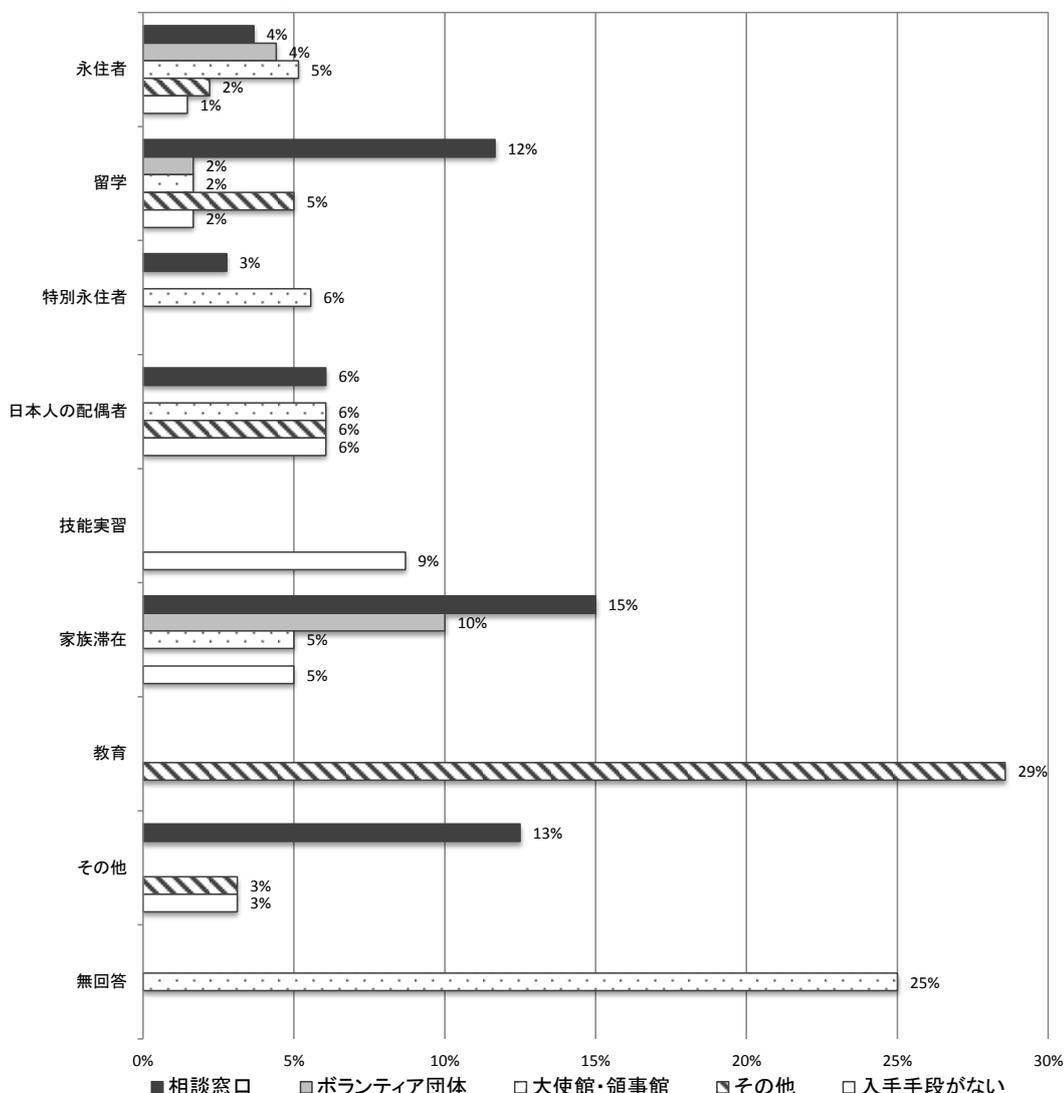


図17-2c 在留資格別生活情報入手手段(機関・団体・その他)(N=376、問17に無回答の回答者を除いた割合)

日本語を読む能力別に各生活情報入手手段の利用割合を見ると、全てのメディアにおいて能力が高いほど割合が高くなる傾向が窺える。テレビ・ラジオでは日本語を読む能力が高い場合は57%となるが、日本語を読む能力が低い場合では34%となっている。新聞・雑誌では日本語を読む能力が高い場合は30%となるが、日本語を読む能力が低い場合では5%となっている。パソコンによるネットでは日本語を読む能力が高い場合は54%となるが、日本語を読む能力が低い場合は29%となっている。携帯によるネットでは日本語を読む能力が高い場合は57%となるが、日本語を読む能力が低い場合は21%となっている。

日本の居住年数別に見ると、居住年数が短いほどテレビ・ラジオ、新聞・雑誌の割合が低くなるのに対し、パソコンによるネット、携帯によるネットは他の区分ほど年数による差は見られない。テレビ・ラジオは1年未満が最も割合が低く4%に留まるが、20年以上では78%と最も割合が高くなっている。新聞・雑誌では5年未満が10%と最も割合が低い、20年以上では割合が51%と最も高い。パソコンによるネットは5年未満が50%と最も高く、20年未満が最も低くて40%となる。携帯によるネットは10年未満が最も高く59%となるが、20年未満では40%と最も低くなっている。

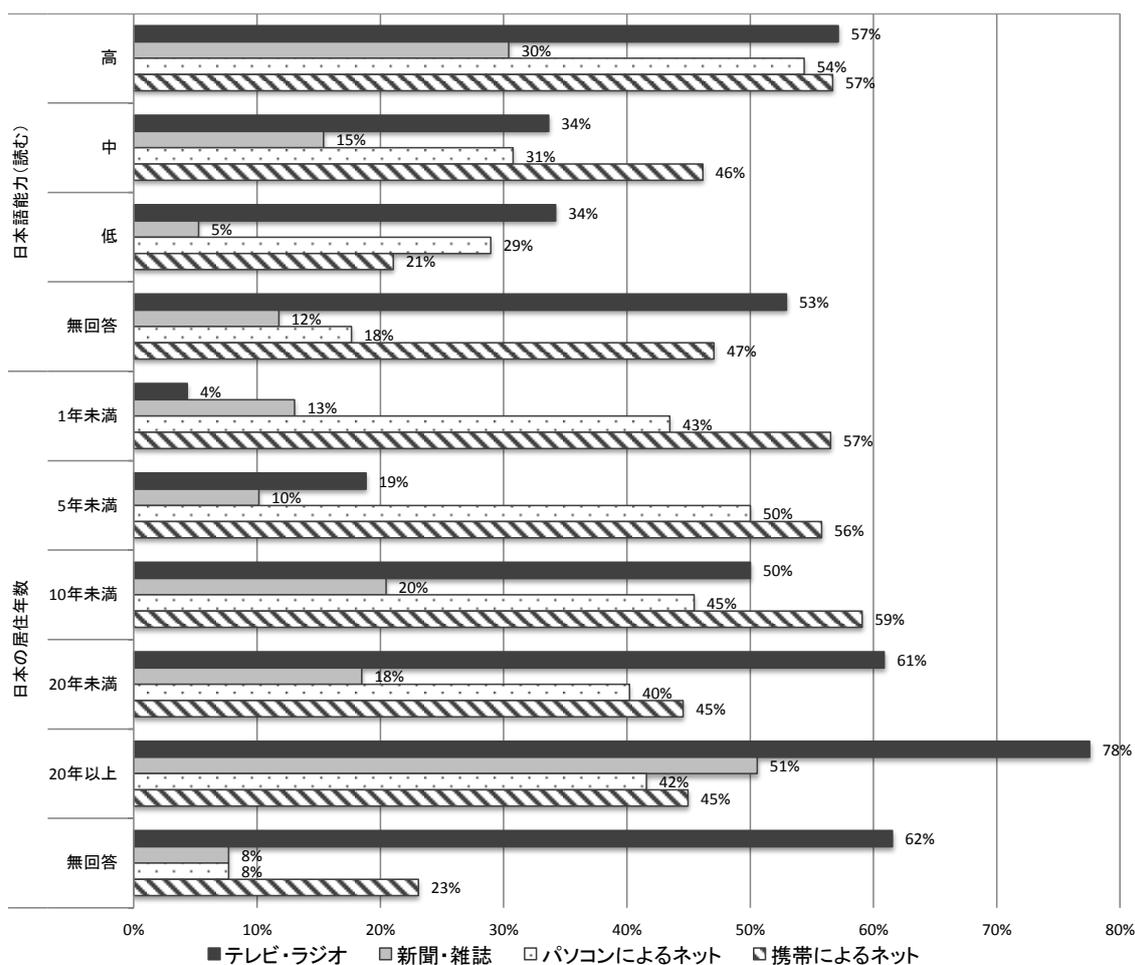


図17-3a 日本語能力・日本居住年数別生活情報入手手段(メディア)(N=376、問17に無回答の回答者を除いた割合)

ネットワークを用いた生活情報の入手の割合を見ると日本語の読む能力別では、能力の高い人では日本人の友人・知人が49%を占めるなど主要な手段となっているのに対し、日本語能力の低い人では日本の友人・知人は34%となっている。職場・学校は日本語能力の高い人では39%、中程度の人では40%となるが、日本語能力の低い人では26%と割合が低い。一方、家族は日本語能力によって大きな差は見られなかった。また、母国出身の友人・知人は日本語能力が高い人では25%なのに対して、日本語能力の低い人では39%と高い割合を占めるようになっている。近所の日本人・回覧は日本語能力の高い人で24%となるが、日本語能力の低い人では8%と主要な手段にはなっていない。

日本の居住年数別に見ると、職場・学校は1年未満、5年未満では50%以上を占めるのに対して、10年未満、20年未満、20年以上では20%台と大きな差が見られた。これに対して家族は1年未満、5年未満ではおよそ10%に留まるが、居住年数が長くなるにつれ割合が高まり20年未満、20年以上では50%以上となっている。日本人の友人・知人は1年未満では55%と最も高く、5年未満で39%と最も低くなるが、居住年数が長くなるにつれ再び割合が高くなる。母国出身の友人・知人は20年以上では18%と割合が低いものの、他の区分ではおよそ30%の割合となっている。近所の日本人・回覧は20年以上で34%と一定の割合を占めるが、他の区分では10%台と低い割合となっている。

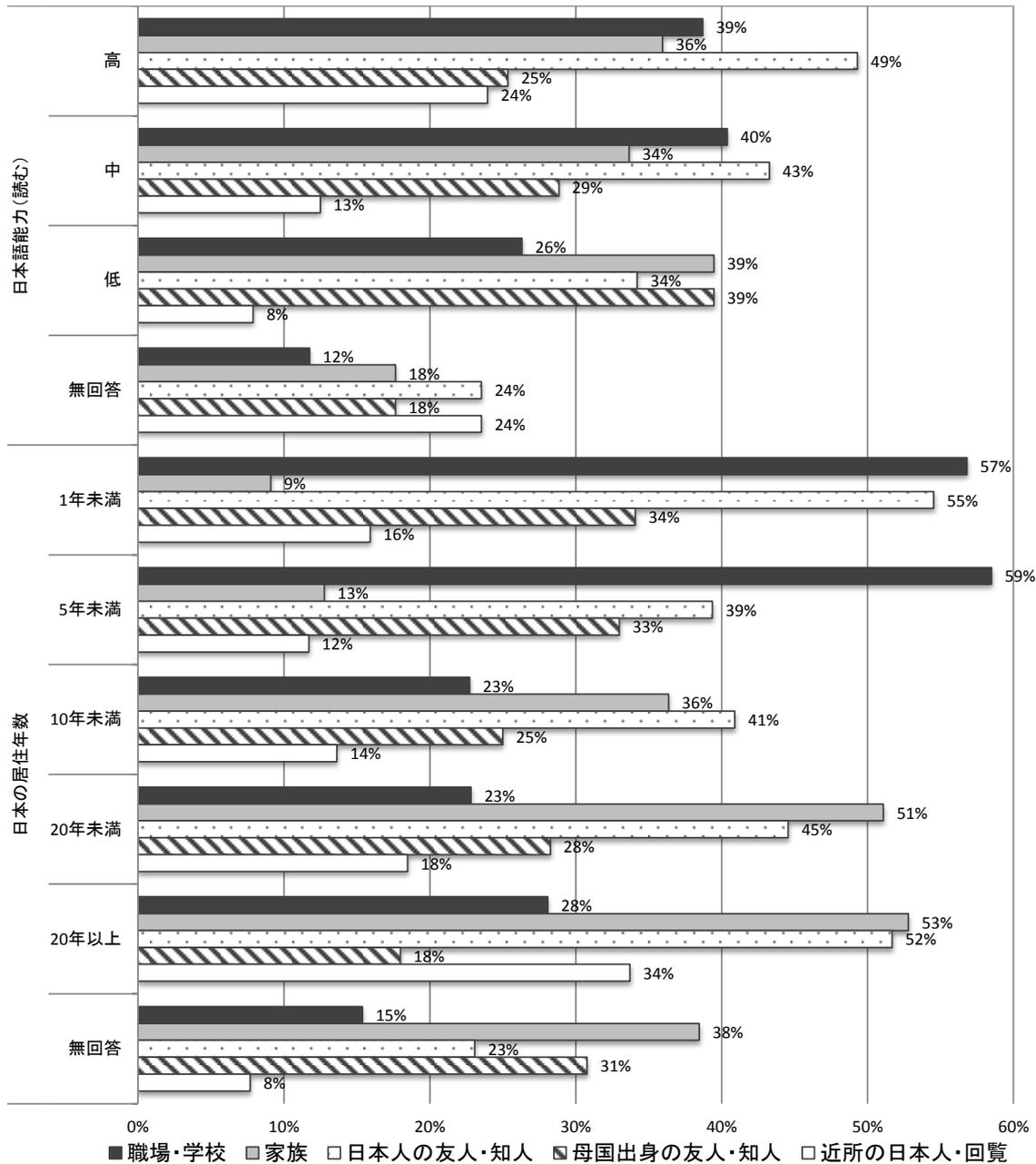


図17-3b 日本語能力・日本居住年数別生活情報入手手段(ネットワーク)(N=376、問17に無回答の回答者を除いた割合)

機関・団体・その他を用いた生活情報入手の割合については、日本語能力の違いによる明確な差は見られない。日本の居住年数別では20年未満で相談窓口が14%となるほか、20年以上で大使館・領事館が18%となっているが、他は10%未満に留まり、主要な手段とはなっていない。

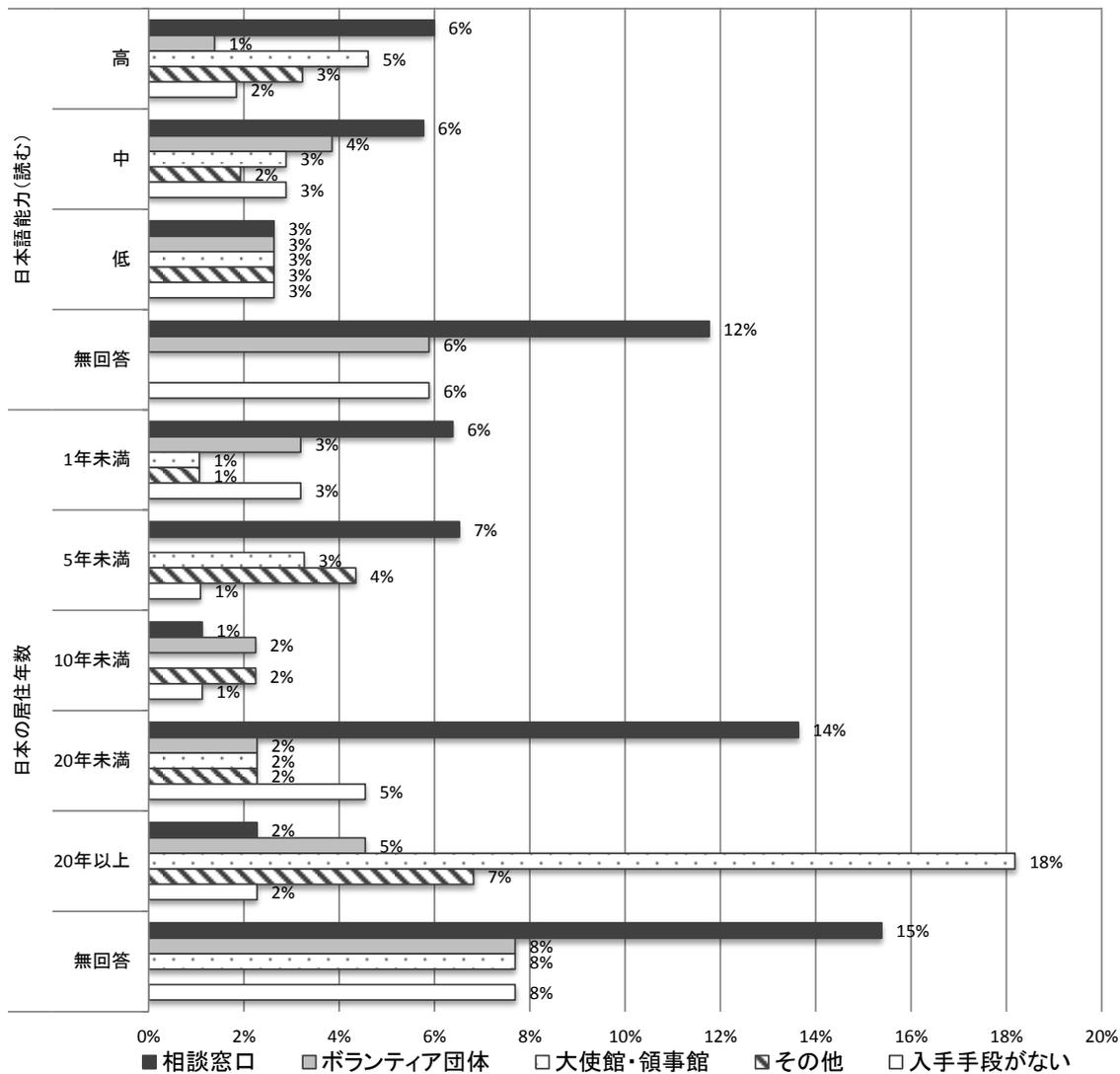


図17-3c 日本語能力・日本居住年数別生活情報入手手段(機関・団体・その他)(N=376、問17に無回答の回答者を除いた割合)

インターネット等による生活情報入手の割合を年齢別に見ると、20歳代はパソコンによるネットが56%、携帯電話によるネットが66%、職場・学校が62%と全ての年代で最も割合が高く、年代が上がるにつれて割合が低下していく傾向にある。

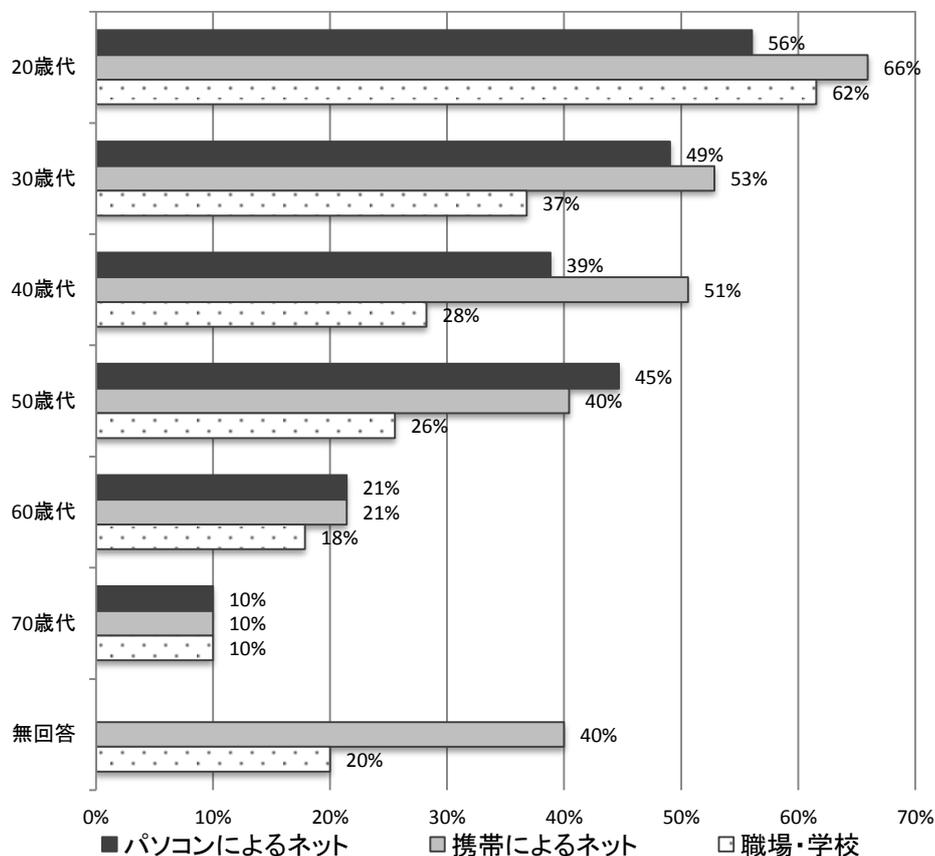


図17-4 年齢別生活情報入手手段(パソコン・携帯電話を用いたインターネット、職場・学校)(N=376、問17に無回答の回答者を除いた割合)

5 居住

(18) 居住年数

居住年数の分布を見ると、日本の居住年数は10年以上20年未満が23.7%、3年未満が14.6%、30年以上が13.6%となっており、宮城県の居住年数は10年以上20年未満が23.7%、3年未満が19.2%、5年以上10年未満が11.9%となっている。現在の市町村については、3年未満が22.2%、10年以上20年未満が19.2%、5年以上10年未満が13.4%となっている。

問18 あなたは、通算して日本にどのくらい住んでいますか。また、宮城県、現在住んでいる市町村には、通算して何年間住んでいますか

表18 居住年数

	日本		宮城県		現在住んでいる市町村	
	N	%	N	%	N	%
6ヶ月未満	21	5.3%	37	9.3%	44	11.1%
1年未満	25	6.3%	32	8.1%	43	10.9%
3年未満	58	14.6%	76	19.2%	88	22.2%
3～5年	40	10.1%	38	9.6%	37	9.3%
5～10年	46	11.6%	47	11.9%	53	13.4%
10～20年	94	23.7%	94	23.7%	76	19.2%
20～30年	39	9.8%	31	7.8%	25	6.3%
30年以上	54	13.6%	28	7.1%	19	4.8%
無回答	19	4.8%	13	3.3%	11	2.8%
計	396	100%	396	100%	396	100%

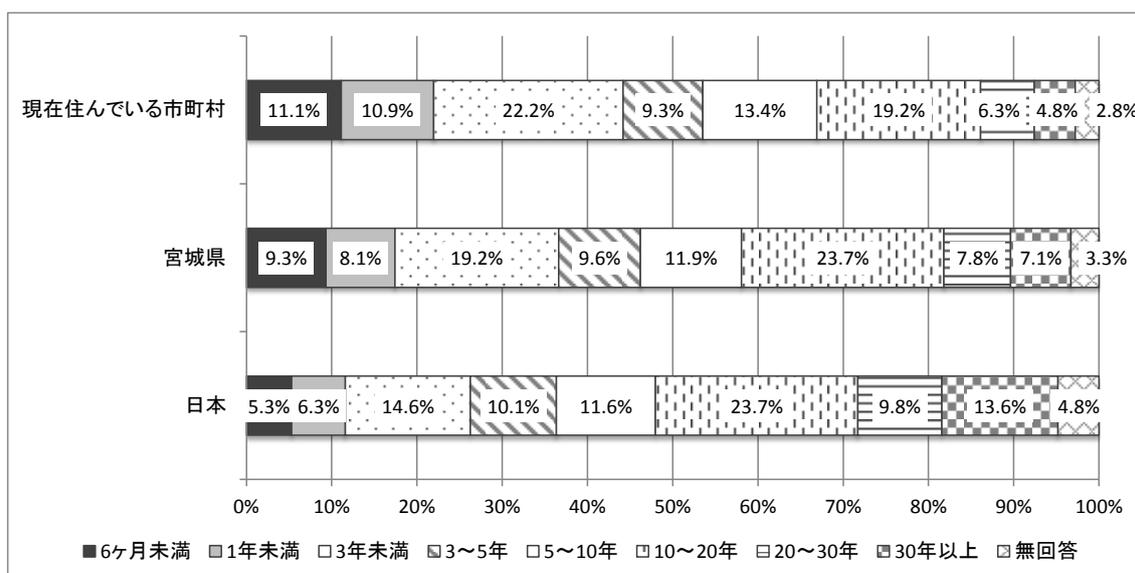


図18 居住年数

居住地域別の各市町村への居住年数の分布を見ると、仙台市、栗原地域、気仙沼地域では20%以下が1年未満の居住年数となっており、中でも栗原地域と気仙沼地域では3年未満の居住年数が50%を超えている。一方、仙南地域、登米地域、石巻地域では10年以上の居住年数が50%以上を占めており、仙南地域、石巻地域では20年以上の居住年数も20%以上となっている。

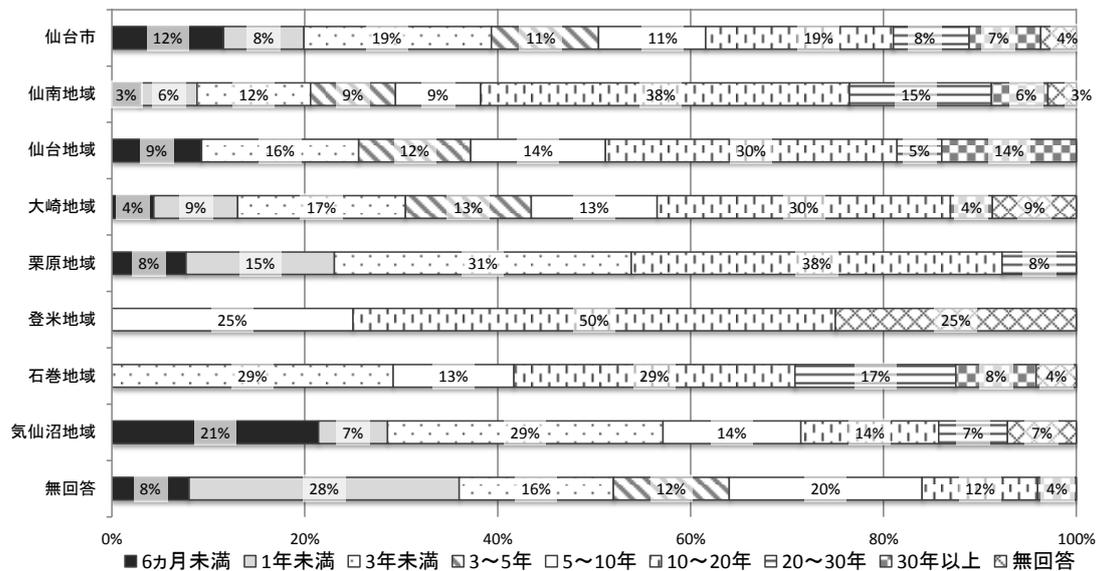


図18-2 居住地域別市町村居住年数の分布(N=396)

(19) 以前の居住地

現在の住所に住む以前の居住地を見ると、宮城県以外の都道府県に住んでいた割合が25.0%と最も多く、次いで宮城県内の他の市町村が23.5%、現在住んでいる市町村以外に住んだことはないと答えた人が21.2%となっている。

問 19 あなたは現在住んでいる市町村の前はどこに住んでいましたか。

表 19 以前の居住地

	N	%
宮城県内の他の市町村	93	23.5%
宮城県以外の都道府県	99	25.0%
日本以外の国・地域	77	19.4%
現在お住まいの市町村以外に住んだことはない	84	21.2%
無回答	43	10.9%
計	396	100%

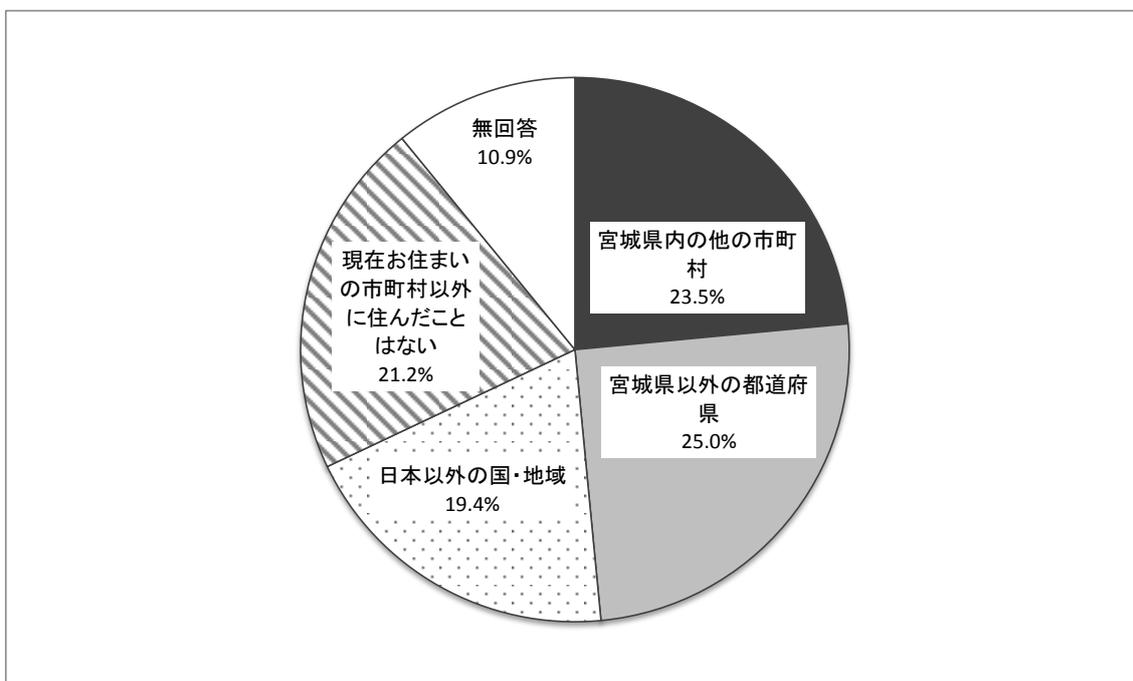


図 19 以前の居住地

居住地地域別の以前の居住地の分布を見ると、宮城県内の他の市町村に居住していた割合は栗原地域が最も高く54%となっている。他の都道府県に居住していた割合は登米地域で50%となる。他の国・地域に居住していた割合は仙南地域、大崎地域で30%以上となっている。

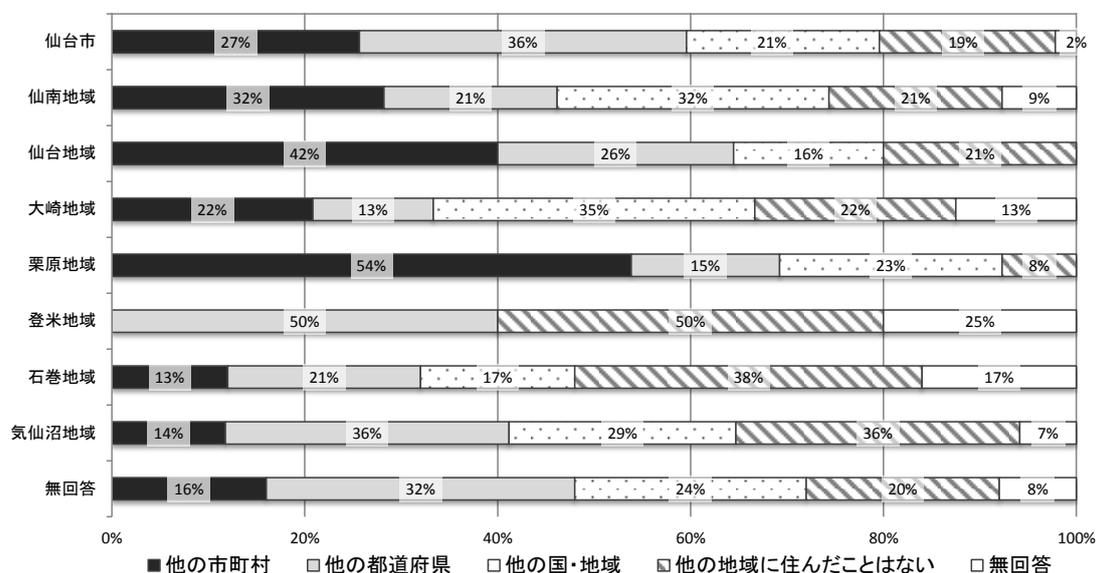


図19-2 居住地地域別以前の居住地の分布(N=396)

在留資格別の以前の居住地の分布を見ると、宮城県内の他の市町村に居住していた割合が最も高いのは定住者で50%となっている。他の都道府県に居住していたのは特別永住者が最も高く53%となる。他の国・地域に居住していた割合は技術・人文知識・国際業務の43%が最も高い。

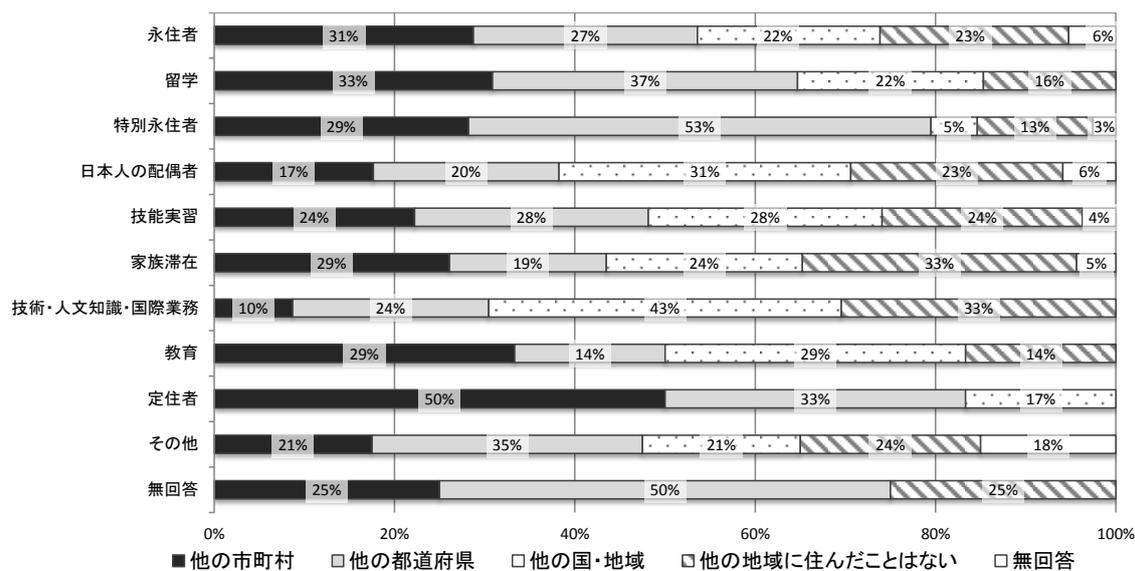


図19-3 在留資格別以前の居住地の分布(N=396)

6 医療・福祉

(20) 保健・医療・介護サービスの利用経験

保健・医療・介護サービスの利用経験の分布について見ると、基礎健康診断は最も多くの人に利用されており、47.5%が利用経験がある。次いで、がん検診が 22.0%、時間外診療が 17.7%に利用されている。

問 20 以下のような保健・医療・介護サービスを利用したことがありますか（複数回答）

表 20 保健・医療・介護サービスの利用経験

	N	%
県または市町村の基礎健康診断	188	47.5%
県または市町村の各種がん検診	87	22.0%
休日・時間外の診療機関	70	17.7%
県または市町村の健康相談	28	7.1%
外国語で診療可能な医療機関	25	6.3%
介護保険サービス	16	4.0%
県または市町村の心の健康相談	2	0.5%
無回答	116	29.3%
計	396	100%

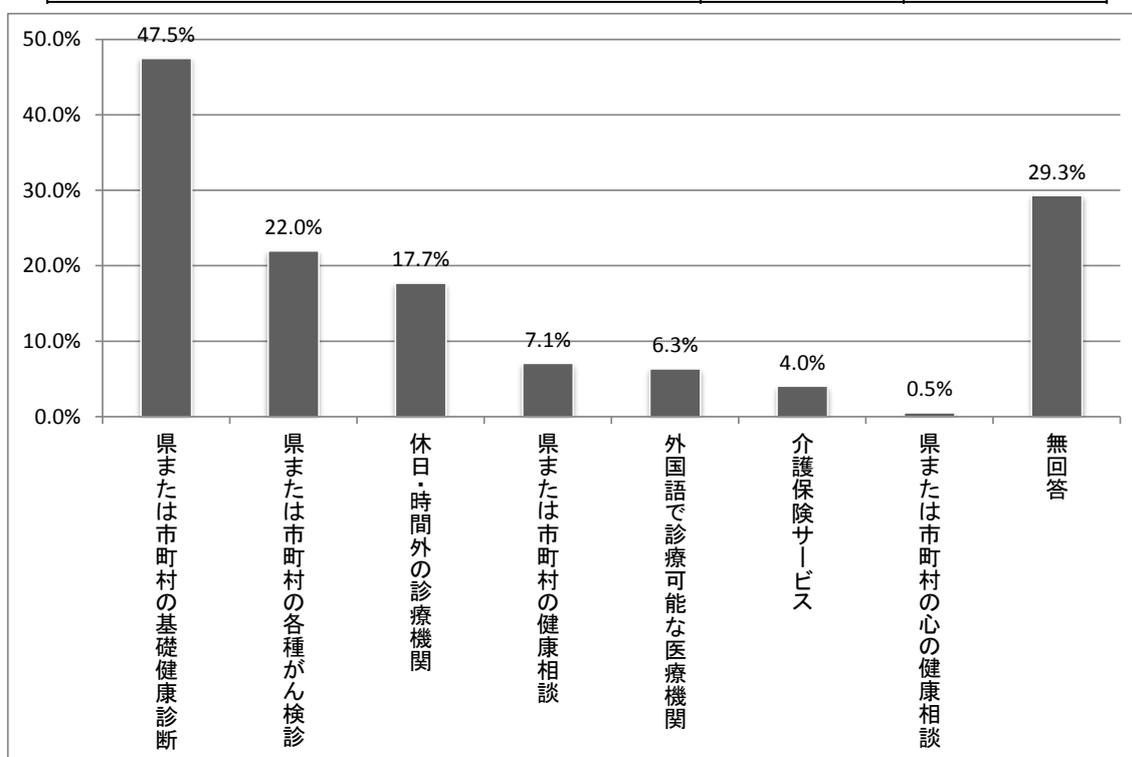


図 20 保健・医療・介護サービスの利用経験

(21) 病院での困った経験

病院で困った経験についての分布を見ると、50%以上の方が「とくに困っていることはない」と回答している一方、「日本語の書類・案内が理解できない」が16.2%、「医師や看護師と言葉が通じない」が15.2%、「外国語が通じる病院を利用したいが、どこにあるかわからない」、「医療費が高すぎる」が各13.4%となっている。

問 21 あなたが病気になって病院に行くときに困ったことはありますか（複数回答）

表 21 病院で困った経験

	N	%
とくに困っていることはない	209	52.8%
日本語の書類・案内が理解できない	64	16.2%
医師や看護師と言葉が通じない	60	15.2%
外国語が通じる病院を利用したいが、どこにあるかわからない	53	13.4%
医療費が高すぎる	53	13.4%
休日・夜間に利用できる病院が、どこにあるかわからない	38	9.6%
その他	33	8.3%
無回答	25	6.3%
計	396	100%

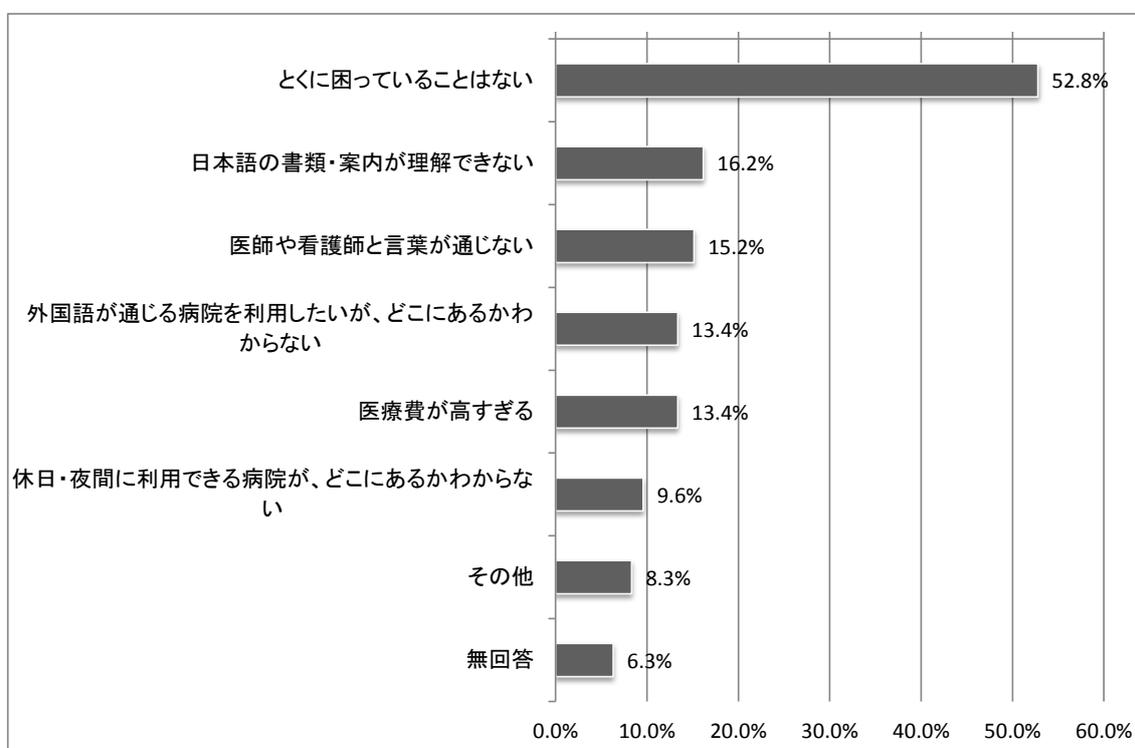


図 21 病院で困った経験

日本語を読む能力および話す・聞く能力と病院での問題との関連を見ると、どちらの能力でも高い人では困っていない割合が60%以上となっている。また、どちらの能力も中程度の人ではおよそ50%が困っていないとしている。読む能力が低い人では49%が言葉が通じない、41%が書類・案内が理解できないとしており、能力のより高い人と比較して割合が高くなっている。

話す・聞く能力では、能力の低い人の40%が言葉が通じない、34%が書類・案内が理解できないとしており、読む能力と同様の傾向の困りごとを抱えていることが窺える。

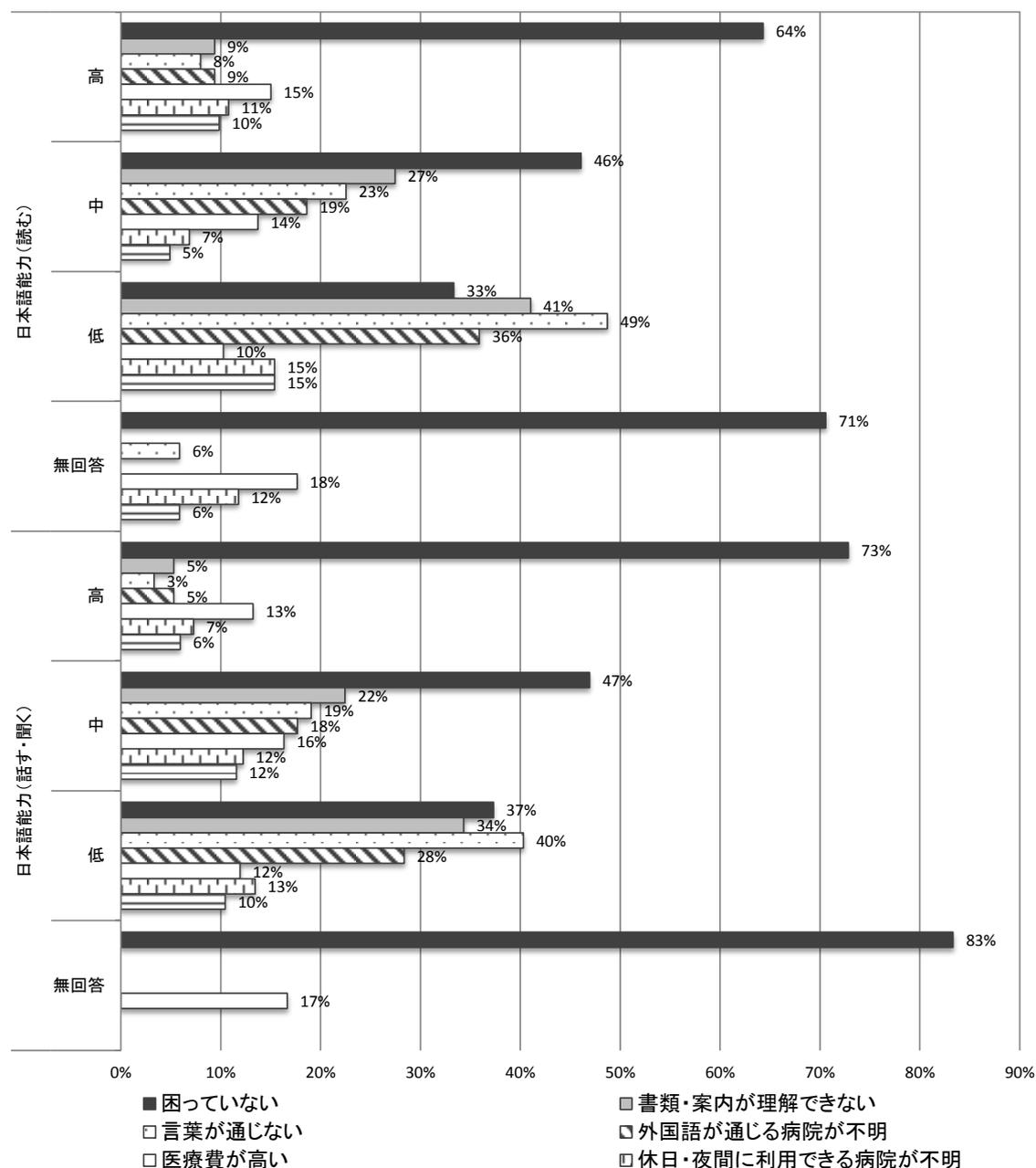


図21-2 日本語能力別病院で困ったことの分布(N=396)

(22) 病院に求める言語支援

病院に求める言語支援の分布を見ると、「言語支援の必要はない」と回答した人が 41.2%と最も多い一方、「母国語で会話ができるスタッフや医師」が 27.0%、「通訳者」が 24.5%、「母国語のパンフレット」が 23.2%となっている。

問 22 あなたが病気になって病院に行くとき、どのような言語支援があると良いと思いますか（複数回答）

表 22 病院に求める言語支援

	N	%
言語支援の必要はない	163	41.2%
母国語で会話ができるスタッフや医師	107	27.0%
通訳者	97	24.5%
母国語のパンフレット	92	23.2%
その他	34	8.6%
無回答	22	5.6%
計	396	100.0%

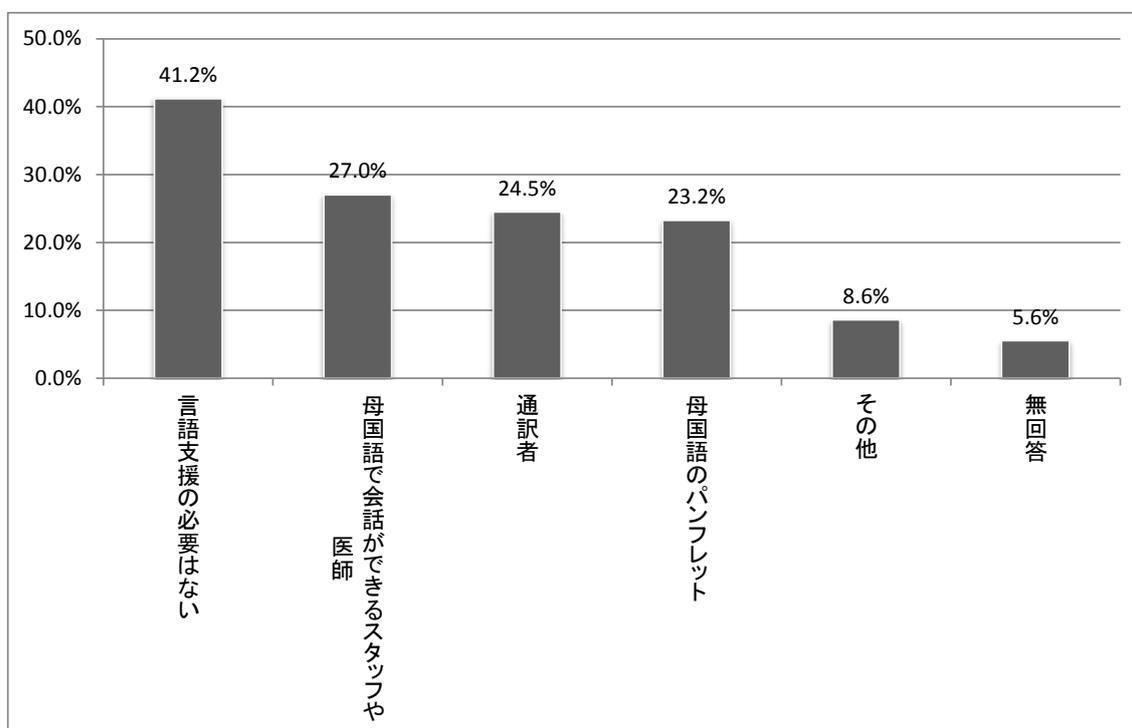


図 22 病院に求める言語支援

7 育児・教育

(23) 18歳未満の子どもの有無・年齢

18歳未満の子どもの有無の分布を見ると、18歳未満の子どもがいない人が59.1%、18歳未満の子どもがいる人が32.6%となっている。子どもの人数は、1人が58.1%、2人が32.6%、3人が6.2%となっている。

問23 あなたには現在、18歳未満のお子さんがいますか

表23 18歳未満の子どもの有無

	N	%	人数内訳
いない	234	59.1%	
いる	129	32.6%	
1人	75	18.9%	58.1%
2人	42	10.6%	32.6%
3人	8	2.0%	6.2%
無回答	4	1.0%	3.1%
無回答	33	8.3%	
計	396	100%	

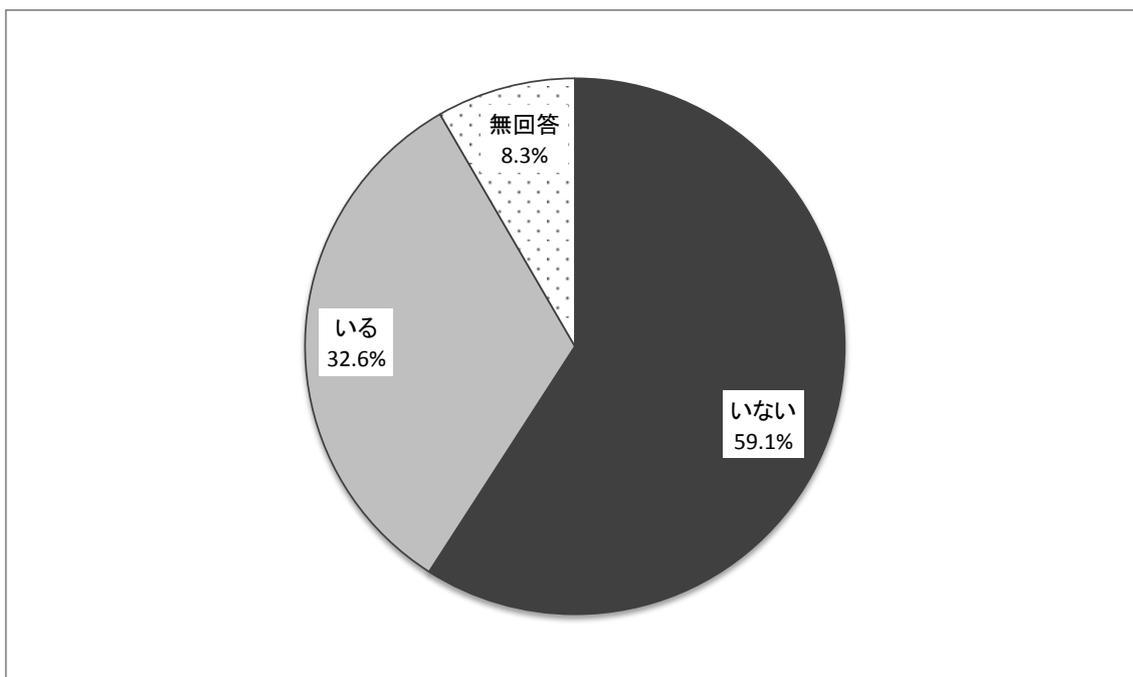


図23 18歳未満の子どもの有無

居住地域別に18歳未満の子どもの有無の分布を見ると、仙台市、仙台地域、登米地域、気仙沼地域では60%以上が18歳未満の子どもがいないとなっている。これに対して石巻地域では50%が18歳未満の子どもがいるとしている。また、栗原地域と石巻地域では複数の子どもがいる割合が20%以上となっている。

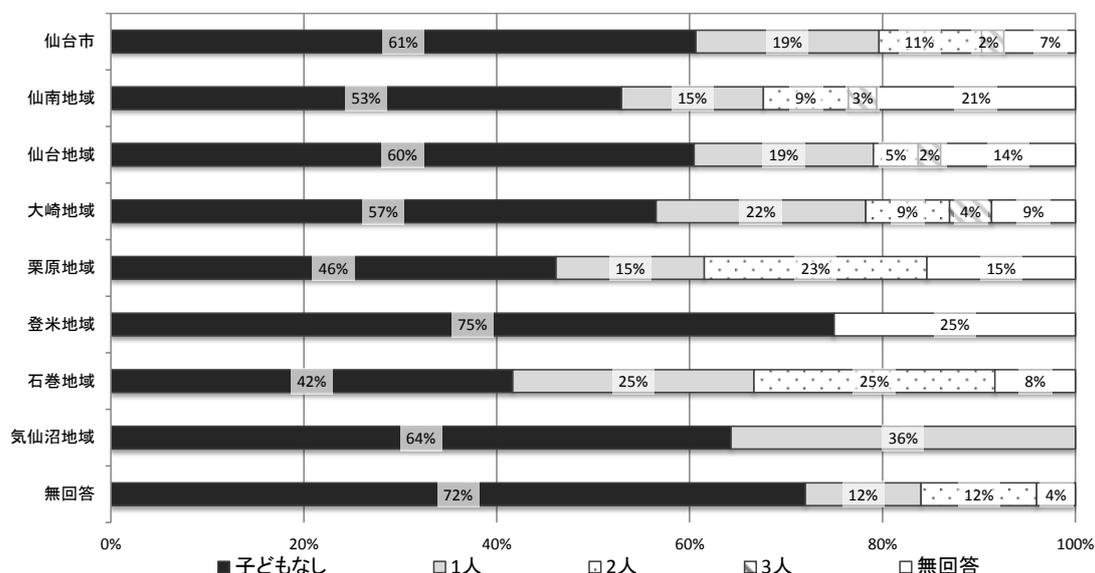


図23-2 居住地域別子どもの有無の分布(N=396)

国籍別に18歳未満の子どもの有無の分布を見ると、ベトナム籍、インドネシア籍、米国籍ではおよそ70%以上が18歳未満の子どもがいないと回答している。対して、フィリピン籍では45%、中国籍では37%が18歳未満の子どもがいるとしている。また、複数の子どもがいる割合は中国籍、韓国・朝鮮籍、フィリピン籍、ベトナム籍、米国籍で10%以上となっている。

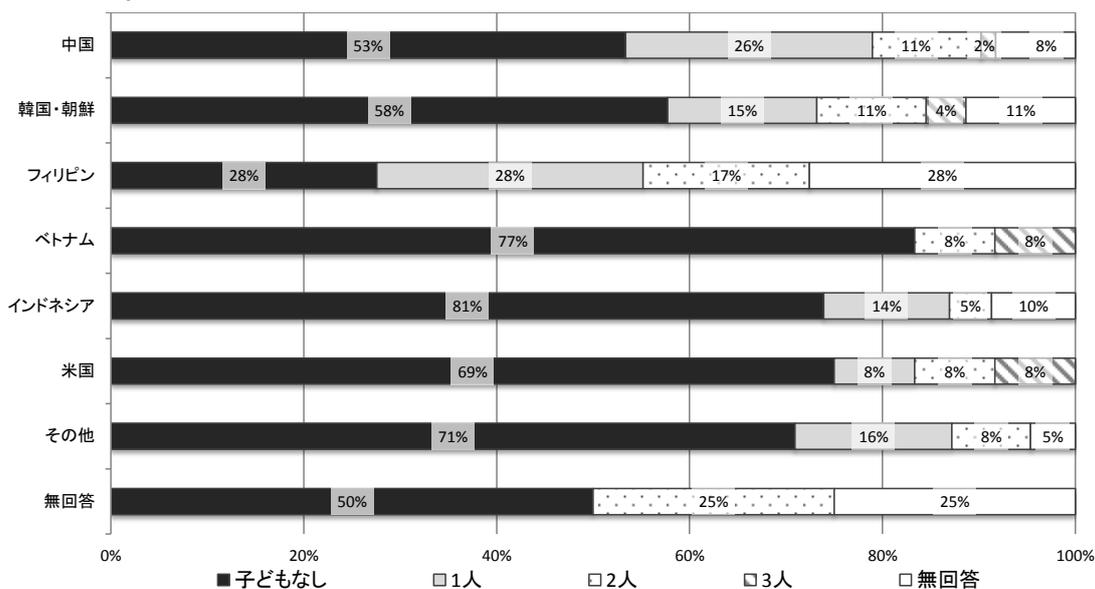


図23-3 国籍別子どもの有無の分布(N=396)

18歳未満の子どもがいる回答者に限定して、子どもが第2世代（日本生まれ）か第1.5世代（日本に移住）かの割合を見ると、18歳未満の子どもがすべて日本生まれである割合が66.7%と多数を占めた。すべて移住した割合は17.1%、移住した子どもと日本生まれの子どもの両方がいる割合は3.9%となっている。

表 23-2 子どもの世代構成

	N	%
すべて1.5世代	22	17.1%
すべて2世代	86	66.7%
1.5世代と2世代	5	3.9%
世代無回答	16	12.4%
計	129	100.0%

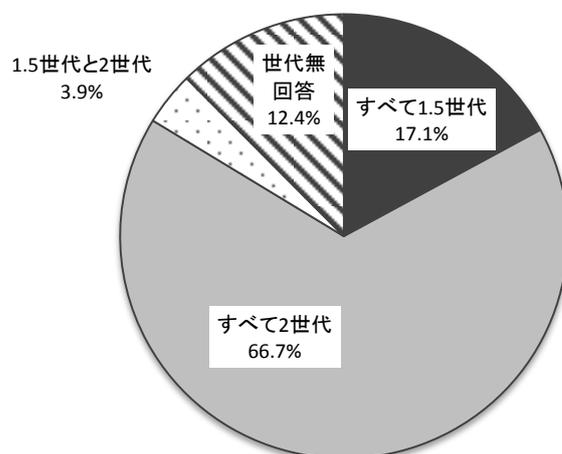


図23-4 子どもの世代構成 (N=129)

居住地域別に子どもの世代構成の分布を見ると、18歳未満の子どもがすべて移住した割合は大崎地域で33%、仙台市、栗原地域で20%以上となっている。18歳未満の子どもがすべて日本生まれである割合は石巻地域、気仙沼地域では80%を超えている。移住した子どもと日本生まれの子どもの両方がいる割合は仙南地域で10%となっているものの、他の地域では10%未満となっている

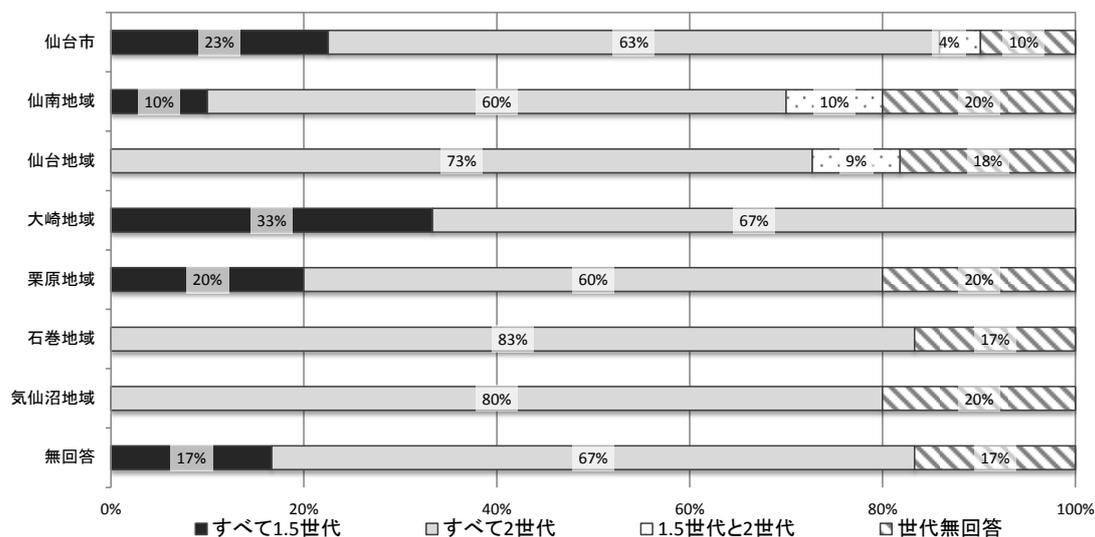


図23-5 居住地域別子どもの世代構成の分布(N=129)

国籍別に見ると、18歳未満の子どもがすべて移住した割合はベトナム籍で50%に上るほか、米国籍で33%、韓国・朝鮮籍で26%となっている。18歳未満の子どもがすべて日本生まれである割合はインドネシア籍で100%となり、韓国・朝鮮籍、フィリピン籍で70%を超えている。

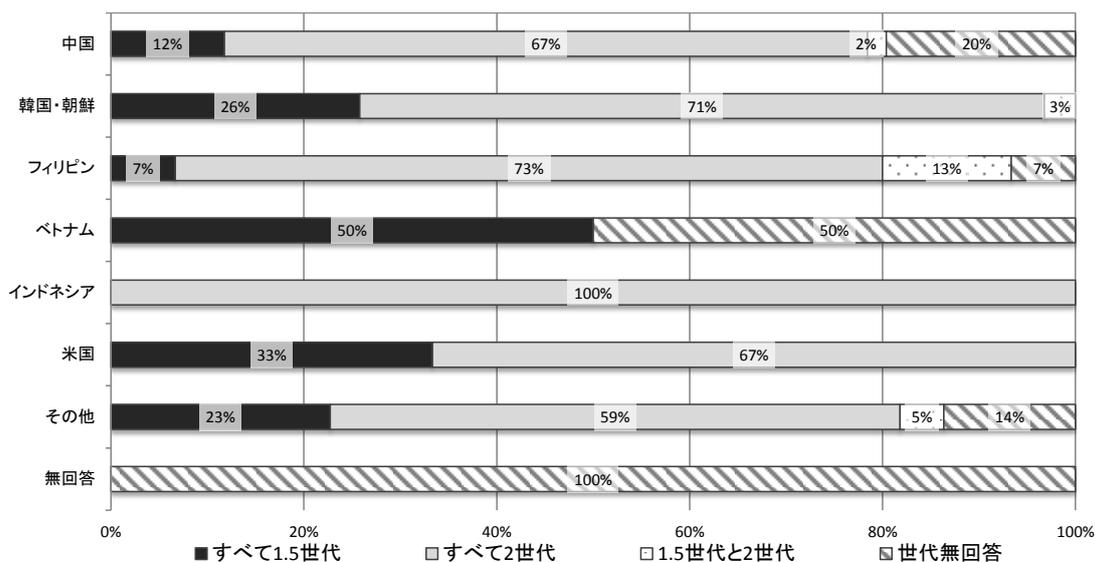


図23-6 国籍別子どもの世代構成の分布(N=129)

(24) 子どもと会話する言語

① 日本で生まれた子ども

日本生まれの子どもとの会話で使用する言語は、「日本語だけ」の割合が29.9%と最も多く、次いで、「主に日本語」が25.2%、「日本語と母国語が同じくらい」が15.9%となっている。

問 24 あなたがご家庭でお子さんと会話するときに使う言語は以下のうちどれですか

表 24-1 使用言語（日本で生まれた子どもがいる場合）

	N	%
日本語だけ	32	29.9%
主に日本語	27	25.2%
日本語と母国語が同じくらい	17	15.9%
主に母国語	15	14.0%
その他	7	6.5%
無回答	9	8.4%
計	107	100%

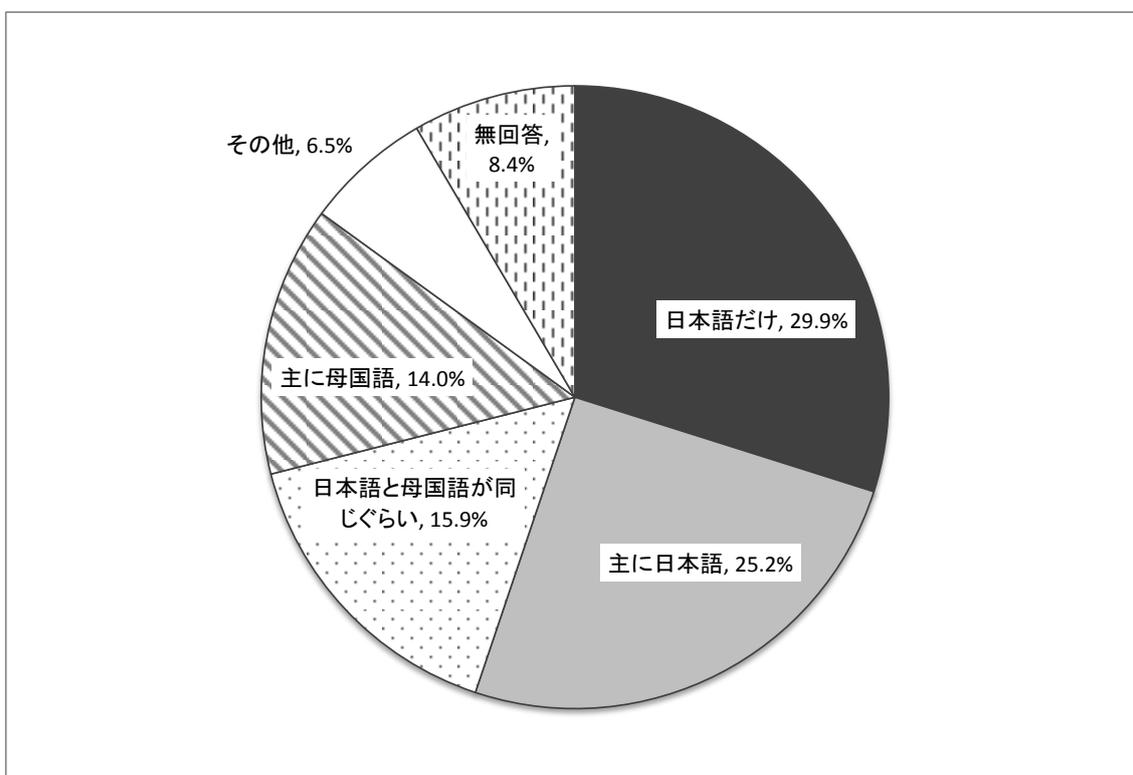


図 24-1 使用言語（日本で生まれた子どもがいる場合）

国籍別に日本生まれの子どもと会話での使用言語の分布を見ると、中国籍、韓国・朝鮮籍、ベトナム籍、米国籍では日本語だけ、主に日本語と回答した割合が50%を超えており、中でも韓国・朝鮮籍ではおよそ90%となっている。また、日本語と母国語が同じぐらい使用するのはベトナム籍と米国籍で20%以上となっているほか、主に母国語を使用するのはインドネシア籍では50%を占めている。

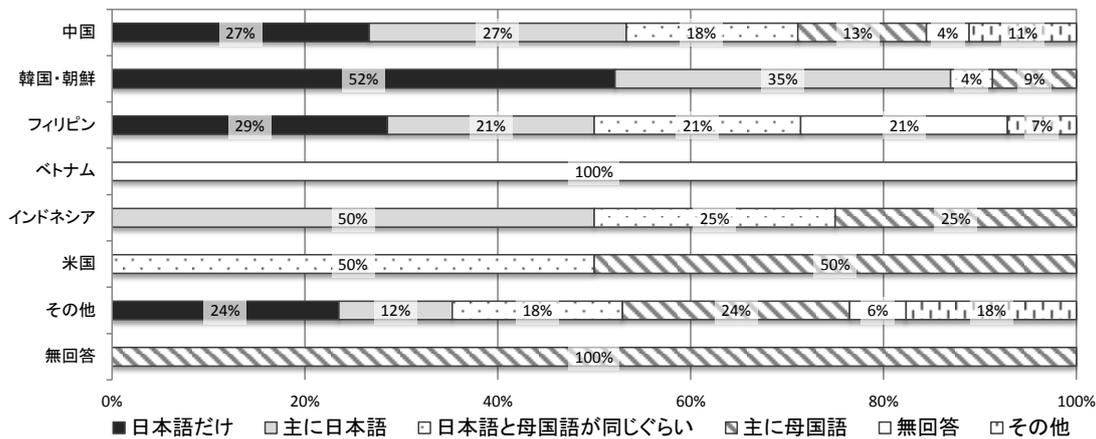


図24-2 国籍別使用言語の分布(日本生まれ)(N=107)

② 移住してきた子ども

表 24-2 使用言語 (日本に移住してきた子どもがいる場合)

	N	%
日本語だけ	2	4.7%
主に日本語	2	4.7%
日本語と母国語が同じぐらい	6	14.0%
主に母国語	17	39.5%
その他	3	7.0%
無回答	13	30.2%
計	43	100.0%

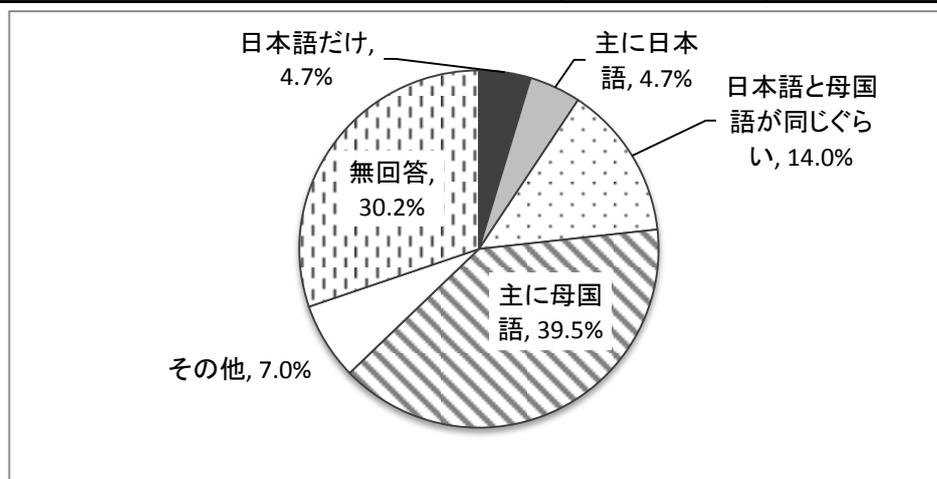


図 24-3 使用言語 (日本に移住してきた子どもがいる場合)

(25) 育児で困っていること

子育てで困っていることの分布を見ると、「とくにない」を選んだ人が 48.1%と最も多い。悩みがある人の中では、「子育てについて日本人の家族と意見が合わない」が 18.6%と最も多く、次いで、「子育てに関する悩みを相談できる相手がいない」が 17.8%、「同じように子育てをしている人と知り合う機会がない」が 15.5%、「子育てに関する情報が日本語なのでわかりにくい」および「保健師や保育士などとコミュニケーションがとれない」が各 8.5%となっている。

問 25 育児について、以下のようなことで困っていることはありますか（複数回答）

表 25 育児で困っていること

	N	%
子育てに関する悩みを相談できる相手がいない	23	17.8%
同じように子育てをしている人と知り合う機会がない	20	15.5%
子育てに関する情報が日本語なのでわかりにくい	11	8.5%
子育てについて日本人の家族と意見が合わない	24	18.6%
保健師や保育士などとコミュニケーションがとれない	11	8.5%
その他	6	4.7%
とくにない	62	48.1%
無回答	12	9.3%
計	129	100%

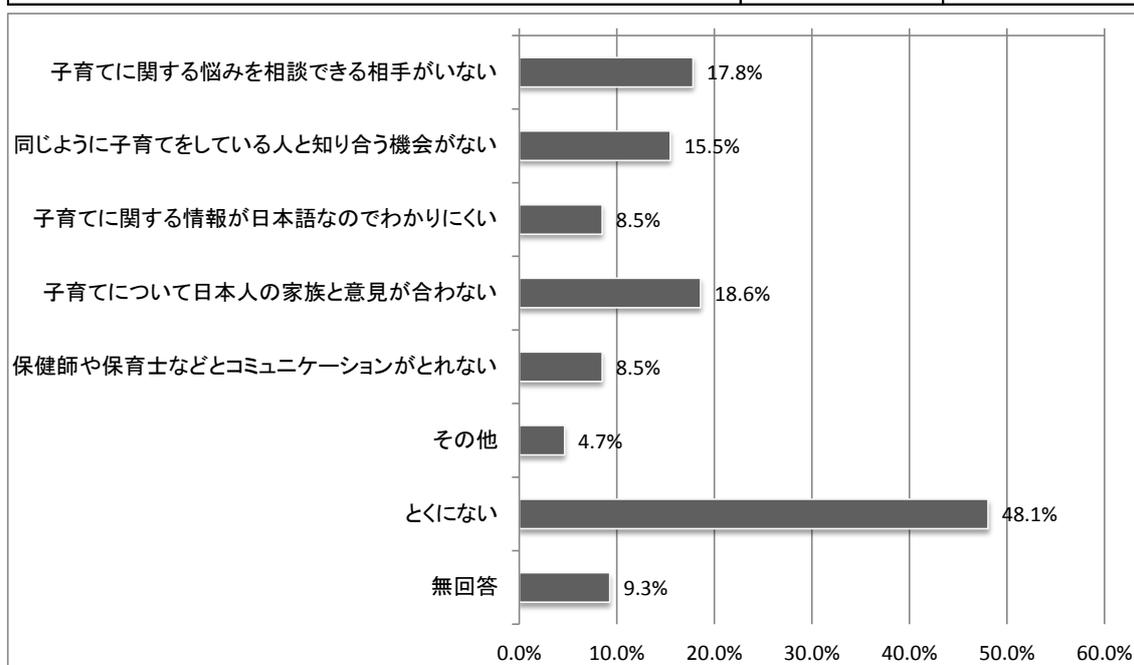


図 25 育児で困っていること

日本の居住年数別に子育ての悩みの分布を見ると、1年未満では情報がわかりにくいのが80%を占め最も割合が高い。保健師・保育士とコミュニケーションも40%となっている。また、とくにないの回答はなく何らかの悩みを抱えていることが窺える。5年未満では保健師・保育士とコミュニケーションととくにないが同数の38%となっている。とくにないは居住年数が長くなるにつれ割合が高まり、20年以上では69%となっている。

日本語を話す・聞く能力別に子育ての悩みの分布を見ると、日本語を話す・聞く能力が高い人ではとくにないが62%を占めているが、日本語を話す・聞く能力が低い人では保健師・保育士とコミュニケーション、情報がわかりにくいがおよそ30%を占めている。

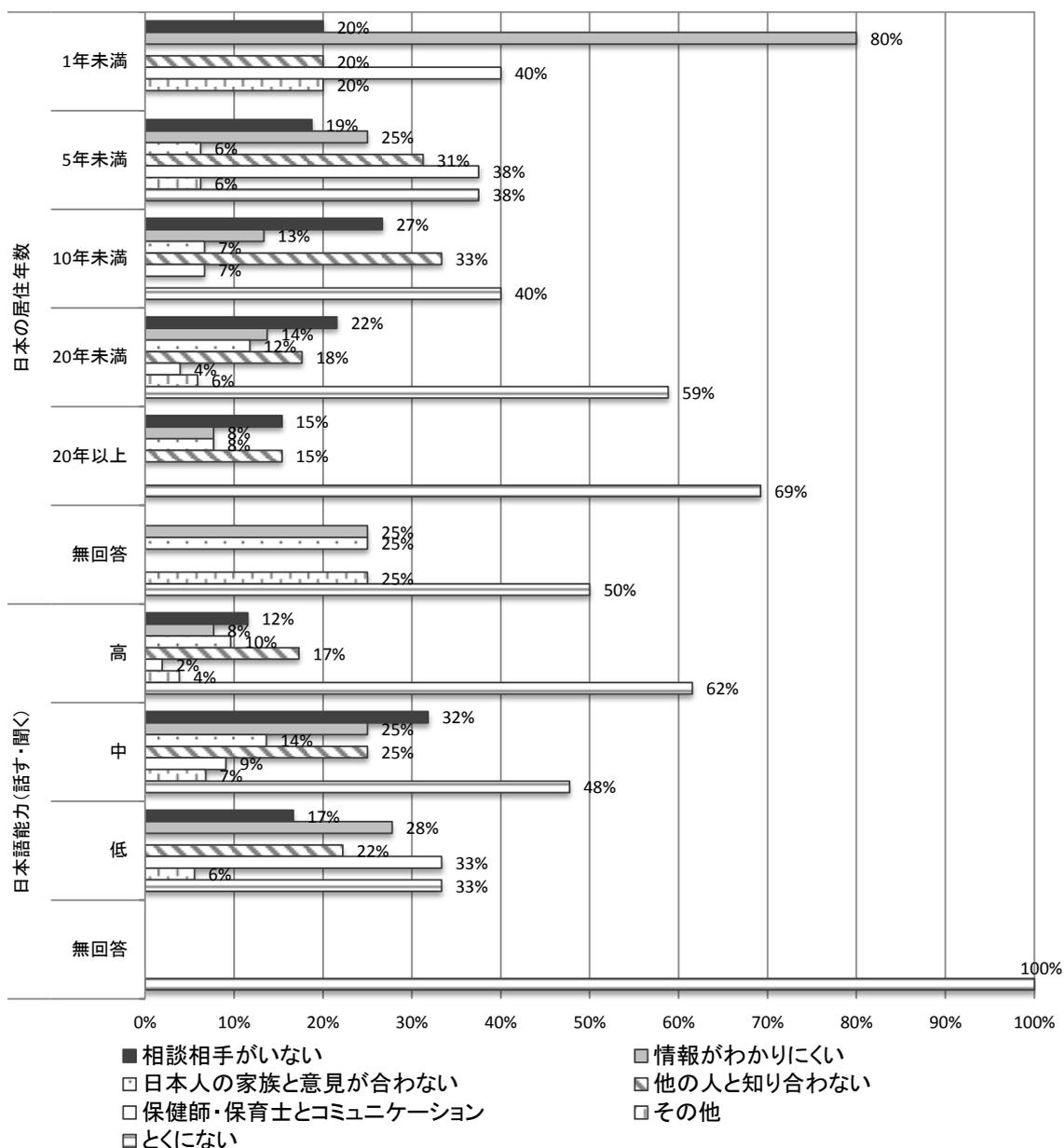


図25-2 日本居住年数・日本語能力(話す・聞く)別子育ての悩みの分布(N=117、問25に無回答の回答者を除いた割合)

家族形態別に子育ての悩みの分布を見ると、配偶者のみ同居している核家族、配偶者や父母、祖父母など同居していないひとり親ではおよそ60%がとくにないとしている。配偶者や父母、祖父母など同居している拡大家族ではとくにないの割合は36%となっている。日本人との付き合い別では、なんでも話せる人がいるでは70%がとくにないとしているが、あいさつをする人がいるではとくにないは11%となり、他の人と知り合わないが67%、相談相手がいないが56%となっている。

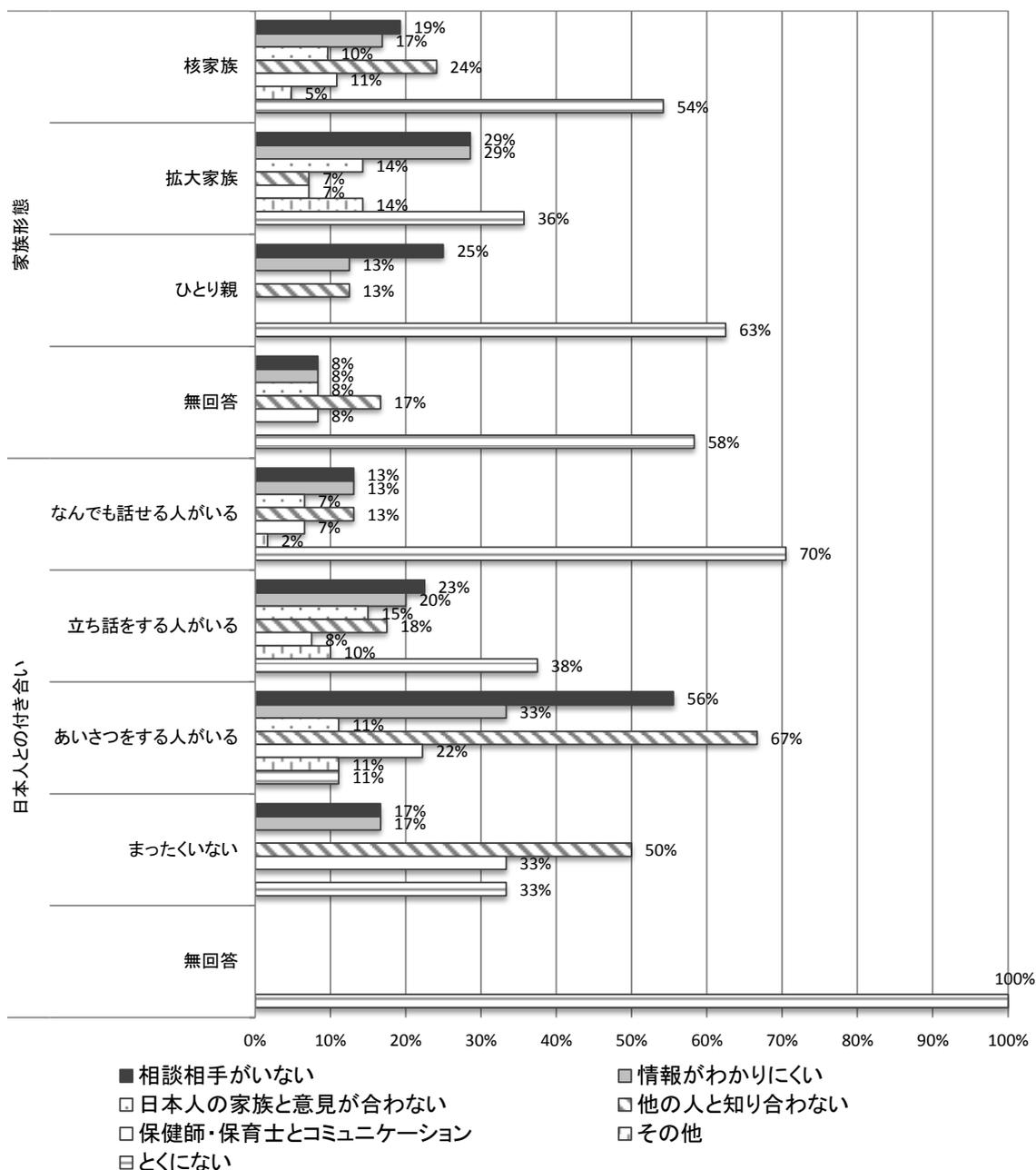


図25-3 家族形態・日本人との付き合い別子育ての悩みの分布(N=117、問25に無回答の回答者を除いた割合)

(26) 子育て支援制度の利用経験

子育て支援制度の利用経験の分布を見ると、母子手帳が最も利用されており、18歳未満の子どもがいる回答者の76.7%が経験がある。次いで、妊産婦・新生児訪問指導が72.1%、乳幼児への予防接種が68.2%、乳幼児の健康診査、検査が56.6%となっている。

問26 以下のような子育て支援制度を利用したことはありますか（複数回答）

表26 子育て支援制度の利用経験

	N	%
母子健康手帳	99	76.7%
児童手当	42	32.6%
乳幼児への予防接種	88	68.2%
乳幼児の健康診査、検査	73	56.6%
妊産婦・新生児訪問指導	93	72.1%
児童扶養手当	27	20.9%
放課後児童クラブ	17	13.2%
子育てに関する各種電話相談	3	2.3%
無回答	19	14.7%
計	129	100%

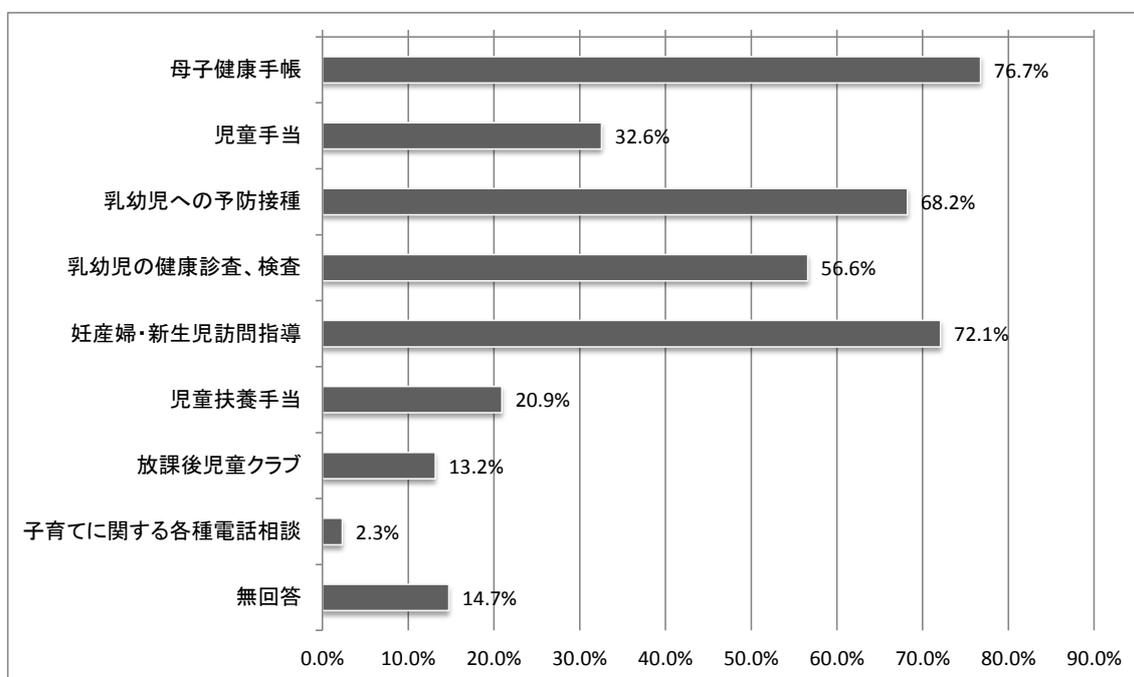


図26 子育て支援制度の利用経験

(27) 教育で困っていること

教育で困っていることの分布を見ると、「とくにない」と答える割合が41.1%と最も高い。次いで、「進路、進学について不安がある」が21.7%、「いろいろな費用が高い」が14.0%、「言葉の違いなどから、保護者と学校との意思疎通がうまく行かない」が7.0%となっている。

問27 教育について、以下のようなことで困っていることはありますか

表27 教育で困っていること

	N	%
進路、進学について不安がある	28	21.7%
色々な費用が高い	18	14.0%
言葉の違いなどから、保護者と学校との意思疎通がうまく行かない	9	7.0%
子どもが外国人であることで差別を受けていると感じる	8	6.2%
子どもが日本語がうまくできないので授業が理解しにくい	6	4.7%
子どもが学校になじまない	3	2.3%
保育所が近くにない	0	0.0%
その他	11	8.5%
とくにない	53	41.1%
無回答	18	14.0%
計	129	100%

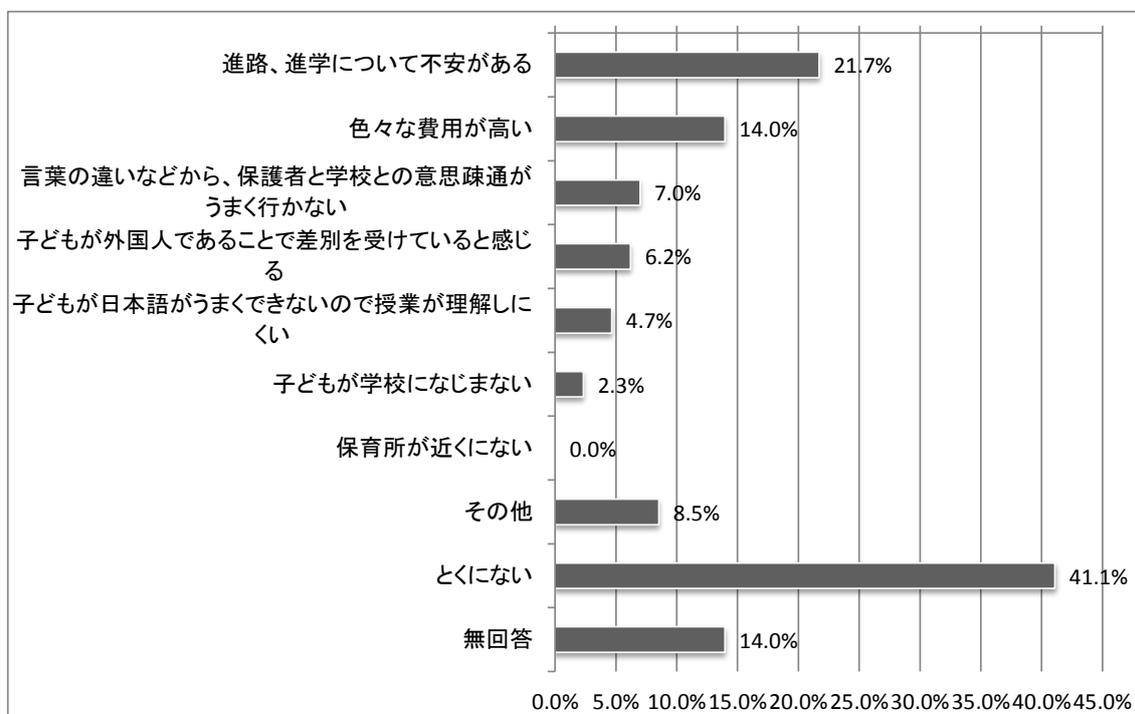


図27 教育で困っていること

日本語の話す・聞く能力別に教育で困っていることの分布を見ると、日本語を話す・聞く能力が高い人ではとくにないが60%を占めた。また日本語を話す・聞く能力が低い人でもとくにないは50%となった。日本語を話す・聞く能力が中程度の人では進路、進学が不安が43%と高い割合になっている。

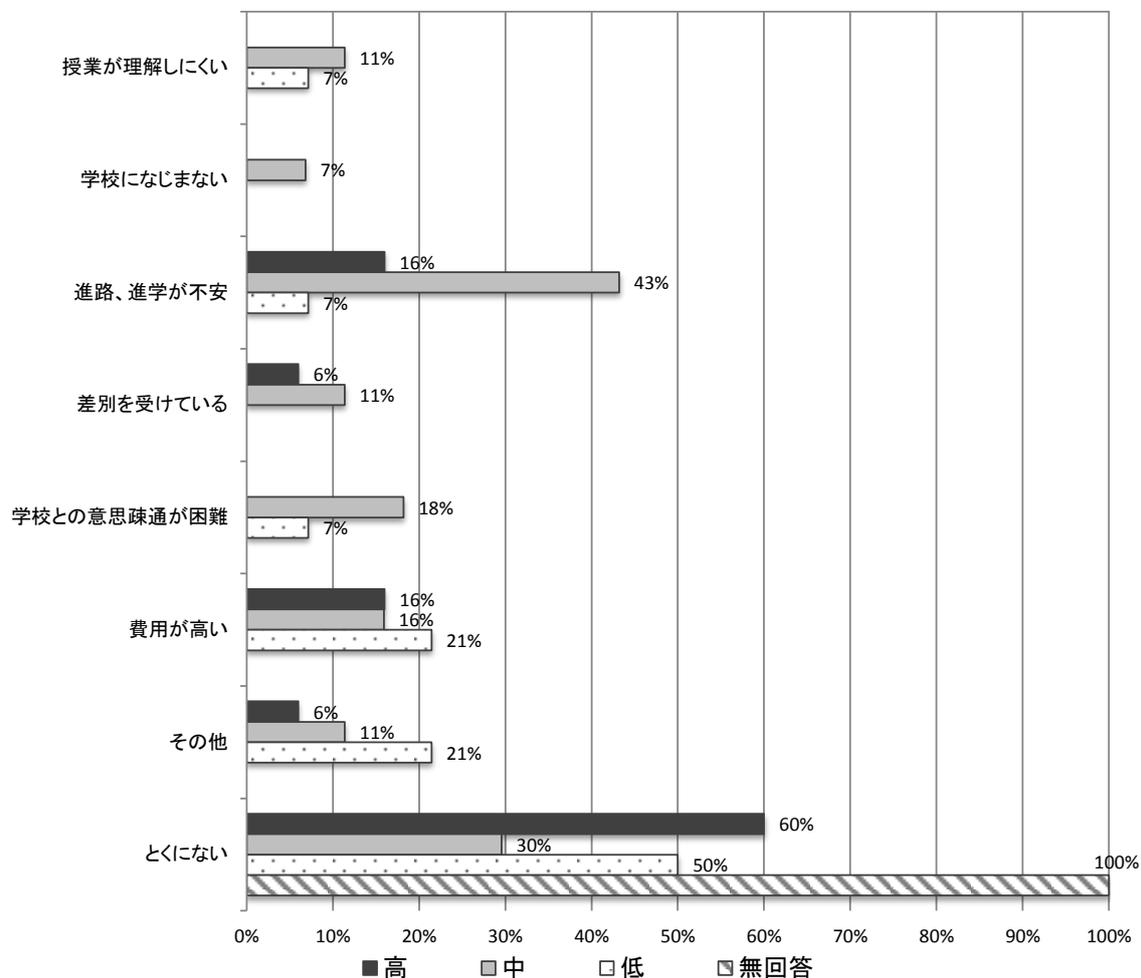


図27-2 日本語能力(話す・聞く)別教育で困っていることの分布(N=111、問27に無回答の回答者を除いた割合)

家族形態別に教育で困っていることの分布を見ると、拡大家族では67%がとくにないとしているものの、核家族では48%、ひとり親では38%と割合が低下する。また、進路、進学が不安と回答したのはひとり親では50%となり割合が高い。また、費用が高いの38%はひとり親となっている。

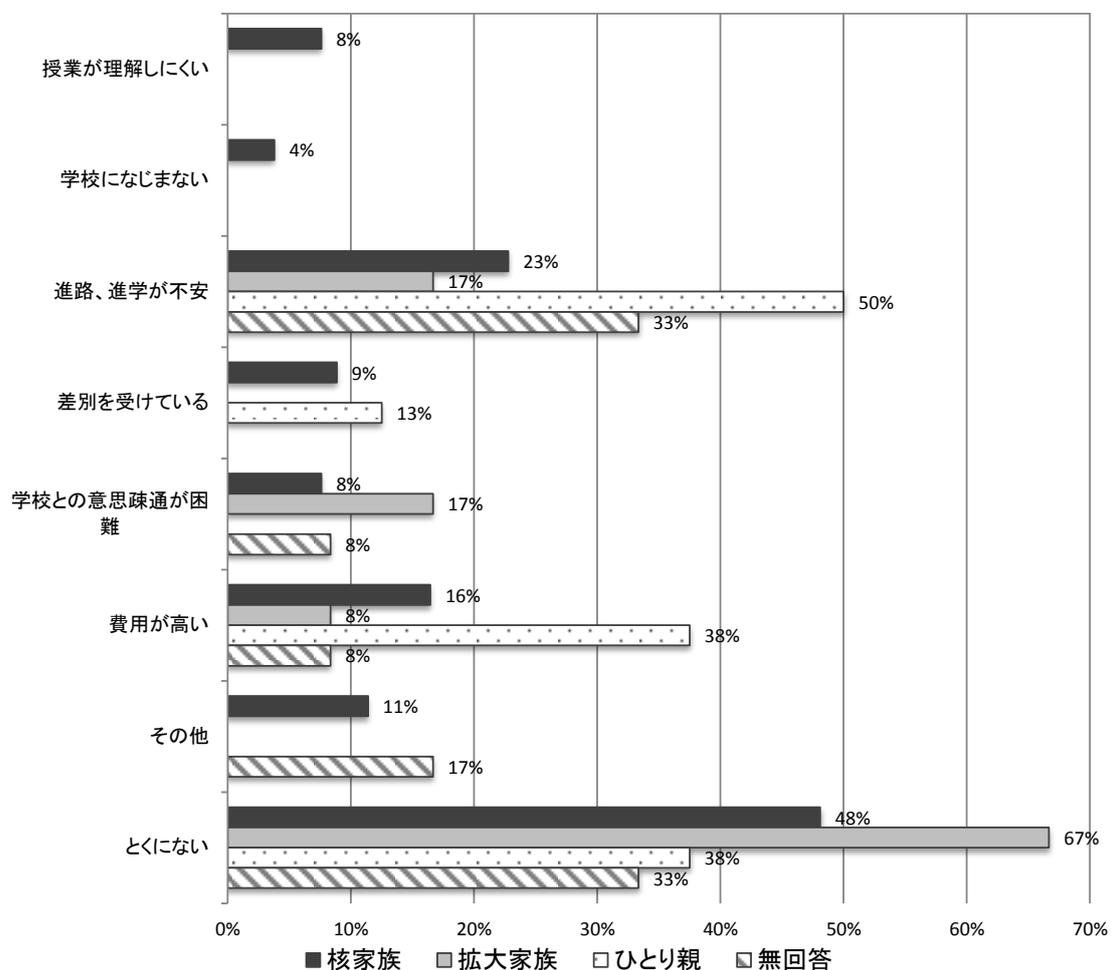


図27-3 家族形態別教育で困っていることの分布(N=111、問27に無回答の回答者を除いた割合)

日本人との付き合い別に教育で困っていることの分布を見ると、なんでも話せる人がいるではとくにないが67%を占めるなど高い割合となったのに対し、立ち話をする人がいるでは30%、あいさつをする人がいる・まったくいないでは8%と割合が低下する。授業が理解しにくいではあいさつをする人がいる・まったくいないで23%となっており、進路、進学が不安では立ち話をする人がいる、あいさつをする人がいる・まったくいないが38%と割合が高い。また、あいさつをする人がいる・まったくいないでは差別を受けているでも31%と他に比べて割合が高くなっている。

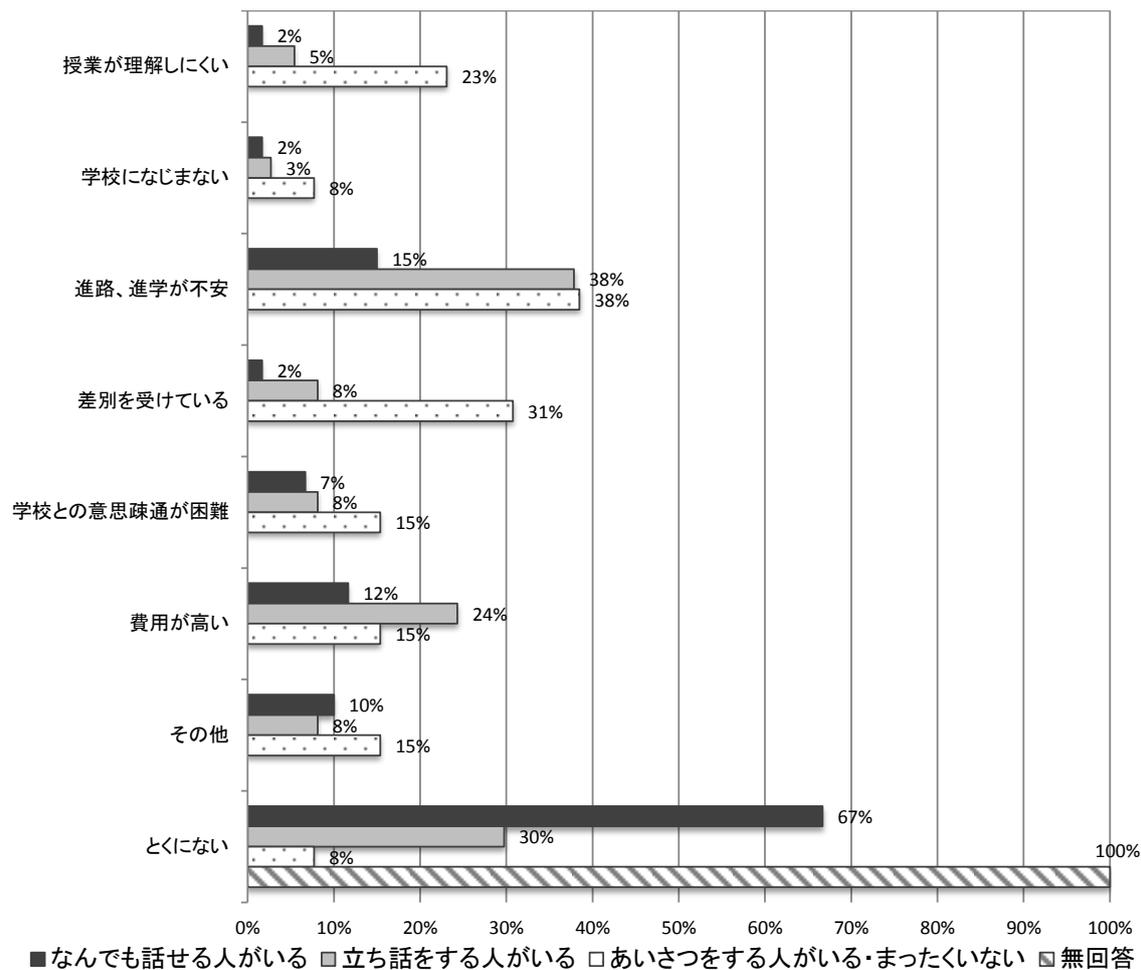


図27-4 日本人との付き合い別教育で困っていることの分布(N=111、問27に無回答の回答者を除いた割合)

(28) 日本語教育のサポート制度の利用経験

日本語教育のサポート制度の利用経験を見ると、無回答者を除き「日本語教室」、「学校へのボランティア派遣制度」、「その他のサポート」のいずれも「知らない」と回答する人の割合が最も多く、「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計を大きく上回っている。「利用したことがある」割合はいずれも5%となっている。

問 28 あなたのお子さんは、学校で、以下のような制度を利用したことはありますか

表 28 日本語教育のサポート制度の利用経験

	日本語教室		学校へのボランティア派遣制度		その他のサポート	
	N	%	N	%	N	%
利用したことがある	5	3.9%	6	4.7%	1	0.8%
知っているが、利用したことはない	25	19.4%	16	12.4%	13	10.1%
知らない	42	32.6%	50	38.8%	55	42.6%
無回答	57	44.2%	57	44.2%	60	46.5%
計	129	100%	129	100%	129	100%

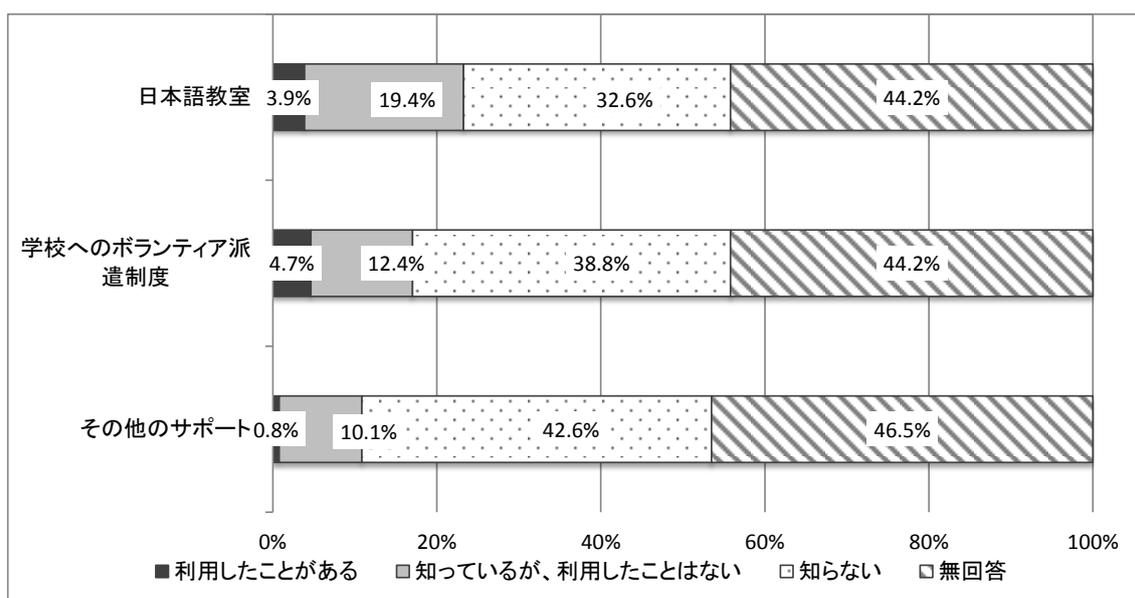


図 28 日本語教育のサポート制度の利用経験

(29) 母国語・母国文化の教育

母国語・母国文化教育に対する意向を見ると、「現在は受けさせていないが、今後は受けさせたいと思う」と答える割合が37.2%と最も多く、次いで、「現在受けさせており、今後も受けさせたいと思う」が24.0%、「わからない」が17.8%、「現在受けさせておらず、今後も受けさせたいとは思わない」が6.2%となっている。

問 29 あなたはお子さんに母国語や文化についての教育を受けさせたいと思いますか

表 29 母国語・母国文化の教育

	N	%
現在受けさせており、今後も受けさせたいと思う	31	24.0%
現在は受けさせていないが、今後は受けさせたいと思う	48	37.2%
現在受けさせているが、今後は受けさせたいとは思わない	0	0.0%
現在受けさせておらず、今後も受けさせたいとは思わない	8	6.2%
わからない	23	17.8%
無回答	19	14.7%
計	129	100%

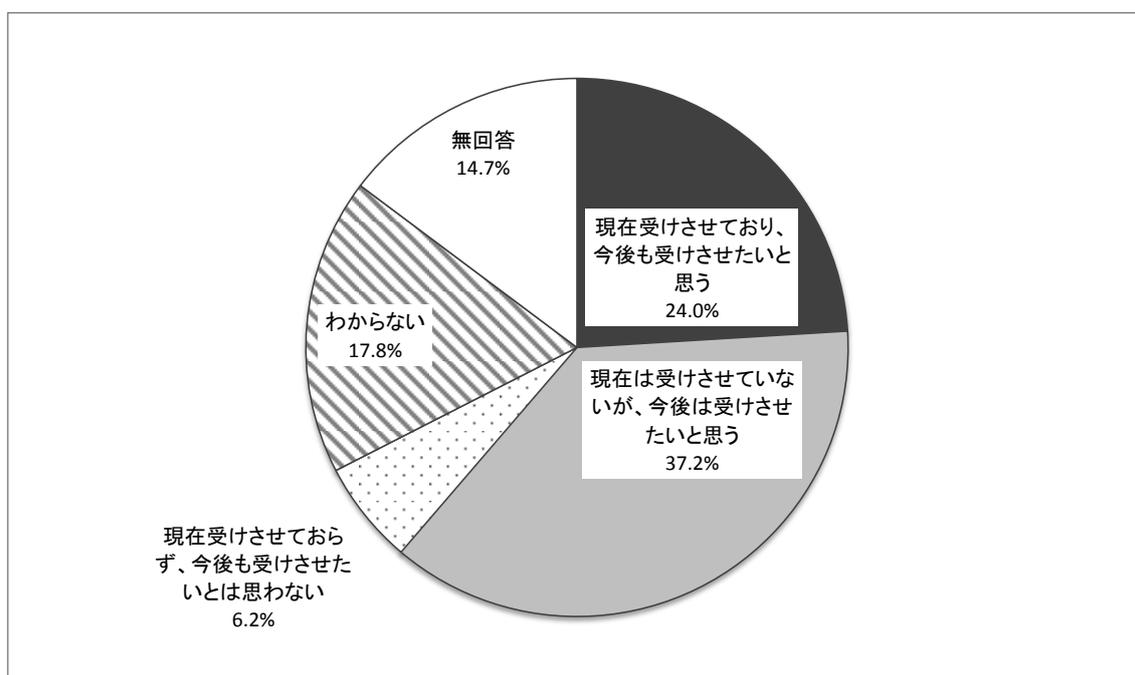


図 29 母国語・母国文化の教育

国籍別に母国語・母国文化教育の意向の分布を見ると、ベトナム籍では50%が現在受けさせているとしており、韓国・朝鮮籍では68%が現在受けさせていないが、今後は受けさせたいと回答した。フィリピン籍では現在受けさせておらず、今後も受けさせたいと思わないと13%が回答している。また、フィリピン籍、インドネシア籍ではおよそ50%近くがわからないとしており他の国籍と比べ割合が高い。

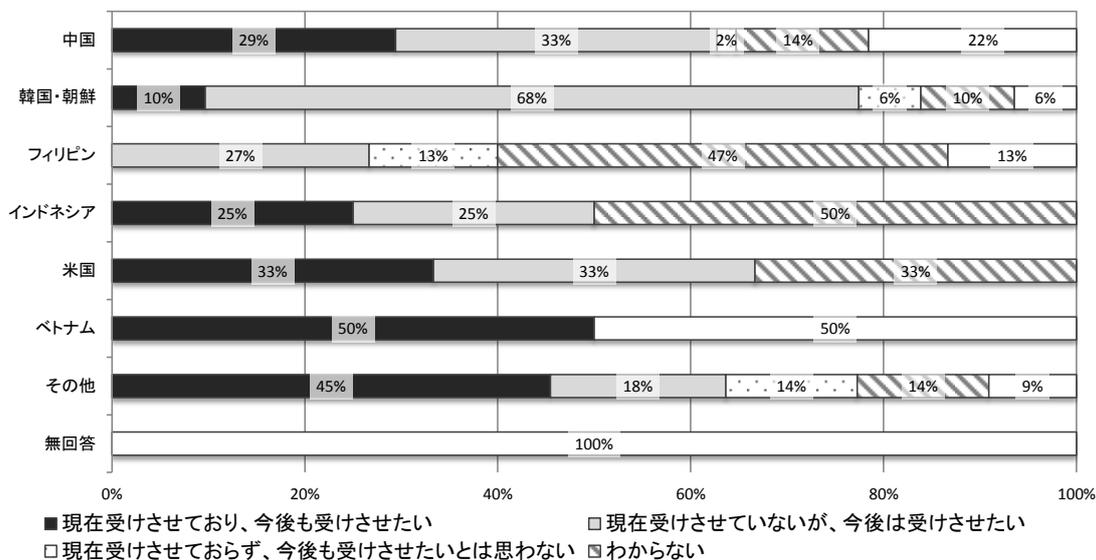


図29-2 国籍別母国語・母国文化教育の意向(N=129)

在留資格別に母国語・母国文化教育の意向の分布を見ると、現在受けさせている割合は定住者が最も高く40%となった。現在受けさせていないが、今後は受けさせたいは永住者、特別永住者、定住者で40%を超えた。一方、現在受けさせておらず、今後も受けさせたいと思わないは特別永住者、日本人の配偶者で20%を超えている。

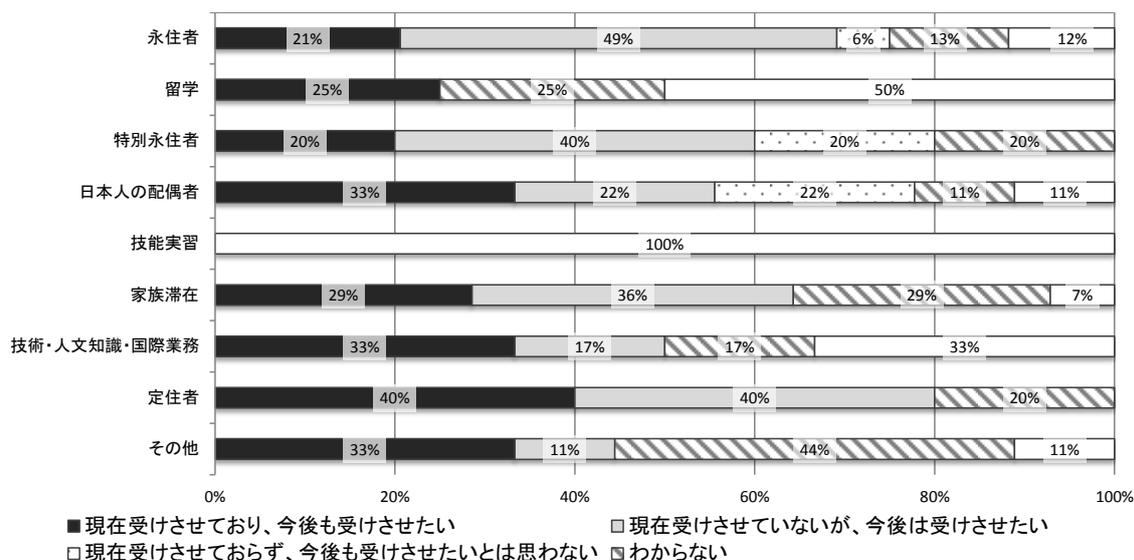


図29-3 在留資格別母国語・母国文化教育の意向(N=129)

(30) 母国語・母国文化の教育をしていない理由

母国語・母国文化教育をしていない理由として、44.6%が「母国語や文化を教えてくれる場所がない・知らない」をあげており、次いで「子供が関心をもっていない」が37.5%、「日本での勉強の妨げになる」が10.7%、「日本語や日本文化を身につける妨げになる」が10.7%となっている。

問 30 現在受けさせていない、あるいは今後受けさせたいとは思わない理由は
何ですか（複数回答）

表 30 母国語・母国文化の教育をしていない理由

	N	%
母国語や文化を教えてくれる場所がない・知らない	25	44.6%
子どもが関心をもっていない	21	37.5%
日本での勉強の妨げになる	6	10.7%
日本語や日本文化を身につける妨げになる	2	3.6%
母国語や文化を学ぶ必要はない	1	1.8%
その他	11	19.6%
無回答	3	5.4%
計	56	100%

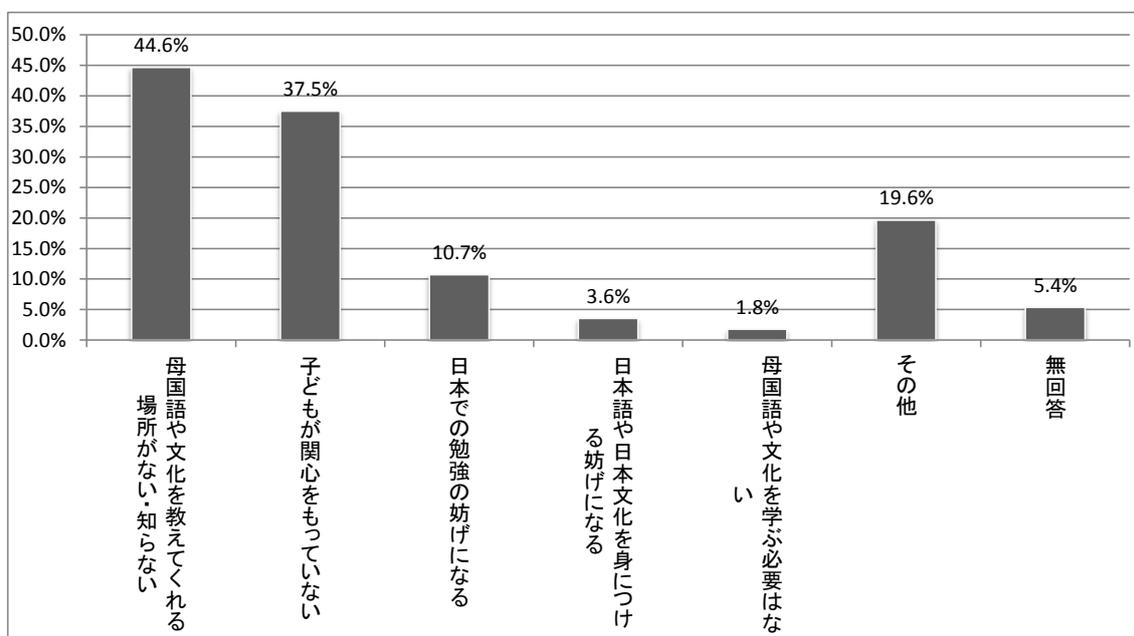


図 30 母国語・母国文化の教育をしていない理由

8 労働

(31) 現在の雇用形態

現在の雇用形態の分布を見ると、正社員が 20.7%と最も多く、次いでパート・アルバイトが 16.4%、無職で仕事を探していない人が 15.7%、学生が 15.4%となっている。

問 31 あなたは現在、どのような形態で仕事をしていますか

表 31 現在の雇用形態

	N	%
経営者	14	3.5%
正社員	82	20.7%
派遣社員・契約社員	44	11.1%
自営業(家業従事者、自由業等含む)	28	7.1%
パートタイム勤務、アルバイト、内職	65	16.4%
学生	61	15.4%
無職(1～6以外で仕事を探している)	27	6.8%
無職(1～6以外で仕事を探していない)	62	15.7%
無回答	13	3.3%
計	396	100%

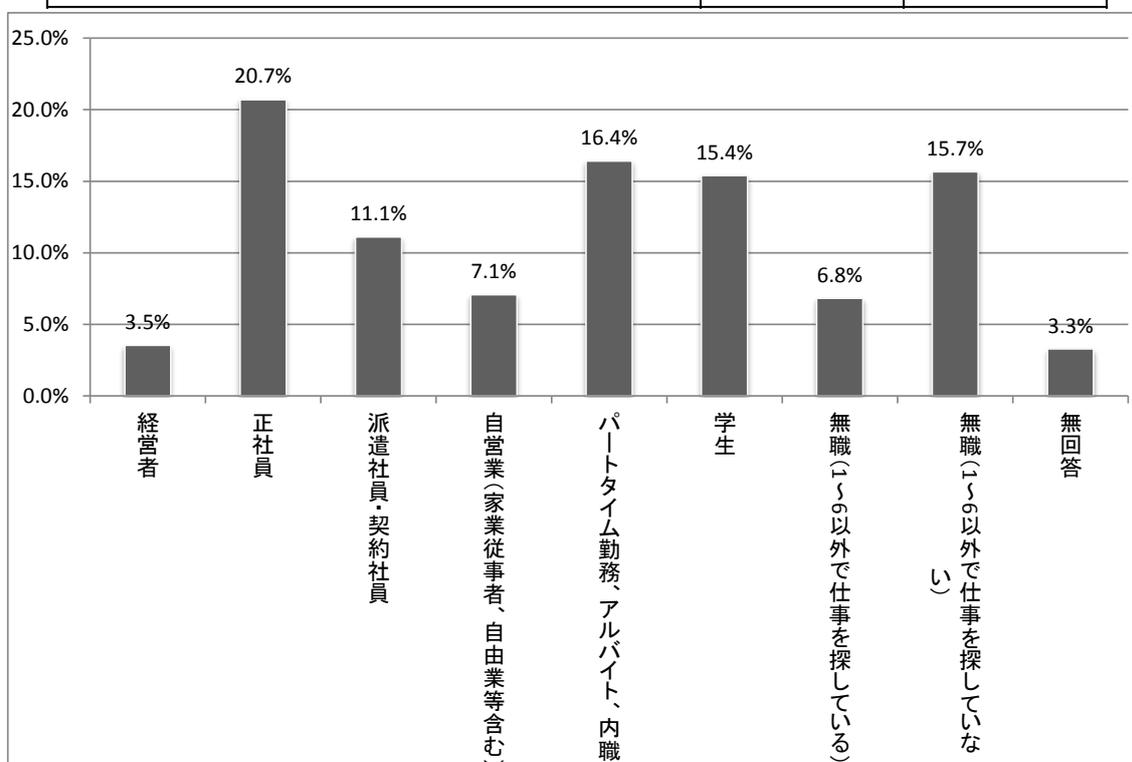


図 31 現在の雇用形態

国籍別に雇用形態の分布を見ると、正社員の割合は米国籍が最も高く 38% となり、中国籍、インドネシア籍で 20% を超えた。これに対し、フィリピン籍はパート・アルバイトが 41%、ベトナム籍は派遣・契約社員が 57% と他の国籍と比較して割合が高い。また、韓国・朝鮮籍では 24% が無職で仕事を探していない。

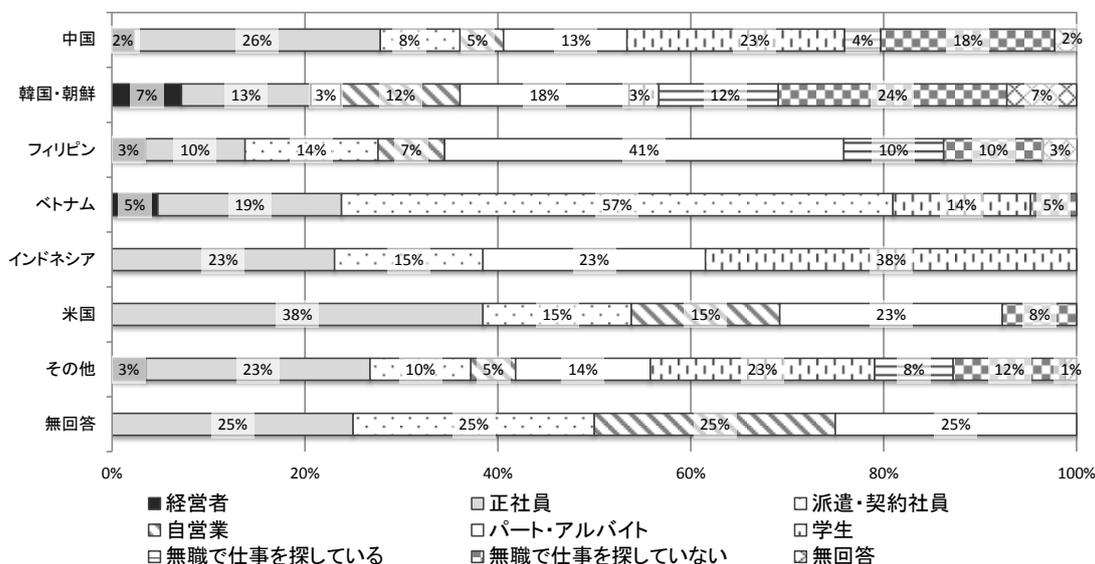


図31-2 国籍別雇用形態の分布(N=396)

在留資格別に雇用形態の分布を見ると、特別永住者と日本人の配偶者では経営者が 10% を超えている。技術・人文知識・国際業務では 71%、教育では 57% が正社員となっており、他の在留資格と比較して割合が高い。これに対し、技能実習では 80% が派遣・契約社員、定住者では 67% がパート・アルバイトと回答している。また、家族滞在では無職で仕事を探していない割合が 48% となっている。



図31-3 在留資格別雇用形態の分布(N=396)

(32) 現在の職業

職業の分布を見ると、サービス業が 20.2%と最も多く、次いでその他の職業が 16.7%、教員が 14.2%、技能職が 12.0%となっている。

問 32 あなたの現在の職業は以下のうちどれにあたりますか

表 32 現在の職業

	N	%
教員	33	14.2%
医療関係職	5	2.1%
その他の専門職(弁護士、会計士等)	3	1.3%
経営・管理職(課長以上)	14	6.0%
事務職	12	5.2%
技術職(研究員、技術者等)	16	6.9%
技能職(工場労働者、運転士等)	28	12.0%
サービス職(販売員、接客業等)	47	20.2%
作業員(清掃、建設・土木、配達員等)	27	11.6%
農林漁業	5	2.1%
その他の職業	39	16.7%
無回答	4	1.7%
計	233	100%

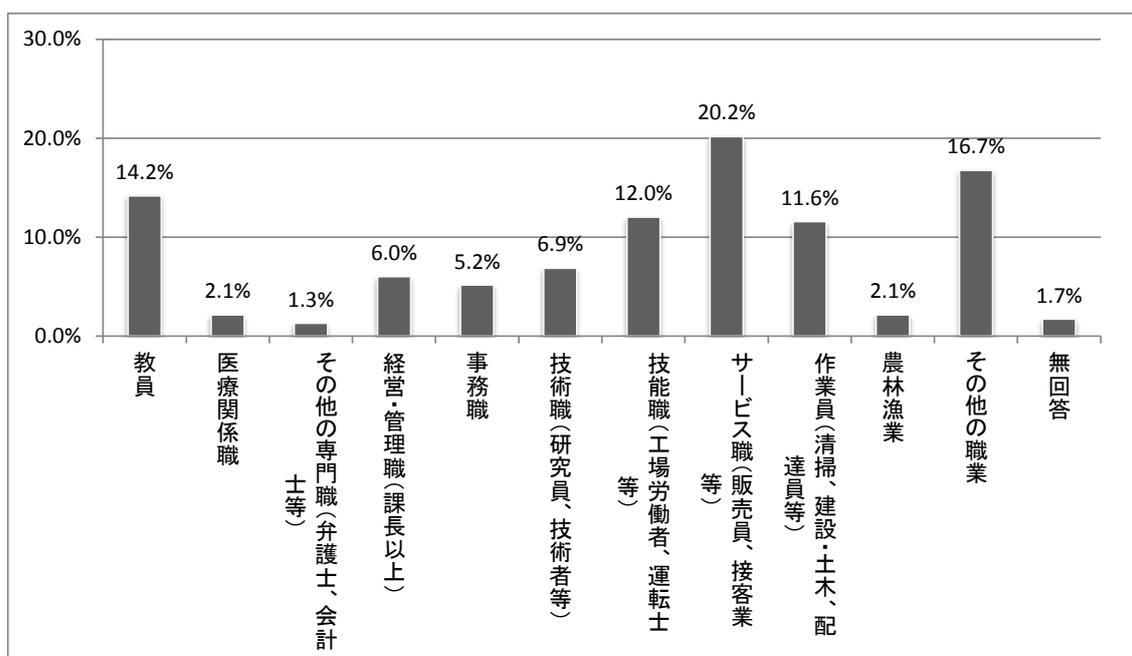


図 32 現在の職業

国籍別に職業の分布を見ると、米国籍は教員が50%を占めている。フィリピン籍では36%、ベトナム籍では41%が技能職・作業員と他の国籍と比較して割合が高い。中国籍、韓国・朝鮮籍、フィリピン籍、インドネシア籍ではサービス業が20%以上となっている。また、インドネシア籍では38%、米国籍では33%が農林漁業・その他と回答している。

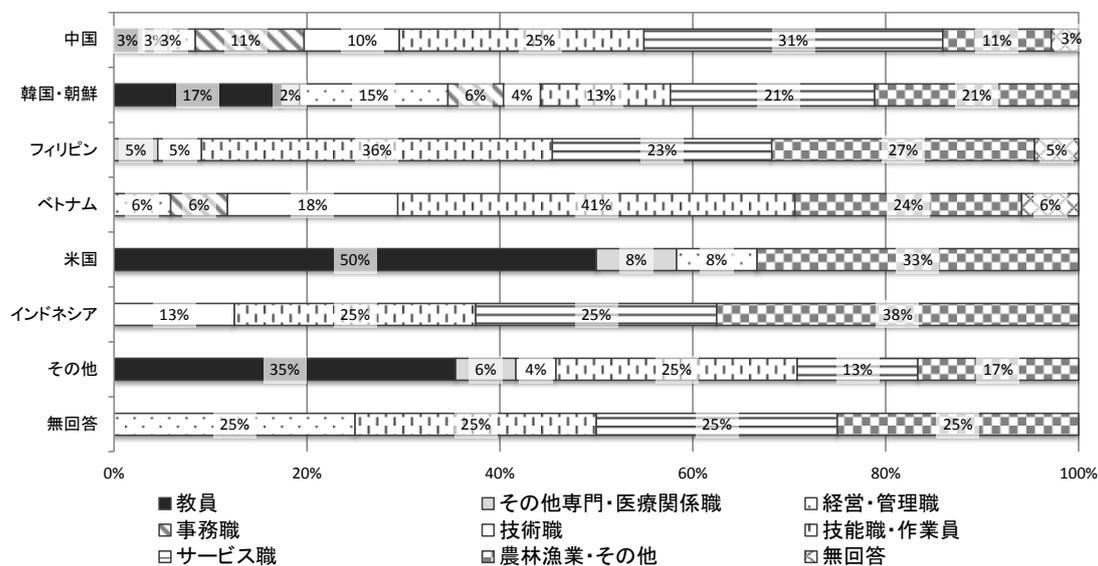


図32-2 国籍別職業の分布 (N=234)

(33) 現在の仕事の見つけ方

仕事の見つけ方の分布を見ると、その他を除くと家族の紹介で仕事を見つけた人が最も多く 14.6%を占めている。次いで新聞・求人誌・チラシが 12.4%、職業安定所の紹介が 12.0%、日本人の友人・知人の紹介が 11.6%となっている。

問 33 あなたは現在の仕事をどのようにして見つけましたか

表 33 現在の仕事の見つけ方

	N	%
家族の紹介(親の仕事を手伝ったり、家族の仕事を手伝っている場合も含む)	34	14.6%
新聞・求人誌・チラシなど	29	12.4%
職業安定所(ハローワーク)の紹介	28	12.0%
母国出身の友人・知人の紹介	24	10.3%
日本人の友人・知人の紹介	27	11.6%
自分で設立	17	7.3%
仕事の紹介する民間会社の紹介	18	7.7%
学校の紹介	12	5.2%
その他	38	16.3%
無回答	6	2.6%
計	233	100%

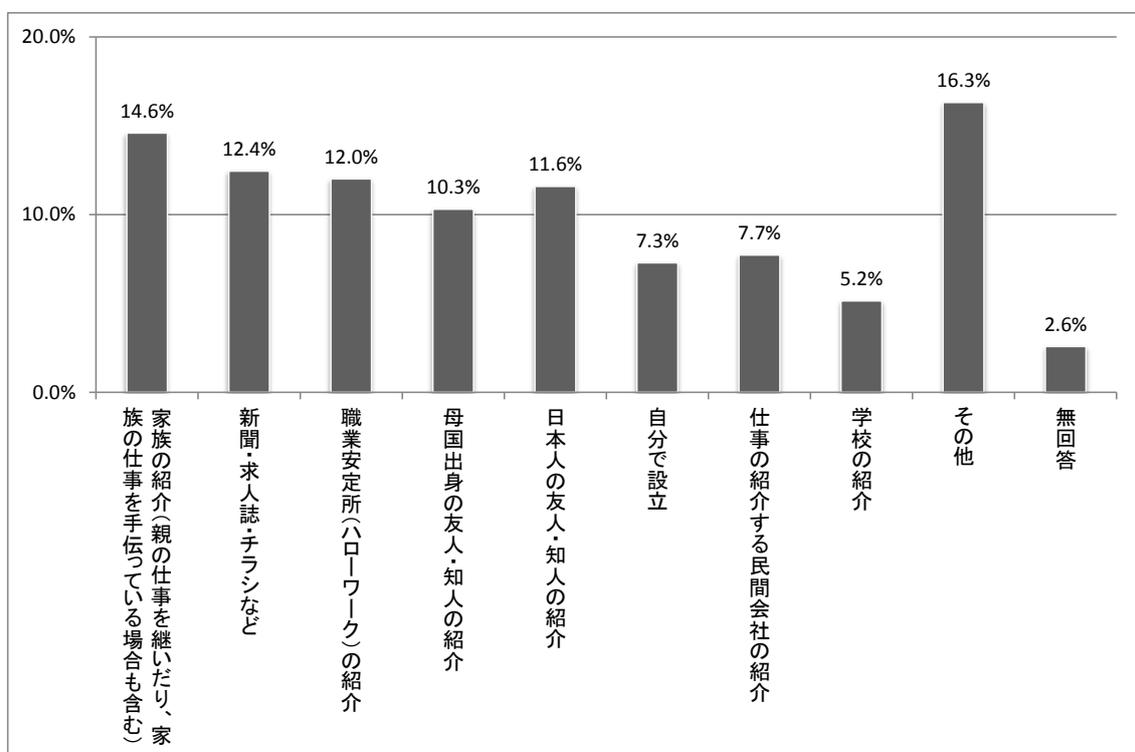


図 33 現在の仕事の見つけ方

日本人との付き合いの程度別に仕事の見つけ方の分布を見ると、なんでも話せる人がいると回答した人では家族の紹介の割合が最も高く16%となったが、新聞・求人誌・チラシなどが14%、日本人の友人・知人の紹介が13%、職業安定所の紹介が12%などと回答が幅広く分散した。立ち話をする人がいると回答した人では新聞・求人誌・チラシなどが14%と最も高く、家族の紹介が13%、職業安定所の紹介が13%、母国出身の友人・知人の紹介が11%などと回答が分散している。あいさつをする人がいる・まったくいないでは自分で設立が25%と最も高く、民間会社の紹介が20%となるなど、他の付き合いの程度とは傾向が異なっている。

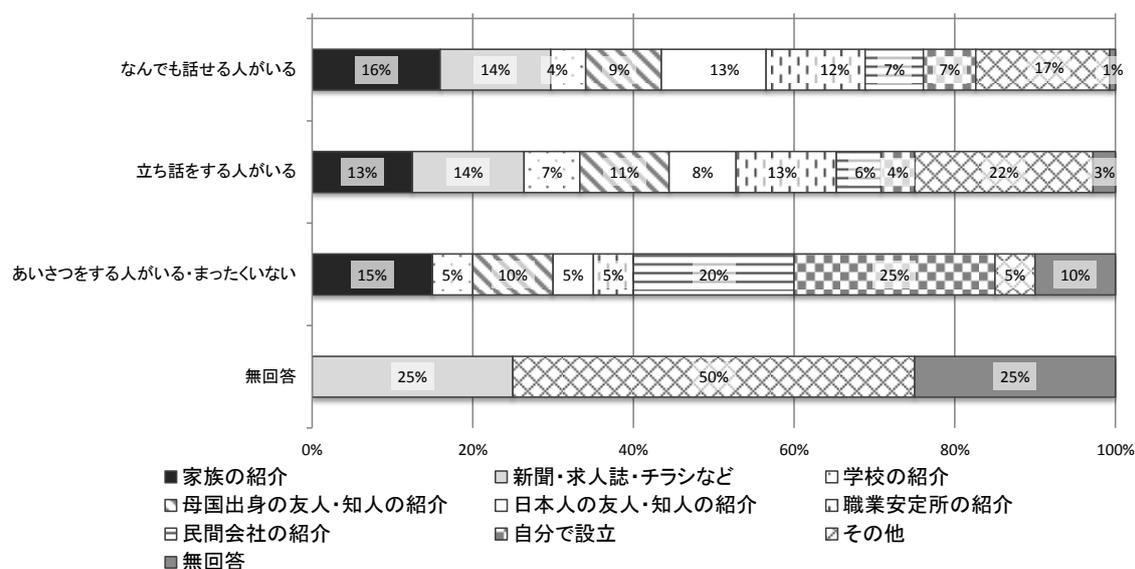


図33-2 日本人との付き合い別仕事の見つけ方の分布 (N=234)

(34) 仕事上の困りごと・不満

仕事の不満について見ると、「とくにない」と回答した人が47.0%と最も多い。不満がある人の中では、「給料が安い」が29.95%、「外国人として差別的な扱いを受けているように感じる」が10.7%、「希望する職種、業種ではない」が10.3%となっている。

問34 仕事で困っていることや不満はありますか（複数回答）

表34 仕事上の困りごと・不満

	N	%
給料が安い	70	29.9%
外国人として差別的な扱いを受けているように感じる	25	10.7%
希望する職種、業種ではない	24	10.3%
労働時間が長い	20	8.5%
正職員になれない、又は昇格できない	18	7.7%
日本人とお互いの考えを理解しあえない	16	6.8%
いつ解雇されるか不安がある	16	6.8%
雇用期間が短い	14	6.0%
上司や同僚との人間関係がうまくいっていない	10	4.3%
その他	16	6.8%
とくにない	110	47.0%
無回答	7	3.0%
計	234	100%

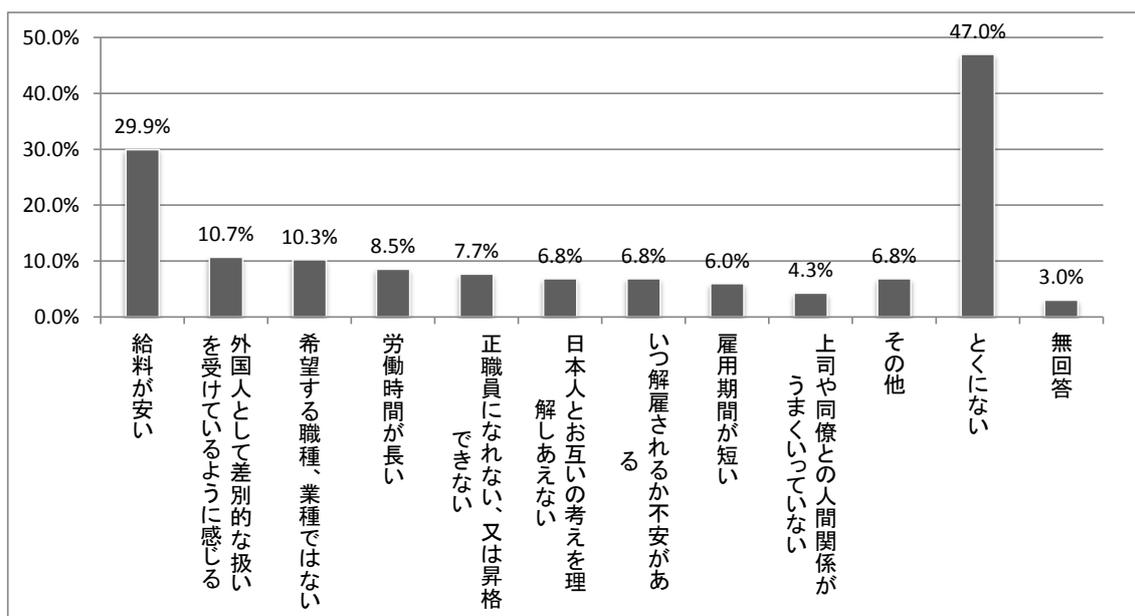


図34 仕事上の困りごと・不満

日本語能力の程度別に仕事の不満を見ると、日本語を話す・聞く能力を問わずとくにないの回答が最も多くなった。2番目の給料が安いも日本語を話す・聞く能力を問わず挙げられている。一方、日本語を話す・聞く能力が高い人では他の回答が10%未満となったのに対し、日本語を話す・聞く能力が中程度の人では差別的な扱いと23%が回答したほか、解雇が不安、正職員になれないが18%となった。また、日本語を話す・聞く能力が低い人では希望職種、業種ではないが25%を占めたほか、雇用期間が短い、考えを理解しあえない、差別的な扱いが20%となった。

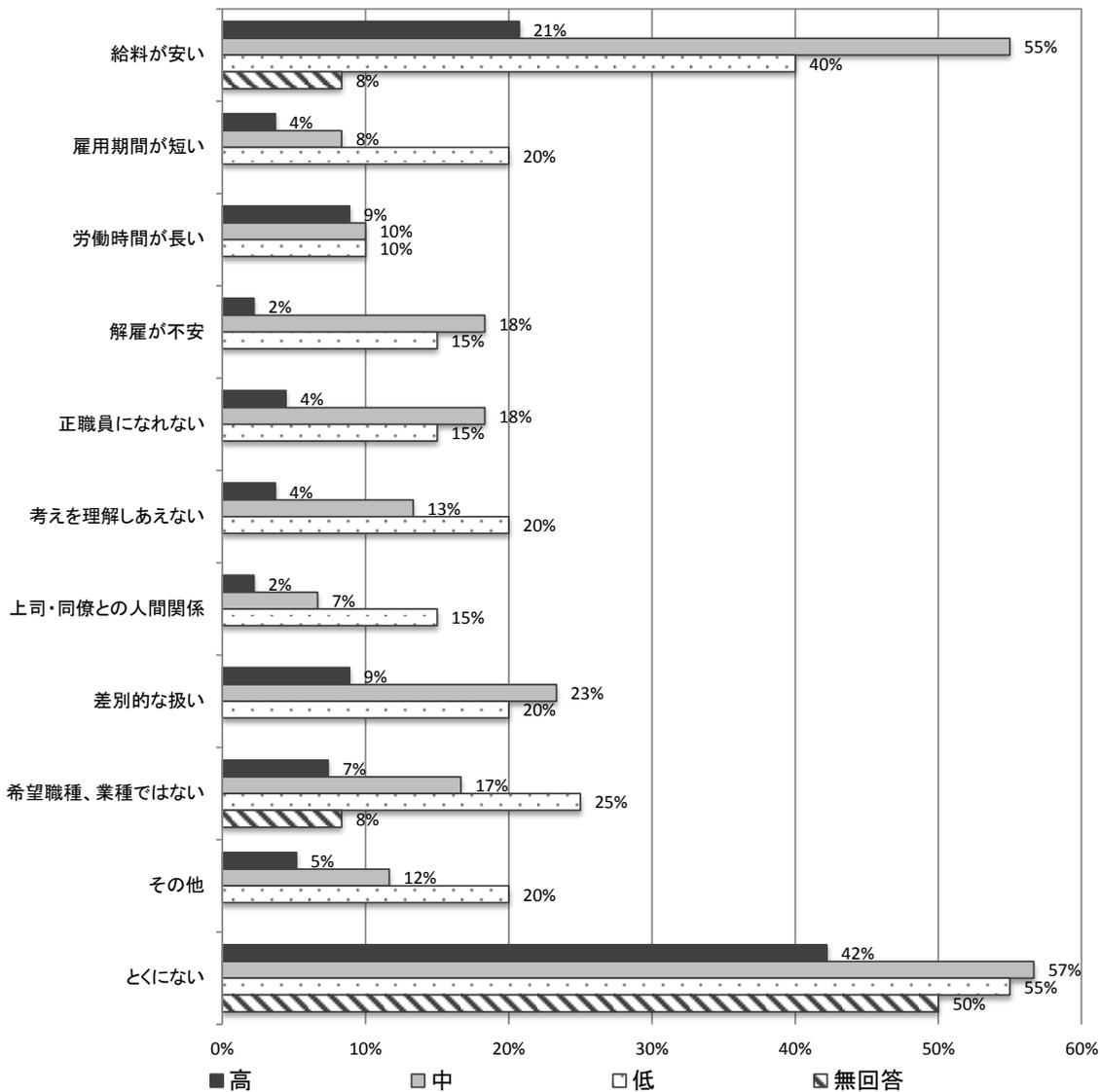


図34-2 日本語能力(話す・聞く)別仕事の不満の分布(N=227、問34に無回答の回答者を除いた割合)

日本語を読む能力別の仕事の不満の分布を見ると、日本語を読む能力が高い人と中程度の人ではとくにないの回答が最も多くなったのに対し、日本語を読む能力が低い人では給料が安い回答が最も多くなった。また、日本語を読む能力が低い人では解雇が不安が30%、考えを理解しあえないが20%と日本語を読む能力が高い人、中程度の人と比較して割合が高い。一方、差別的な扱いや希望業種、職種ではないは日本語を読む能力の高低を問わずおよそ10%程が回答している。

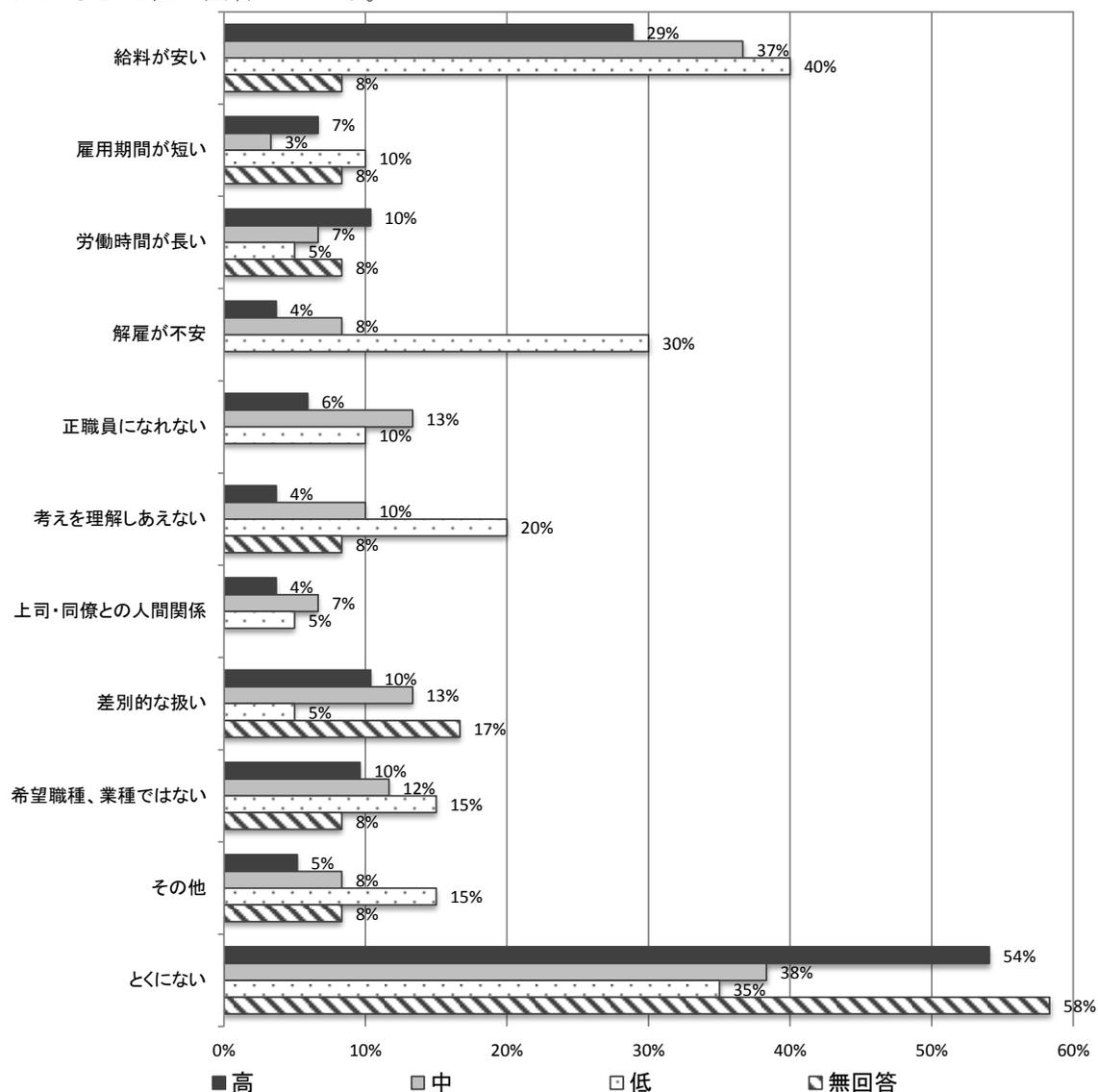


図34-3 日本語能力(話す・聞く)別仕事の不満の分布(N=227、問34に無回答の回答者を除いた割合)

(35) 今後の勤務地

今後の勤務地についての希望の分布を見ると、53.0%の人が宮城県での就労を希望しており、次いで「わからない」が19.9%、「日本で働きたいが、宮城県以外で働きたい」が9.7%、「母国に帰って働きたい」が7.2%となっている。

問 35 あなたは今後、宮城県または日本で働こうと思っっていますか

表 35 今後の勤務地

	N	%
宮城県で働きたい	170	53.0%
日本で働きたいが、宮城県以外で働きたい	31	9.7%
母国に帰って働きたい	23	7.2%
日本と母国以外の国で働きたい	3	0.9%
その他	17	5.3%
わからない	64	19.9%
無回答	13	4.0%
計	321	100%

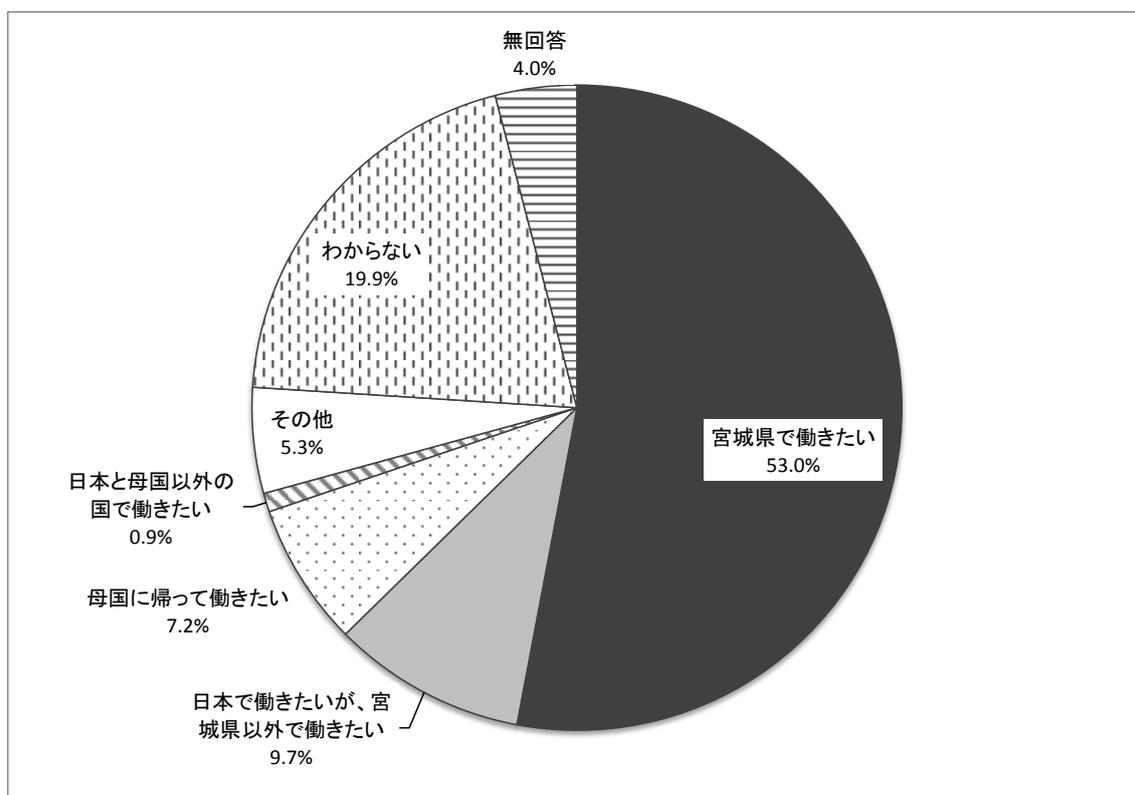


図 35 今後の勤務地

在留資格別の今後の勤務地の希望の分布を見ると、宮城県で働きたいと回答したのは永住者、日本人の配偶者、定住者で70%を超えている。教育では宮城県以外で働きたいが43%を占めている。技能実習では母国で働きたいが44%と他の在留資格と比較して割合が高い。技術・人文知識・国際業務と家族滞在では40%以上がわからないと回答している。

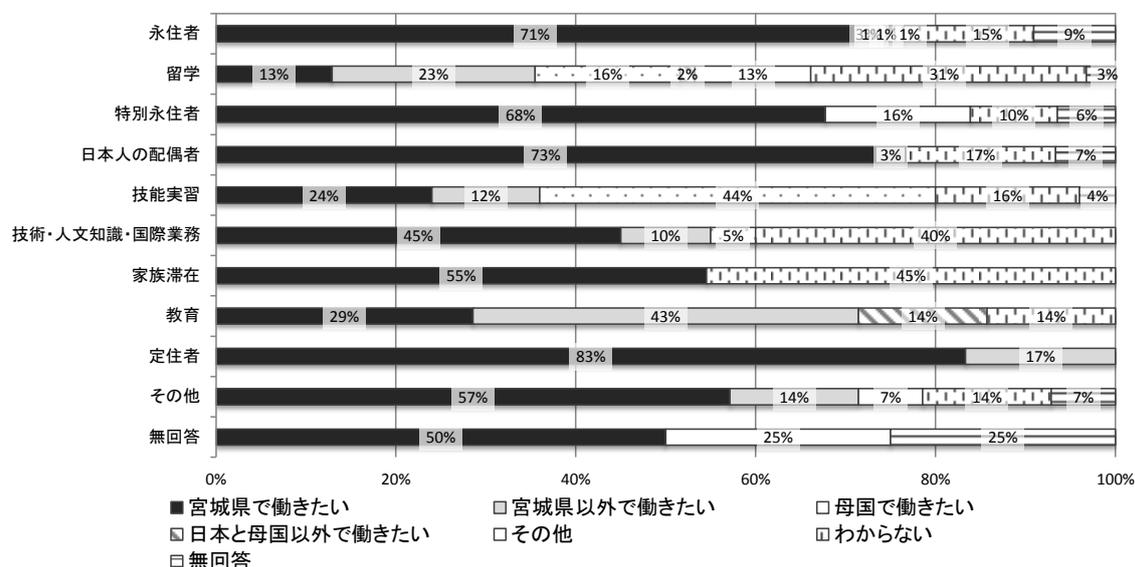


図35-2 在留資格別今後の勤務地の分布(N=334)

日本人との付き合いの程度別に今後の勤務地の希望の分布を見ると、なんでも話せる人がいると回答した人では57%が宮城県で働きたいとした。対して、あいさつをする人がいる・まったくいないでは宮城県で働きたいが46%と割合が低くなった。また、宮城県以外で働きたいと回答したのはなんでも話せる人がいるでは8%であったのに対し、あいさつをする人がいる・まったくいないでは14%と割合が高くなっている。

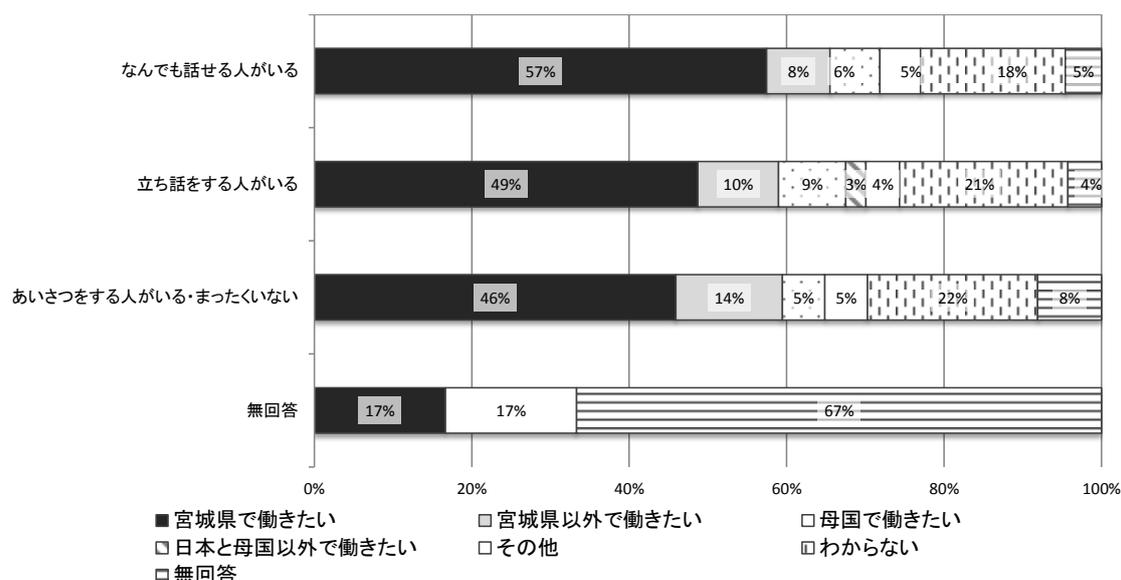


図35-3 日本人との付き合い別今後の勤務地の分布(N=334)

(36) 仕事を探していない理由

仕事を探していない理由で最も多いのは「生活していく上で必要がないから」であり、全体の 21.0%を占めている。次いで「就職できないから」が 16.1%と比較的高くなっている。

問 36 仕事を探していない理由は何ですか

(問 31 で「無職 (1~6 以外で仕事を探していない)」と選択した人)

表 36-1 仕事を探していない理由

	N	%
就職できないから	10	16.1%
生活していく上で必要がないから	13	21.0%
働く意欲がわからないから	3	4.8%
人間関係がよくないから	0	0.0%
その他	32	51.6%
無回答	4	6.5%
計	62	100%

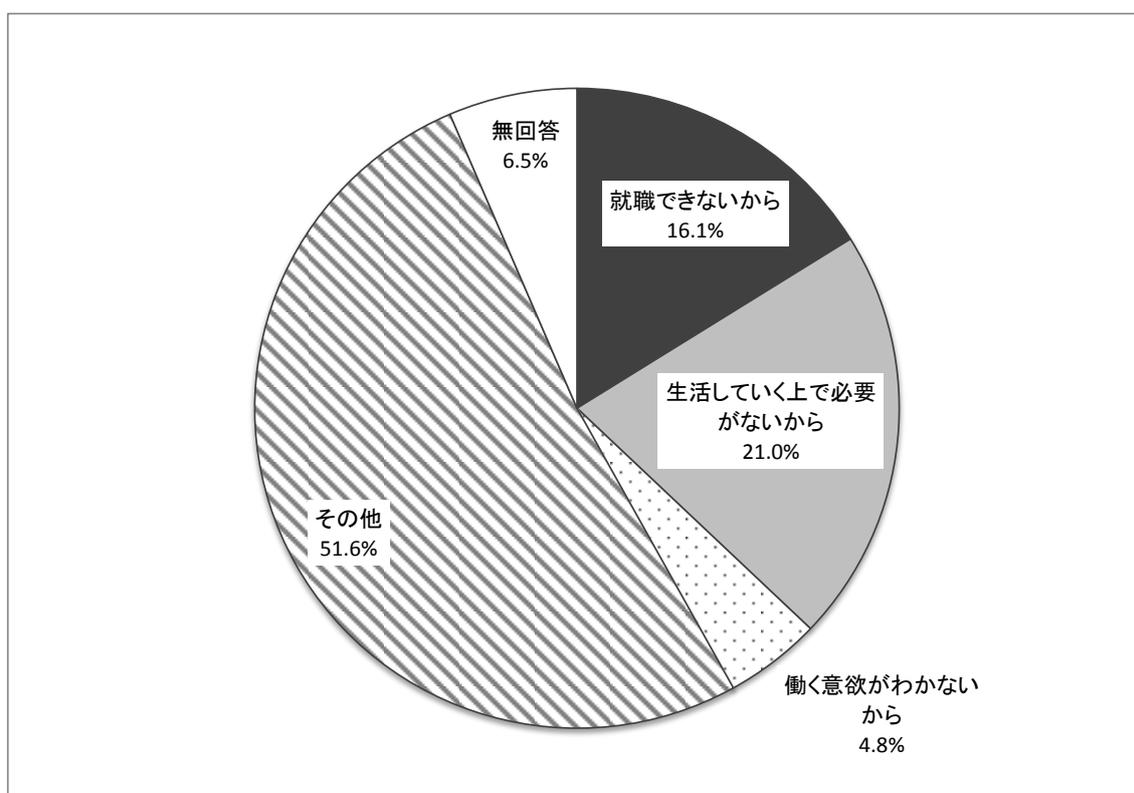


図 36-1 仕事を探していない理由

また、「就職ができないから」を選んだ人がなぜ就職できないと考えているかの分布を見ると、%の人が「日本語がうまく話せないから」と回答しており、「探しても希望する就職先が見つからないから」、「外国人を雇用する企業が少ないから」が%となっている。

表 36-2 就職できない理由

	N	%
日本語がうまく話せないから	7	70.0%
探しても希望する就職先が見つからないから	2	20.0%
外国人を雇用する企業が少ないから	1	10.0%
無回答	0	0.0%
計	10	43%

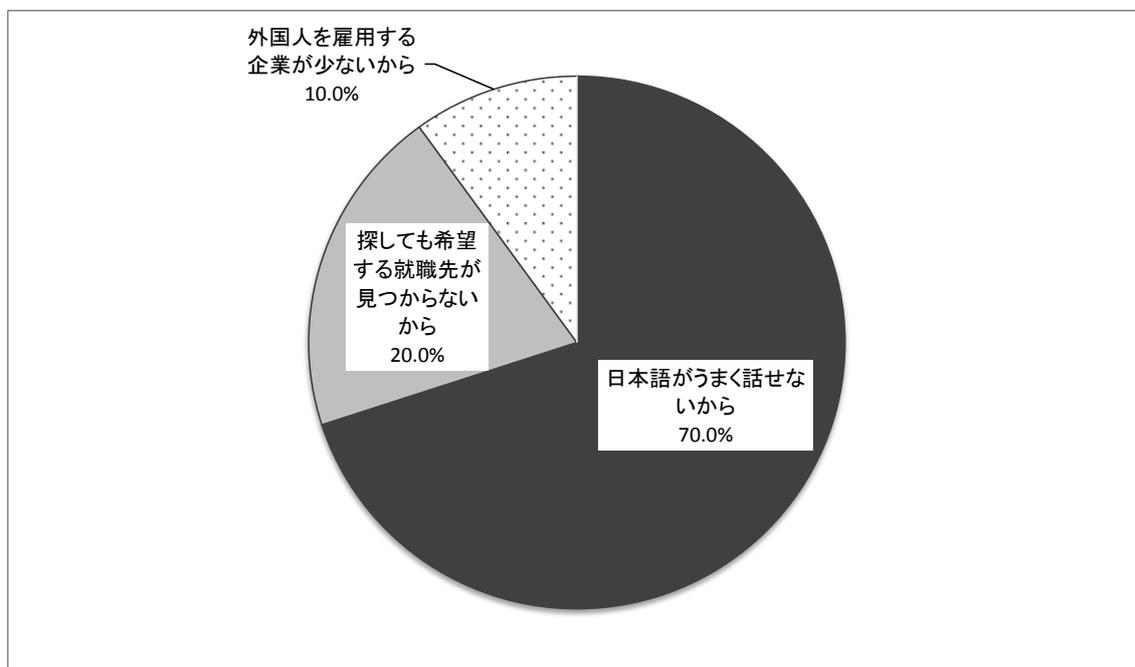


図 36-2 就職できない理由

日本語を話す・聞く能力別に仕事を探していない理由の分布を見ると、日本語を話す・聞く能力が高い人では生活していく上で必要がないからが32%と最も割合が高い。これに対し日本語を話す・聞く能力が中程度の人では働く意欲がわからないからが14%となったほか、日本語を話す・聞く能力が低い人では就職できないからが13%となっている。

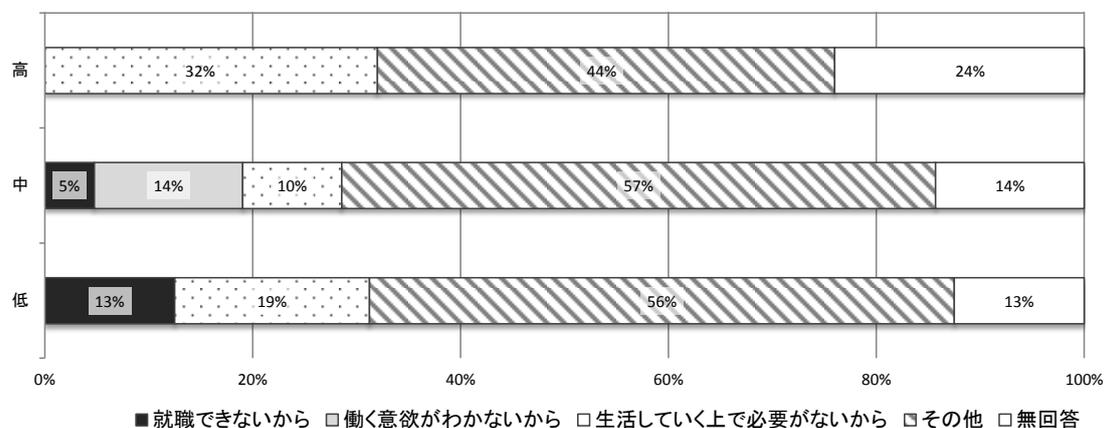


図36-3 日本語能力(話す・聞く)別仕事を探していない理由の分布(N=62)

居住形態別に仕事を探していない理由の分布を見ると、ひとり暮らしでは働く意欲がわからないからと生活していく上で必要がないからが20%となった。配偶者のみでは就職できないからと生活していく上で必要がないからが16%となった。子どもあり、その他家族同居、その他の人と同居では生活していく上で必要がないからの割合が最も高くなっている。

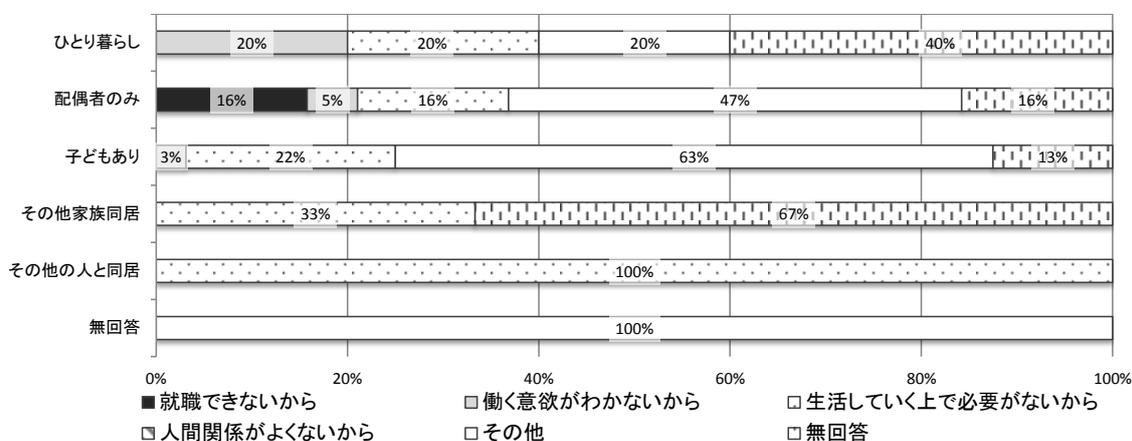


図36-4 居住形態別仕事を探していない理由の分布(N=62)

9 社会生活一般

(37) 日本人との付き合い

日本人との付き合いの分布を見ると、職場では 25.0%が「何でも話し合える人がいる」、24.5%が「たまに立ち話をする人ならいる」と回答しており、「まったくいない」は 4.3%となっている。学校では 8.3%が「なんでも話し合える人がいる」、12.9%が「たまに立ち話をする人ならいる」と回答しており、「まったくいない」は 3.3%と低くなっている。地域では 27.8%が「あいさつをする程度の人しかいない」、22.7%が「たまに立ち話をする人ならいる」と回答している一方、「まったくいない」は 15.9%となっている。その他の付き合いについて見ると、28.8%が「何でも話し合える人がいる」、21.2%が「たまに立ち話をする人がいる」を選択しており、「まったくいない」は 18.4%となっている。

問 37 現在、あなたには、仲良くしている日本人はいますか

表 37 日本人との付き合い

	職場		学校		地域		その他	
	N	%	N	%	N	%	N	%
何でも話し合える人がいる	99	25.0%	33	8.3%	80	20.2%	114	28.8%
たまに立ち話をする人ならいる	97	24.5%	51	12.9%	90	22.7%	84	21.2%
あいさつをする程度の人しかいない	29	7.3%	17	4.3%	110	27.8%	35	8.8%
まったくいない	17	4.3%	13	3.3%	63	15.9%	73	18.4%
働いていない・学校に行っていない	74	18.7%	123	31.1%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	80	20.2%	159	40.2%	53	13.4%	90	22.7%
計	396	100%	396	100%	396	100%	396	100%

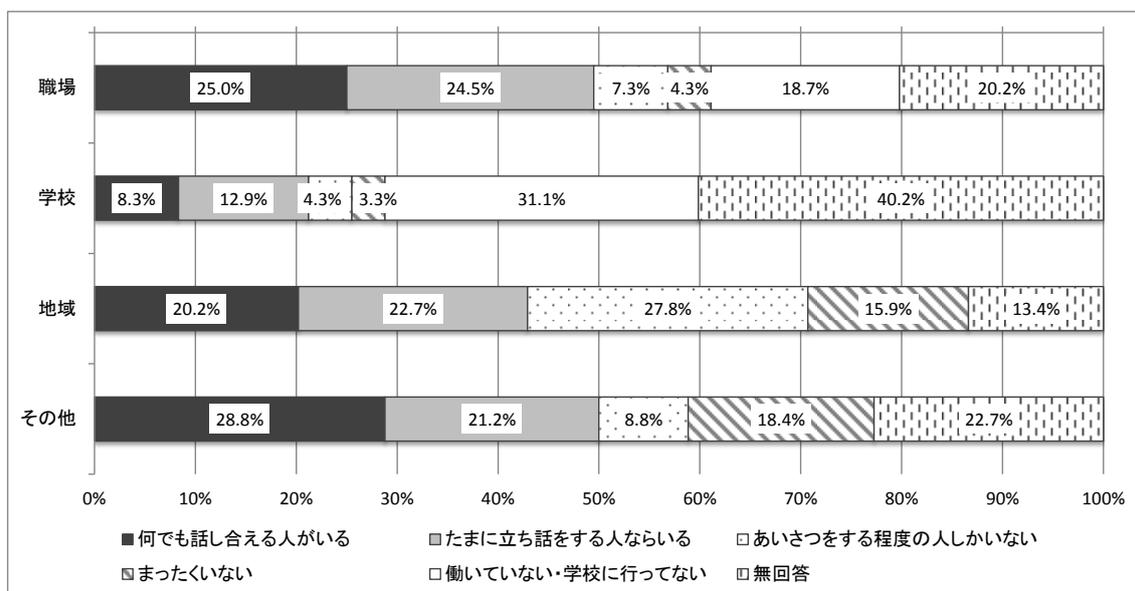


図 37-1 日本人との付き合い

職場，学校，近所，その他のどこか一つの場所で「何でも話しあえる人がいる」人，どこか一つの場所で「たまに立ち話をする人ならいる」人，すべての場所で「あいさつをする程度の人しかいない」人，すべての場所で「まったくいない」人に回答者を分けて分布を見ると，なんでも話せる人がいると回答した人が 51.5%を占めた。次いで立ち話をする人がいるが 34.1%となっており，まったくいないと回答した人の割合は 4.3%となった。

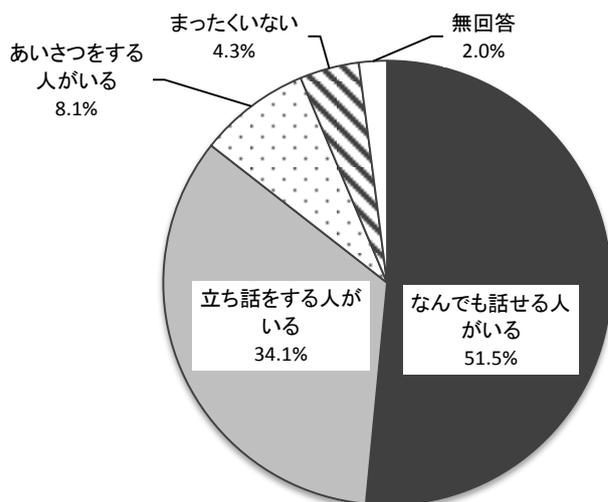


図37-2 日本人との付き合い(総合)の分布(N=396)

(38) 相談相手

困ったときの相談相手の分布を見ると、いずれの内容においても、母国出身の友人・知人と日本人の友人・知人をあげる割合が他と比較して著しく高い。

人間関係については60%近くの人が母国出身の友人・知人を相談相手としてあげており、最も割合が高くなっている。家族・生活や仕事・学業においても、母国出身の友人・知人をあげる割合が最も高い。文化・習慣については日本人の友人・知人を相談相手と答える割合が最も多く、50%を超えている。

一方、「近所の人」、「日本語教室の関係者」、「民間の相談所やボランティア団体」、「市役所、町村役場、県庁などの窓口」、「市町村国際交流会や宮城県国際化協会」、「その他」と回答した割合はいずれも10%未満にとどまっている。

なお、すべての内容において、「自分で解決するので、相談しない」が20%前後、「相談する相手がいない」が4%程度となっている。

問38 あなたには、次のようなことで悩んだり困ったりした場合、家族や親戚以外で、
誰にまたはどこに相談しようと思いますか（複数回答）

表38 相談相手

	A人間関係		B文化・習慣		C家族・生活		D仕事・学業	
	N	%	N	%	N	%	N	%
母国出身の友人・知人	231	58.3%	183	46.2%	211	53.3%	189	47.7%
近所の人	20	5.1%	34	8.6%	25	6.3%	15	3.8%
日本人の友人・知人	155	39.1%	201	50.8%	141	35.6%	183	46.2%
母国出身者や日本人以外の友人・知人	40	10.1%	41	10.4%	32	8.1%	40	10.1%
日本語教室の関係者	19	4.8%	22	5.6%	11	2.8%	20	5.1%
民間の相談所やボランティア団体	4	1.0%	4	1.0%	2	0.5%	4	1.0%
市役所、町村役場、県庁などの窓口	15	3.8%	19	4.8%	18	4.5%	14	3.5%
市町村国際交流会や宮城県国際化協会	5	1.3%	9	2.3%	3	0.8%	9	2.3%
その他	21	5.3%	22	5.6%	19	4.8%	24	6.1%
自分で解決するので、相談しない	82	20.7%	63	15.9%	92	23.2%	73	18.4%
相談する相手がいない	15	3.8%	15	3.8%	16	4.0%	13	3.3%
無回答	16	4.0%	21	5.3%	23	5.8%	37	9.3%
計	396	100%	396	100%	396	100%	396	100%

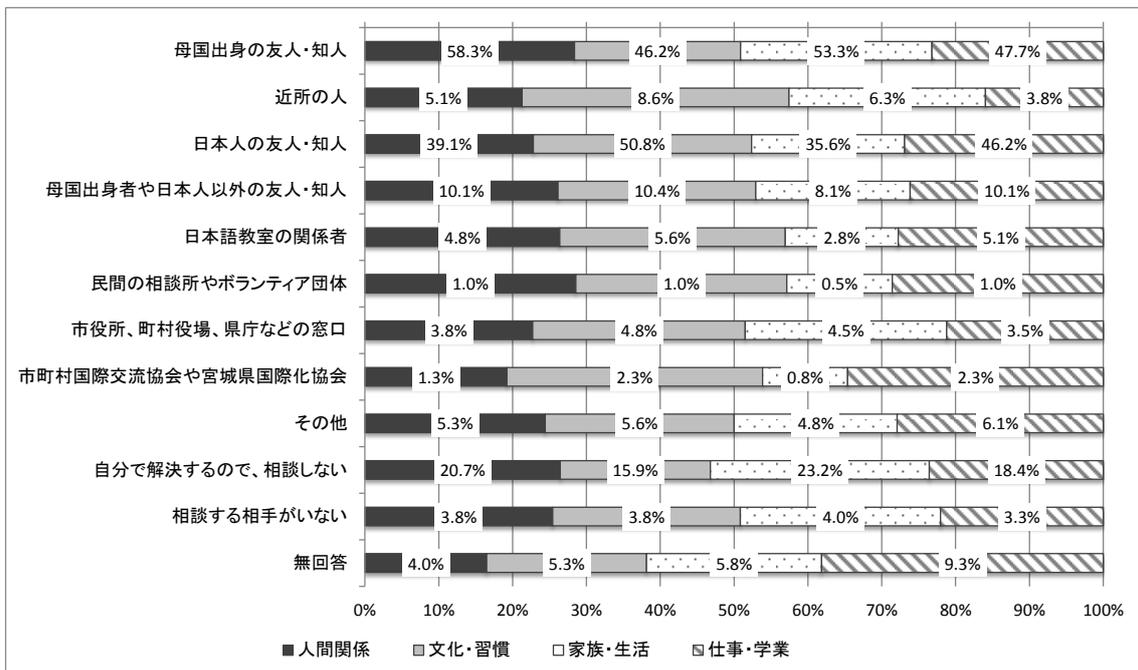


図 38-1 相談相手

日本人との付き合いの程度別に相談先の分布をみると、すべての内容について、日本人（日本人の友人・知人、近所の人）、制度・団体（日本語教室の関係者、民間相談所・ボランティア団体、市役所等の窓口、市町村国際交流協会等）を相談先とする割合、また、相談する相手がないとする割合に差がみられた。日本人に何でも話せる人がいると回答した人では、すべての内容についておよそ 60%以上が日本人の友人・知人または近所の人を相談相手としている。これに対してあいさつをする人がいる・まったくいないと回答した人では母国出身の友人・知人がすべての内容についておよそ 60%以上を占めており、生活・習慣の 27%を除くと日本人の友人・知人または近所の人を相談相手としているのは 20%未満となっている。立ち話をする人がいると回答した人では生活・習慣でのみ日本人の友人・知人または近所の人を相談相手としている割合が最も多くなった。

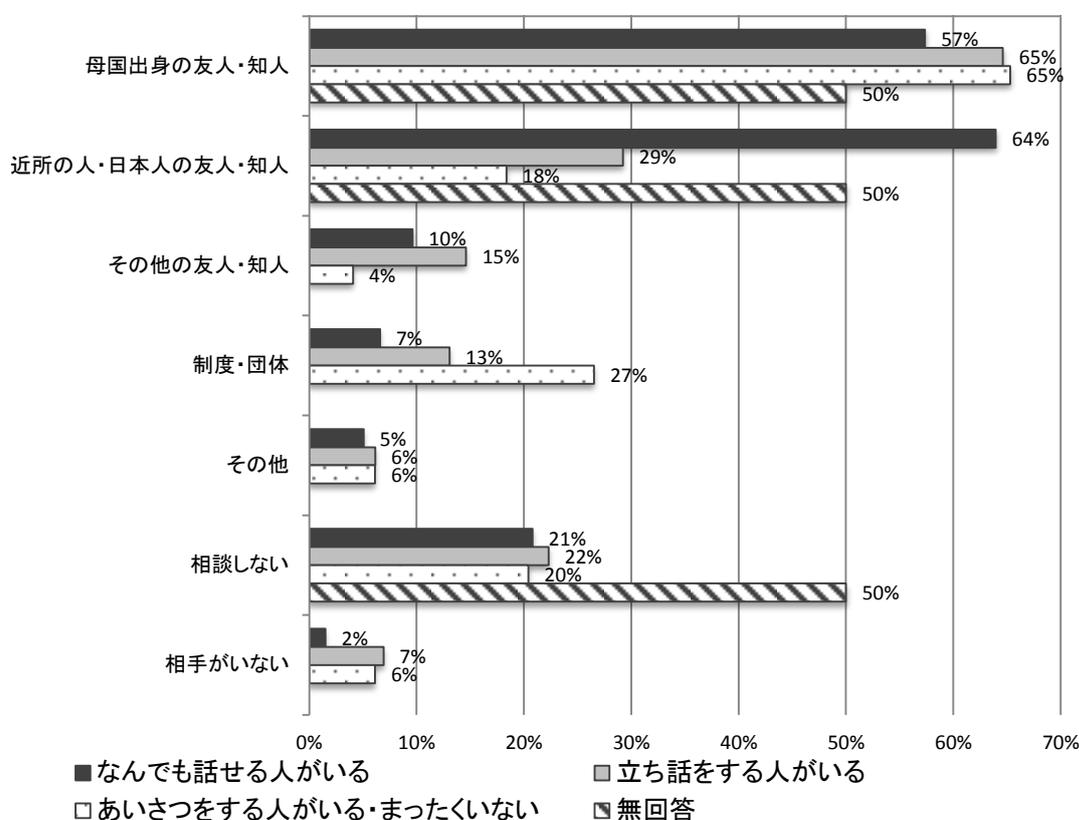


図38-2 日本人との付き合い別相談先(人間関係)(N=380、問38Aに無回答の回答者を除いた割合)

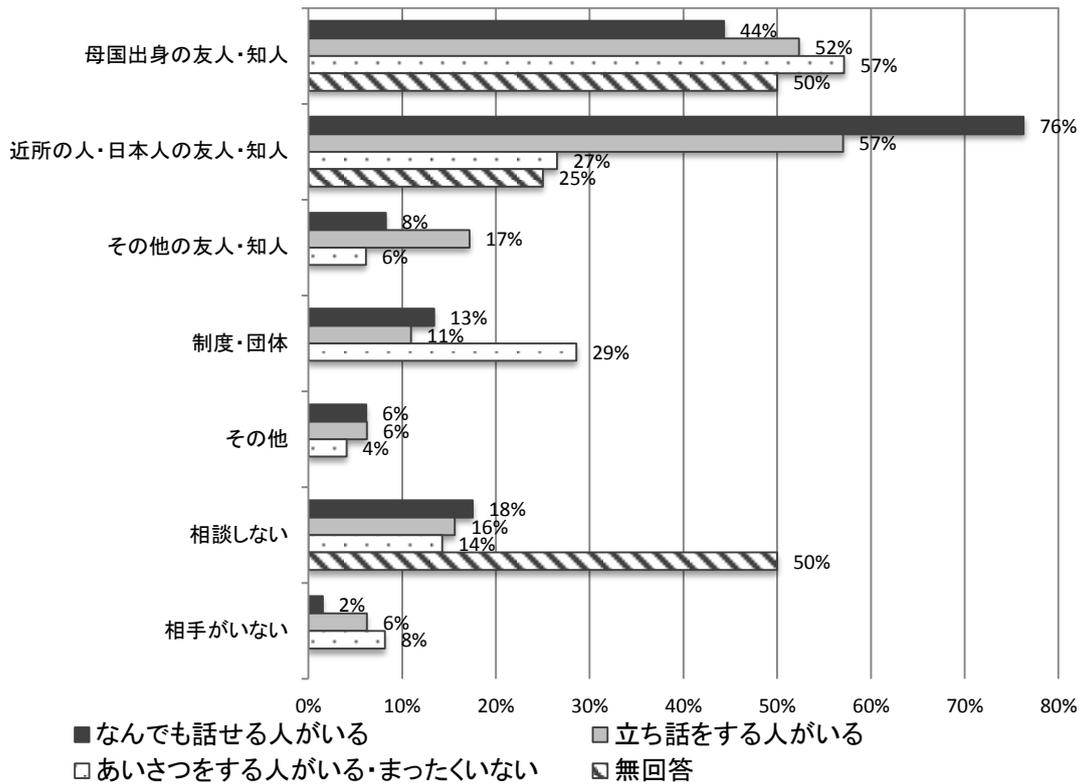


図38-3 日本人との付き合い別相談先(文化・習慣)(N=375、問38Bに無回答の回答者を除いた割合)

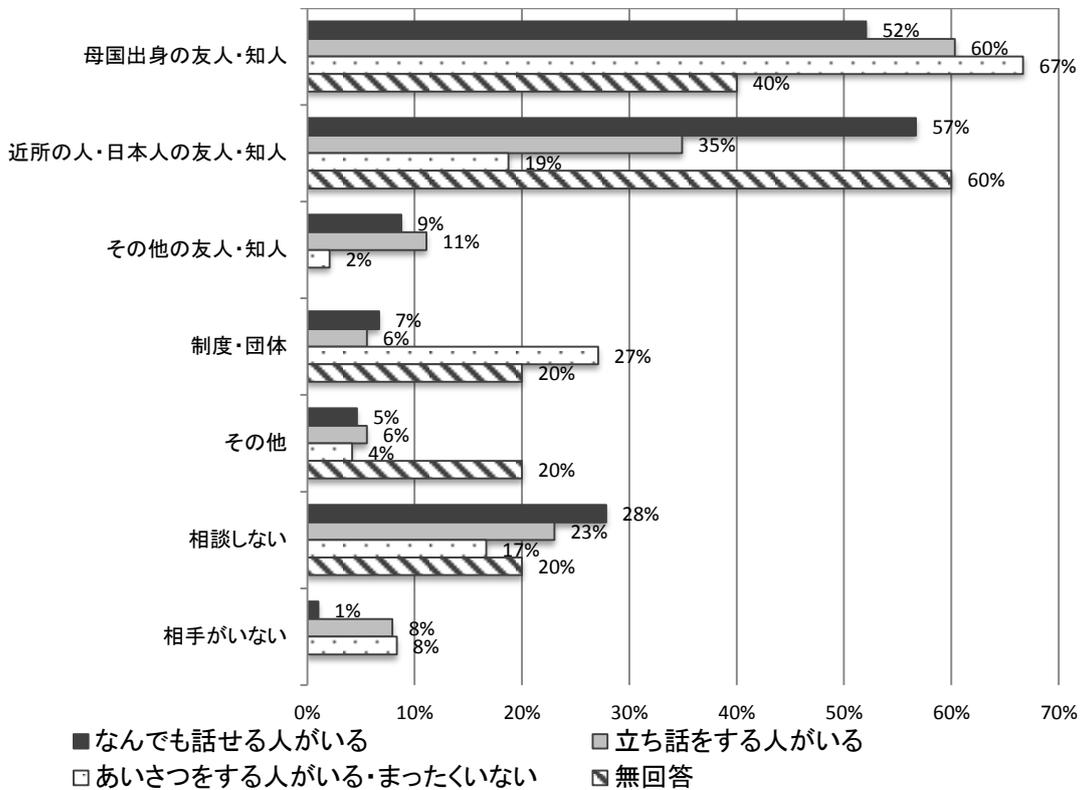


図38-4 日本人との付き合い別相談先(家族・生活)(N=373、問38Cに無回答の回答者を除いた割合)

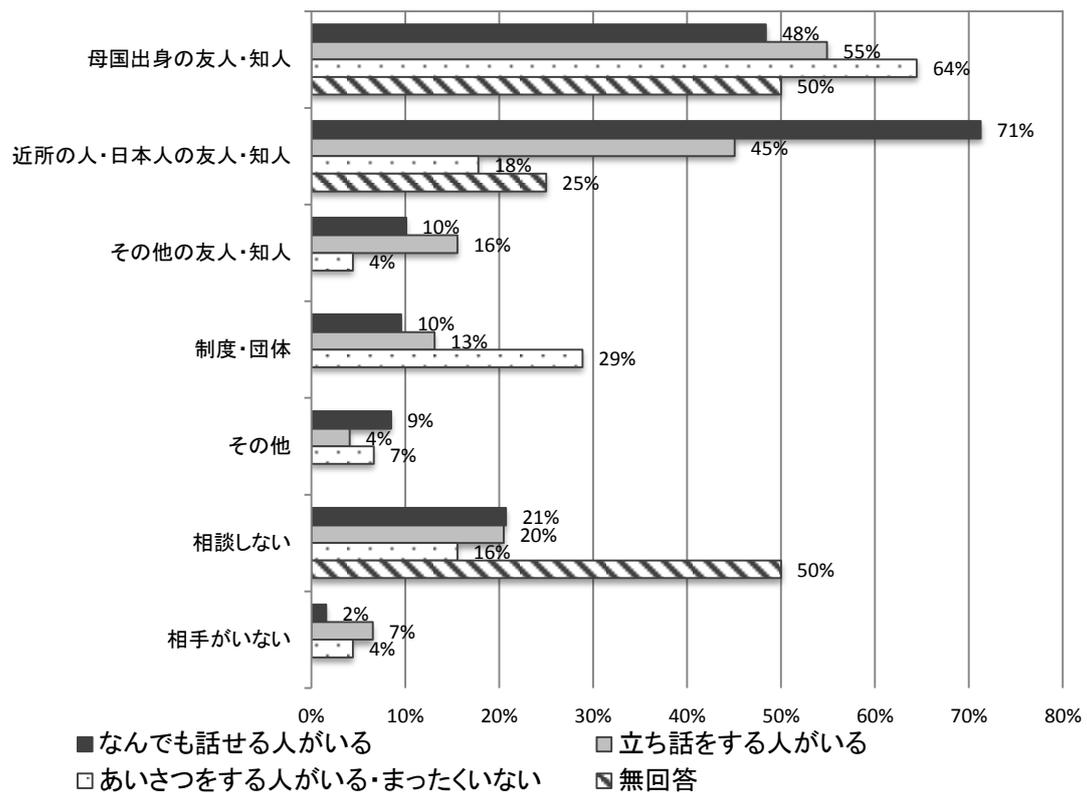


図38-5 日本人との付き合い別相談先(仕事・学業)(N=359、問38Dに無回答の回答者を除いた割合)

(39) 日本人との交流希望

今後の日本人との交流希望については、「日本の文化や習慣を学びたい」の割合が最も多く、45.7%が選択している。次いで「地域の行事にもっと参加したい」が37.6%、「いっしょにボランティア活動などの社会活動をしたい」が31.1%、「日本人に母国の文化を紹介したい」が25.5%となっている。一方で、「とくに交流したいとは思わない」と回答した割合が16.7%と一定数存在する。

問 39 あなたは今後、地域の日本人とどのような交流をしたいと思いますか（複数回答）

表 39 日本人との交流希望

	N	%
日本の文化や習慣を学びたい	181	45.7%
地域の行事にもっと参加したい	149	37.6%
いっしょにボランティア活動などの社会活動をしたい	123	31.1%
日本人に母国の文化を紹介したい	101	25.5%
いっしょに食事や買い物に行きたい	98	24.7%
家庭のことや子育てなどについて話し合いたい	81	20.5%
その他	13	3.3%
とくに交流したいとは思わない	66	16.7%
無回答	19	4.8%
計	396	100%

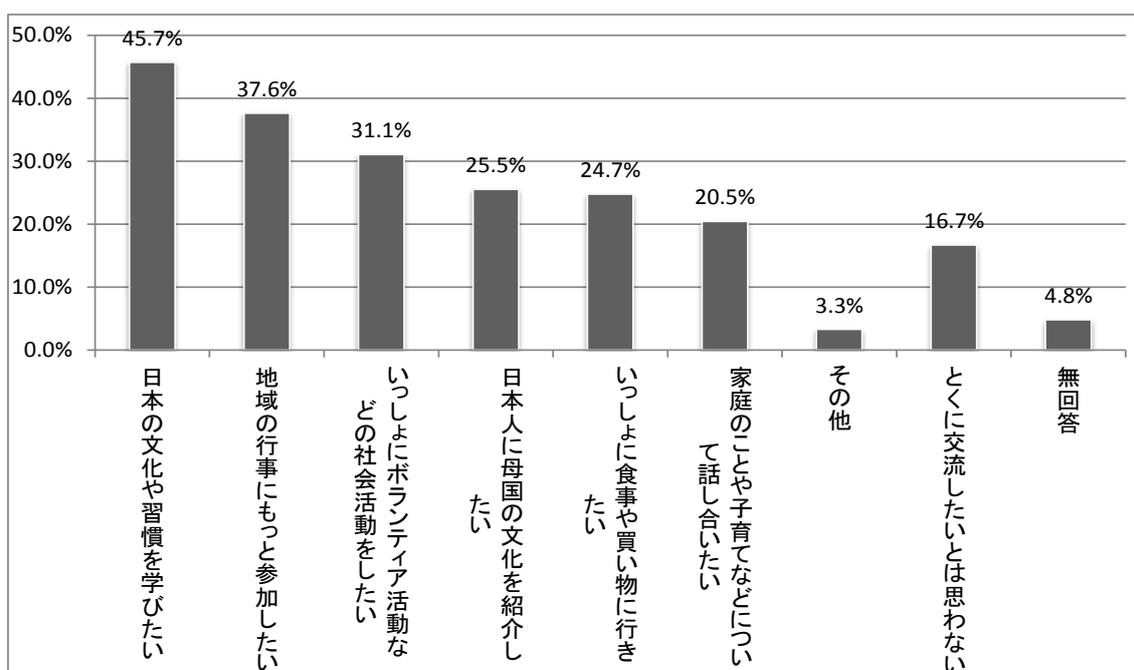


図 39 日本人との交流希望

(40) 差別経験

外国人だということできいやな経験やつらい思いをしたことがあるかについては、「よくある」が7.1%、「時々ある」が31.3%であり、合わせて40%程度の人は何らかの差別経験がある。一方で、「まったくない」または「ほとんどない」と回答する割合も合計で40%程度であり、いやな経験・つらい思いをしている人とあまり感じていない人が同程度となっている。また、「過去に経験したが今はない」と回答した割合は19.7%となっている。

問 40 あなたは生活上、外国人だということできいやな経験やつらい思いをした(している)

ことがありますか

表 40 差別経験

	N	%
よくある	28	7.1%
時々ある	124	31.3%
ほとんどない	94	23.7%
まったくない	63	15.9%
過去に経験したことがあるが、今はほとんどない・まったくない	78	19.7%
無回答	9	2.3%
計	396	100%

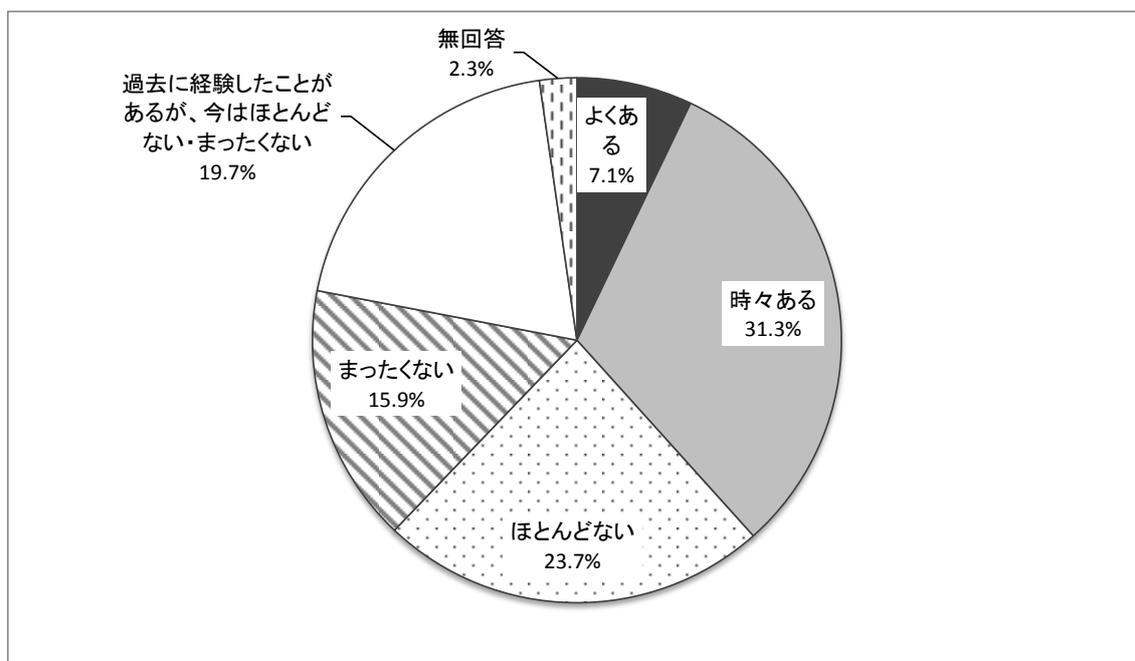


図 40 差別経験

国籍別に差別経験の分布を見ると、よくある、時々あると回答した割合はベトナム籍で52%と最も高く、中国籍、インドネシア籍でも40%を超えている。対して、米国籍では46%がほとんどないと回答したほか、フィリピン籍、インドネシア籍では31%がまったくないとしている。韓国・朝鮮籍では31%が過去に経験したが今はないと回答している。

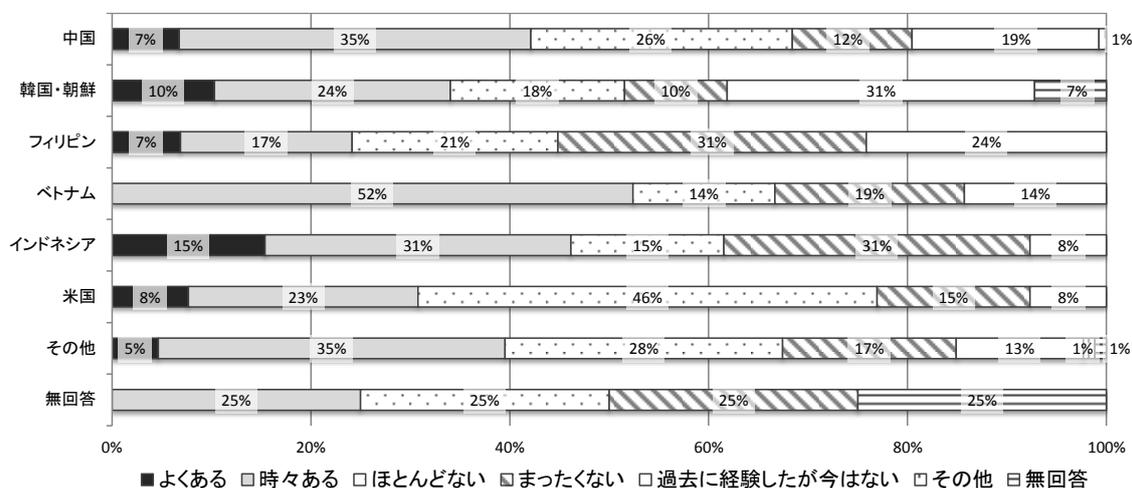


図40-2 国籍別差別経験の分布(N=396)

在留資格別に差別経験の分布を見ると、よくある、時々あると回答した割合は教育で最も多く71%を占めたほか、定住者で67%に達し、留学、特別永住者、技術・人文知識・国際業務で40%を超えている。一方のほとんどないは日本人の配偶者で43%、まったくないは技能実習で28%となっている。また、特別永住者では34%が過去に経験したが今はないと回答している。

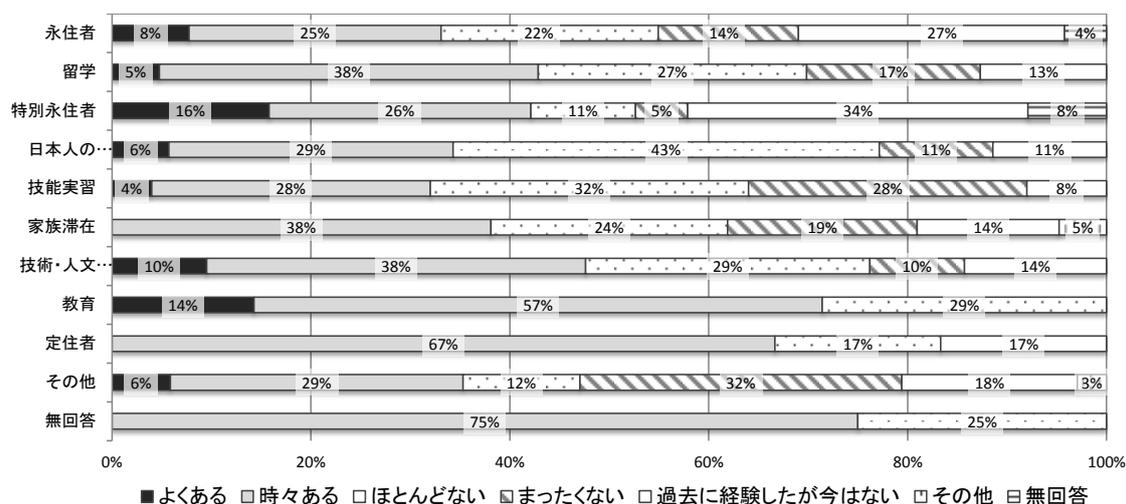


図40-3 在留資格別差別経験の分布(N=396)

(41) いやな経験、つらい思いの具体的内容

いやな経験やつらい思いの具体的な内容を見ると、「工作中」をあげる割合が42.2%と最も多く、次いで「住まいを探すとき」が28.3%、「仕事を探すとき」および「公的機関などでの手続のとき」が各27.4%となっている。

問41 それほどのようなときに感じましたか（複数回答）

（問40で「よくある」「時々ある」「過去に経験したことがあるが、今はほとんどない・まったくない」と回答した人）

表41 いやな経験・つらい思いの具体的内容

	N	%
工作中	97	42.2%
住まいを探すとき	65	28.3%
仕事を探すとき	63	27.4%
公的機関などでの手続のとき	63	27.4%
日本人の友人との交際のとき	53	23.0%
買い物や食事をしているとき	46	20.0%
近所との付き合いの中で	46	20.0%
テレビ・インターネットなどのメディアの情報で	37	16.1%
移動しているとき	27	11.7%
子どもが学校などで	19	8.3%
その他	22	9.6%
無回答	8	3.5%
計	230	100%

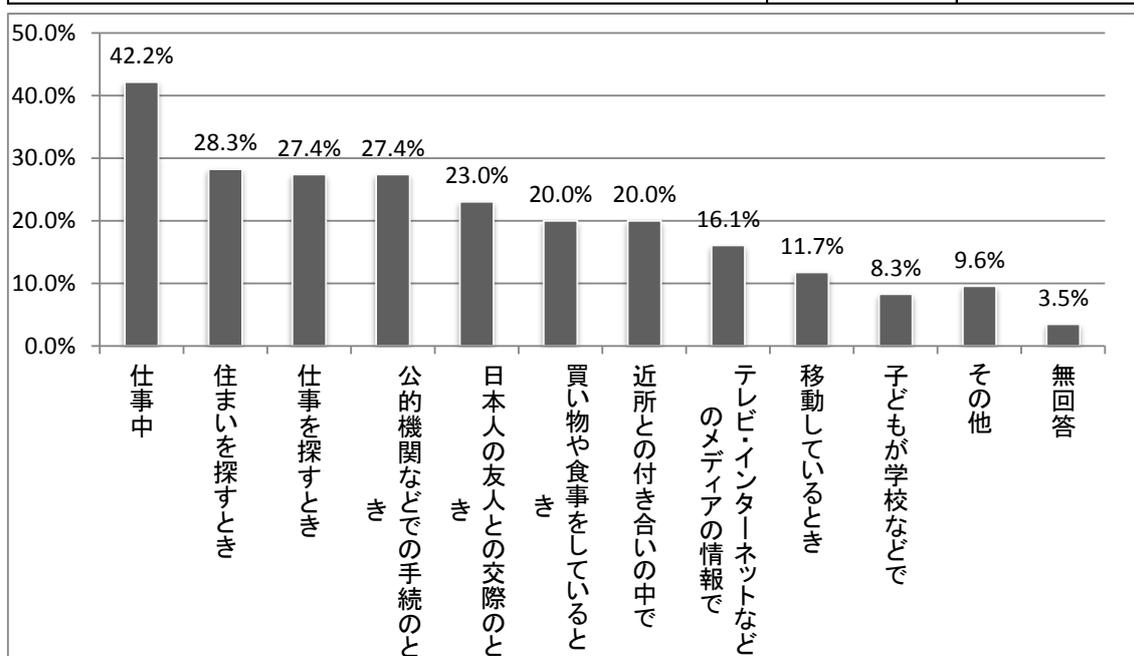


図41 いやな経験・つらい思いの具体的内容

(42) 現在困っていること

現在生活上で最も困っていることについては、「日本語の理解」が最も多くの人からあげられており、25.2%の回答者が選択している。次いで、「生活費用」が23.2%、「子育て・教育」および「老後の生活」が各17.2%となっている。一方、24.0%の回答者が「とくになし」と回答している。

問 42 あなたが生活している上で、現在最も困っていることは何ですか (3つまで)

表 42 現在困っていること

	N	%
日本語の理解	101	25.5%
生活費用	92	23.2%
子育て・教育	68	17.2%
老後の生活	68	17.2%
病気・けが	52	13.1%
就職	43	10.9%
仕事	41	10.4%
友人・知人や近所の人との人間関係	32	8.1%
住宅	27	6.8%
家族の介護	14	3.5%
家族との人間関係	13	3.3%
家族に関する問題(1、8～10を除く)	12	3.0%
その他	18	4.5%
とくになし	95	24.0%
無回答	28	7.1%
計	396	100%

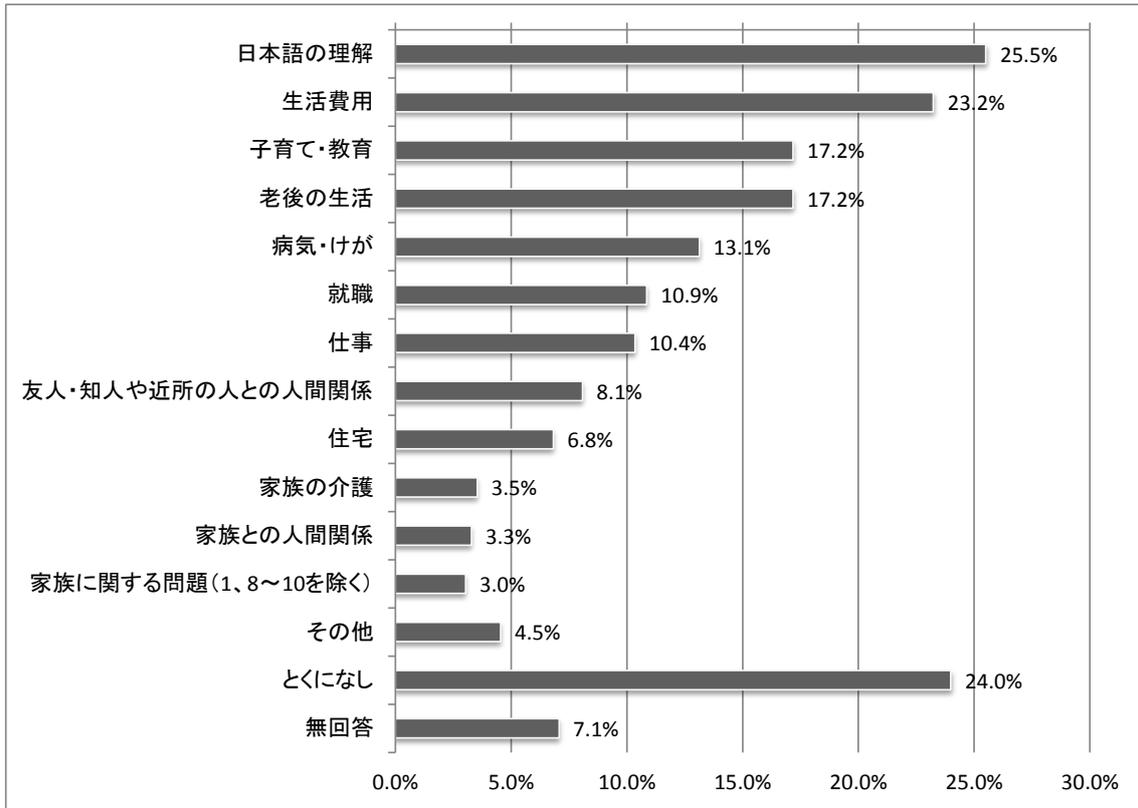


図 42 現在困っていること

(43) 社会活動

社会活動への参加および参加意向について見ると、「母国語や母国文化を生かせる交流活動」と「自分の仕事や学業を生かせる交流活動」は「する予定なし」割合が最も高く、「特技や趣味を生かせる文化・スポーツ活動」、「住民として地域のために役立つ活動」、「福祉や国際交流などボランティア活動」、「母国出身者のために役立つ活動」はいずれも「してみたい」割合が最も高くなっている。「母国語や母国文化を生かせる交流活動」および「特技や趣味を生かせる文化・スポーツ活動」をしている割合は各 10.4%で、その他の活動をしている割合はいずれも 10%に満たない。

問 43 あなたは、仕事や学業以外で何らかの社会活動をしていますか。

またはどのように考えていますか。

表 43 社会活動

		している	してみたい	する予定なし	無回答	計
母国語や母国文化を生かせる交流活動	N	41	142	160	53	396
	%	10.4%	35.9%	40.4%	13.4%	100%
自分の仕事や学業(専攻)を生かせる交流活動	N	25	146	160	65	396
	%	6.3%	36.9%	40.4%	16.4%	100%
特技や趣味を生かせる文化・スポーツ活動	N	41	164	137	54	396
	%	10.4%	41.4%	34.6%	13.6%	100%
住民として地域のために役立つ活動	N	38	186	120	52	396
	%	9.6%	47.0%	30.3%	13.1%	100%
福祉や国際交流などのボランティア活動	N	23	174	144	55	396
	%	5.8%	43.9%	36.4%	13.9%	100%
母国出身者のために役立つ活動	N	27	177	134	58	396
	%	6.8%	44.7%	33.8%	14.6%	100%
その他	N	8	13		375	396
	%	2.0%	3.3%		94.7%	100%

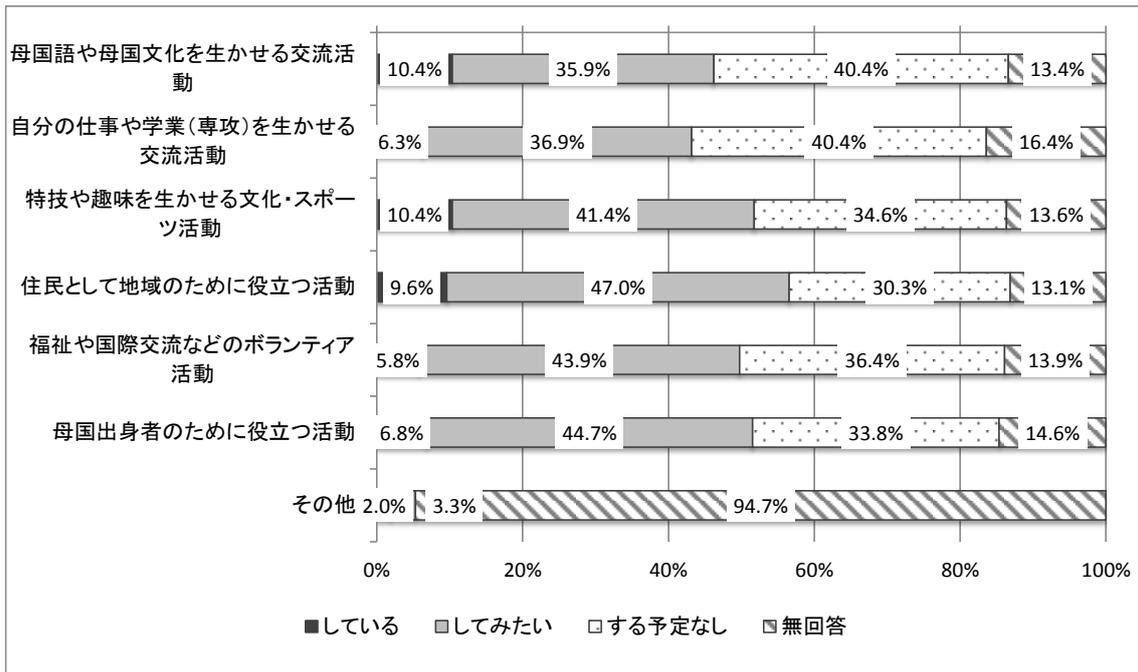


図 43 社会活動

10 防災

(44) 東日本大震災の被災経験

東日本大震災の被災経験について見ると、宮城県内で被災した人が 42.9%、他の都道府県で被災した人が 9.3%で、全体のうち 52.2%が被災経験があり、被災していない人の割合 45.2%を上回っている。

問 44 あなたは、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災を経験しましたか

表 44 東日本大震災の被災経験

	N	%
宮城県内で経験した	170	42.9%
他の都道府県で経験した	37	9.3%
経験していない	179	45.2%
無回答	10	2.5%
計	396	100%

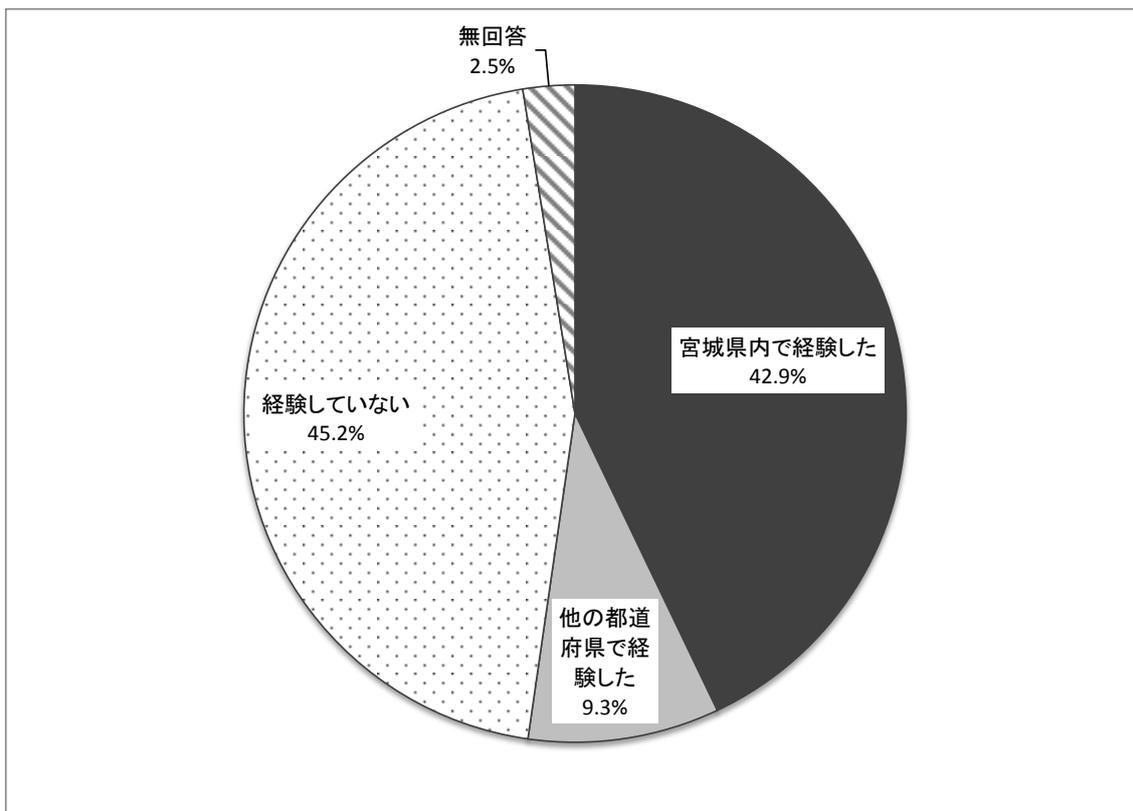


図 44 東日本大震災の被災経験

(45) 地震直後に知りたかった情報

地震から1週間までの間に知りたかった情報については、「ライフラインの復旧状況」が最も多く、71.8%の回答者が選択している。次いで「地震の情報」が64.7%、「福島第一原子力発電所の事故の情報」が53.5%、「家族・友人の安否」が52.9%となっている。また、「津波の情報」も50%程度の人があげている。

問 45 地震直後から1週間までの間に知りたいことは、何でしたか（複数回答）

（問 44 で「宮城県内で経験した」と回答した人）

表 45 地震直後に知りたかった情報

	N	%
ライフライン（電気・ガス・水道）の復旧状況	122	71.8%
地震の情報	110	64.7%
福島第一原子力発電所の事故の情報	91	53.5%
家族・友人の安否	90	52.9%
津波の情報	87	51.2%
どのに避難すればよいか	53	31.2%
母国の大使館・領事館の情報	34	20.0%
出国の方法	24	14.1%
外国語で相談できる窓口	9	5.3%
行政の8以外の相談窓口	6	3.5%
その他	5	2.9%
無回答	1	0.6%
計	170	100%

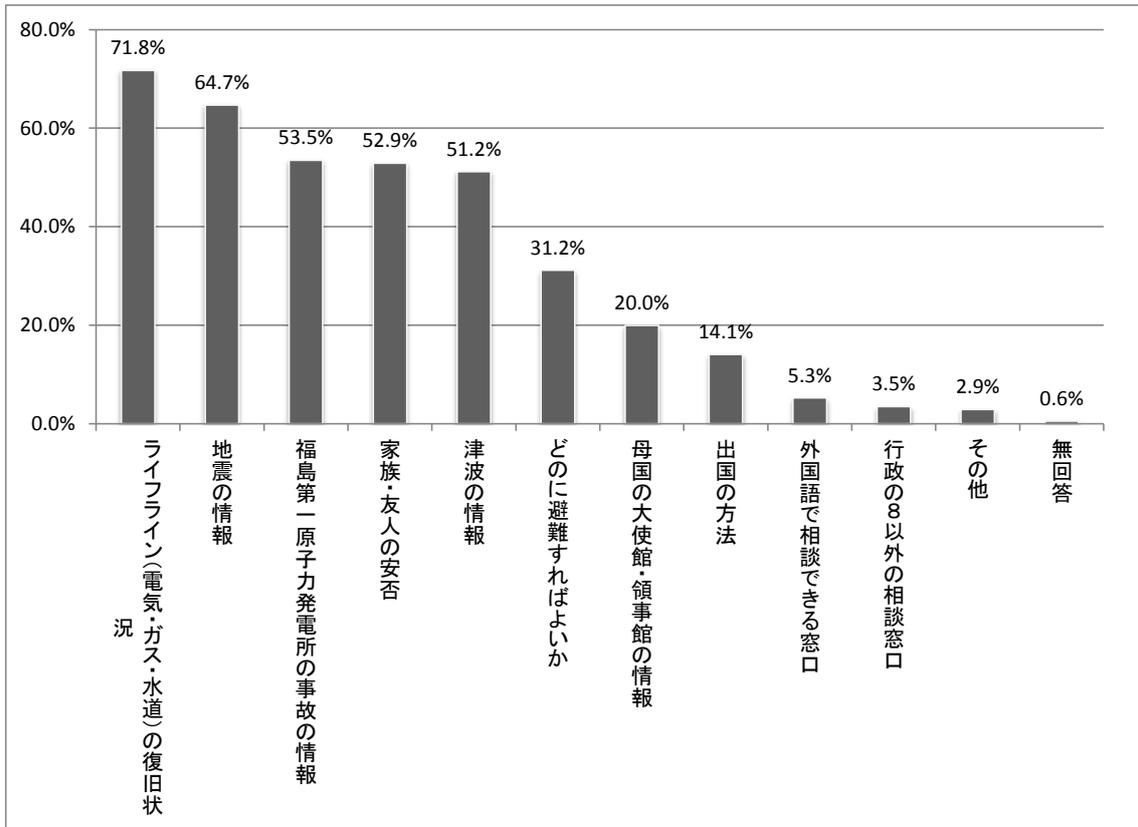


図 45 地震直後に知りたかった情報

(46) 地震直後に得た情報の入手先

地震直後に得た情報の入手先を見ると、日本語のテレビ放送から情報を得ていた人の割合が最も高く、49.8%を占めた。次いで日本語のラジオ放送が 37.7%、日本人の友人・知人が 28.0%、日本にいる家族・親戚が 27.5%となった。一方、情報を全く得ることができなかった人は回答者の 2.4%にとどまった。

問 46 地震直後から 1 週間までの間、知りたい情報はどこから得ましたか (複数回答)

表 46 地震直後に得た情報の入手先

	N	%
日本語のテレビ放送	101	46.5%
日本語のラジオ放送	77	35.5%
日本人の友人・知人	58	26.7%
日本にいる家族・親戚	55	25.3%
携帯電話のワンセグテレビ・インターネット	50	23.0%
母国出身の友人・知人	44	20.3%
近所の人	42	19.4%
職場・学校	36	16.6%
新聞	33	15.2%
パソコンのインターネット	28	12.9%
行政のお知らせ	27	12.4%
国外にいる家族・親戚	27	12.4%
避難所にいた人	25	11.5%
地域の災害エフエム放送	14	6.5%
ツイッター、フェイスブック	9	4.1%
母国以外の外国出身の友人・知人	8	3.7%
情報は全く得ることができなかった	4	1.8%
日本語以外のテレビ放送	3	1.4%
情報は必要なかった	2	0.9%
日本語以外のラジオ放送	1	0.5%
その他	0	0.0%
無回答	16	7.4%
計	217	100%

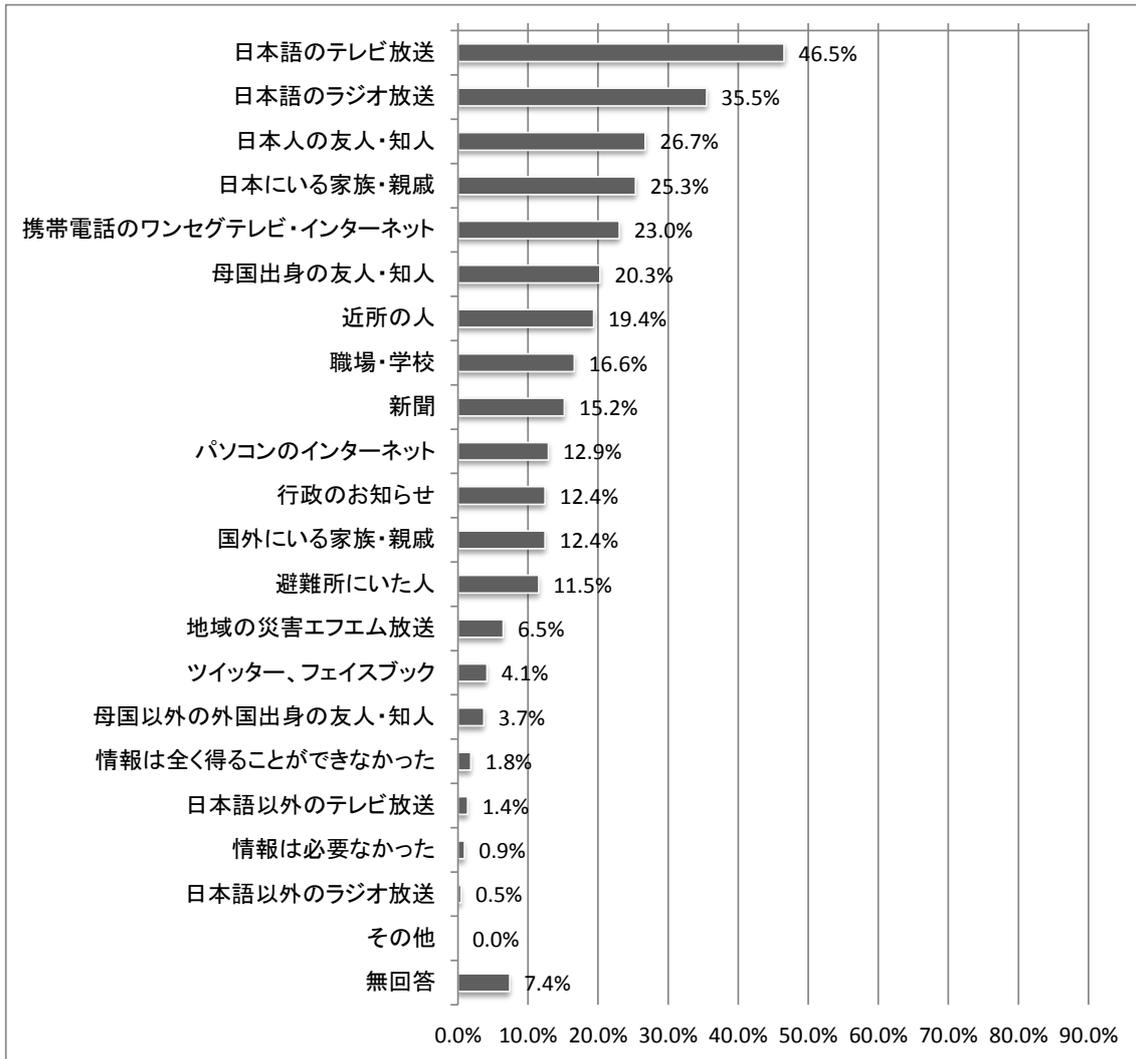


図 46 地震直後に得た情報の入手先

居住年数別に地震直後に得た情報の入手先を見ると、居住年数が5年未満ではインターネットが80%を占めているが、日本語メディアはすべての居住年数で50%を超えており、居住年数が5年未満を除けば最も割合が高い。また、居住年数が10年未満では外国人ネットワークが45%を占めたほか、居住年数が20年未満と居住年数が20年以上では日本人ネットワークがそれぞれ35%、51%を占めている。

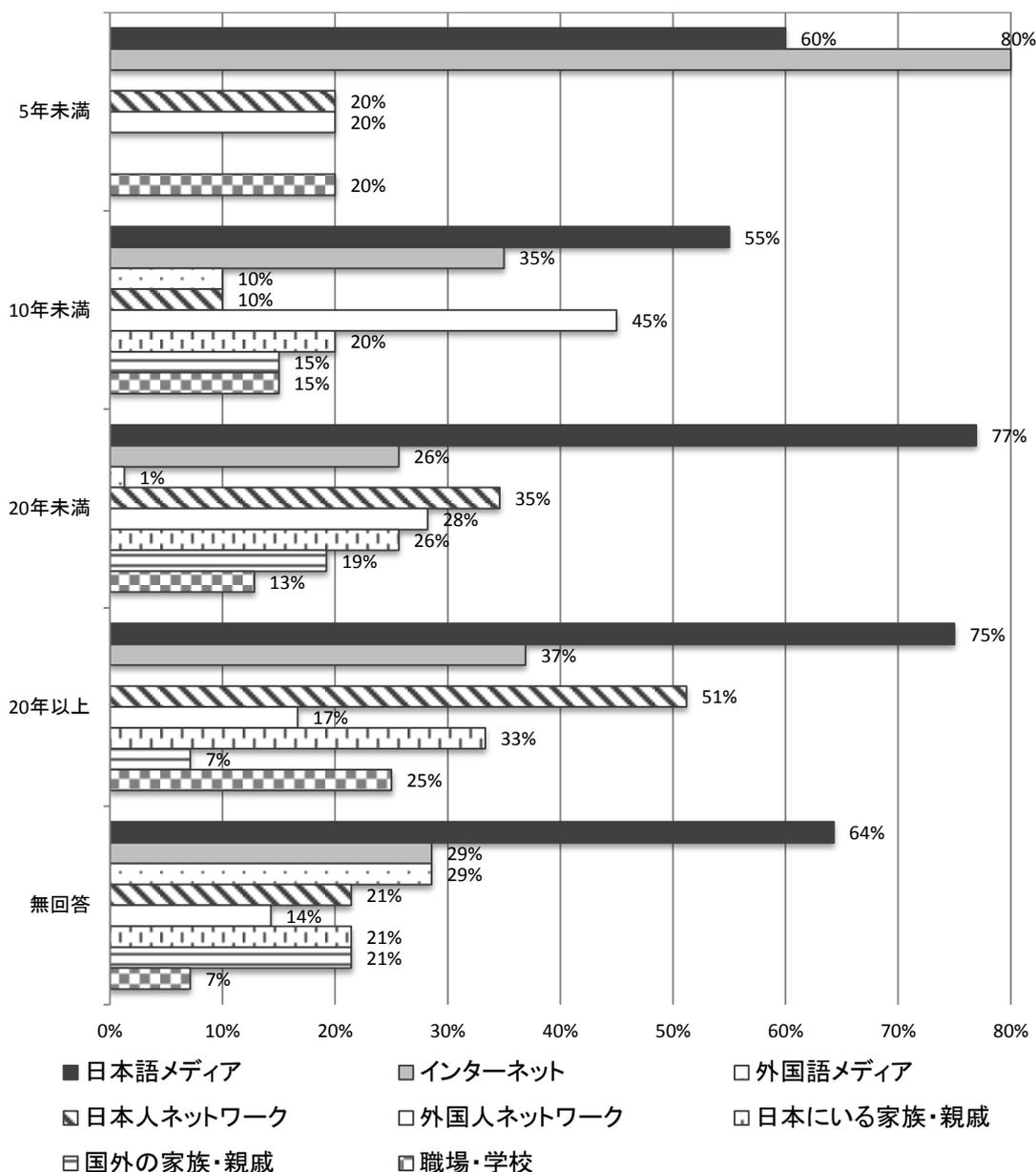


図46-2 日本居住年数別地震後の情報入手方法(N=201、問46に無回答の回答者を除いた割合)

在留資格別に地震直後に得た情報の入手先を見ると、永住者、特別永住者、日本人の配偶者、定住者では日本語メディアの割合が最も高く 60%を超えている。留学ではインターネットが 100%に達した。家族滞在ではインターネット、外国人ネットワーク、国外の家族・親戚、職場・学校が 50%で並んだ。技術・人文知識・国際業務では外国人ネットワークと国外の家族・親戚が 50%となった。また、永住者、特別永住者では日本人ネットワークも 2 番目に高い割合となっている。

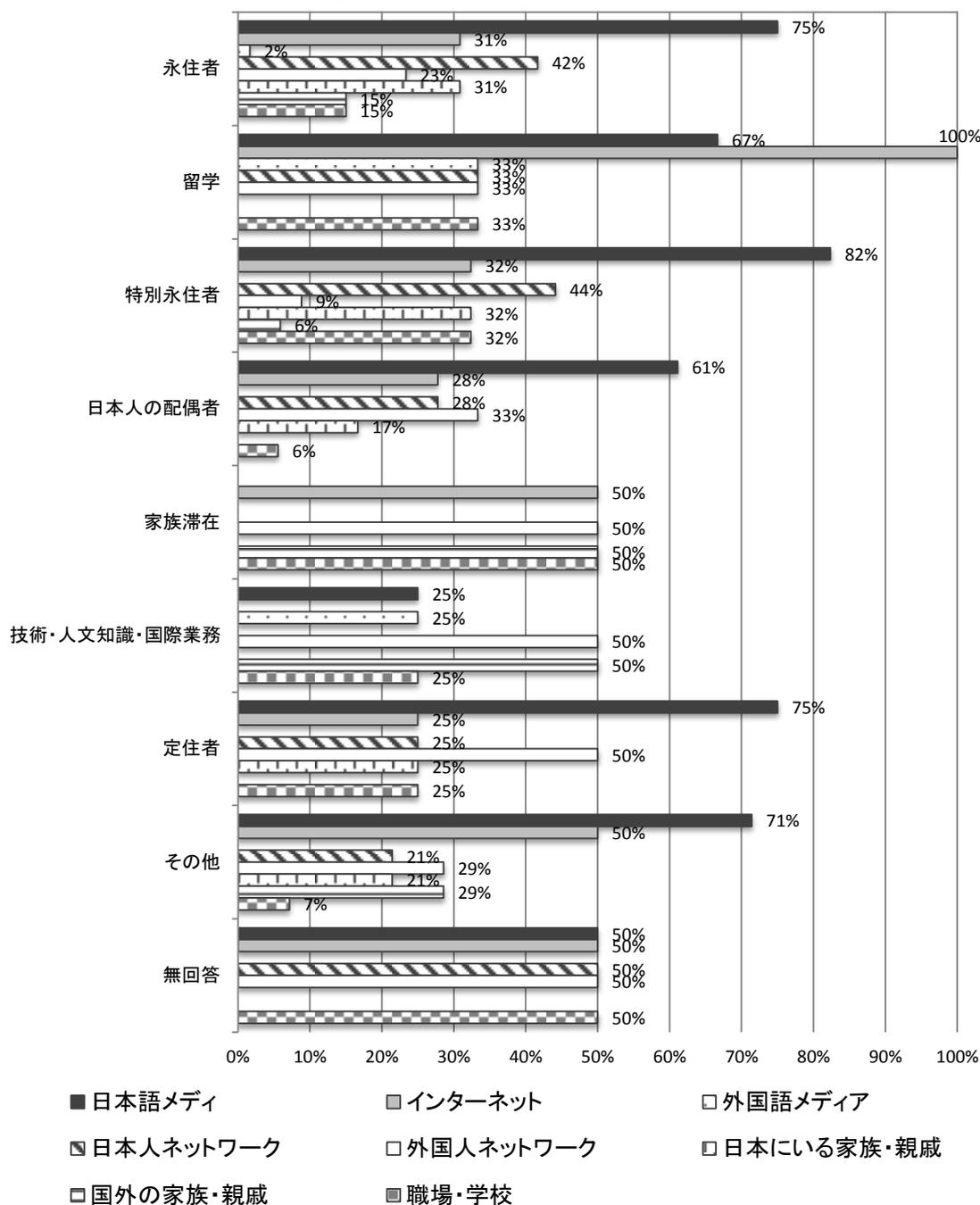


図46-3 在留資格別地震後の情報入手方法(N=201、問46に無回答の回答者を除いた割合)

(47) 地震についての知識

宮城県で地震が多いことを知っていた割合は 61.8%となっており、知らなかった割合 34.1%を上回っている。

問 47 宮城県では地震が多いことを知っていましたか

表 47 地震についての知識

	N	%
知っていた	134	61.8%
知らなかった	74	34.1%
無回答	9	4.1%
計	217	100%

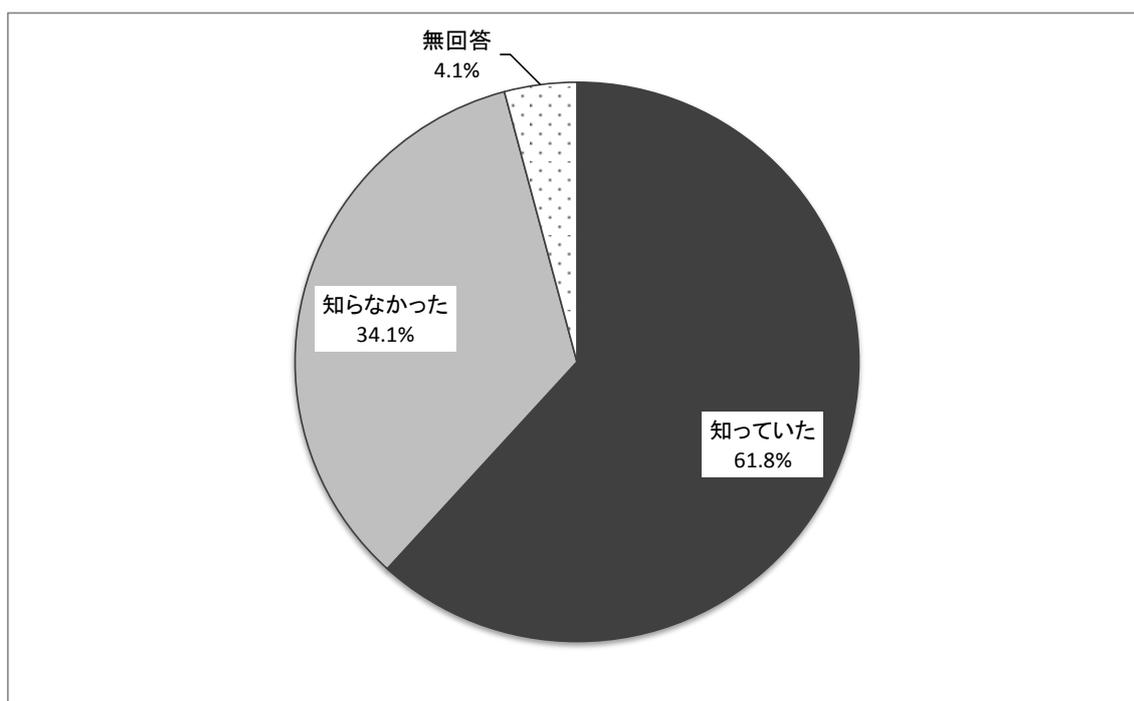


図 47 地震についての知識

在留資格別に地震についての知識を見ると、家族滞在以外の在留資格で知っていたが60%を超えた。家族滞在では知っていた、知らなかったが50%で拮抗している。このほか知らなかったは永住者、留学、定住者で30%を超えている。

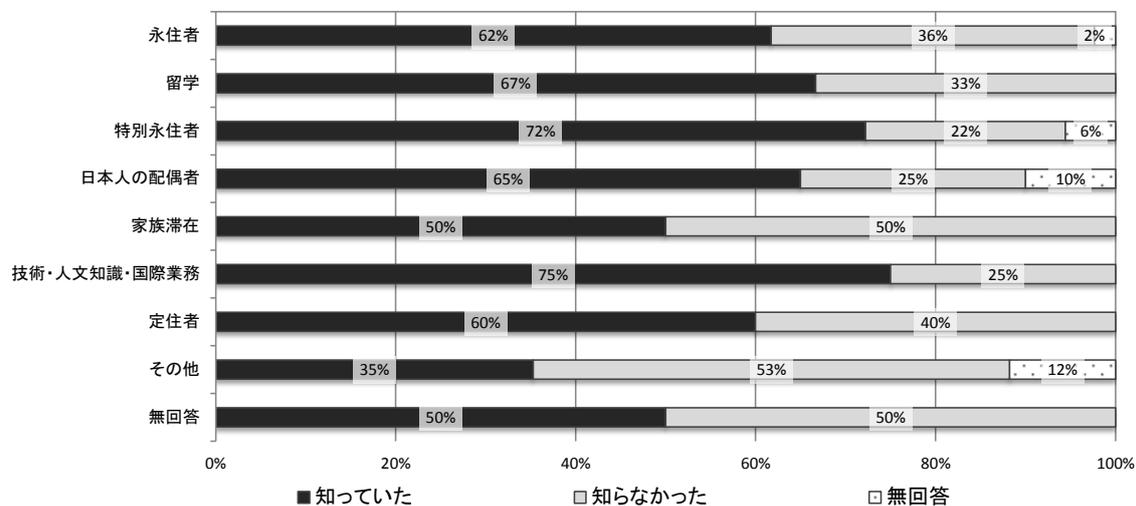


図47-2 在留資格別地震についての知識の分布 (N=217)

日本の居住年数別に地震についての知識を見ると、20年未満以外の居住年数で知っていたが60%を超えた。知らなかったは5年未満、10年未満、20年未満で回答がおよそ40%近くあるが、20年以上では26%と割合が低下する。

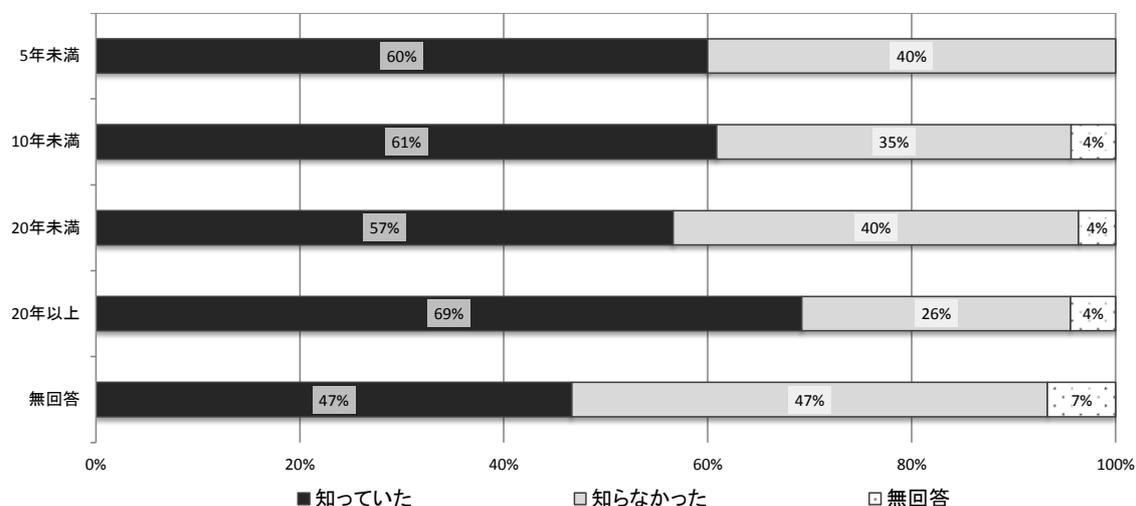


図47-3 日本居住年数別地震についての知識の分布 (N=217)

(48) 津波についての知識

地震発生後に津波が来る可能性があることを知っていた人の割合は 50.2%で、知らなかった人の割合 46.1%をやや上回った。なお、津波が来る可能性があることを知っていた割合は、地震が多いことを知っていた割合と比べると 10 ポイント以上低くなっている。

問 48 地震発生後には、津波が来る可能性があることを知っていましたか

表 48 津波についての知識

	N	%
知っていた	109	50.2%
知らなかった	100	46.1%
無回答	8	3.7%
計	217	100%

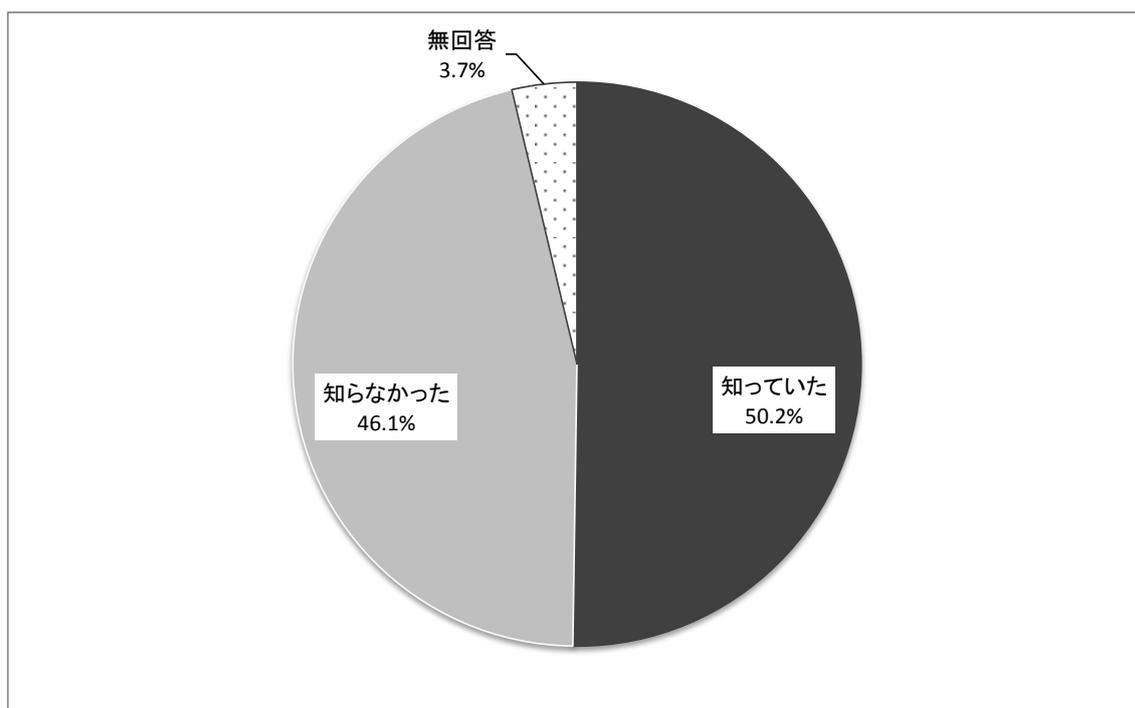


図 48 津波についての知識

在留資格別に津波についての知識を見ると、知っていたと回答したのは留学で100%となったほか、技術・人文知識・国際業務、定住者で60%を超えた。永住者、特別永住者、日本人の配偶者、家族滞在、定住者では知らなかったが40%以上となっている。

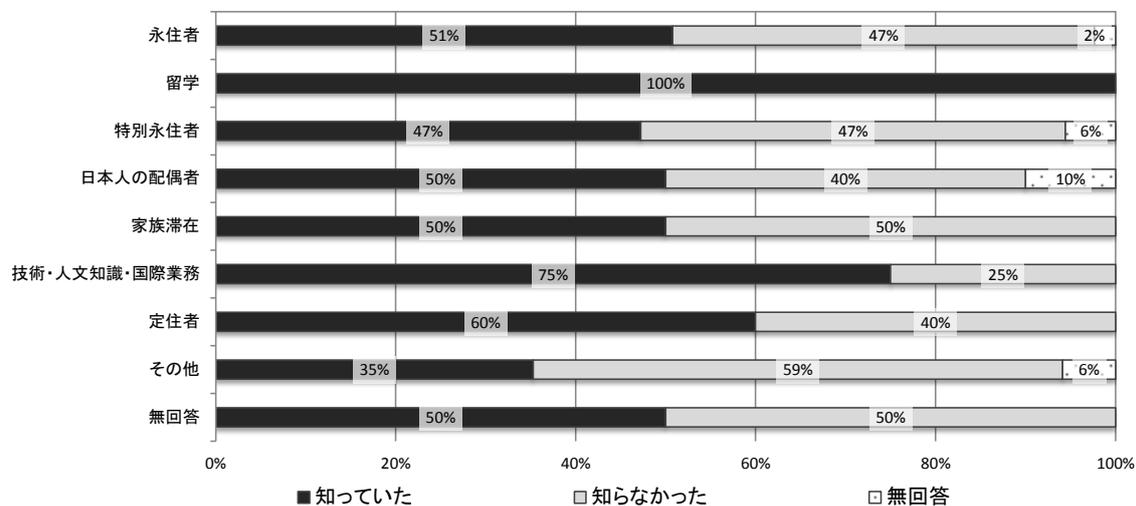


図48-2 在留資格別津波についての知識の分布 (N=217)

日本の居住年数別に津波についての知識を見ると、5年未満で60%が知っていたと回答した。一方の知らなかったはすべての居住年数で40%を超え、20年未満で49%と最も高い。

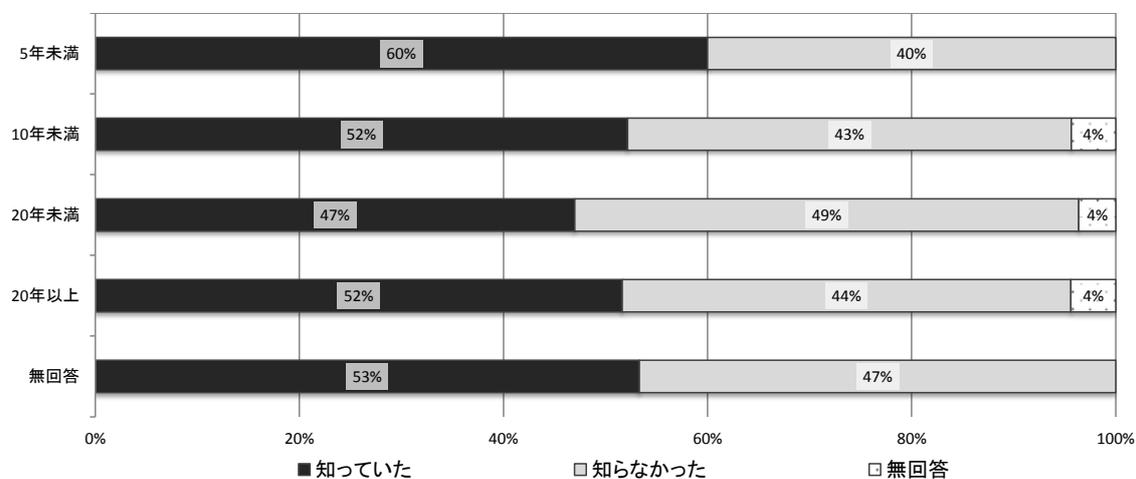


図48-3 日本居住年数別津波についての知識の分布 (N=217)

日本語を話す・聞く能力別に見ると、日本語を話す・聞く能力が高い人では知っていたが56%となったのに対し、日本語を話す・聞く能力が中程度の人と低い人では知らなかったが55%以上となっている。

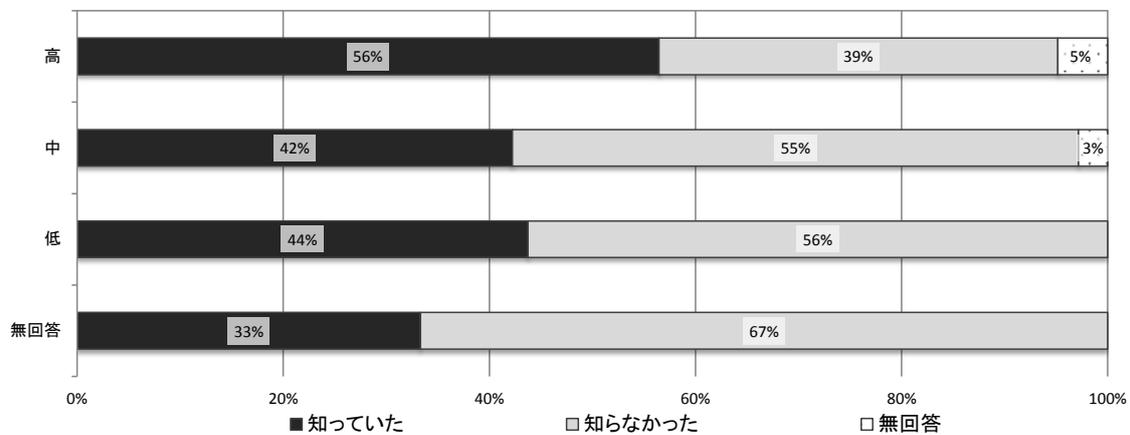


図48-4 日本語能力(話す・聞く)別津波についての知識の分布(N=217)

(49) 地震・津波についての知識の入手先

地震や津波についての知識を獲得した方法について見ると、家族や友人などから聞いた人が最も多く、29.1%となっている。また、日本に来る前から知っていた人の割合も21.7%と比較的高い。その他の入手先については、いずれも10%を下回っている。

問 49 それをどのようにして知りましたか

(問 47・問 48 で「知っていた」と答えた人)

表 49 地震・津波についての知識の入手先

	N	%
家族や友人などから聞いた	51	29.1%
日本に来る前から知っていた	38	21.7%
自分で勉強した	16	9.1%
先生から聞いた、または学校の資料で見た	12	6.9%
防災訓練に参加した時に知った	7	4.0%
職場で聞いた	4	2.3%
その他	22	12.6%
無回答	25	14.3%
計	175	100%

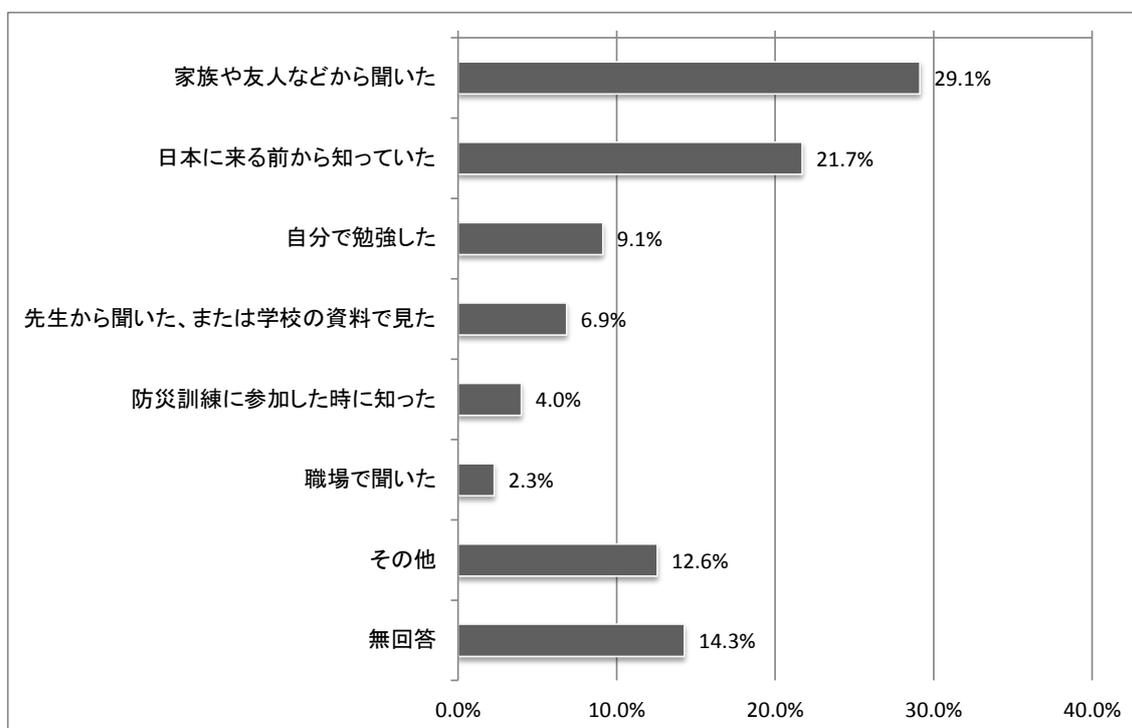


図 49 地震・津波についての知識の入手先

(50) 防災用語についての知識

4つの防災用語の意味を知っているかどうかを見ると、最も意味が知られている津波であり、67.7%の人が「意味も知っている」と回答している。避難は57.1%、注意報は52.3%、警報は52.5%の人が「意味も知っている」と回答している。これに対し、高台については「意味も知っている」と答えた割合は42.7%にとどまり、32.8%が「知らない」と回答している。

問 50 『津波』、『高台』、『避難』、『注意報』、『警報』の意味を知っていますか。

震災を経験した方は、経験前に知っていたかについてお答えください

表 50 防災用語についての知識

	津波		高台		避難		注意報		警報	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
聞いたことがある	76	19.2%	79	19.9%	80	20.2%	92	23.2%	86	21.7%
意味も知っている	268	67.7%	169	42.7%	226	57.1%	207	52.3%	208	52.5%
知らない	33	8.3%	130	32.8%	71	17.9%	78	19.7%	82	20.7%
無回答	19	4.8%	18	4.5%	19	4.8%	19	4.8%	20	5.1%
計	396	100%	396	100%	396	100%	396	100%	396	100%

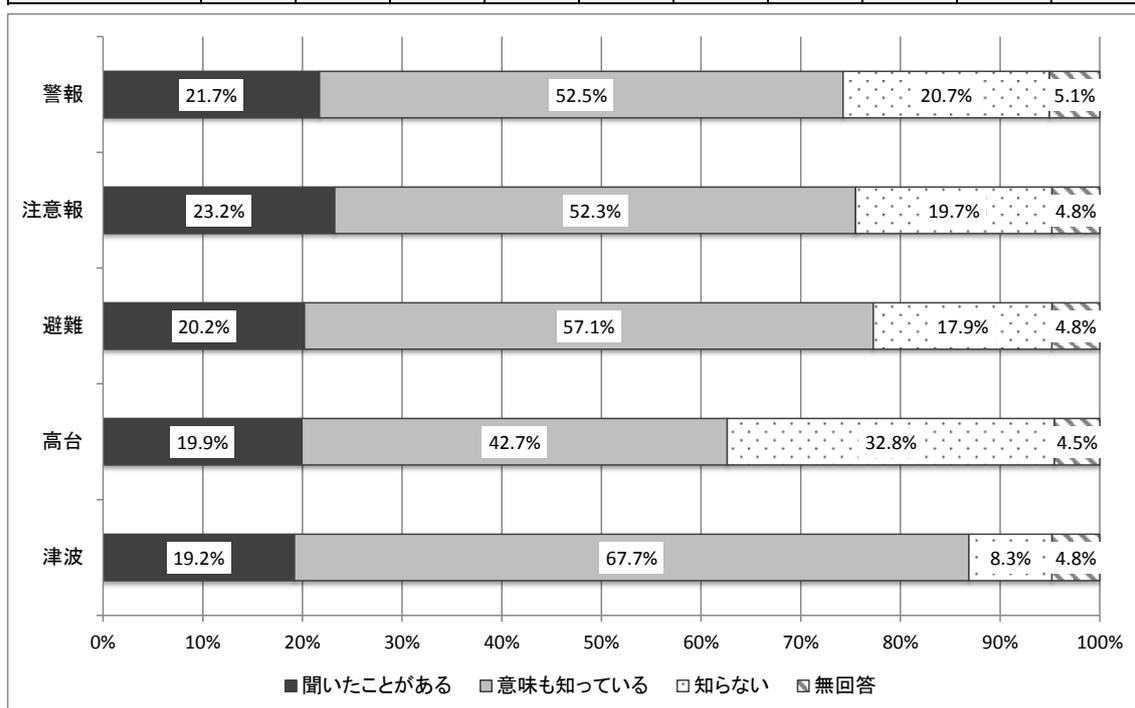


図 50 防災用語についての知識

日本の居住年数別、日本語能力別に防災用語の知識の分布を見ると、津波以外の用語については日本居住年数が長くなるほど知らないと回答した割合が低下する傾向が見られた。日本語を読む能力ではすべての防災用語で能力が高くなるほど知らないと回答する割合が低下した。日本居住年数が5年未満の人で高台を知らない割合は51%、避難を知らない割合は31%、注意報を知らない割合は36%、警報を知らない割合は38%となっているが、日本居住年数が20年以上の人では高台を知らない割合が11%となった以外は、すべての防災用語で知らない割合は10%未満となった。

日本語を読む能力が低い人では津波以外の防災用語を知らない割合は50%を超えたが、日本語を読む能力が高い人では高台を知らない割合が20%となった以外は、すべての防災用語で知らない割合は10%以下となった。

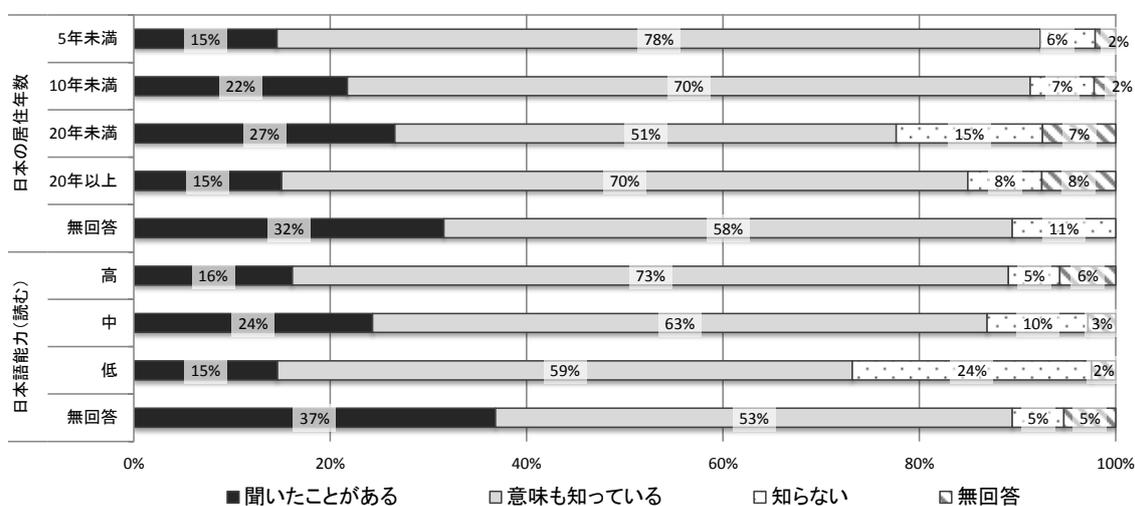


図50-2 日本居住年数・日本語能力別防災用語の知識の分布(津波) (N=396)

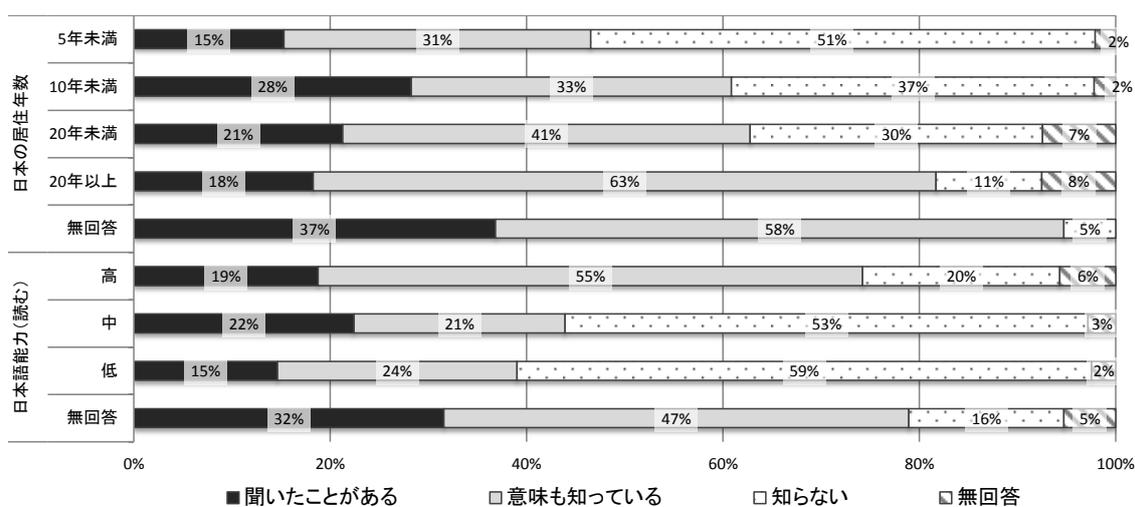


図50-3 日本居住年数・日本語能力別防災用語の知識の分布(高台) (N=396)

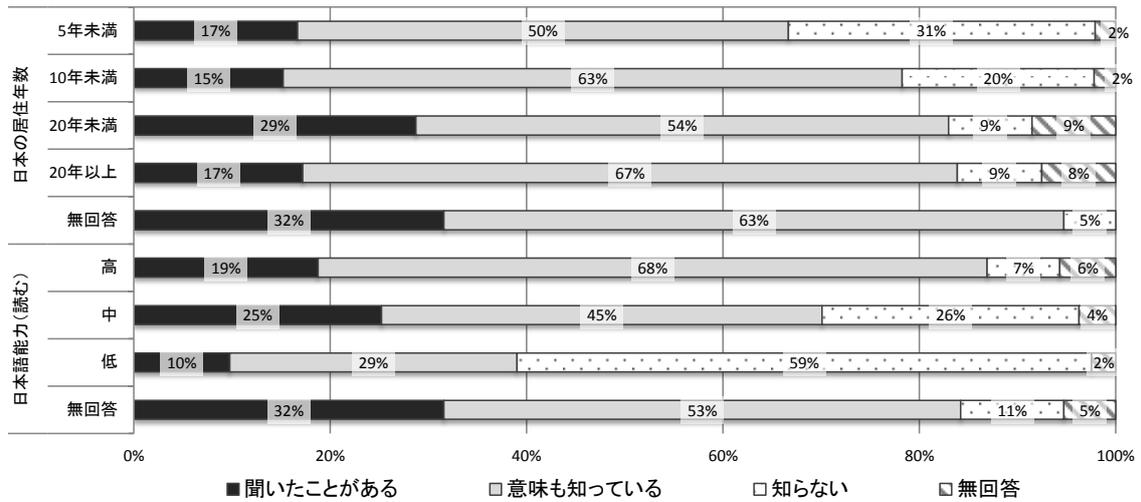


図50-4 日本居住年数・日本語能力別防災用語の知識の分布(避難)(N=396)

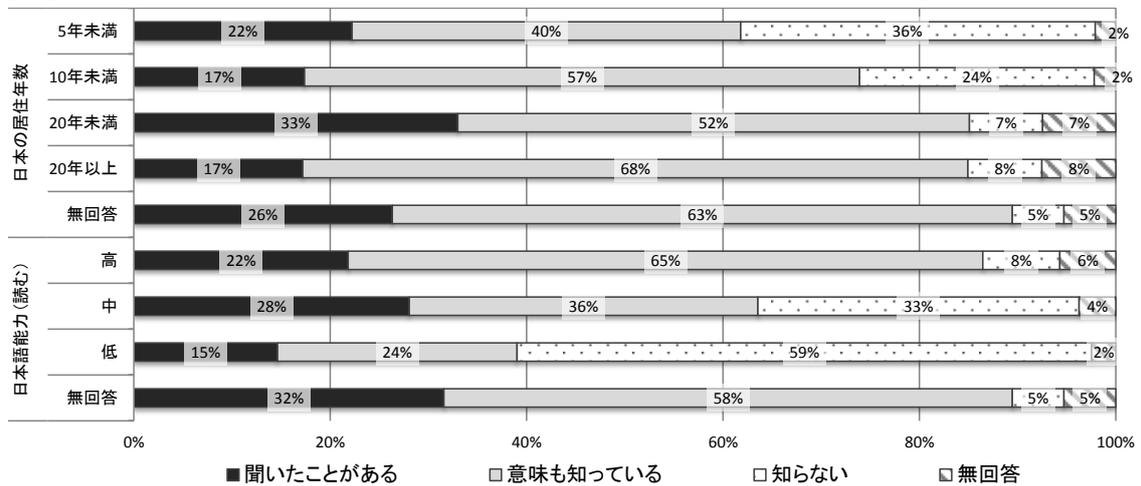


図50-5 日本居住年数・日本語能力別防災用語の知識の分布(注意報)(N=396)

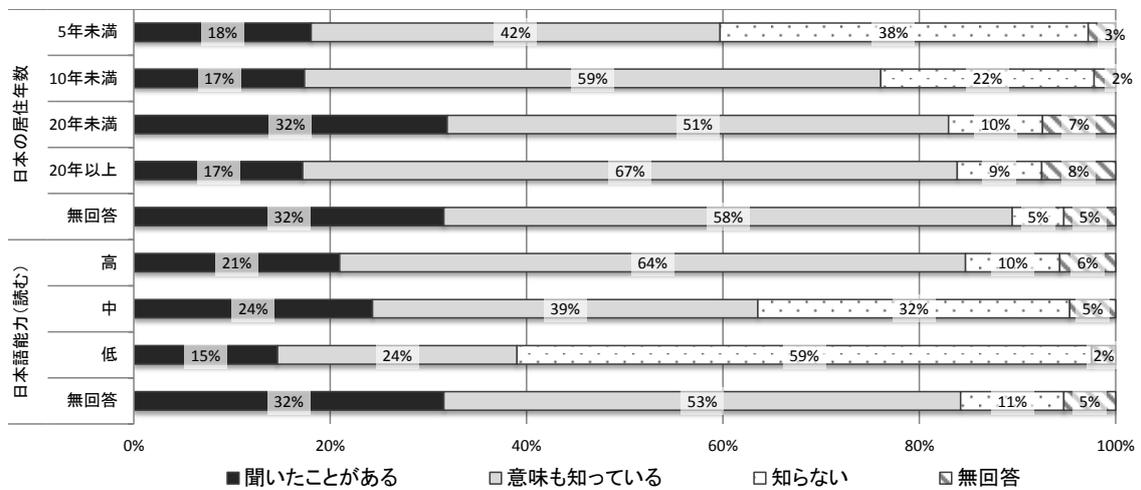


図50-6 日本居住年数・日本語能力別防災用語の知識の分布(警報)(N=396)

(51) 災害から身を守る方法

災害から身を守るために必要なものとしては、「防災用品を準備する」が74.2%と最も多くの人を選択している。次いで「災害に関する知識を身につける」が70.7%、「避難所の場所や避難経路を確認しておく」が64.4%、「住宅の耐震化や家具の固定を行う」が32.6%となっている。

問 51 災害から自分の身を守るために、必要であると感じていることは何ですか

(3つまで)

表 51 災害から身を守る方法

	N	%
防災用品を準備する	294	74.2%
災害に関する知識を身につける	280	70.7%
避難所の場所や避難経路を確認しておく	255	64.4%
住宅の耐震化や家具の固定を行う	129	32.6%
日ごろから近所との交流を持つ	74	18.7%
日本語の学習をする	72	18.2%
母国語での情報提供を受ける	58	14.6%
その他	4	1.0%
無回答	18	4.5%
計	396	100%

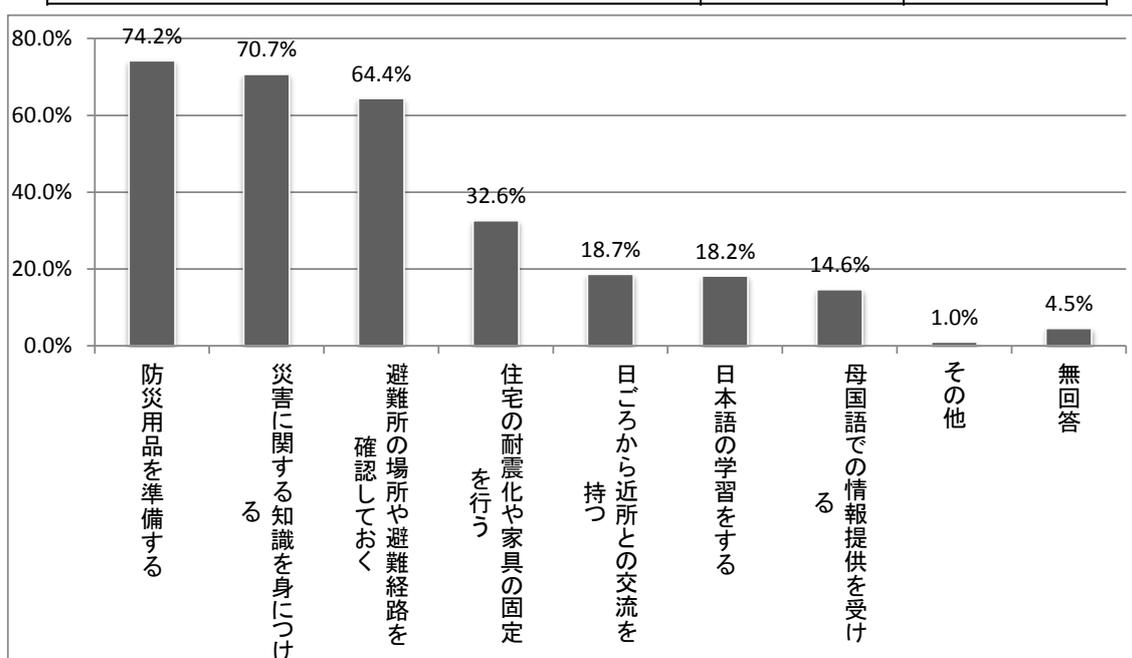


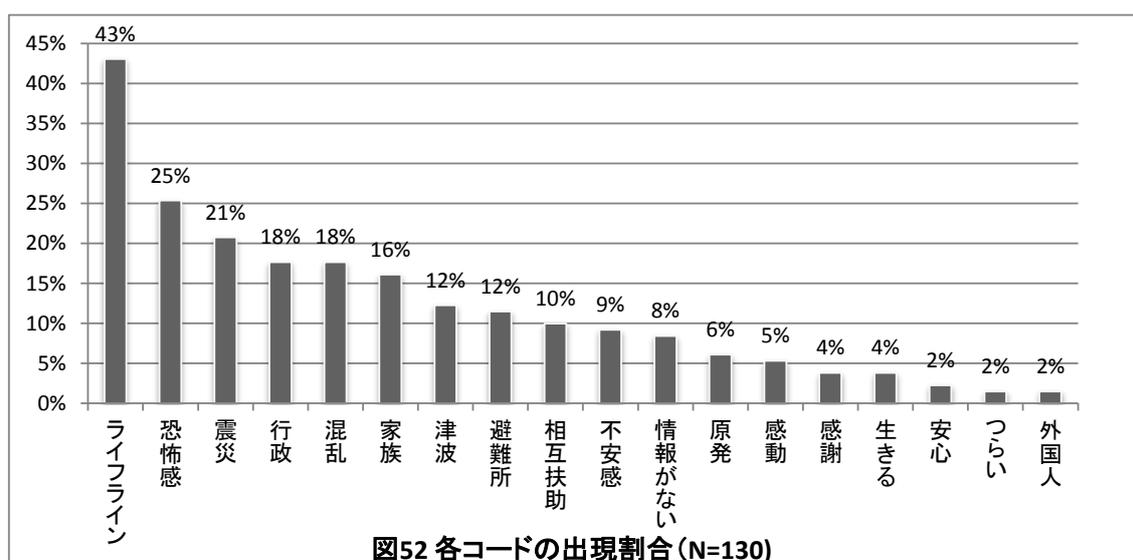
図 51 災害から身を守る方法

(52) 震災の経験で感じたこと【自由記述】

震災の経験についての記述から、よく用いられる要素を抽出し、以下の19個のコードを作り、これをもとに記述を分類すると、「ライフライン」に言及したものが最も多く、全体の43%にあたる。次いで、「恐怖感」に含まれる語に言及したものが25%、「震災」に言及したものが21%、「行政」、「混乱」にふれるものが18%となっている。

表 52 各コードの定義

震災	震災, 大震災, 東日本大震災, 災害という言葉が用いられているもの
津波	津波に言及している
原発	原発, 原子力, 放射線, 原発事故等に言及しているもの
ライフライン	ガス, 水道, 電気, ライフライン, 食料, 飲料がない, または, 不足していたことに言及しているもの
不安感	不安感, 心配, 不安, 心細いなどという記述があるもの
恐怖感	怖い, 恐ろしい, ショック, 心細いなどの記述があるもの
つらい	悲しい, つらい, 苦しいなどの記述があるもの
感動	素晴らしい, すばらしい, 感動, 感激などの記述があるもの
感謝	感謝またはありがたいという記述のあるもの
情報がない	情報がないという記述があるもの
行政	行政, 日本政府, 国などの記述があるもの
安心	安心, 安心感, 落ち着くなどの記述があるもの
近所の人	町内会, 隣人, 周りの人などの記述があるもの
相互扶助	相互扶助, 助け合う, 絆などの記述があるもの
避難所	避難所または避難という記述のあるもの
混乱	混乱, パニック, ショックなどの記述があるもの
外国人	外国人または外国人住民という記述があるもの
家族	家族, 配偶者, 夫などの記述があるもの
生きる	生きる, 命という記述があるもの



各コード間の関連、また、居住地域ごとに現れるコードに違いがあるのかをみると、「震災」、「ライフライン」、「家族」、「恐怖感」などについての記述は地域を超えて共通する一方、各地域に特有の記述もある。以下では、各地域の回答者の記述の中で特徴的なものをあげながら、各地域の特徴をみていく（回答者の記述については編集なし）。

【仙台市】

「津波」、「相互扶助」、「不安感」についての記述が多く見られたほか、「避難所」、「家族」などにも言及されているケースが見られる。

ライフラインの復旧状況の知らせが遅いと感じた。我家では、高齢の母が（90才代）いるので、特に電気の復旧は大切に思えた。被害の大きかった（津波等、家屋の損壊による被害者）地域には、マスコミによる情報も早いし、光も当たるが、他の軽い被災者には、余りなかったとように感じた。又、行政の対応ももう少し素早く迅速かつ正確な流れがほしかった。緊急時は、何かと誤報が多く、いかに正しい内容の情報がと思えてならなかった。（特別永住者）

私は女川町の海の近くに住んでいたため、津波で家など全て流されてしまいました。被災中は住む家もなく仕事もなく困窮した生活を送りました。（永住者）

自然災害の恐ろしさ、互いに助け合う共助の必要性。（永住者）

①震災後（3月13日）、海の近くに行ってきました。流木と泥に半分埋まった家を見て、涙をながしました。②日本政府行動力（・各小学校、中学校、避難場所などで食べものと飲みものをもらうこと。・電気、ガスなどの回復、及び、地震後仙台市と隣の市、県、街のともと姿へのもどり）。③今でも、福島放射能の心配。（日本人の配偶者等）

特に子供のことを思うと、最初はとても怖かった。しかし、その後地元の人々の反応を見て、日本人の生き方を理解した。私はより我慢強くなり、地震に備えるようになった。結局のところ自然災害なのだから。（家族滞在）

【仙南地域】

「情報がない」が最も多く、「原発」への言及も見られた。「生きる」についても言及されている。

英語の情報なかった。地震発生後しばらくの間は情報を手に入れることができなかった。（永住者）

防災訓練に参加したことがあるので助かりました。情報がなかなか届けなかったので、正しい行動が難しかったです。(永住者)

原発事故に関する情報が不足していた。(永住者)

自分の身は自分で守る。人は簡単に死ぬ。(特別永住者)

【仙台地域】

「感動」、「感謝」へ言及している割合が他の地域と比較して高く見られた。このほか「相互扶助」についても多く触れられている。

今回の地震でとても感動したのが、日本人の教養や気質。とても素晴らしい。(定住者)

日本の国、震度は別にして地震が頻繁に起きる。3.11のような想像以外の強い地震が一生忘れられないぐらい。特に避難中の人々達が国籍を問わず、お互いに助けあう様子を見たらとても感動した。(永住者)

地域の人々に従った。どうしたらいいかわからなかったが、アドバイスをもらったら我に返った。ありがとうございました。(技能実習)

【大崎地域】

「感謝」、「生きる」について言及されていたほか、「ライフライン」、「行政」についても触れられている。

人とのつながりの大切さ。協力し合うこと。インフラ復旧の遅さ、自宅マンションの水道設備故障に伴う不便さ。(特別永住者)

日本の文化やマナーを学ぶのに近所の人とのコミュニケーションが大変重要だと思った。私たちはひとつになったし、助け合いはとても感謝すべき経験となった。(永住者)

初めて体験する地震だったので、とても怖かったし衝撃を受けた。当時は帰国したいと思った。(定住者)

【栗原地域】

「震災」について多く言及しているケースが見受けられた。

とても怖かったです。ノイローゼになりました。地震が起きるたびにびっくりします。東日本大震災を思い出したら今でも涙が出ます。(永住者)

震災後、私の地域は落ち着いていて秩序が保たれていたのが助かった。そして近所の人たちはお互いに協力しあっていた。(特別永住者)

【登米地域】

「原発」への言及が多く見られたほか、「感謝」や「生きる」のキーワードに関連した記述が見られた。

たいへん、こわかった。たてものはゆれたけど、こわれなかったのでのちは、たすかった。しょうがっこうへひなんして、とまるどころと、たべものが、あったのでたいへんありがたかったです。じしん、つなみはてんさいですが、ふくしまのげんぱつは、あんぜんたいさくがふじゅうぶんで、あきらかに、じんさいです。てんさいより、じんさいのほうがこわいとおもいました。(永住者)

地震後、しばらく近くの小学校に避難しました。避難中、中華料理店を営んでいる10人ほどの中国人と知り合いました。彼らはあまり日本語が得意ではなかったので、私が通訳しました。通訳しながらボランティアにも参加しました。近くの仮設住宅に避難していた日本人に中華料理を配りました。外国人支援団体にも参加して、各地からの支援物資を住民たちに配りました。誰しもがお互いに助け合って避難生活を乗り越えました。国は違うけれど、困難に立ち向かう人々の熱心さにとても感動しました。(永住者)

山形に避難しました。放射能が怖くて、主人と義母と3人で山形のホテルで1週間を過ごしました。地震は怖いですが、日本にいたいし、愛する主人と義母と一緒に幸せです。日本政府には感謝しています。(永住者)

【石巻地域】

「家族」に対する言及や、「恐怖感」、「不安感」と言ったキーワードに関連する記述が多く見られた。

マレーシアでは地震がよくある現象ではないので、最初はショックを受けた。災害対策について聞いたことがなかったため、どうしたらよいかわからなかったが、今は地震が起こったときの安全対策について詳しく聞いているので、いざという時にはどうしてよいかわかっている。(留学)

一人で部屋にいて、本当に怖かったです。(永住者)

怖い。家族の心配・・・。(日本人の配偶者)

【気仙沼地域】

「行政」についての記述や、「混乱」、「情報がない」といったことに言及しているケースが多く見られた。

当時新潟県にいた。地震を感じてショックだった。あのような種類の地震を経験するのは初めてだったので、私も家族も不安になった。家族からすぐに帰国するように言われたが、断って震災の問題に向き合った。宮城に住んでいた友人に食料を運んだ。(技術・人文知識・国際業務)

日本人の規則意識が素晴らしかった。初めての大地震で母国に帰らず、停電や断水にも耐えましたが、もしもう一度このような大地震が発生したら、すぐ韓国に帰ります。(永住者)

情報が入らなかった。(永住者)

1 1 行政

(5 3) 行政施設を利用する上で困ったこと

行政施設を利用する上で困ったことについては、「ほとんどない」と回答する割合が 35.6%、「まったくない」と回答する割合が 34.1%であり、約 70%の人が問題をあまり感じていない。一方、「よくある」と回答する割合は 3.5%、「時々ある」と回答する割合は 22.5%となっている。

問 53 市役所や町役場、入国管理局などの行政の施設を利用するうえで、
困ったことがありますか

表 53-1 行政施設を利用する上で困ったこと

	N	%
よくある	14	3.5%
時々ある	89	22.5%
ほとんどない	141	35.6%
まったくない	135	34.1%
無回答	17	4.3%
計	396	100%

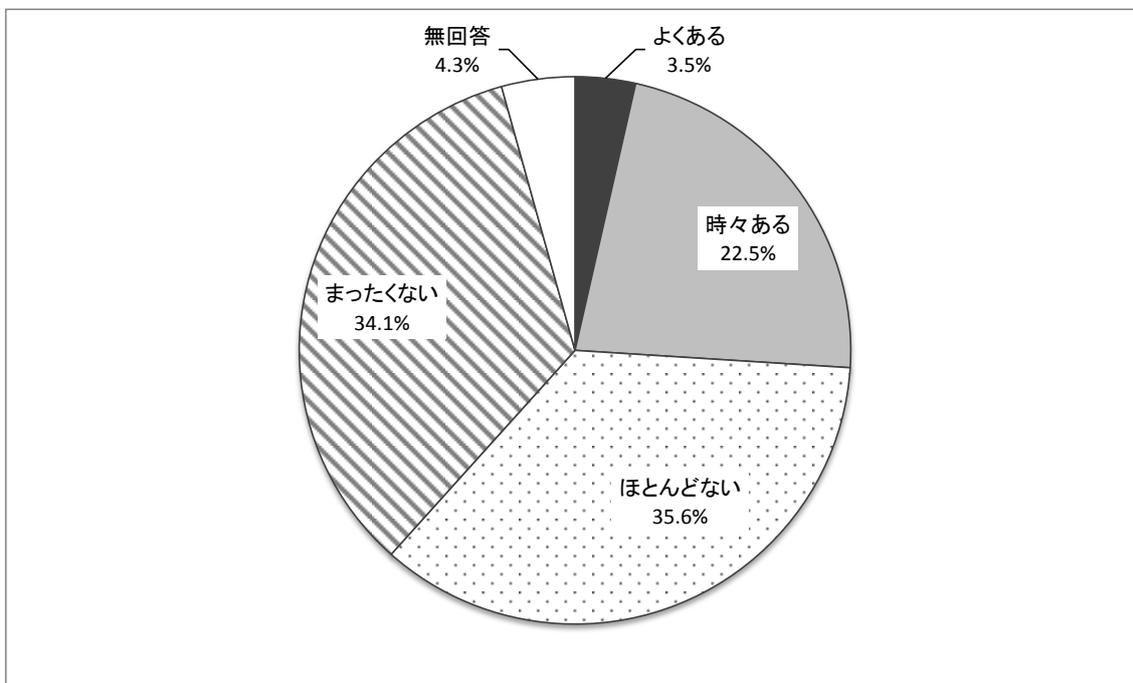


図 53-1 行政施設を利用する上で困ったこと

困ったことが「よくある」または「時々ある」と答えた人に対して、具体的な内容を聞いたところ、最も多かったのは「色々な書類をそろえるのが難しい」で53.4%、次いで「書類の内容、書き方がわからない」および「どのようなサービスがどこで受けられるのかわからない」が各39.8%、「窓口で言葉が通じない」が22.3%となっている。

表 53-2 どのようなときに感じたか

	N	%
色々な書類をそろえるのが難しい	55	53.4%
書類の内容、書き方がわからない	41	39.8%
どのようなサービスがどこで受けられるのかわからない	41	39.8%
窓口で言葉が通じない	23	22.3%
施設の場所、利用時間などの情報が入手できない	10	9.7%
その他	20	19.4%
無回答	4	3.9%
計	103	100%

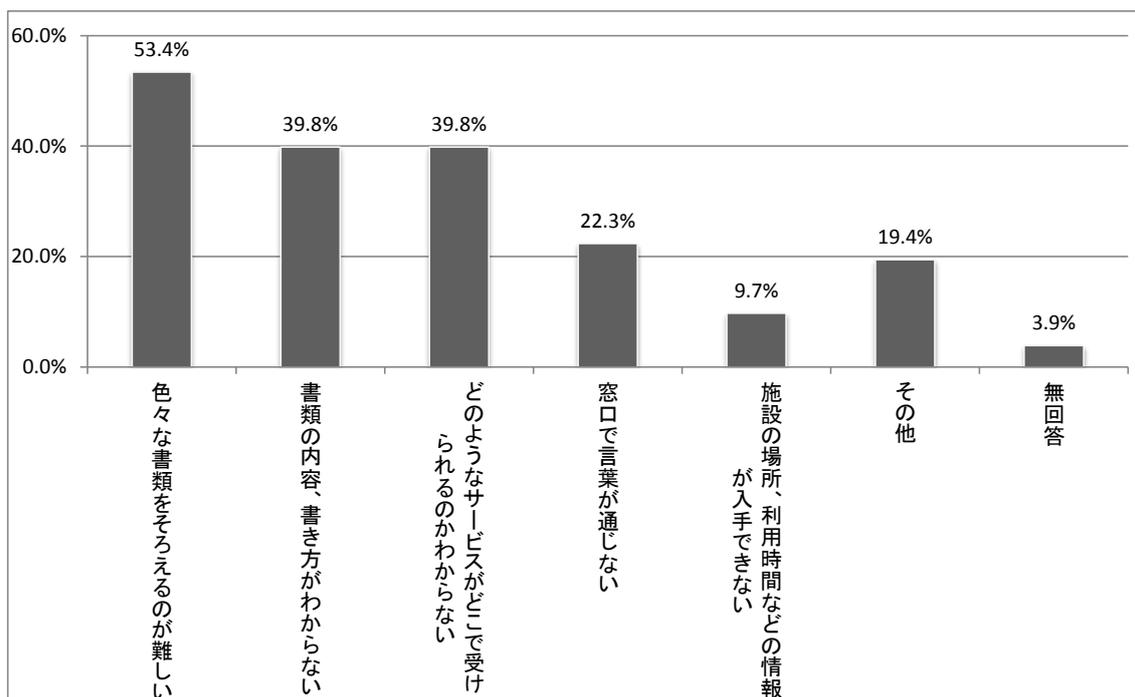


図 53-2 どのようなときに感じたか

国籍別に見ると、よくある、時々あると回答した割合は韓国・朝鮮籍、フィリピン籍、インドネシア籍で30%以上となっている。これに対して、ほとんどない、まったくないと回答した割合は中国籍、ベトナム籍、米国籍で70%を超えている。

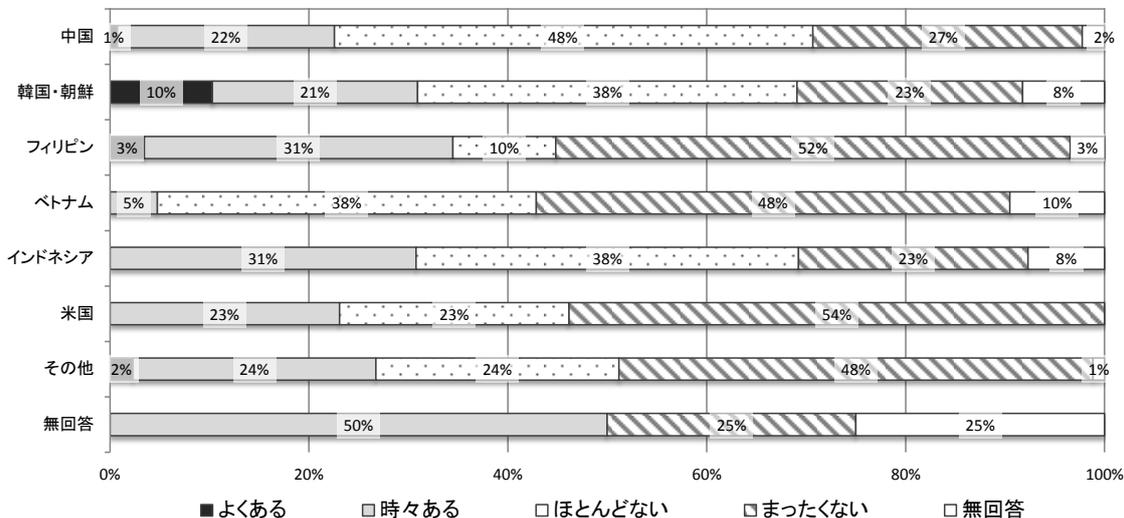


図53-3 国籍別行政施設利用で困ったこと(N=396)

在留資格別に見ると、よくある、時々あると回答した割合は日本人の配偶者が最も割合が高く49%となっており、永住者、特別永住者でも30%を超えている。これに対して、ほとんどない、まったくないと回答した割合は留学、技能実習、技術・人文知識・国際業務、教育、定住者で80%を超えている。

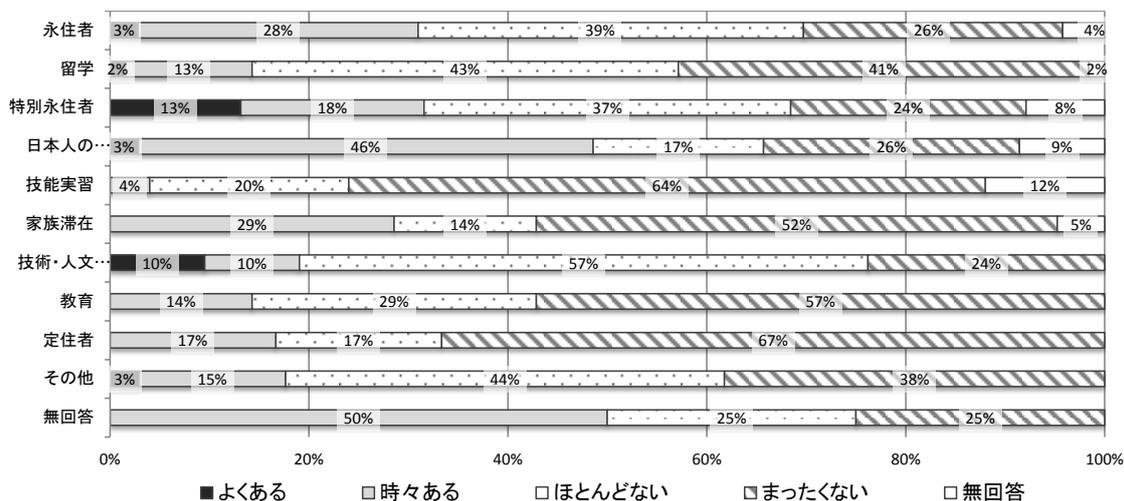


図53-4 在留資格別行政施設利用で困ったこと(N=396)

(54) 充実してほしい行政情報

行政に充実してほしい情報として最も多く挙げられているのは、「税金、健康保険、年金」で36.9%が選択している。次いで「病院・医療」が30.3%、「就職、雇用」が23.5%、「事故や災害など緊急時の対応」が22.2%となっている。

問 54 行政が提供する情報のうち、充実してほしい情報はありますか (3つまで)

表 54 充実してほしい行政情報

	N	%
税金、健康保険、年金	146	36.9%
病院・医療	120	30.3%
就職、雇用	93	23.5%
事故や災害など緊急時の対応	88	22.2%
在留資格、住民登録	66	16.7%
教育制度・学校	64	16.2%
ゴミの出し方	52	13.1%
地域での交流イベントや祭り・町内会行事	51	12.9%
外国語で相談できる窓口	49	12.4%
地域の日本語を学べる場所	48	12.1%
出産・育児	42	10.6%
通訳・翻訳などのボランティアに参加する方法	36	9.1%
公共交通機関	33	8.3%
公営住宅	26	6.6%
その他	4	1.0%
とくになし	63	15.9%
無回答	23	5.8%
計	396	100%

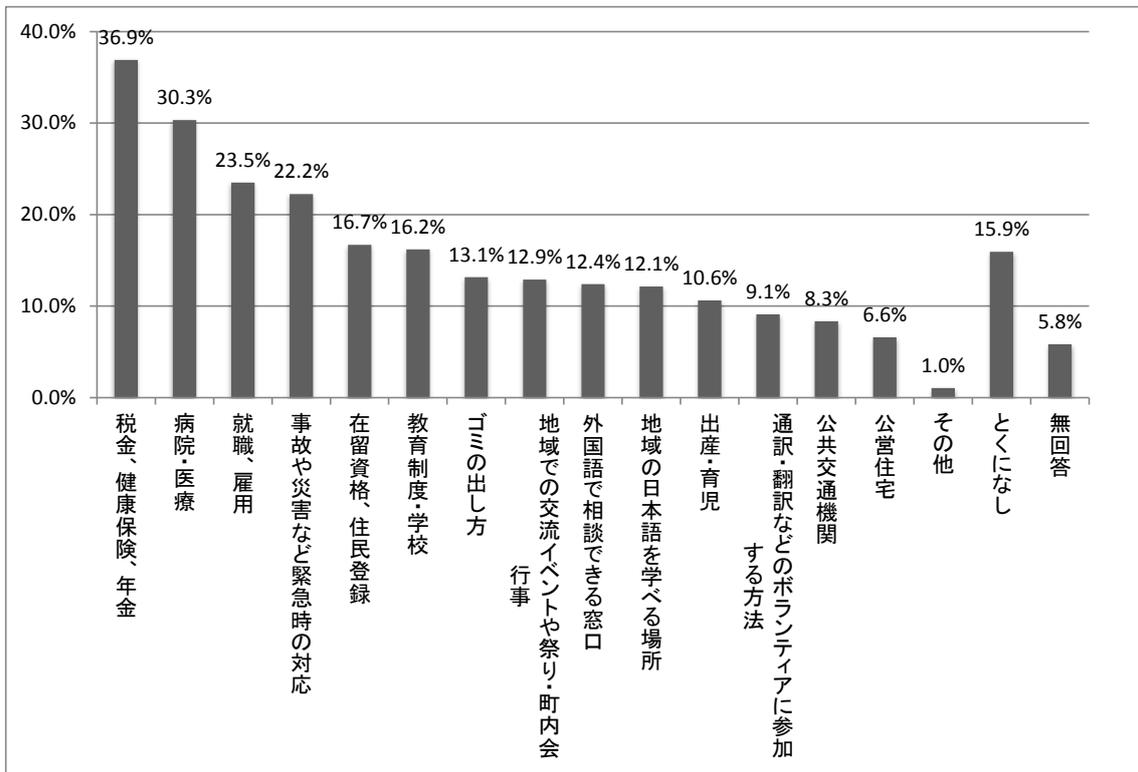


図 54 充実してほしい行政情報

充実してほしい情報として税金・健康保険・年金をあげる人の割合を見ると、年齢別では80歳代が最も多く67%となった。30歳代、40歳代、50歳代では40%を超えたが、60歳代、70歳代では割合が低下している。日本居住年数別に見ると居住年数によって大きな差は表れなかった。在留資格別では、家族滞在と定住者で50%を超えたのに対して、教育では14%と低い割合になっている。

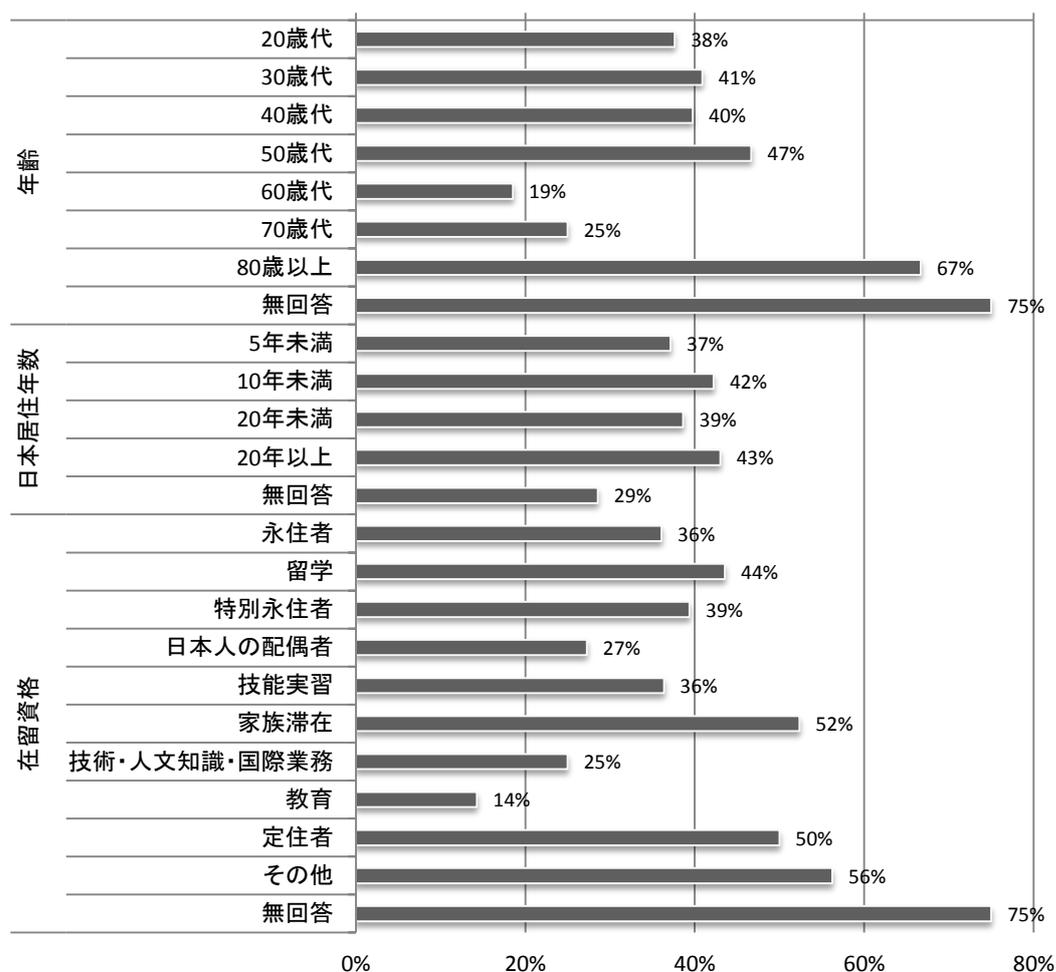


図54-2 税金・健康保険・年金を重視する割合 (N=373、問54に無回答の回答者を除く)

充実してほしい情報として病院・医療をあげる人の割合を見ると、国籍別ではフィリピン籍が最も多く46%となったほか、中国籍、インドネシア籍、米国籍で30%以上となった。在留資格別では、定住者で50%、家族滞在で40%となったが、技能実習では9%と割合が低くなった。日本語を読む能力別では、日本語を読む能力が低い人では47%となったのに対して、日本語を読む能力が高い人では28%と割合が低くなっている。

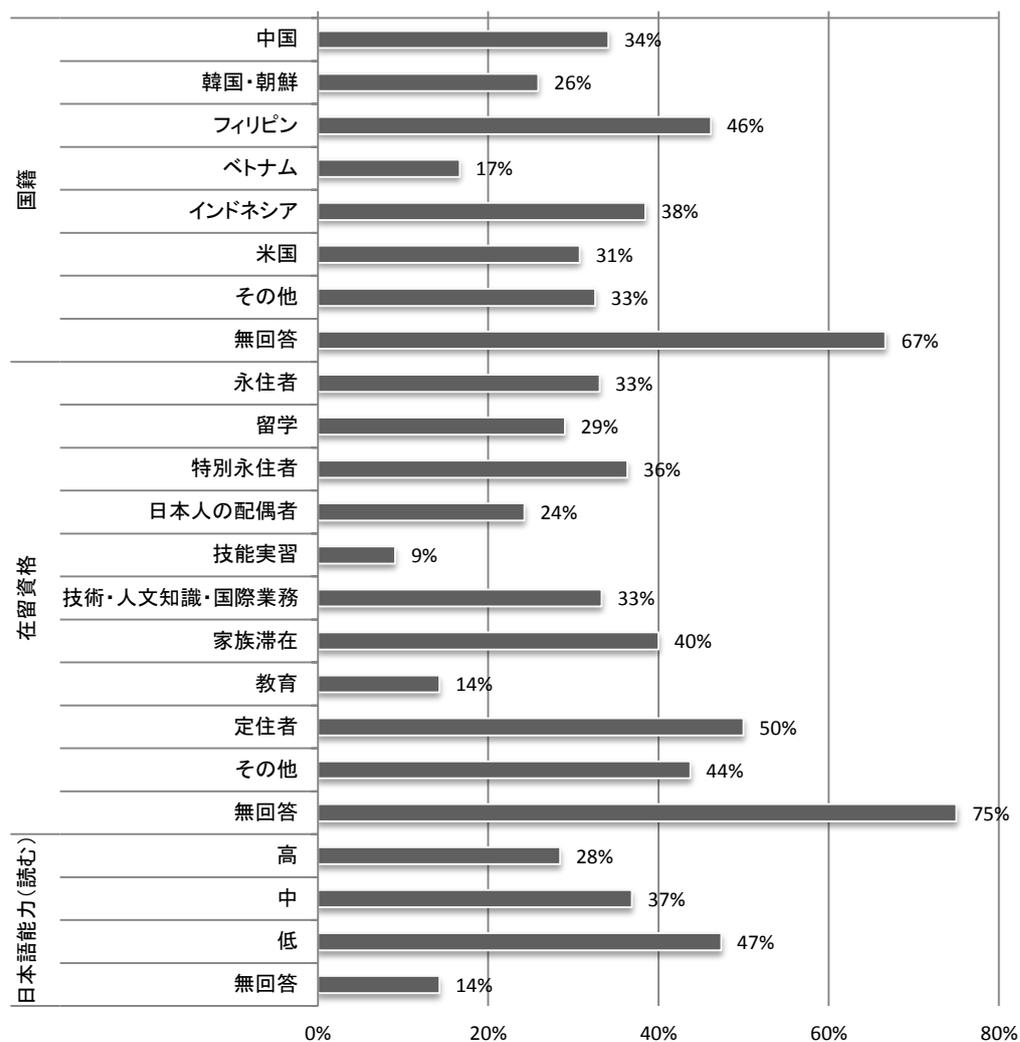


図54-3 医療・福祉を重視する割合(N=373、問54に無回答の回答者を除く)

充実してほしい情報として就職・雇用をあげる人の割合を見ると、雇用形態別では無職で仕事を探しているが50%と他の雇用形態と比べて割合が高くなった。在留資格別では家族滞在が40%、日本人の配偶者が33%となったのに対して、技能実習では9%、定住者では回答がなかった。

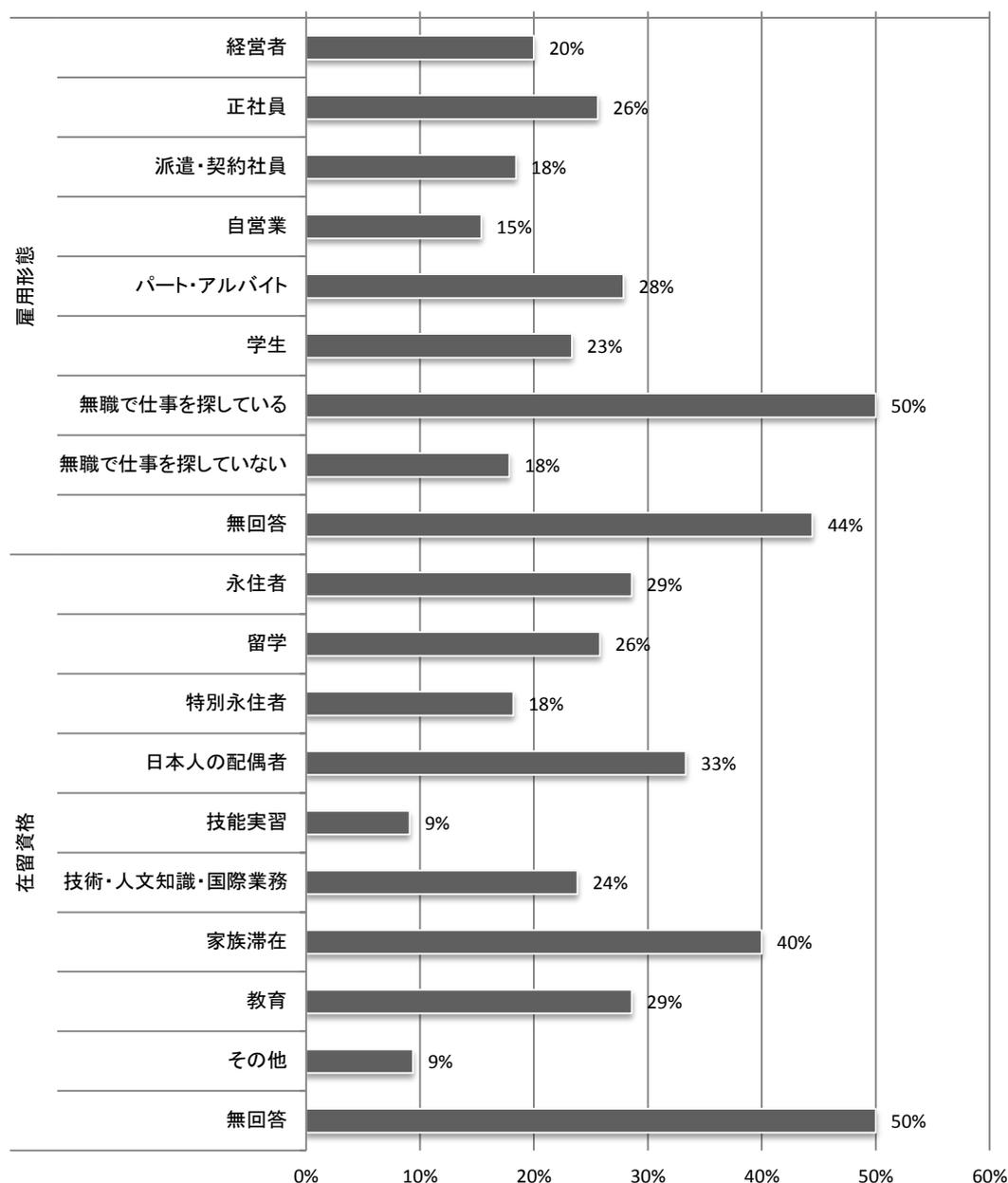


図54-4 就職・雇用を重視する割合 (N=373、問54に無回答の回答者を除く)

充実してほしい情報として事故や災害など緊急時の対応をあげる人の割合を見ると、年齢別では80歳以上で回答がなかったほか、他の年齢区分により大きな差は表れなかった。日本語を読む能力別でも能力の高低によって大きな差は見られない。日本居住年数別では20年未満が28%と最も高い。

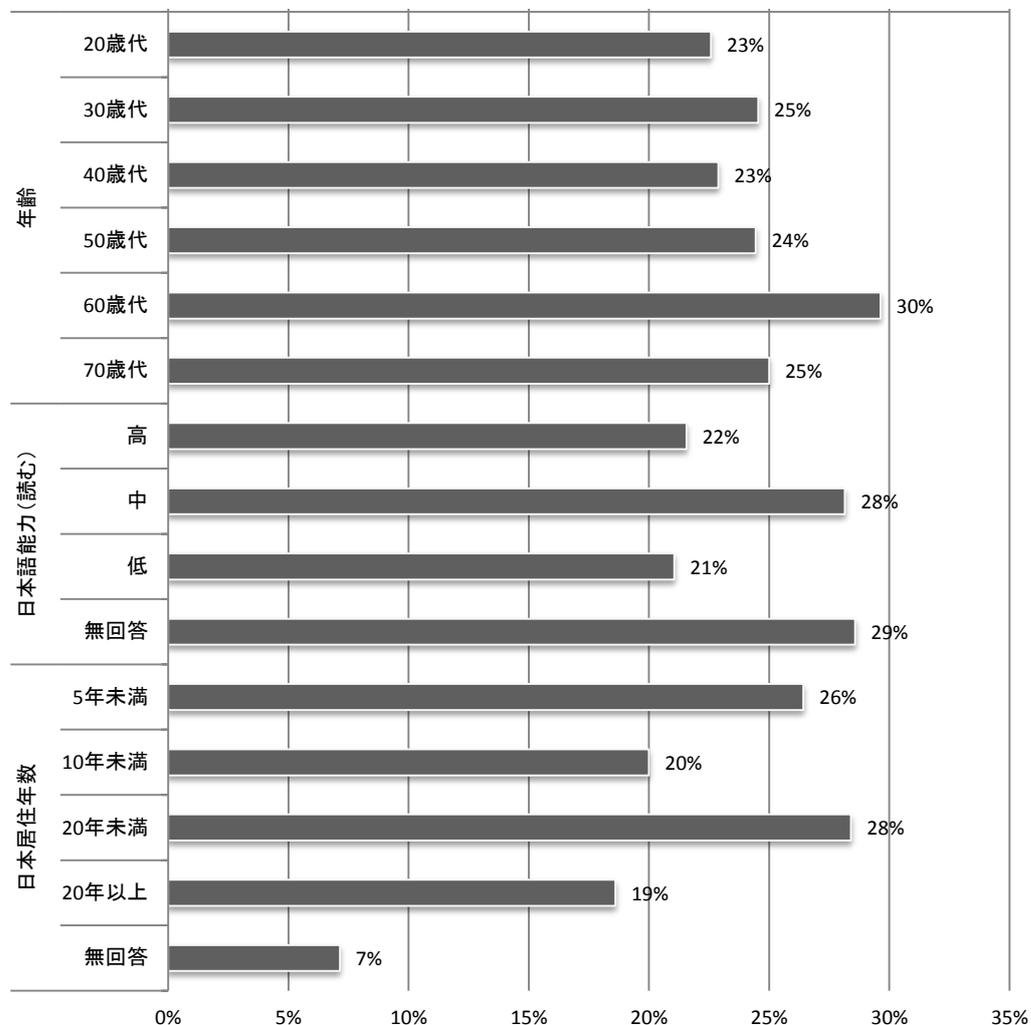


図54-5 災害・事故などの緊急時の対応を重視する割合(N=373、問54に無回答の回答者を除く)

充実してほしい情報として教育制度・学校をあげる人の割合を見ると、居住形態別では子どもありの人では32%となるのに対して、他の居住形態では10%以下に留まっている。国籍別では中国籍で26%となったのに対して、ベトナム籍、米国籍では回答がなかった。

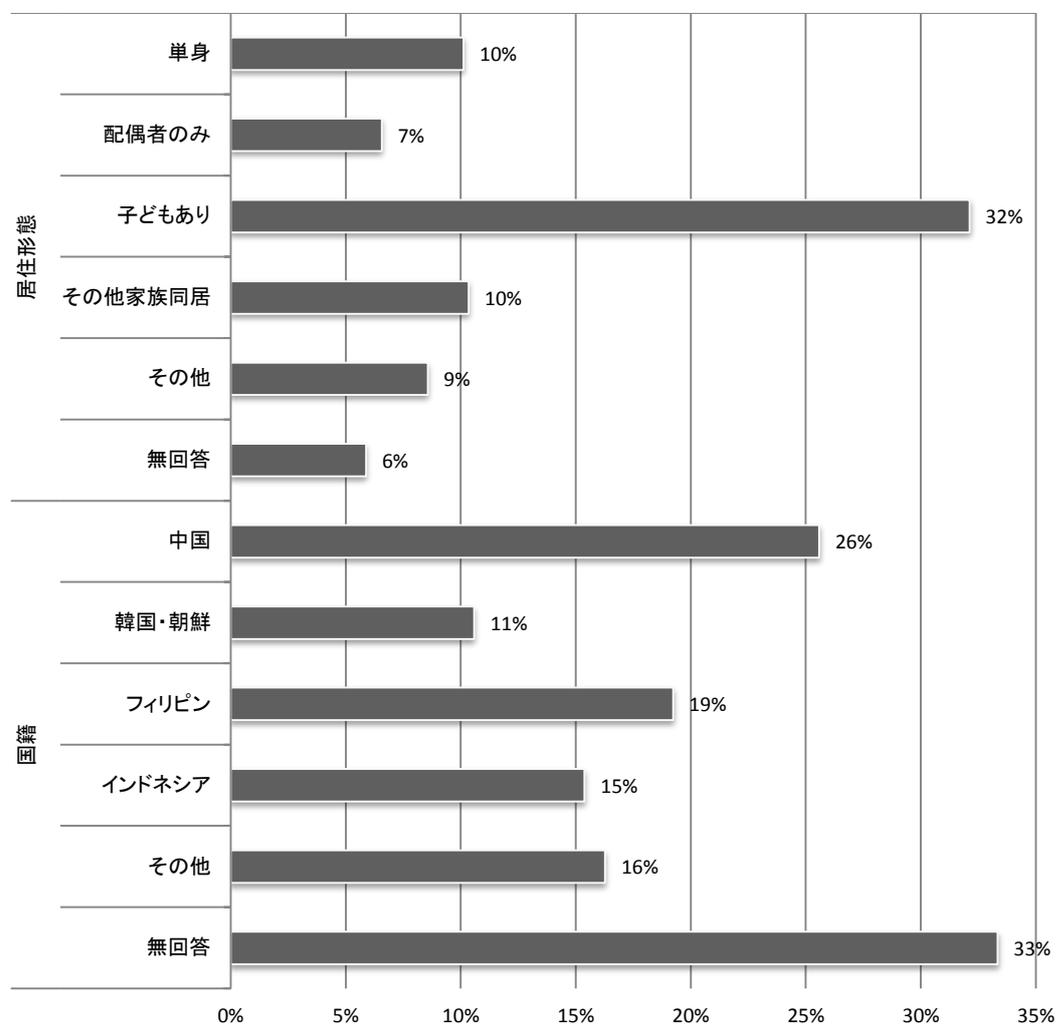


図54-6 教育制度・学校を重視する割合(N=373、問54に無回答の回答者を除く)

(55) 行政に求めること

行政に求めることを見ると、「外国籍住民が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる」と「外国籍住民の就職を支援する」をあげる人が各 37.4%と最も多く、次いで、「外国籍住民と日本人住民が交流する機会を増やす」が 27.5%、「外国語の生活情報の提供を充実させる」および「外国籍住民の住宅入居を支援する」が各 24.7%、「日本人住民の異文化理解を進める」が 23.5%となっている。

問 55 在住する外国籍住民にとって暮らしやすいまちになるためには、
行政はどのようなことをすればよいと思いますか (3つまで)

表 55 行政に求めること

	N	%
外国籍住民が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる	148	37.4%
外国籍住民の就職を支援する	148	37.4%
外国籍住民と日本人住民が交流する機会を増やす	109	27.5%
外国語の生活情報の提供を充実させる	98	24.7%
外国籍住民の住宅入居を支援する	98	24.7%
日本人住民の異文化理解を進める	93	23.5%
外国籍住民の意見を行政に生かすための制度づくり	67	16.9%
外国語の相談窓口を充実させる	62	15.7%
外国語の案内表示を増やす	52	13.1%
子どもの教育における外国語サポートを充実させる	45	11.4%
日本人住民の外国語学習を支援する	31	7.8%
その他	15	3.8%
無回答	32	8.1%
計	396	100%

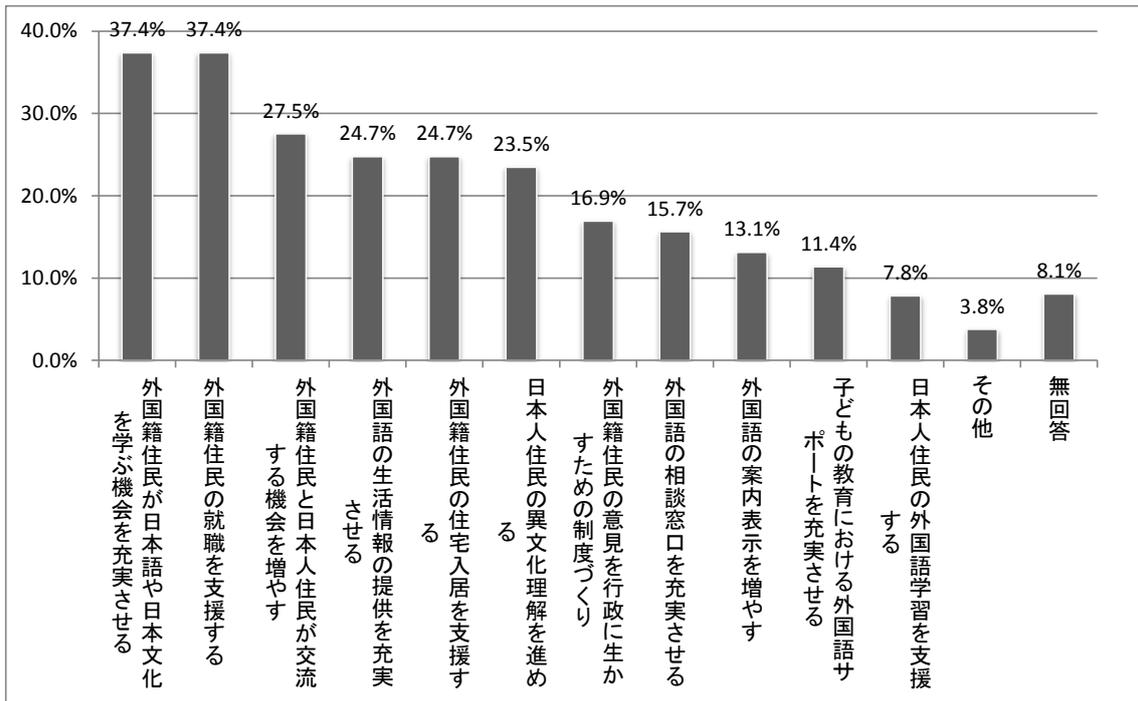


図 55 行政に求めること

行政に求めることとして外国籍住民が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させることをあげる人の割合は、雇用形態別では正社員、派遣・契約社員、学生、無職で仕事を探している、無職で仕事を探していないで40%を超えたのに対し、経営者では20%となっている。国籍別ではベトナム籍が83%と割合が高いが、韓国・朝鮮籍、米国籍では30%未満となっている。

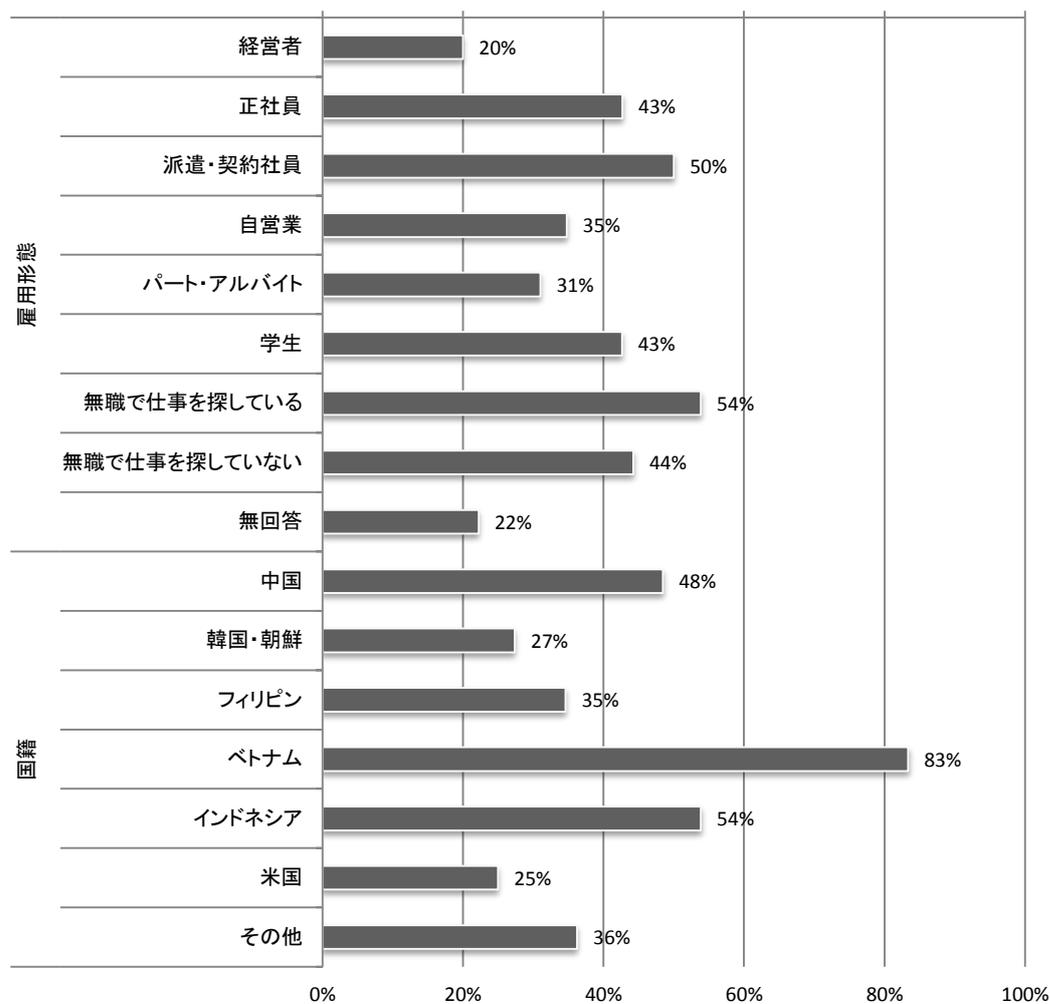


図55-2 行政への希望として日本語・日本文化学習機会の充実を挙げる割合
(N=364、問55に無回答の回答者を除く)

行政に求めることとして就労支援をあげる人の割合は、雇用形態別では無職で仕事を探している人が65%と割合が最も高くなった。国籍別では韓国・朝鮮籍が57%、フィリピン籍が46%となったが、ベトナム籍では11%と他の国籍と比較して割合が低い。在留資格別では日本人の配偶者、家族滞在、定住者が50%以上となったが、技能実習で9%、教育で14%と他の在留資格と比較して割合が低い。

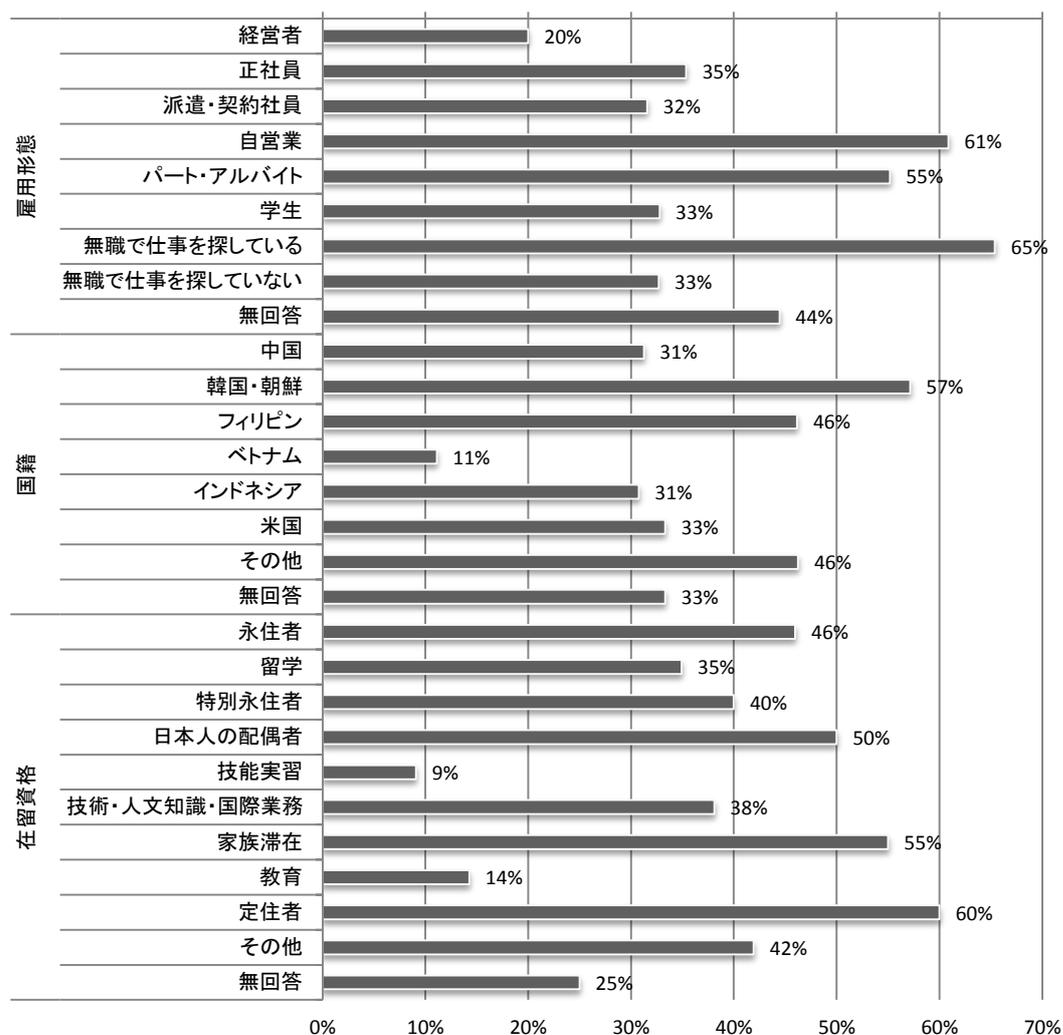


図55-3 行政への希望として就労支援を挙げる割合 (N=364、問55に無回答の回答者を除く)

行政に求めることとして外国籍住民と日本人住民が交流する機会を増やすことをあげる人の割合は、経営者、正社員、学生、無職で仕事を探しているで 30%以上となったが、自営業とパート・アルバイトでは 20%未満となった。日本居住年数別では 5 年未満、10 年未満で 30%を超えたが、20 年以上では 24%となっている。

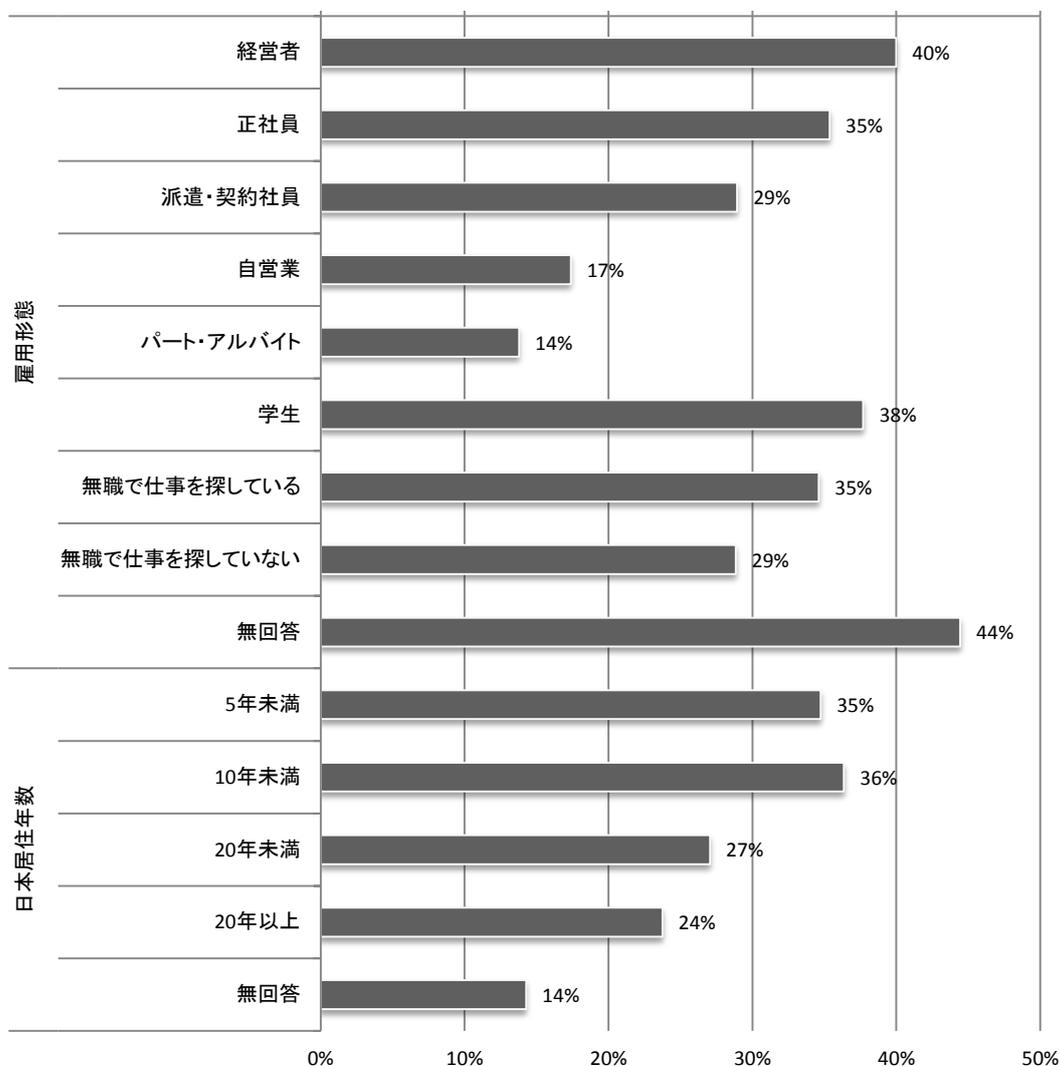


図55-4 行政への希望として日本人との交流機会の増加を挙げる割合 (N=364、問55に無回答の回答者を除く)

行政に求めることとして外国語の生活情報の提供を充実させることをあげる人の割合は、在留資格別では留学、教育では 40%を超えたものの、特別永住者、日本人の配偶者、技能実習、技術・人文知識・国際業務では 20%未満となっている。日本語を読む能力別では能力の高低によって大きな差は見られなかった。

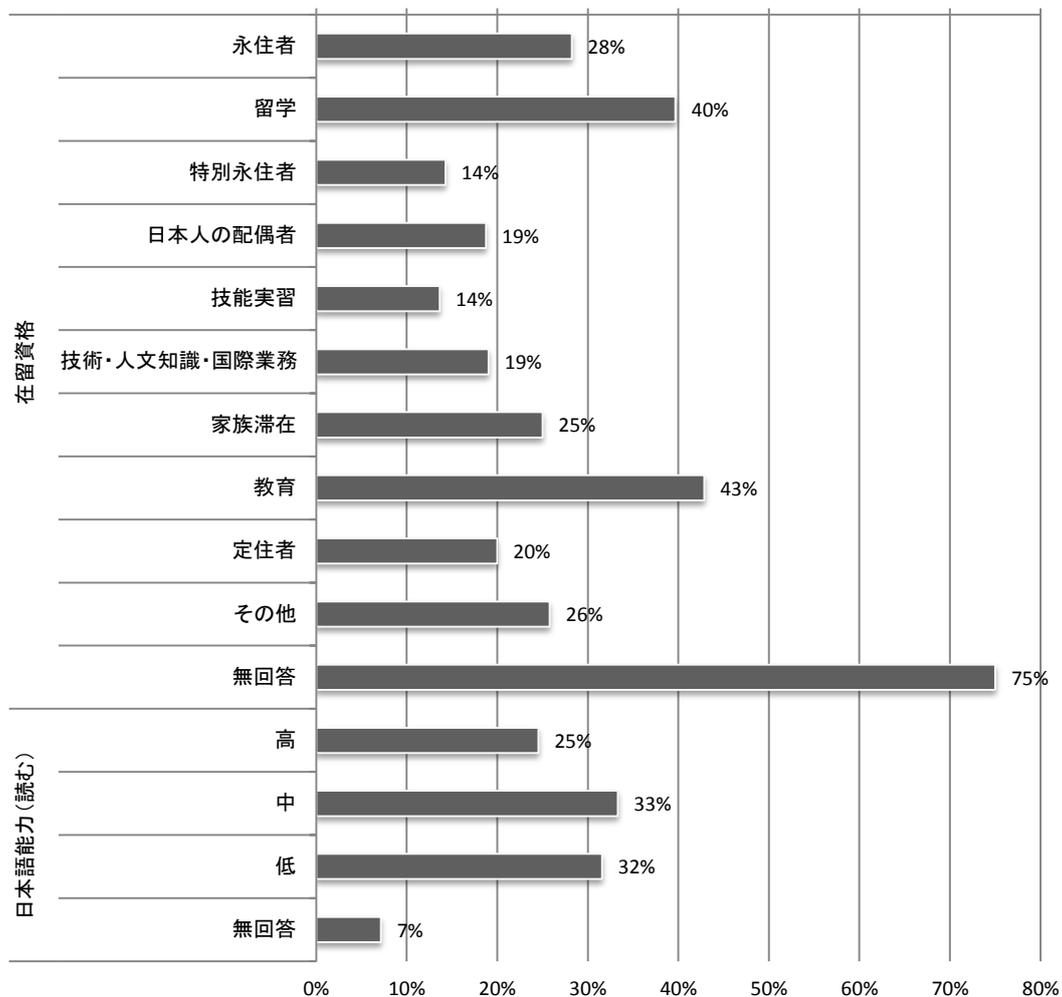


図55-5 行政への希望として生活情報の提供を挙げる割合 (N=364、問55に無回答の回答者を除く)

行政に求めることとして外国籍住民の住宅入居を支援することをあげる人の割合は、在留資格別では技術・人文知識・国際業務で48%となったのに対して、技能実習では9%と割合が低くなった。日本語を読む能力別では能力の高低によって大きな差は見られなかった。

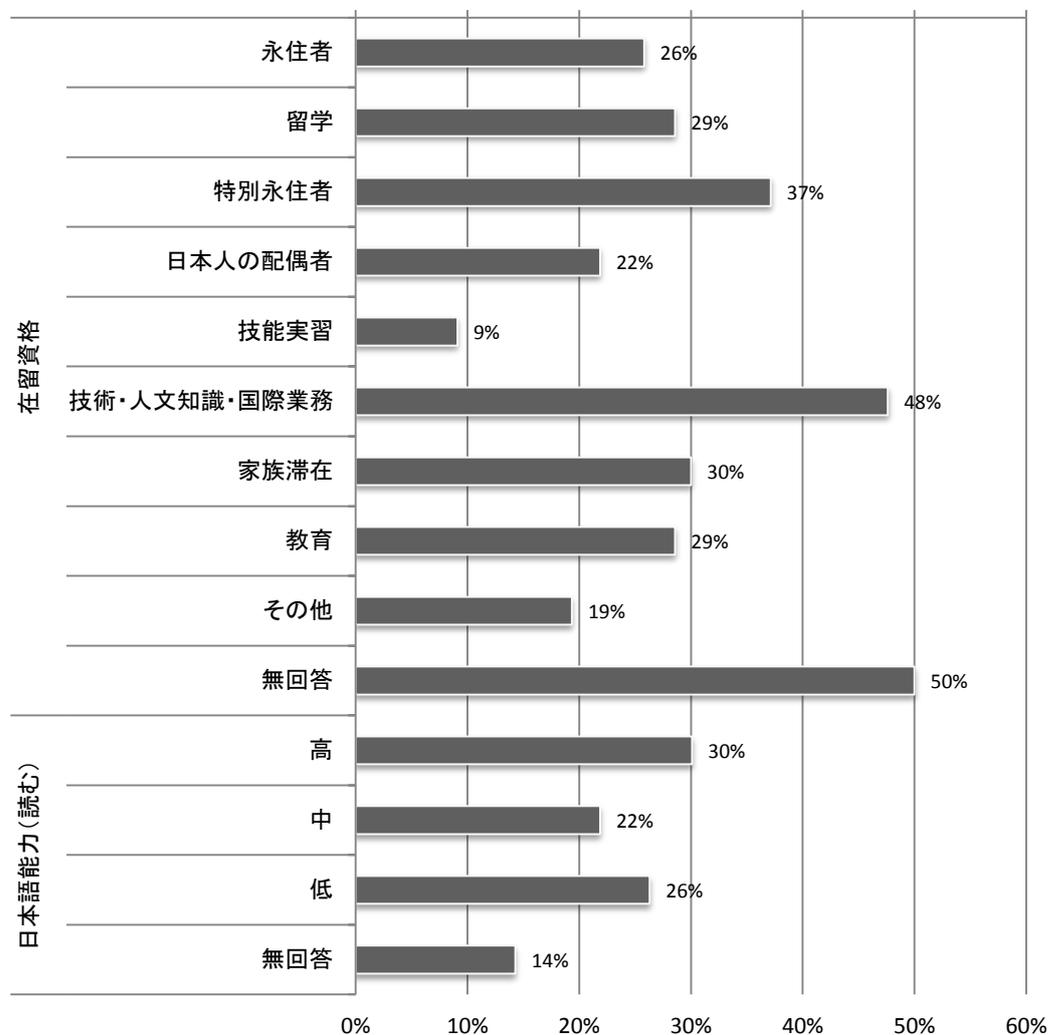


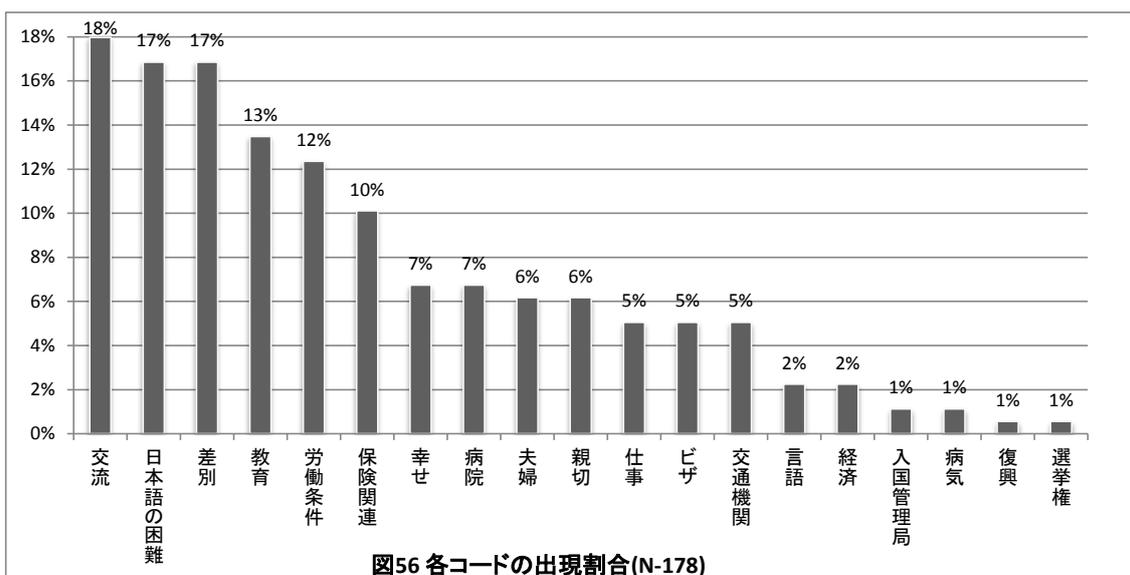
図55-6 行政への希望として住宅入居の支援を挙げる割合(N=364、問55に無回答の回答者を除く)

(56) 生活で困っていること・行政に取り組んでほしいこと【自由記述】

生活で困っていることや行政に取り組んでほしいことについての自由記述に、以下のよう
にコードをつけて分類した。各コードの出現率をみると、「交流」が18%で最も多く、次
いで「日本語の困難」、「差別」が17%となっている。以下、「教育」、「労働条件」、「保険関
係」が多く挙げられている。

表 56-1 各コードの定義

教育	学校, 子ども, 教育などに言及しているもの
仕事	仕事がない, 就職などに言及しているもの
夫婦	夫または妻に言及しているもの
保険関連	保険や年金, 税金などについて言及しているもの
日本語の困難	日本語にかかわる問題や日本語学習の機会に言及しているもの
幸せ	現状への満足に言及しているもの
差別	差別, 偏見などに言及しているもの
交流	日本人との交流機会や相互理解に言及しているもの
言語	母語, 外国語などに言及しているもの
ビザ	在留資格, 帰化などの手続きに言及しているもの
労働条件	賃金や解雇などに言及しているもの
経済	経済状況に言及しているもの
交通機関	バスなどの公共交通機関に言及しているもの
情報	情報の不足に言及しているもの
病院	病院に言及しているもの
親切	親切にされていることについて言及しているもの
復興	被災や復興について言及しているもの
選挙権	選挙権について言及しているもの
入国管理局	入国管理局に言及しているもの
病気	病気に言及しているもの



各コードと日本の居住年数の関連をみると、日本の居住年数によって生活で困っていることや行政の取り組みの希望が変化していることがわかる。以下では各日本の居住年数グループの人たちの記述の中で代表的なものを見ながら、この悩みや行政への希望の変化を見ていく（回答者の記述については編集なし）。

【1年未満】

日本居住年数が1年未満の人たちでは、「日本語困難」、「労働条件」、「保険関係」への言及が多く挙げられている。

私が見たところでは、外国人の多くは日本語を学ぶためにたくさん努力をしているが、日本人の多くは同じ努力をしているように見えない。双方が努力をしたら、外国人の日本語の上達に役立つだろう。（留学）

一番大きな制約は言葉である。宮城県在住の外国人のほとんどにとっても同じだと思う。もっとも重要な問題は防災、気象警報注意報、地域のイベントに関する情報である。ウェブサイトにある避難地域についての情報や大学以外で行われる地元の避難訓練についての情報は日本語のものしかないため、情報を探すのが難しい。テレビで流れる情報は日本語しかないので、在日外国人に情報を広めるのにソーシャルメディアを利用して英語で発信すれば、大変効果的だろう。苦情を聞いてくれたことに感謝する。（留学）

1. 宮城県の物価は他県とほぼ同じなのに、給料は平均的に安い。2. 交通が不便。3. 日本に来る外国人観光客は増加しており、宮城県にも観光地が結構あるので、宮城県の有名な観光地を開発して世界にアピールした方がいいと思う。ついでに宮城県の経済も発展できる。4. 日本人の感情が冷静で冷たい感じします、孤独な老人お互いに助けあって生活すればいいかも。（日本人の配偶者）

日本における外国人労働者の権利は不十分である。健康保険や年金に関して、日本人労働者と同様の権利を受けられない場合がしばしばある。法律で定められている有給休暇を与えられない場合もある。住民として行政に税金を納めているのだから、外国人も日本人労働者と同じ権利を与えられるべきだ。（永住者）

【1年以上5年未満】

「差別」へ言及するケースが多く見られたのに対し、「交流」へも同程度言及されている。これらに次いで「労働条件」も多く挙げられている。

私たちは一人でベトナムから、日本に対する期待感をもってやってきましたが、それは間

違っていました。日本に住むと、沢山困ることがありますので、平等な扱いをして欲しい。大きく感じたのは日本人とベトナム人を比べないで欲しい。力仕事をさせないで、叱られない、叩かれない、その労力と時間をみんなの為に使ってください。生活では住む場所と働く場所が便利になって欲しい。交通手段、例えば自転車とか送迎バスがあった方がいい。田舎では買い物する時にも援助してください。ベトナムの正月とかに休日を作ってくれたら家族と連絡できてホームシックになりません。以上が私の意見です。行政が関心を持って助けて下さい。ありがとうございます。(技能実習)

1. 人間関係は、日本人がとても礼儀正しくて、親切で、友好的です。しかし、私たち外国人がどんなに頑張っても、差別される時があります。日本人の友達がなかなか作れないです。異国の外国人との文化交流の発展をより一層推進してほしいです。2. 日本語があまり得意ではない外国人でも、就職できる会社などの情報を提供してほしい。3. ゴミ分別の訳文付きのパンフレットを配ってほしい。(留学)

今後日本国籍を取得しようとしている外国人への解りやすい案内、必要書類の詳細を提示してほしい。また、もっと日本国籍を取得しやすいシステムにして欲しい。(永住者)

私の住む地域では外国人に興味のある日本人を見つけることは難しい。仕事以外で日本人と交流する機会がほとんどないため、外国人との交流をテーマとした活動やイベントに興味がある。(教育)

日本で勉強する機会をもつことができ大変に感謝している。日本に来るにあたって私と家族の多大なる努力が必要だった。高度なレベルの日本語力を身につけることは私のように日本に住んでいる者でさえ難しく、来日前であればさらに難しい。もちろん可能な限り日本語と日本文化を学ぼうとしているが、時間がかかる。日本語を勉強中の外国人にもわかるように、道路標識や公共交通機関および病院における案内表示など重要な情報を日本語以外の言語で入手できたら便利になると思う。仙台では英語、中国語、ハングルでほとんどの情報を入手できるが、緊急地震速報のように携帯電話に送られてくる緊急のメッセージは日本語だけである。もし家に一人でいて助けを求められる人がいない場合は読むのが難しい。(留学)

外国人が働ける場所があればいいと思う。若い人たちが夜の仕事以外、行く場所がない事をよく聞くとかわいそうだと思います。なるべく一生懸命勉強して日本語を覚えても、いいところに就職するのは難しいと聞きました。私はもう年を取って主人の仕事を手伝いながら過ごしていますが、老後(70歳、80歳)が心配です。現在動けるうちに少しでもお金を貯めればいいと思う。主人がもうすぐ70歳、私は60歳になりますが、家もなくアパー

トの家賃が結構負担になっています。いくら節約して貯めようとしても、マイホームの夢は遠いです。(日本人の配偶者)

【5年以上10年未満】

「交流」に対して最も多く言及されているほか、「教育」を挙げる人も多く現れている。

福祉がちゃんと行き届いていて、外国語の教室もいっぱいありますが、幼稚園に入る前の子供を持っている外国人たちは基本的に日本語も習えず、まわりとの交流もできず、毎日家で子供と二人きりです。子供同伴で通える日本語教室があれば嬉しいです。趣味や(有料)の教室があれば必ず通います。また、外国人が初めて日本にきて、行政機関などに行く用事が多く、長く待たされて、書類準備について詳しい説明が足りなくて何度も行って疲れることが多いです。外国人にもう少し詳しい説明をしてくれれば最初からよいイメージで日本での生活をスタートできると思う。(技術・人文知識・国際業務)

宮城県に住んで約6年になる。日常生活においてこれまでに大きな問題に直面したことはない。近所の人との交流がほとんどなく、知り合いにもなれない。外国人が近所の人と知り合う機会があればよいと思う。私は日本語をほとんど話せないため、近所の人と話をしたり、誰かに紹介してもらえない。交流の場を設けてもらえたら、私の娘にも新しい友達ができると思う。(家族滞在)

留学生向けの公営住宅情報をを学校を通して留学生に提供してほしいです。また、文化交流活動、通訳・翻訳のパートタイムなどの情報を学校を通じて留学生に提供してほしいです。(留学)

家の近辺に週1回の日本語の教室もある。仙台には多く、授業料も安い(専門学校を除く)交通費がかかるので主婦には負担が大きい。4ヶ月間授業料19,000円、交通費100,000円くらい。一日2時間授業で負担も大きかった(何年前)。まわりは母国の人達で授業が終わったら韓国語でおしゃべり。日本語が上手にならない。日本のお友達を作るのは難しかった。日本で何かを習ったりお店を開いたり、法律とかかわることは何処で聞けばいいかわからない。それで私は6年を無駄に過ごしました。在留カードをもらわないとアルバイトをしちゃいけないと思いました。(日本人の配偶者)

主に困っていることは、子供の保育園の申請です。日本に来てから半年以上申請待ちの状態です。ところが、名古屋や福岡の友達から聞いたのですが、やや同じ時期に日本に来たにも関わらず、保育園の申請がとても順調で、日本人の子供と同じ条件で入園できたそうです。どうして同じ国なのに、地域によって子供の福祉条件が違うのですか?宮城県には、

これから保育園の入園環境を急いで改善してほしいです。(家族滞在)

外国人労働者の差別、文化の違い、言葉の表現が生み出す違い、日本人との人間関係で問題が発生したとき、日本人の主張を全面的に肯定する人達がいる、疲れるときがある。子供の養育の面でも母親が韓国人という理由だけでいじめられたことがあります。子供が差別を受けるのが一番つらいです。(永住者)

【10年以上20年未満】

「交流」への言及が最も多く見られるほか、「日本語困難」も多く挙げられている。これらに次いで「保険関係」への言及も多い。

アンケートの調査が助けになれば... 私は40代の夫婦で息子が二人います。外国人として、妻として、嫁として、女として、個人的に宮城県で生きていくのに大きな問題はありません。でも子供が学校に入ってから、母としての日常は少し違いました。私が小さいころの韓国での生活と、子どもの日本での学校生活は大きく違います。特に、子供が学校で友達と喧嘩をしたり、意地悪をされたときに、すぐに担任の先生に電話して話すことがためらわれることです。なぜなら電話をしたら、かえって子ども達に悪い影響が出るのではないかと心配だからです。電話したいのをこらえたのは2、3度ではありません。文化の違いと言いますか、気を遣っていると言いますか、こういうこと以外は特に辛いことはありません。最後まで読んでくれてありがとうございます。(日本人の配偶者)

私には4人の子供がいます。末っ子のむすめは行政にすごく大変お世話になっています。中学三年生の時から、学校を休みがちで高校1年生の時に中退しました。そのご10近く家の中での生活が多くなり1年前15年の12月～16年12月約1年間病院にお世話になりその時行政今もなおお世話になっています。私達達は、30年岩出山町で自営業をしていました。でも、店を閉めることになり今富谷に約11年間住んでいます。私しは11年間同じ工場です仕事をしています。朝が6時からだった時は5時から仕事でした。近所の人達とのかかわりがあまりなく、あいさつをするだけで、近所の人との口がきこえてきます。でも、私しは、まけません。家族を守るためです！。(永住者)

①外国籍住民にむけの子育てサロンやイベントをもっと増やしてほしい。そして、そういう情報の得る場所がありません。子育てが忙しいので、ネットで簡単に調べられると助かります。②ボランティア活動なども参加してみたいのですが、小さい子供がいるので、なかなか参加できません。子供を連れて一緒に行けたらいいと思います。(永住者)

日本には外国人があまり多くないせいか、日本人から声をかけられることもなく、じろじ

ろ見られる。気持ちを説明したりコミュニティに入れるぐらい、日本語のスキルを早く上げたいと思っているが、今のところできそうにない。ビールを飲みながらのほうが言葉や文化を学ぶのにはよさそうだが、今は日本と日本語を理解することができないような気がする（努力をやめるつもりはないが）。（留学）

①現在雇用保険受給中で、ハローワークへ行った際、通訳が配置されていたが、不用に1時間以上も待された。また、別の日には日本人の妻と受け付けに行った際、'下の階でお願いします'と言われ、下の受け付けでは'上の階です'とたらいまわしにされた。日本の法立の下、労働し、日本人同様の義を果たし、権利の下、受給資格があり、ハローワークを訪れたのに不平等を感じた。多くの行政機関は混雑しており、少人数の日本語が不得意な外国人をカバーすることは難しいかもしれないが、もう少し通訳の数を増やすなど真剣に取り組んでほしい。②同じ国や、外国人同士でコミュニティーを広げられる活動を増やして欲しい。（日本人の配偶者）

日常生活において深刻な問題はないが、病院での診察の際、英語ではなく日本語を使わなければならない。英語を話せる医者ほとんどいない。高学歴の人々が英語を使えないのは驚くべきごとであり不思議だ。もちろん日本に住む外国人は日本語を勉強すべきであるが、医者や専門的な職業に携わる人は基本的な英語を話せたほうが良いと思う。（永住者）

唯一困っている事は、子供の医療費が高い事です。収入が高いとはいえ、日本の子供と同じようにしてもらえないでしょうか。所得税が高いとはいえ、子供は関係ないと思います。このことで、よく差別されていると感じます。収入が高いので、子供医療無料申請しても資格がないと判断されました。2歳の子供は月2万ほどの医療費がかかるので、かなり負担になっています。日本人の子供はほぼ無料です。人種差別と貧富差別の問題を解決してほしいです。（永住者）

夫の年金がすくないのが心ばいです。今の生活もまんぞくしてます。今の行政にもまんぞくしています。今の日本がだいすきです。（永住者）

【20年以上】

「差別」を挙げるケースが多く見られたほか、「日本語困難」に該当するケースも多い。また、「教育」についても多く言及されている。

今、70代の特別永住者です。若いときには、韓国（在日系）の企業に5年程いました。その後は、就職はまゝならずでした。疎外され、差別され続けました。臨時の職にしか就けず 年金も かけられず、ほぼその日暮らしてました。しかし、当時、国会の法整備が未

成立にかかわらず、外国籍の人たちにも、給与時、厚生年金は徴収されました。当時の徴収分は国庫(?)にでも入ったのか不明です。年金支給時(手続きの折に)徴収分は加算されず年数のみカウントされるという理不尽な状態でした。酷な時代の遺産です。以上の事柄もふまえ、今、国内に在住の外国籍の方達が、勤務の中で給与時、厚生年金の徴収分は、帰国時どのように処理されているのか、とても心配です。日本の年金制度は、先進国の中でも、異常な程、加入期間が長く、時代錯ごも、芳しい限りです。もっと改善されるべきです。(改善されてももっと改善をと思ってます。)年金の手続きをと窓口に行き掛年数と金額の不足で5年間国民年金を支払われ、やっと70代に入り、ごく謹かな額を受けてます。この事の現実は、今も続いていると思います。又、公営住宅の入居申し込みです。日本の一般国民も同様で抽選により決まりますか?外国籍の特に永住者には、もう少し緩和し、外国枠もあってしかるべきではと思います。外国籍の住民を多くかかえている大阪府では(親戚の情報により)申し込み後、楽に入れる状況らしいです。(特別永住者)

私は、日本で産れ育っているのだからただ国籍が韓国籍という事で色々悩みましたが、いまでは不自由なく暮らしていますが、帰化をいずれするつもりでいるのですが、手続きに関して、サポートしてくれたと思ってます。何度か、帰化の手続きをしようと思いましたが、途中で断念してしまってます。なので、地域内で帰化の手続き等サポートしてくれる行政書士といった方の紹介などしてくれたら、すごくありがたいです。(特別永住者)

1. 緊急事態が発生した場合、緊急連絡先の番号の一覧を配布すること。2. 仕事中に差別しないように、日本人に教育すること。3. JRの路線標識が分かりにくい。4. 今回のアンケートが長すぎる。(留学)

日本語で送られてくる書類に、ふりがな英語での説明を少しでいいので書いて欲しい。
(永住者)

宮城県にどのくらい中国人がいるか分かりませんが、公共の場所で中国語の標識をもっとわかりやすく設置した方がいいと思う。例えば、各バス停の標識や中国人がよく出入りしている場所など。(永住者)

夫の大学の2人の秘書が行政上の個人的な問題の対応を全て手伝ってくれる。また、子供の学校や市民センターで日本人や外国人に知り合う機会に恵まれている。(特別永住者)

① グローバル化が進んでいる中で、最も古い考えをもっているのは日本人だと感じます。日本人の中で(世界)育っている様な気がします。田舎に行けば行くほどそれは強くなっていくでしょう。幼少期から外国人との付き合い方や、外国の文化にもっと触れる事、色々

な国々の文化を学ぶ事、理解させる事に力を入れて欲しい。小学校、中学校、高校と。アメリカやヨーロッパなどの先進国ばかりではなく、アジアや中東など、色々な国々の人と触れ合う機会（交換留学など）を設けて欲しい。子供（幼少期）のころに受けたピュアな印象は大人になってもそのままだと思います。②今の日本人より外国人の方がまじめに働く人も多いと思います。外国人が働ける職種に制限をもうけないで欲しい。提出書類なども日本人と同じ扱いで良い様にして欲しい。（特別永住者）

1 2 自由記載【全意見】

(57) 東日本大震災の経験で感じたこと【自由記載】

地震体験			
特別永住者	40歳代	男性	中国にいる両親は自分が死んだと思っていた。連らくがおそくなったため。
永住者	40歳代	女性	防災訓練に参加したことがあるので助かりました。情報がなかなか届けなかったもので、正しい行動が難しかったです。
特別永住者	50歳代	女性	年齢や性別、障害の有無や国籍にとらわれることなく全ての人が協力し合い助け合った。私が経験した避難所生活は一生忘れる事の出来ない経験であった。「うばい合えば足らぬ わけ合えばあまる」まさにこの言葉が存在した。それと同時に自分自身の底力を感じた。
永住者	40歳代	女性	つながりがあるままでできたのでよかった
特別永住者	40歳代	男性	本当に辛かった。小供も当時は1歳になったばかり。ライフラインは止まり衛生環境も悪く本当に大変だった。地域住民たちとの助け合いや協力人の気持ちの温かさにふれた。
永住者	70歳代	女性	家は幸い大きな被害もなく、夫婦二人暮らしてましたが心配ありませんでした。唯一寒さの為の暖房を考えていませんでしたので困りました。
永住者	50歳代	女性	私は女川町の海の近くに住んでいたため、津波で家など全て流されてしまいました。被災中は住む家もなく仕事もなく困窮した生活を送りました。
定住者	40歳代	女性	怖かったです。どうすればいいかわからなかった。
特別永住者	50歳代	女性	とにかく こわくて 家族全員そろった時は とても 安心しました。しばらくは 安心して ねむれませんでした。
永住者	50歳代	女性	地震が発生した際、声かけなどの行為がなく冷たく感じた。
特別永住者	70歳代	女性	お店の二階にいて階段がはずれ降りることが出来ず連絡が取れず寒い中長町～仙台駅～落合～高野原歩いて何時間たつたかわからない。夢中だった。主人が病人だったので心配だった。思い出したくない。
永住者	40歳代	女性	色んな方々に助けられました。
永住者	30歳代	女性	死ぬか！と思いました。以上！
日本人の配偶者等	30歳代	女性	①震災後(3月13日)、海の近くに行ってきました。流木と泥に半分埋まった家を見て、涙をながしました。 ②日本政府行動力:①各小学校、中学校、避難場所などで食べものと飲みものをもらうこと②電気、ガスなどの回復、及び、地震後仙台市と隣の市、県、街のもともと姿へのもどり ③今でも、福島放射能の心配
特別永住者	30歳代	女性	とにかく、不安と恐怖でいっぱいだった。
永住者	30歳代	女性	そのときは大きな地震初めてでした。すごいこわかった、子どもたちも小さいかったのもとてもしんどいでした。その日はみんな家にいました。長男と私はしたにいました。下の子はにかいのへやにいました。揺れてながらいざん登っていました。そのままみんなそとに出て、そうじょうにいました。揺れる収まるまで待ちました。寒かった、こわかった。忘れない思い出でした。
永住者	40歳代	女性	たいへん、こわかった。たてものはゆれたけど、こわれなかったのちのちは、たすかった。しょうがつこうへひなんして、とまるどころと、たべものが、あったのでたいへんありがたかったです。じしん、つながりはてんさいですが、ふくしまのげんぱつは、あんぜんたいさくがふじゅうぶんで、あきらかに、じんさいです。てんさいより、じんさいのほうがこわいとおもいました。
日本人の配偶者等	60歳代	女性	怖い。家族の心配・・・
特別永住者	50歳代	女性	津波の経験が無かったため危機感がなく、あんなに大変な日が続く事は想像出来ず、商売をしているので嫌な言葉も沢山聞く事になりあの時程、人間が嫌いになった事はなかった(のちにうつになりました)家族の助言で立ち直る事は出来ましたが、行政等の助けはほぼなく、家族、友人、県外の韓国人の支えが大きかった。日本語が通じない外国人にとってはとてもきびしすぎる環境だったと想像出来ます。税金は一緒に選挙権はなく災害の時等は手厚い保障はないので日本は個々との付き合いがあれば住めるけど住みやすい国とは言えない。
特別永住者	40歳代	男性	在日朝鮮人に対する行政の冷たさ。
永住者	80歳代	男性	地震が起きたとき、ちょうど買い物中でした。家に帰りたいけど、停電で信号もバスも止まってしまっていました。避難所に2日ほど避難しました。

永住者	30歳代	女性	日本にきて1年ぐらいで、世界で一番強い地震を経験した。当時の家は古い一軒屋でしたので、強く揺れて倒れそうでした。大規模損害を受けた。その後毎回の余震でも心臓が止まりそうぐらい緊張した。
永住者	50歳代	女性	地震発生時、子供が学校にいたので、とても心配でした。急いで学校へ向かいましたが、歩けない状態でした。電柱も激しく揺れていました。その後余震もずっと続いてとても不安でした。
永住者	50歳代	女性	地震後、しばらく近くの小学校に避難しました。避難中、中華料理店を営んでいる10人ほどの中国人と知り合いました。彼らはあまり日本語が得意ではなかったなので、私が通訳しました。通訳しながらボランティアにも参加しました。近くの仮設住宅に避難していた日本人に中華料理を配りました。外国人支援団体にも参加して、各地からの支援物資を住民たちに配りました。誰もがお互いに助け合って避難生活を乗り越えました。国は違いますが、困難に立ち向かう人々の熱心さにとても感動しました。
日本人の配偶者等	50歳代	女性	あまりにもびっくりして、血圧があがりました。病院で一晩治療しました。一週間後落ち着いてから油、魚、卵などを積んで主人と志津川避難所を訪問順番を守りながら買い物をして、規律を守って買い物をする人々をみてたくさん見て学ぶ機会になりました。母国からの大事な支援金がちゃんと必要とする人々の元へ伝わってないことに苛立ちます。いくら入っていくら使われたのかという情報はなかった。
日本人の配偶者等	40歳代	女性	びっくりしました。落ち着いて出勤、退社しました。避難所でテレビを見て、中高生が机に座って勉強していました。自然災害はどうしようもない、誰も責められません。インタビューされていた人は誰も泣いておらず、辛いとも言っていませんでした。当時は日本語が今よりも下手だったので、このくらいの認識でした。
日本人の配偶者等	50歳代	男性	震災後、私の地域は落ち着いていて秩序が保たれていたのが助かった。そして近所の人たちはお互いに協力しあっていた。
永住者	40歳代	男性	最初は混乱、無力感、恐怖、衝撃を感じた。情報を集め、同僚や近所の人と連絡を取り合った。
永住者	60歳代	女性	震災時、神奈川県川崎市にいた。ビルが左右に揺れ、道路が海のように波打っているのを見た。公共交通機関が止まっていたため、人が四方八方に歩いていくのを見た。あれほど大勢の人を日本で見たのは初めてだった。私には一ヶ月間衝撃だった。
宗教	50歳代	男性	震災時、東京都で電車に乗っていた。一番近い駅まで歩かなければならなかった。忘れられないほど衝撃的な帰宅だった。
永住者	60歳代	男性	津波の被害地域にボランティア活動に行ったが、重要な清掃活動はできず、つまらない雑用をただで終わった。輸送手段が不足していたため、多くのボランティアの努力は受け入れられなかった。
技能	40歳代	男性	地域の人々に従った。どうしたらいいかわからなかったが、アドバイスをもらったから我に返った。ありがとうございました。
家族滞在	20歳代	女性	きわめて動揺し、精神的に試された。仙台では時々地震が起こる。
永住者	40歳代	男性	英語の情報がなかった。地震発生後しばらくの間は情報を手に入れることができなかった。
日本人の配偶者等	50歳代	女性	でんきつかないのでくらいなにもみえない。水くみたいへんでした。ご近所のたすけあい。
食料・ライフライン			
特別永住者	70歳代	男性	電話が通じなかったので苦労しました。
家族滞在	30歳代	女性	地震起った後、いちばん困った事は交通手段不便だった事です。(青森市にいたので仙台までのバスは休止したから。)
特別永住者	70歳代	女性	ライフラインの復旧状況の知らせが遅いと感じた。我家では、高齢の母が(90才代)いるので、特に電気の復旧は大切に思えた。被害の大きかった(津波等、家屋の損壊による被害者)地域には、マスコミによる情報も早いし、光も当たるが、他の軽い被災者には、余りなかったように感じた。又、行政の対応ももう少し素早く迅速かつ正確な流れがほしかった。緊急時は、何かと誤報が多く、いかに正しい内容の情報かと思えてならなかった。

永住者	60歳代	女性	情報が入らなかった
特別永住者	70歳代	男性	行政からの情報があまり入って来ない
永住者	30歳代	男性	買い物が大変でした。ガスの復旧が遅かった。
永住者	40歳代	女性	震災の時、子供がまだ小さく食料品がなければ、ライフラインが全てとぎれてしまいました。あの時は凄く困っていました！！
永住者	30歳代	男性	・ガソリン 給油するのに並ばないといけないことが不便だった。 ・どこへ行っても食料が手に入らなかった。 ・ライフラインが使えないのがとても不便だった。
永住者	40歳代	女性	がそりんが無い 食べ物が無い 日本人は優しい
永住者	40歳代	男性	行政管理システムが充実している。
永住者	30歳代	女性	震災後、2、3日は停電、断水、ガスも止まり、生活に影響があった。
永住者	40歳代	男性	地震後、停電、断水、スーパーも営業停止、不便でした。
留学	20歳代	男性	熊本地震を経験しました。地震後、店やコンビニが営業できず、停電や断水で生活が不便だった。余震も続いた。
日本人の配偶者等	60歳代	女性	ひどく恐怖で怯えました。水道もガスもなく、2か月ほど我慢しました。昔の祖父母の時代の生活をしているみたいでした。二度とあんなことは来ない事を祈ります。私は今もロウソクを立てて、一日も欠かさずお祈りしています。
永住者	40歳代	女性	日本に住んでいながら地震は避けられないものだ。家族が仕事に行ったり、出かけたりしてた時の3.11のような大きい地震になった時に家族の安否が取れるまでとても不安だった。携帯電話が繋がらなかった。(しばらく)。家族や知人に安否を伝える多様な方法があれば良いなと思った。
留学	30歳代	男性	圧倒的な地震だった。スーパーマーケットやコンビニエンスストアの流通経路が分断されたため、食べ物や飲み物を手に入れることができない人がたくさんいた。しかし、私と友人は物資があったので運が良かった。私たちは困っている友人を助けた。
地震の感想			
日本人の配偶者等	30歳代	女性	たべものをかいにスーパーへいくと みんな ちゃんと じゅんばん に ならんでたことを、すばらしい と おもいます。日本 は すばらしい 国 だと思います。
	20歳代	女性	はじめて じしん あったとき こわかった けど 今 は なれました。
特別永住者	60歳代	男性	直接大きな被害にあってないので特に困ったことはない。但し被害を受けた人たちのことは、かわいそうだと思っている。
特別永住者	40歳代	女性	阪神の時は京都で経験し、食器が割れる、家具が壊れるくらいで済みましたが、神戸では火事場泥棒が横行して被害がすごかったと聞いています。こちらでは、皆が助け合って団結したとニュースなどで聞きすばらしいと思いました。
永住者	40歳代	女性	震災時の消防局や自衛隊の状況、市町村情報が良く出来てライフラインの復旧も速くて感動しました。自分の子どもも自衛隊に行かせたいです。
特別永住者	30歳代	女性	非常時には 日本人は親切で結束力があるし、差別意識がうすれる。
日本人の配偶者等	40歳代	女性	こわい
技術・人文知識・国際業務	20歳代	女性	シャワーができる場所がなくて困った記憶しかありません。
特別永住者	30歳代	女性	人とのつながりの大切さ。協力し合うこと。 インフラ復旧の遅さ、自宅マンションの水道設備故障に伴う不便さ
永住者	30歳代	女性	日本で津波にあった。日本人は一人一人の気持ちと一人一人のルールを守って感心しました。震災後は女川町の復興は進んでいます。道路は高さっています。海のちかく防堤を作っています。ごみの分類は大変でした。避難所で生活は一年以上かかりました。日本人たちお互いの気持ちで生活をして、日本人のやさしさを感じています。

永住者	40歳代	女性	地震はこわい。
永住者	40歳代	女性	震災で家を失い不安でした。津波の恐ろしさを知りました。
特別永住者	60歳代	男性	水、電気、ガスがいかに必要か感じた
永住者	40歳代	女性	命の危機をかんじました。怖かったです。
特別永住者	40歳代	女性	頼れるものは家族だけ...
永住者	40歳代	女性	震災の当日は、子どもは幼稚園生でした。子どもとの連絡の方法がわからずとても不安でした。まず、車で子供のお迎えに富沢から八乙女まで14時55分に出発して幼稚園まで10時間かかって着いた時には先生方と子ども達がバスの中で待っていました。先生方への感謝の気持ちは一生忘れられません。震災で不安で精神的に辛かったです。
特別永住者	20歳代	男性	とりま空気読んで行動しましょうWWWって事かね
永住者	40歳代	女性	日本の国、震度は別にして地震が頻繁に起きる。3.11のような想像以外の強い地震が一生忘れられないぐらい。特に避難中の人々達が国籍を問わず、お互いに助けあう様子を見たらとても感動した。
定住者	30歳代	男性	今回の地震でとても感動したのが、日本人の教養や気質。とても素晴らしい。
永住者	40歳代	女性	日本に来て13年経って、初めて経験した2011.3.11の強い地震。地震発生当時6階の部屋にいました。ビルがあまりにも揺れて、自分の人生が今回の地震で終わるかもと思った。今回の地震を乗り越えることで、心身も強くなった。一番感動したのは、日本の建築技術の素晴らしさです。地区年数30年の中古ビルでも、ほとんど被害がなかった。地震後の恐怖は1ヶ月ほど続きましたが、今はもう全然大丈夫です。
教授	40歳代	男性	おどろいた。
日本人の配偶者等	50歳代	女性	人間の弱さや、まだ世の中の愛が完全になくなっていないことをしりました。
永住者	40歳代	男性	日本人の規則意識が素晴らしかった。初めての大地震で母国に帰らず、停電や断水にも耐えましたが、もしもう一度このような大地震が発生したら、すぐ韓国に帰ります。
永住者	40歳代	女性	もう経験したくありません。
永住者	60歳代	女性	一人で部屋にいて、本当に怖かったです。
永住者	50歳代	女性	とても怖かったです。ノイローゼになりました。地震が起きるたびにびっくりします。東日本大震災を思い出したら今でも涙が出ます。
永住者	40歳代	女性	まずは、こわかった。学校に行った息子が心配でした。どこに避難すればいいかわからず、二度と経験したくないと思っています。地震のとき、電話もつながらなかったのも、母国の家族に安否を伝えることが出来ず、心配でした。放射能問題で、帰国をすることが悩みましたが、どうやったら帰国できるのかもよく分かりませんでした。
永住者	60歳代	男性	自然災害の恐ろしさ、互いに助け合う共助の必要性。
永住者	30歳代	女性	非常にこわかった
技術・人文知識・国際業務	40歳代	男性	当時新潟県にいた。地震を感じてショックだった。あのような種類の地震を経験するのは初めてだったので、私も家族も不安になった。家族からすぐに帰国するように言われたが、断って震災の問題に向き合った。宮城に住んでいた友人に食料を運んだ。
定住者	30歳代	女性	地震が起こった時、とても怖かった。3階にいて飛び上がった。初めての体験だったので、気が狂いそうになり泣いてしまった。
永住者	50歳代	男性	地震は実に恐ろしく、衝撃的で、驚くべきものだった。
永住者	40歳代	女性	日本の文化やマナーを学ぶのに近所の人とのコミュニケーションが大変重要だと思った。私たちはひとつになったし、助け合いはとても感謝すべき経験となった。
技能	40歳代	男性	怖かった。
永住者	30歳代	女性	恐ろしい体験だったが、友人や家族や英国大使館のおかげで、震災を乗り越え、多くの人生の教訓を学んだ。
永住者	50歳代	男性	恐ろしい体験だったが、私は生き延びることができた。津波の被害にあった方には心よりお見舞い申し上げます。
定住者	20歳代	女性	初めて体験する地震だったので、とても怖かったし衝撃を受けた。当時は帰国したいと思った。

家族滞在	30歳代	女性	特に子供のことを思うと、最初はとても怖かった。しかし、その後地元の人々の反応を見て、日本人の生き方を理解した。私はより我慢強くなり、地震に備えるようになった。結局のところ自然災害なのだから。
今後の地震への備え			
永住者	50歳代	女性	ライフラインが普及してからは、主婦として家族の食事を作るのが大変だったので日頃から余分に準備するようにしています。
	30歳代	女性	・家族との連絡が取れるようにすること ・食料品をそなえておくこと ・非難所をどこにあるかを知っておくこと ・部屋の中の物を固定してケガないようにすること
永住者	40歳代	男性	お金を持っていても、どうしようもない。お金より人間付き合いが大事。
永住者	30歳代	女性	あわてない、冷静、自分の身を守る
特別永住者	50歳代	男性	自分の身は自分で守る。人は簡単に死ぬ。
永住者	30歳代	女性	3.11の日。忘れたくない辛い日でした。職場で2日間避難。食料か水、電気がないということを実感し、とても大事なものだと感じ、普段から節約をするようになった！
特別永住者	40歳代	男性	水、食糧、ガソリン、ガスコンロは準備しておくべきか。太陽光パネルも必要かどうか。
永住者	50歳代	女性	地震の恐怖が今も消えません。偶に夢に現れました。心のケアが必要と思っても、忙しい日々(=後回しになってしまいました)。
永住者	50歳代	女性	地震の被害があまりない地域なので... 但し、自然災害に対して備えるのは大事かと思いました。
永住者	40歳代	女性	3・11大震災時に東京で住んでいた。震度5強で停電、交通止め、通信不能、とても不安を感じた。仙台に住む両親はライフラインが止まったのを知り、主人と水、缶詰をリュックサックにばんばん詰めた。新潟経由で高速バスで持ってきて、近隣の皆さんに配った。その後、家は防災用品を常備するようになった。
日本人の配偶者等	30歳代	女性	私は仙台市に住んでいましたが、家屋の被害はほとんどありませんでした。避難中は知らない人同士でも親切に助け合いました。今回の地震の経験で、非常用の日用品を常に準備した方がいいと思いました。近所の人に、日本は30年ごとに大地震が必ず来ると聞いたので。
特別永住者	50歳代	女性	非常用の食料品を出来る限りたくさん準備しておいたほうがいい。地震時は、生活用品や食料品などなかなか買えないため。
永住者	50歳代	女性	地震のあと、停電、断水、ガスなし、トイレも流れず困りました。その後、今でもトイレにいつも予備水を置いています。
永住者	50歳代	女性	地震は本当に恐ろしい災害だと思います。やはり母国の韓国がいいと改めて思いました。そして、万が一の事を考えて日用品を用意しておきます。
留学	30歳代	女性	マレーシアでは地震がよくある現象ではないので、最初はショックを受けた。災害対策について聞いたことがなかったため、どうしたらよいかわからなかったが、今は地震が起こったときの安全対策について詳しく聞いているので、いざという時にはどうしてよいかわかっている。
特定活動	30歳代	男性	被災していないので、どんなものか想像できない。対処できるように、避難訓練を受けてみたい。
特定活動	20歳代	女性	地震が起きたら、じっとして動かずに待つ。大地震の場合は、安全な場所を探し、テレビを付け、携帯電話で津波がくる可能性がないか確認する。
福島第一原発の事故			
永住者	60歳代	男性	初めての経験でしたのでビックリして家族、友人の安否を確認し、原発の状態が心配でした。津波の恐ろしさは、被害の多さに、知人も多く亡くなりました。私も現役退職を決めました。2度とこのようなことが無いことを祈ります。
永住者	60歳代	女性	原子力発電所が一番怖いと思う。
永住者	60歳代	女性	山形に避難しました。放射能が怖くて、主人と義母と3人で山形のホテルで1週間を過ごしました。地震は怖いですが、日本にいたいし、愛する主人と義母と一緒に幸せです。日本政府には感謝しています。

永住者	40歳代	女性	当時は神奈川県海沿いに住んでおり、近辺にも津波警報が発令されたので、とても怖かったし不安だった。原子力発電所のメルトダウンの問題が起こったときも非常に怖かった。放射能問題と健康に与える影響を心配して、当時、福島県産の果物や野菜を購入しなかった。
永住者	50歳代	男性	原発事故に関する情報が不足していた。
その他			
永住者	30歳代	女性	逃げる
永住者	60歳代	女性	家族、友人の安否
特別永住者	70歳代	男性	特に無い
永住者	30歳代	女性	なし
永住者	50歳代	女性	夜がねむれない時がある 小さい地震でも目がさめる 1人でいる時こわいと思うことがある もう震災が無い事をいのる
日本人の配偶者等	40歳代	女性	震災の事あまり思い出したくないです。
永住者	30歳代	女性	特にありません。
特定活動	30歳代	男性	中国は地震がないので、地震の経験はまだないです。
特定活動	80歳代	男性	忘れた
永住者	40歳代	女性	戦争が起きたら、こういう状況になると思います。(ライフラインの麻痺、いろいろなお店の営業停止、ガソリンスタンドの給油中断、食料、水、配給)
日本人の配偶者等	50歳代	女性	義理の母のところ避難して、よく分かりませんが、韓国の領事館から支援も情報も得ることが出来なかったため、出国も大変でした。
永住者	50歳代	女性	海外にいて、地震は経験しなかったが、空港が閉鎖して入国ができず、海外難民になった。帰国したら家の中がメチャクチャで、情報もなく、補償もされなかった。その後、地震の被害の大きさが分かった。親戚は津波で家がなくなり、私の家で1ヶ月くらい過ごした。今も地震のせいで怖い思いをしながら生活しています。
技術・人文知識・国際業務	30歳代	男性	N/A
日本人の配偶者等	40歳代	男性	手短かに言えばQ44は災害の規模や依然続いている影響を考慮すると概念として狭すぎる。
留学	20歳代	男性	震災を経験していない。
留学	30歳代	女性	震災経験なし。
留学	20歳代	女性	質問にある「地震」が、自分の人生の中で遭遇した地震のことなのか、東日本大震災のことを意味するのか明確でない。
留学	20歳代	男性	今の日本は普通なので、特に違いは感じない。
留学	30歳代	女性	経験してない

(58) 生活の中で困っていることや、行政に取り組んでほしいこと

日常生活			
特別永住者	40歳代	男性	昔よりは 外国人が多くなりましたが まだ学校(小学校)ではすくないので 中国人と言われる事があります。差別ではないですが今後女の子なので心配しています。名字を自分の方に(母親 日本人、父親 中国人)母親の名字がよかったのかな??と思う事もあるので 外国人がいつも普通とよべる世の中になるといなあとします。その国に行った事もない人が中国人って...とかTVでもそうですがへんけんをもつのがやめてほしいです。
永住者	40歳代	女性	今くらしている家は4人にせまいですがちんたいがたかくてひっこせません。
特別永住者	60歳代	男性	生活には困っていますが、私達が、なにを、言っても、むだなので、ダメだと思います。
永住者	30歳代	女性	日本人の夫がやさしくない。
特別永住者	30歳代	女性	日本人は相手を尊重するということがいまいち分かっていません。外国人と接する上でのマナーやタブーをカナダなどの移民国家から学んだらいいと思います。また外国人には自分たちが理想とする日本を伝えるのではなく、本当の日本人の姿、文化を伝えてください。例えば、日本人は本音と建前を使いわけます。外国人にはただウンをつかれたと受けとられかねません。協調性を重んじるがゆえの事だと説明されれば理解されるでしょう。
特別永住者	80歳代	女性	母が字が書けない為、代筆です。このような取組みをして頂いている事は、大変ありがたく素晴らしい事だと思います。同じ人同志として、お互いを理解し交流し合えるよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。期待しております。外国の方、日本の方にとって住みやすい宮城県になる事を期待し、嬉しく思います。
留学	20歳代	女性	日本人住民と交流を深めたいと思います。例えば日本料理の作り方を学べる活動や、町内の日本人住民と一緒にゴミを拾うことを参加したいです。日本のこと、大好きですから!
永住者	30歳代	女性	宮城県で仙台空港から中国行くの飛行機は増えてほしいです。
永住者	60歳代	男性	只一つ差別と偏見です。外国人(韓国)と言うことで不当な扱いをいく度か経験しました。特に大学、就職、住宅入居、等子、孫達に同じ思いをさせたくないです。難しい問題と思いますが、一つ一つ善処してほしいし、行政をお願い致します。アンケート調査いい取り組みだと思いチェックしました。少しは伝えられたと思います。
永住者	40歳代	女性	仙台から中国の大連までの飛行機を復活したらいいかなあとします。
技能実習	20歳代	女性	かいものときはとおいかからじてんしゃほしいです。
技能実習	20歳代	女性	私たちは一人でベトナムから、日本に対する期待感をもってやってきましたが、それは間違っていました。日本に住むと、沢山困ることがありますので、平等な扱いをして欲しい。大きく感じたのは日本人とベトナム人を比べないで欲しい。力仕事をさせないで、叱られない、叩かれない、その労力と時間をみんなの為に使ってください。生活では住む場所と働く場所が便利になって欲しい。交通手段、例えば自転車とか送迎バスがあった方がいい。田舎では買い物する時にも援助してください。ベトナムの正月とかに休日を作ってくれたら家族と連絡できてホームシックになりません。以上が私の意見です。行政が関心を持って助けて下さい。ありがとうございます。
永住者	40歳代	男性	普段の生活はとても充実しています。
家族滞在	20歳代	女性	日本人も参加できるようなイベントをたくさん行ったほうがいいと思う。
永住者	30歳代	女性	仕事をしたいです。もっとたくさんの中国人の友達をつくりたいです。
日本人の配偶者等	30歳代	女性	1. 宮城県の物価は他県とほぼ同じなのに、給料は平均的に安い。2. 交通が不便。3. 日本に来る外国人観光客は増加しており、宮城県にも観光地が結構あるので、宮城県の有名な観光地を開発して世界にアピールした方がいいと思う。ついでに宮城県の経済も発展できる。4. 日本人の感情が冷静で冷たい感じします、孤独な老人お互いに助けあって生活すればいいかも

留学	30歳代	女性	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人が部屋を探す時、保証人が必要だから、とても困った時がある。 ・外国人を理解していない日本の方もいる。多くの交流ができる活動を行ってお互いに理解し合う機会を与える。 ・医療費が高いから、病気などはとても心配です。 <p>政府はいろいろ考えてくれてとてもありがとうございました。</p>
留学	20歳代	女性	<p>治安: 三条周辺によく不審者が出没するので、日常生活に支障が出ている。</p> <p>交通: 市営バスの運行本数が少ないので、増やして欲しい。特に川内行の70番バスの運行本数が特に少ないので、とても不便。</p>
日本人の配偶者等	40歳代	女性	<p>角田市暗いところが多いです。</p> <p>電気、とくにスーパーの近くに電気付けてほしいです。</p>
永住者日本人の配偶者等	50歳代	女性	日本人も中国人も同じ人間なのに、どうしてわれわれ外国人を差別するのか。差別しないでほしいです。
留学	20歳代	男性	市営バスの運行本数が少なく、不便です。例えば、三条町行の70番バスです。運行本数が少ないです。平日1日1本だけです。間に合わないときは、歩くしかありません。地下鉄も運賃が高いので、利用しづらいです。安くなれば良いと思います。
留学	20歳代	女性	<p>1. 人間関係は、日本人がとても礼儀正しくて、親切で、友好的です。しかし、私たち外国人がどんなに頑張っても、差別される時があります。日本人の友達がなかなか作れないです。異国の外国人との文化交流の発展をより一層推進してほしいです。</p> <p>2. 日本語があまり得意ではない外国人でも、就職できる会社などの情報を提供してほしい。</p> <p>3. ゴミ分別の訳文付きのパンフレットを配ってほしい。</p>
留学	20歳代	女性	日本人との人間関係がとても難しい。日中交流の強化が必要だと思う。たとえば、ホームステイとか
日本人の配偶者等	30歳代	女性	日本での生活は平凡で快適です。
永住者	40歳代	女性	外国人労働者の差別、文化の違い、言葉の表現が生み出す違い、日本人との人間関係で問題が発生したとき、日本人の主張を全面的に肯定する人達がいる、疲れるときがある。子供の養育の面でも母親が韓国人という理由だけでいじめられたことがあります。子供が差別を受けるのが一番つらいです。
永住者	50歳代	女性	個人的に私は母国よりも日本の生活のほうが良いです。日本人はやさしくて謙虚でおとなしいです。安全面も良いし。日本人ともっと仲良く過ごしたいが、機会もなく、このまま何十年日本に居ても、異国の人の気持ちはなくならないと思う。外国人のための医療、就職、安全などの情報と支援は必要です。
日本人の配偶者等	60歳代	女性	私が暮らしている宮城県大河原にはあまり韓国人いません、個人的には何かお願いする時は難しいですが、もう60歳主婦です、会話の相手は旦那だけです。周りは一軒屋が多くて皆寂しくて孤独です。韓国みたい地域ごと老人会館を開設して一緒に食事して会話もあって、楽しく毎日を過ごせる空間をもっと作ってくれれば、良いと思う、よろしくお願いします。
留学	30歳代	女性	基本的に日常生活に問題はないが、私はイスラム教徒であり仙台駅に行ったときに祈る場所がなく不便を感じているということだけだ。小さな礼拝所を作ることを宮城県に提案したい。イスラム教徒にとって大変便利になるだろう。この提案を考慮してもらうことを願っている。それ以外は宮城県に住んでいて幸せで快適だ。
技術・人文知識・国際業務	40歳代	男性	日常生活で大きな問題に直面したことはないが、私は行政に地元の日本人と外国人のミーティングを開催してほしいと思う。地元の日本人と外国人には大きなコミュニケーションのキャップがある。外国人は悪い人間ではなく、お互いを知れば学ぶことはたくさんあり、安心するということを行政は地元の日本人に教えてほしい。だからミーティングを開催すべきである。
特定活動	20歳代	女性	仙台発石巻行き夜の電車の本数を増やしてほしい。レストランに英語のメニューをおいてほしい。
留学	30歳代	男性	イスラム教徒としては宮城県の行政に仙台駅周辺の仙台市中心部にイスラム教徒のための礼拝所を設けてほしい。宮城県内におけるイスラム教徒の人口や観光客が増加していると思われるので、県外からイスラム教徒を呼び込むのに大変大きなインパクトのあるプロモーションになり、宮城県がイスラム教徒に優しい県として紹介されるようになるであろう。

留学	30歳代	女性	行政には小さくてもいいのでイスラム教徒の礼拝所を仙台中心部(仙台駅や一番町エリア)に作ってほしい。イスラム教徒が頻繁に訪れ、人気のスポットとなるだろう。大きなホールや建物である必要はなく、5分間のお祈りができるだけの快適な大きさがあれば十分である。温かいおもてなしに感謝する。宮城県は最高だ。
永住者	50歳代	男性	日本人のスポンサーがいないと、住居を探すのが大変難しい。安定した仕事と収入があり、家賃の支払い能力があったとしても、外国人賃貸人に対して目に見えない差別がある。
留学	20歳代	女性	イスラム教徒のコミュニティのためにハラール食品の種類を増やしてほしい。仙台でおすすめのレストランやお店、住居などについて、オンラインでの情報を増やしてほしい。年金のシステムや年金を払わなければいけない(免除されている)理由をいまだに理解できない。
居住者、在留外国人	40歳代	男性	日本人の夫は妻に忠実であるべきだ。不倫は日本では犯罪である！
留学	20歳代	男性	祈り。私と家族はイスラム教徒である。私たちにとって一日に5回行わなければならない祈りは大変重要な行為である。東京や大阪のように行政によって仙台駅に礼拝所を設置してもらえると、もっと楽になるだろう。
日本人の配偶者等	30歳代	男性	外国人が不動産会社を通して住む場所を探すのはとても難しい。面と向かって話をする時には、貸せる部屋はまったくないということが既に決まっていたように感じた。七十七銀行で新しい口座を開こうとしたが、受付は大変不親切で、以前ALTだった時には顧客だったのに新規口座の開設を拒否された。
宗教	60歳代	女性	日本に住む外国人に対する配慮に大変感謝している。日本に快く受け入れてもらっていると感じており、日本での暮らしを気に入っている。個人的な問題のほとんどは行政の助けが必要なものではない。わからないことがあると、たくさんの親切な近所の人や友人が進んで助けてくれることに大変感謝している。
留学	20歳代	男性	日本の警察官の外国人に対する態度が差別的である。学生の働く時間が少ない。日本人との交流が少ない。職場では差別がある。扱いもひどい。職場で日本人の態度が無礼だ。日本人は外国の文化や慣習を知らない。敷金が高いので家を借りるのも、日本人の保証人を見つけるのも大変だ。学生にとって車、バイク、自転車の駐車料金が高すぎる。病院でも困ることがある。
家族滞在	30歳代	女性	宮城県に住んで約6年になる。日常生活においてこれまでに大きな問題に直面したことはない。近所の人との交流がほとんどなく、知り合いにもなれない。外国人が近所の人と知り合う機会があればよいと思う。私は日本語をほとんど話せないため、近所の人と話をしたり、誰かに紹介してもらおう機会がない。交流の場を設けてもらえたら、私の娘にも新しい友達ができると思う。
特別永住者	40歳代	女性	夫の大学の2人の秘書が行政上の個人的な問題の対応を全て手伝ってくれる。また、子供の学校や市民センターで日本人や外国人に知り合う機会に恵まれている。
定住者	20歳代	女性	日本は住みやすい国のひとつである。
教育	30歳代	男性	私の住む地域では外国人に興味のある日本人を見つけることは難しい。仕事以外で日本人と交流する機会がほとんどないため、外国人との交流をテーマとした活動やイベントに興味がある。
言語			
永住者	40歳代	女性	にほんごがむづかしい まだちょっとだけ
永住者	60歳代	女性	居住市町村で日本語スクールをボランティアで定期的に行ってほしい。専門学校は遠方で費用もかかります。
永住者	50歳代	女性	日本語で送られてくる書類に、ふりがなが英語での説明を少しでいいので書いて欲しい。
永住者	40歳代	女性	日本語が難しすぎる。1級検定では、日本人でも出来ない問題がある。
留学	30歳代	女性	現在は何も問題ありません。日本語がまだ上手ではないので、話すことが困ります。
留学	30歳代	男性	他県では外国人用のガイドブックがあります。仙台では、わたしも友達も誰一人も持っていません。ベトナム人のためのお祭りを開催してほしい。お祭りが全然行われていなくてつまらない。お祭りが終わってから知ることが多いです。他国のお祭りもたくさん行ってほしいです。以上です。ありがとうございます。

永住者	80歳代	男性	宮城県にどのくらい中国人がいるか分かりませんが、公共の場所で中国語の標識をもっとわかりやすく設置した方がいいと思う。例えば、各バス停の標識や中国人がよく出入りしている場所など。
永住者	40歳代	女性	以下の事を解決してほしい。1. 病院で、言葉があまり通じないので、通訳がいてくれると助かる。2. 市役所などで手続きをするとき、言葉が通じないので、通訳がいてくれると助かる。3. 外国人のための日本語を勉強できる環境が不足しているので、そういった機会を設けてもらえると助かる。
日本人の配偶者等	40歳代	女性	家の近辺に週1回の日本語の教室もある。仙台には多く、授業料も安い(専門学校を除く)交通費がかかるので主婦には負担が大きい。4ヶ月間授業料19,000円、交通費100,000円くらい。一日2時間授業で負担も大きかった(何年前か)。まわりは母国の人達で授業が終わったら韓国語でおしゃべり。日本語が上手にならない。日本のお友達を作るのは難しかった。日本で何かを習ったりお店を開いたり、法律とかかわることは何処で聞けばいいかわからない。それで私は6年を無駄に過ごしました。在留カードをもらわないとアルバイトをしちゃいけないと思いました。
永住者	60歳代	女性	日本で生活できるように漢字の読み書きを続けたいです、夜に地域で教えてくれる所があるならいいですね、もう60代です、息子が韓国にいます、農業を続けて日本で仕事をさせたい、孫3人、嫁もあわせて5人、日本で生活して行けるよう助けてください、ありがとうございます。
技術・人文知識・国際業務	30歳代	男性	私は日本語で話してる時に、一所懸命頑張っても、日本人はちゃんと聞いてくれない場合が多すぎると思います。後は英語はテレビでよく芸能人とかが冗談として使っただけりるため。だから皆は英語はちゃんと勉強するかわり、バカにする方が楽しいだと思います。
農業研修生	20歳代	男性	日常生活の問題は、私はここに来たばかりで、周りの日本人が英語を話せないことだが、彼らのサービスには満足している。私が理解できないことを説明するため努力してくれる。
留学	30歳代	男性	私の見たところでは、外国人の多くは日本語を学ぶためにたくさん努力をしているが、日本人の多くは同じ努力をしているように見えない。双方が努力をしたら、外国人の日本語の上達に役立つだろう。
留学	20歳代	男性	私は日本語ができるので、日常生活においてほとんど問題はない。困っている外国人に英語で対応するアシスタントを官公庁や郵便局などの公共機関に配置したら、もっと便利になると思う。
留学	20歳代	女性	日本には外国人があまり多くないせいかわり、日本人から声をかけられることもなく、じろじろ見られる。気持ちを説明したりコミュニティに入れるぐらい、日本語のスキルを早く上げたいと思っているが、今のところできそうにない。ビールを飲みながらのほうが言葉や文化を学ぶのにはよさそうだが、今は日本と日本語を理解することができないような気がする(努力をやめるつもりはないが)。
家族滞在	20歳代	女性	1.もっと英語を使ってほしい。日本では英語があまり使われないため、コミュニケーションをとるのも生活するのも大変難しい。2. 24時間対応の小児科が少ない。息子が夜中の2時に具合が悪くなったとき、病院を探すのが大変だった。3. 医者はコミュニケーションの為に英語を身につけるべきだ。4. 東京のように仙台にもインターナショナルスクールを作ってほしい。息子の教育に困っている。
留学	20歳代	女性	一番大きな制約は言葉である。宮城県在住の外国人のほとんどにとっても同じだと思う。もっとも重要な問題は防災、気象警報注意報、地域のイベントに関する情報である。ウェブサイトにある避難地域についての情報や大学以外で行われる地元の避難訓練についての情報は日本語のものしかないため、情報を探するのが難しい。テレビで流れる情報は日本語しかないため、在日外国人に情報を広めるのにソーシャルメディアを利用して英語で発信すれば、大変効果的だろう。苦情を聞いてくれたことに感謝する。

永住者	50歳代	男性	日常生活において深刻な問題はないが、病院での診察の際、英語ではなく日本語を使わなければならない。英語を話せる医者ほとんどいない。高学歴の人々が英語を使えないのは驚くべきことであり不思議だ。もちろん日本に住む外国人は日本語を勉強すべきであるが、医者や専門的な職業に携わる人は基本的な英語を話せたほうが良いと思う。
情報			
永住者	40歳代	女性	中国人は悪い人が多いニュースなどで悪い所ばかりうつす。いい所もあることを日本人におしえてほしい。宜しくお願いします。
家族滞在	30歳代	女性	ネットワークの信号が強くてほしい
永住者日本人の配偶者等	50歳代	女性	来日して10年で特に何もありませんが、来日したてのころは慣れるまでたくさんの情報と支援があったらいいと思う。来たばかりでも、たくさんの支援と情報があれば、慣れるのに大きな助けになるだろう。
留学	20歳代	女性	日本で勉強する機会をもつことができ大変に感謝している。日本に来るにあたって私と家族の多大なる努力が必要だった。高度なレベルの日本語力を身につけることは私のように日本に住んでいる者でさえ難しく、来日前であればさらに難しい。もちろん可能な限り日本語と日本文化を学ぼうとしているが、時間がかかる。日本語を勉強中の外国人にもわかるように、道路標識や公共交通機関および病院における案内表示など重要な情報を日本語以外の言語で入手できたら便利になると思う。仙台では英語、中国語、ハングルでほとんどの情報を入手できるが、緊急地震速報のように携帯電話に送られてくる緊急のメッセージは日本語だけである。もし家に一人でいて助けを求められる人がいない場合は読むのが難しい。
宗教	30歳代	女性	私によくある問題はプレゼントと直接・間接話法の使い方のふたつである。日本の文化を知るにつれて、間違ったり、人を怒らせたりすることは少なくなってきた。外国人は日本文化に関するいろいろな情報を簡単に手に入れることができるようになってきており、そのような情報は非常に役に立つと思う。例えば、ある年配の男性から、いつもちょっとしたプレゼントをもらっていたが、彼には下心があったということを理解できなかったし、プレゼントを受け取るべきではなかったこともわからなかった。彼に恐怖を感じるようになり、引っ越さなければならなくなった。私の知っている日本人はたいていとても協力的で親切で、私が日本文化を理解できるように進んで手助けしてくれる。日本にはとても感謝している！
技術・人文知識・国際業務	30歳代	男性	メディアによるステレオタイプがひろまっているため、日本人の多くの方は仙台に住む外国人について知識がなく、怖がっている。共生社会を築く上で大きな障害であるが、この障害はたやすく解決できると思う。特に中小企業において、過労と低賃金、伝統的な考え方が大きな問題であり、有能な外国人労働者が仙台での永住を選択しない理由となっている。2015年から仙台は変わってきており、都会的で国際的になってきていると思う。私は仙台での生活を楽しんでいる。
医療・福祉			
家族滞在	30歳代	女性	いちばん困っていることは東北大学病院の婦人科で不妊治療を受けていることです。診査料金と薬局での医療費の学はかなり高く、また、不妊の原因はまだまだ明らかになっていません。これからも大変時間とお金必要となっております。
永住者	60歳代	女性	年金等老後の生活支援を充実してほしい。

永住者	80歳代	女性	宮城県に来て50年以上になります。離婚して30年以上、一人ですと生活してきました。ただ外国人なので国民年金にも入れてもらえず現在、今までの貯えで生活しております。貯えなど知れたものです。この先心配です。アルツハイマーとの診断も受け、現在2か月ごと病院に通っています。デイサービスに週3回(介護1) 福田英子。現在娘である私が、生活費等出ておりますが私の主人のお金です。私、仕事はしていないので年金もありません。現在義母の介護もあり、なかなか大変なことになってます。母も物忘れかひどく、一人で生活させるのも心配なのです。自宅の近くのアパートに今年2月、連れてきましたが出かけると迷子になったとあって、自分のアパートが見つけれず困っています。
永住者	50歳代	女性	私の主人は去年の8月ごろに能内出血でたおれました。今現在入院してまです。なやみは施設です。なんか所かお申込みしました けれども いまだにれんらく がありません。おむつもよく使う。困っています。
永住者	30歳代	女性	① 私は日本に20年以上住んでおり、不自由ではないが、初めての来日の方々に対し、医療機関の通訳等のサポートをもっと力を入れて欲しい。 ② 県内の方々と外国人の交流機会を増して欲しい。 東京、大阪等の大都会は、地域の住民は外国人の事を慣れてるようで、宮城県(仙台) 地方地域、まだ外国人の事を慣れていないことが多く、お互いにその地域で生活をする中で、お互いに理解しなければならないと思います。
永住者	50歳代	女性	夫の年金がすくないのが心ばいです。今の生活もまんぞくしてます。今の行政にもまんぞくしています。今の日本がだいすきです。
技能実習	20歳代	女性	困っていることは、日本語が分からないので、病院を探せない事です。病院のウェブサイトにも外国語ページがあればいい。日本人の友達をたくさん作れるようにボランティアに参加したいです。
永住者日本人の配偶者等	30歳代	女性	唯一困っている事は、子供の医療費が高い事です。収入が高いとはいえ、日本の子供と同じようにしてもらえないでしょうか。所得税が高いとはいえ、子供は関係ないと思います。このことで、よく差別されていると感じます。収入が高いので、子供医療無料申請しても資格がないと判断されました。2歳の子供は月2万ほどの医療費がかかるので、かなり負担になっています。日本人の子供はほぼ無料です。人種差別と貧富差別の問題を解決してほしいです。
永住者	40歳代	女性	外国人という理由で、医療機関の診療を拒否されたということを目撃からよく聞きます。改善が必要だと思ふ。
宗教	50歳代	男性	日本の年金プランに加入しなければならないという強いプレッシャーがある。
留学	20歳代	女性	健康保険など税金についての情報がわかりにくい。年々保険料の月額が大幅に上がっている理由がわからない。学生として受け取っている奨学金の額は毎年変わらないのに。
教育・育児			
永住者	60歳代	女性	私には 4人の子供が います。末っ子の むすめは 行政に すごく 大変 お世話になっています。中学三年生の時から、学校を休みがちで高校1年生の時に中退しました。そのご10近く家の中の生活が多くなり1年前15年の12月～16年12月約1年間病院にお世話になりその時行政今もお世話になっています。私達達は、30年岩出山町で自営業をしていました。でも、店を閉めることになり今富谷に約11年間住んでいます。私達は11年間同じ工場です仕事をしていました。朝が6時から はいった時は5時から 仕事でした。近所の人達とのかかわりがあまりなく、あいさつをするだけで、近所の人達の口がきこえてきます。でも、私達は、まげません。家族を守るためです！
永住者	40歳代	男性	子供達にインドネシアの文化・言葉と触れる場所やイベントなどの情報を教えてほしい。
特別永住者	50歳代	女性	今後国際社会にするためにはもっと外国語の習得が大事だと思うのですが個人で英会話等を習いに行くことも高いので市町村で安い金額で習える様にして欲しい。行政に外国人枠を増やし公務員として働く選択肢も増やして欲しい。外国人だという事を意識しないで生活出来る社会にして欲しい。

特別永住者	40歳代	女性	<p>① グローバル化が進んでいる中で、最も古い考えをもっているのは日本人だと感じます。日本人の中で(世界)育っている様な気がします。田舎に行けば行くほどそれは強くなっていくでしょう。幼少期から外国人との付き合い方や、外国の文化にもっと触れる事、色々な国々の文化を学ぶ事、理解させる事に力を入れて欲しい。小学校、中学校、高校と。アメリカやヨーロッパなどの先進国ばかりではなく、アジアや中東など、色々な国々の人と触れ合う機会(交換留学など)を設けて欲しい。子供(幼少期)のころに受けたピュアな印象は大人になってもそのままだと思います。</p> <p>② 今の日本人より外国人の方がまじめに働く人も多いと思います。外国人が働ける職種に制限をもうけないで欲しい。提出書類なども日本人と同じ扱いで良い様にして欲しい。</p>
	20歳代	男性	<p>私たちネパール人は英語が出来ます。私たちは日本で頑張って勉強したいです。日本で勉強するのにN3やN2を合格しなければなりません。私たちは簡単に日本の大学に入学したいです。私は、ソフトウェアエンジニアです。しかし、日本語が得意ではないので、勉強が出来ないことを心配しています。日本のITセクターが良いとの事で学びに来ましたが、入学さえ難しいです。私が今まで学んだ事が無駄になってしまいます。どこに連絡してもN3やN2を合格するようと言われる。私の意見をアピール出来てとても嬉しいです。ありがとうございます。</p>
日本人の配偶者等	20歳代	女性	<p>私は、日本人の配偶者です。3歳の子供がいます。専業主婦です。子供が3歳になっても、保育園に入るのがなかなか難しく困っています。日本の保育園の施設はあまりにも不足しています。優先的に解決してほしいです。</p>
永住者	30歳代	女性	<p>日本語を勉強したいけれど、学校が遠くて不便です。残留孤児達は無料のテキストやCDテープなどをもらえます。私たちも無料でもらえればいいと思います。専業主婦でも勉強しやすい方法を優先的に考えてほしいです。ネットの教室を開設するなど。</p>
家族滞在	30歳代	女性	<p>主に困っていることは、子供の保育園の申請です。日本に来てから半年以上申請待ちの状態です。ところが、名古屋や福岡の友達から聞いたのですが、やや同じ時期に日本に来たにも関わらず、保育園の申請がとても順調で、日本人の子供と同じ条件で入園できたそうです。どうして同じ国なのに、地域によって子供の福祉条件が違うのですか？宮城県には、これから保育園の入園環境を急いで改善してほしいです。</p>
日本人の配偶者等	40歳代	女性	<p>アンケートの調査が助けになれば、.. 私は40代の夫婦で息子が二人います。外国人として、妻として、嫁として、女として、個人的に宮城県で生きていくのに大きな問題はありません。でも子供が学校に入ってから、母としての日常は少し違いました。私が小さいころの韓国での生活と、子どもの日本での学校生活は大きく違います。特に、子供が学校で友達と喧嘩をしたり、意地悪をされたときに、すぐに担任の先生に電話して話すことがためらわれることです。なぜなら電話をしたら、かえって子ども達に悪い影響が出るのではないかと心配だからです。電話したいのをこらえたのは2、3度ではありません。文化の違いと言いますか、気を遣っていると言いますか、こういうこと以外は特に辛いことはありません。最後まで読んでくれてありがとうございます。</p>
技術・人文知識・国際業務	30歳代	女性	<p>福祉がちゃんと行き届いていて、外国語の教室もいっぱいありますが、幼稚園に入る前の子供を持っている外国人たちは基本的に日本語も習えず、まわりとの交流もできず、毎日家で子供と二人きりです。子供同伴で通える日本語教室があれば嬉しいです。趣味や(有料)の教室があれば必ず通います。また、外国人が初めて日本にきて、行政機関などに行く用事が多く、長く待たされて、書類準備について詳しい説明が足りなくて何度も行って疲れることが多いです。外国人にもう少し詳しい説明をしてくれれば最初からよいイメージで日本での生活をスタートできると思う。</p>
永住者	30歳代	女性	<p>地域に低料金で受けられる英語の授業や英会話グループを作ってほしい。私だけでなく他のALTもフルタイムの仕事以外で英語を教えられないことに罪悪感を覚えている。そういった場があればそんなプレッシャーから解放されるだろう。子どもや大人に仕事以外の場所で英語を教えてほしいといつも頼まれるが、それは不可能である。</p>

家族滞在	30歳代	女性	現在の問題は医療施設と教育である。医療施設や初等教育施設に英語を話せるスタッフを配置してほしい。子供の教育に携わる先生に英語は必須である。基本的に日本人の英語のスピーキングとライティングに問題がある。外国人のためにもっと英語を取り入れるべきだ。最後に、私は日本での生活を楽しんでおり、言葉に関して問題があったとしても、日本人のマナーや礼儀正しさは好きである。
労働			
日本人の配偶者等	40歳代	男性	①現在雇用保険受給中で、ハローワークへ行った際、通訳が配置されていたが、不用に1時間以上も待された。また、別の日には日本人の妻と受け付けに行った際、'下の階でお願いします'と言われ、下の受け付けでは'上の階です'とたらいまわしにされた。日本の法立の下、労働し、日本人同様の義務を果たし、権利の下、受給資格があり、ハローワークを訪れたのに不平等を感じた。多くの行政機関は混雑しており、少人数の日本語が不得意な外国人をカバーすることは難しいかもしれないが、もう少し通訳の数を増やすなど真剣に取り組んでほしい。 ②同じ国や、外国人同士でコミュニティーを広げられる活動を増やして欲しい。
特別永住者	70歳代	女性	今、70代の特別永住者です。若いときには、韓国(在日系)の企業に5年程いました。その後は、就職はまならずでした。疎外され、差別され続けました。臨時の職にしか就けず 年金も かけられず、ほぼその日暮らしてました。しかし、当時、国会の法整備が未成立にかかわらず、外国籍の人たちにも、給与時、厚生年金は徴収されました。当時の徴収分は国庫(?)にでも入れたのか不明です。年金支給時(手続きの折に)徴収分は加算されず 年数のみカウントされるという理不尽な状態でした。酷な時代の遺産です。以上の事柄もふまえて、今、国内に在住の外国籍の方達が、勤務の中で給与時、厚生年金の徴収分は、帰国時どのように処理されているのか、とても心配です。日本の年金制度は、先進国の中でも、異常な程、加入期間が長く、時代錯とも、芳しい限りです。もっと改善されるべきです。(改善されてももっと改善をと思ってます。)年金の手続きをと窓口に行き掛年数と金額の不足で5年間国民年金を支払われ、やっと70代に入り、ごく謹かな額を受けてます。この事の現実には、今も続いていると思います。又、公営住宅の入居申し込みです。日本の一般国民も同様に抽選により決まりますか?外国籍の特に永住者には、もう少し緩和し、外国籍もあってしかるべきではと思います。外国籍の住民を多くかかえている大阪府では(親戚の情報により)申し込み後、楽に入れる状況らしいです。
技能実習	20歳代	男性	しごとはえんちようほしです。あとはもんだいありません。
技能実習	20歳代	女性	生活の中で住む所に問題がありませんが、仕事ではちょっと困った事がありました。それは外国人と日本人の差別すること。仕事では日本人の方が片寄る。例えば私たちは休みの日休みたくても担当者から連絡がきて日本人の代わりに働かなければなりません。そして他にも、外国人は何かが悪かったら担当者が注意しますが日本人の場合何も言わない。
家族滞在	20歳代	女性	仙台はアルバイトの時給が安いです。市民税が無ければ、私たちの生活が簡単に出来ると思います。そして、私たち外国人から年金を取らなければもっと良いと思います。ここの日本語学校では外国人に対して不公正なやり方しています。例えば、寮に住まなければなりませんと言われます。一つの部屋に5、6人を住ませます。学費は前払いさせる。良くなると思います。
技能実習	40歳代	女性	生活面で困っていることはないですが、給料が安いのが困ります。
家族滞在	20歳代	女性	日本での暮らしはとても快適です。ただ、仕事を探すのがもっと簡単になればいいと思います。日本に来て長いですし、日本語も検定3級程度で話せますが、それでも仕事になかなか見つからないです。日本の物価が中国より高いので、仕事をしないと生活がとても厳しいです。外国人のための求人情報を定期的に決まった場所で掲示してほしいです。

日本人の配偶者等	50歳代	女性	外国人が働ける場所があればいいと思う。若い人たちが夜の仕事以外、行く場所がない事をよく聞くとかわいそうだと思います。なるべく一生懸命勉強して日本語を覚えても、いいところに就職するのは難しいと聞きました。私はもう年を取って主人の仕事を手伝いながら過ごしていますが、老後(70歳、80歳)が心配です。現在動けるうちに少しでもお金を貯めればいいと思う。主人がもうすぐ70歳、私は60歳になりますが、家もなくアパートの家賃が結構負担になっています。いくら節約して貯めようとしても、マイホームの夢は遠いです。
	20歳代	女性	日本人のライフスタイルは通常とても忙しい。日本人のほとんどは働きすぎである。しかし、メンタルヘルスに関するサポートはほとんどない。精神状態が良くなかったとしても、それは精神的に弱いとみなされ、メンタルヘルスはさほど重要なものとは思われていない。メンタルヘルスにはサポートと積極的に関わりを持つことが必要である。
永住者	60歳代	男性	私が働いていた会社は日本の規則を守っていなかった。18年間働いたが補償金もなく解雇された。パンチカードを使うのは所定労働時間のみで、超えた分はパソコンで管理し、1日に11～12時間働いても8時間しか勤務していないことになって、私たちをだましていた。この手の会社は閉鎖されるべきだ。
技能	40歳代	男性	私は実習の為に来日した。仕事と同僚のどちらにも大変恵まれている。学んだことを出来る限りタイに持ち帰りたい。日本の実習で学んだ本質を人材開発に可能な限り取り入れたい。日本の実習の本質は大変に興味深い。ありがとうございました。
教育	30歳代	男性	もっとも大きな問題は雇用の確保と安定である。アメリカにいた時点で宮城での仕事が決まったことはとてもラッキーだった。現在の仕事を辞めたくないが、強制的に解雇されるかもしれない。また、日本になじめるように日本語をもっと勉強する必要があると感じている。もっと日本語を流暢に使えていたら、日常生活をもっと楽しめるのと思う。 地元での職探しの方法がたくさんあれば大変助かる。今は英語で書かれた求人広告を探すしかないが、二か国語表記の求人広告があれば役に立つ。住宅支援においても同じだろう。私は日本になじもうと努力をしている。日本に住む外国人を助きたいという日本は素晴らしい。一方で外国人も日本や日本文化になじむ必要がある。日本は多文化主義ではなく、人種のるつぼなのだ。
永住者	40歳代	男性	日本における外国人労働者の権利は不十分である。健康保険や年金に関して、日本人労働者と同様の権利を受けられない場合がしばしばある。法律で定められている有給休暇を与えられない場合もある。住民として行政に税金を納めているのだから、外国人も日本人労働者と同じ権利を与えられるべきだ。
行政			
実習生	20歳代	女性	みやきけん に ゆうちえんち とかがあったら 休みのとき しちょうどんいがいへ 遊びに 行かなくても いいです。
特別永住者	70歳代	男性	帰化制度を簡単にしてほしいです。
永住者	30歳代	男性	この度「外国人県民アンケート調査を行って頂き、誠にありがとうございます。私達今の生活していく中で困っていることは住宅です。今妻と子3人で月7万の2DKのアパートに暮らしています。子供が大きくなるとともに荷物が増え部屋も狭くなり、日々子供の笑い声や泣く声など、けっこう近所さんに迷惑をかけていると思いますが、それで少しでも安くて広い所に住めたらと思い、毎年市営住宅の申請をしているのですが、残念ながら毎回外れの回答しか来てませんでした。(市営住宅の申請条件の基本は生活に困っている方や、ある程度の収入しかない方などの事を知っているうえで申請を申し込んでいます)。それと私達みたいな家族を持ち、日本に暮らしている外国人も多少優遇されるべきではないでしょうかと思い、今回書かせて頂きました。わがまま言ってしまったかもしれませんが、ただ一人の外国住民今感じていることです。少しでもご参考になればと思います。宜しくお願い致します。平成29年12月16日

特別永住者	40歳代	女性	選挙権が欲しいです！
特別永住者	50歳代	女性	マイナンバーカードを通称名で作れるようにして欲しい。演劇やコンサートなどを見に行く時、身分証明書(特にマイナンバー)持参が多くなり国籍までも明かされる。せめてローマ字で作って欲しい。
永住者	70歳代	女性	日本人になりたいので帰化をしたいのでつづきなどおしえてくださいおねがいします。どこえいってするのもくわしくしよいかもなにをそろえるのかもおしえてよろしくおねがいします。おそくなりましてもうしわけありませんでした。
永住者	30歳代	女性	①外国籍住民にむけの子育てサロンやイベントをもっと増やしてほしい。そして、そういう情報の得る場所がわかりません。子育てが忙しいので、ネットで簡単に調べられると助かります。 ②ボランティア活動なども参加してみたいのですが、小さい子供がいるので、なかなか参加できません。子供を連れて一緒に行けたらいいと思います。
留学	20歳代	男性	留学生向けの公営住宅情報をを学校を通して留学生に提供してほしいです。また、文化交流活動、通訳・翻訳のパートタイムなどの情報を学校を通じて留学生に提供してほしいです。
永住者	50歳代	女性	以前は石巻市に入国管理局がありました、今は仙台にしかなく、仕事と家事で忙しい中、仙台まで行くのがとつても大変です。 あとパスポートの更新も大変です。 是非石巻でも手続きが簡単にできるようにしてほしいです。
日本人の配偶者等	40歳代	女性	意見を聞いたら、必要な事は行動をする事です。日本の行政は変化が感じられません。
特別永住者	60歳代	男性	特別永住者はおいての帰化はもっと簡単にすべきだと思います。今のままよりもっとすぐに帰化できる様 国に取り組んで貰いたいものです。 私は日本を愛しております 日本対韓国戦etc(スポーツ)やはり日本を応援するもの
永住者	30歳代	男性	今後日本国籍を取得しようとしている外国人への解りやすい案内、必要書類の詳細を提示してほしい。また、もっと日本国籍を取得しやすいシステムにして欲しい。
技術・人文知識・国際業務	20歳代	女性	・税金が高い。 ・公営住宅が少ない。
高度専門職一号(ロ)	30歳代	男性	いつもお世話になります。最近職場ではたまにもめが起りますが、仙台市での生活は一応快適と言えます。しいて言う、土日に区役所などがオープンしないことに不便を多少感じます。それ以外は特にありません。いつもありがとうございます。
特別永住者	30歳代	女性	私は、日本で産れ育っているのだから国籍が韓国籍という事で色々悩みましたが、いまでは不自由なく暮らしていますが、帰化をいづれするつもりなのですが、手続きに関して、サポートしてくれたと思ってます。何度か、帰化の手続きをしようと思いましたが、途中で断念してしまってます。なので、地域内で帰化の手続き等サポートしてくれる行政書士といった方の紹介などしてくれたら、すごくありがたいです。
留学	20歳代	男性	国籍？区域の方がいいでしょう。
特別永住者	50歳代	男性	日本生まれ、日本育ちの人ではなく、日本以外から来との意見を求めるなら特別永住者は、はずしてもよいのではないのでしょうか？特別永住者は、日本生まれ 日本育ちの方がほとんどだと思いますので。
特別永住者	40歳代	男性	子供の教育、学費、親(2世)の老後、自分の年金・老後の問題。など。。。仕事に在日という事で、選択的なのでもっと政策的に優遇してもらわないと、このきびしい国・社会で生きていけない。(Affirmative Actionなど)普通では生きていけない。逆境に勝つという精神的な文野。日本と県と市と国民と市民と、一諸にうまくやっていきたい。未来がニュースに左右されるのはかなり危い事だと思います。在日の存在自体が国のせいであやうい状態。以上。(本名で不自由なく生きて行けるように。)
特別永住者	60歳代	男性	日本国籍をカンタンに取得出来る様にしてほしい。

永住者	50歳代	女性	(代筆)夫 国民健康保険証をとり市役所へ行った時、窓口で外国人登録証の提示を求められ、提示したところ、外国人登録証を持って奥の方へ行き、無断でコピーをとられた。確認するだけと思っていたので何か不安になった。主人に話したところ、すぐおこって市会議員に電話し対応してもらった。この様な市役所職員がいるのかと思うと不安になる。
永住者	20歳代	女性	日本国籍を取得したいのですが、仙台まで行かないと行けなく、なんども行くのが大変。
特別永住者	40歳代	男性	在日外国人の人権を尊重してほしい
特別永住者	20歳代	男性	宮城県経済商工観光部国際企画課のみなさまがんばって下さい！！おつかれ様でしたー！！^▽^
日本人の配偶者等	20歳代	男性	アンケート調査確認おねがいします。自分もそちらで働きたいです。
留学	20歳代	女性	仙台で生活し始めて1年程経ちましたが、一番感じたのは仙台市民が親切なところ。例えば、入学当初いろいろな手続きが便利であることにとっても驚きました。もちろん、不便で困ったことも沢山ありました。最初日本語があまり分からなかったとき、とても困りました。もし可能ならば、手続きの際英語の説明があればもっと便利です。日本文化をもっと感じられるようなイベントを定期的に行った方がいいと思います。
定住者	30歳代	男性	毎回のビザの更新申請がとても面倒で、審査も厳しいです。
留学	20歳代	女性	1. 緊急事態が発生した場合、緊急連絡先の番号の一覧を配布すること。2. 仕事に差別しないように、日本人に教育すること。3. JRの路線標識が分かりにくい。4. 今回のアンケートが長すぎる。
永住者	30歳代	男性	日本語があまり得意ではない外国人に対する就業支援や住宅の賃貸情報などの説明会を定期的に行ってほしいです。
留学	20歳代	男性	特に困っていることはありません。たまに何かの手続きをする際に、手順が面倒で、時間がかかりすぎる。市役所等の営業時間が短すぎる。
永住者	50歳代	女性	日本政府が外国人を差別しないように呼びかけてほしいです。私は今とても困っていることが一つあります。私は、2000年1月25日に日本人男性と結婚して日本に来ました。中国での身分証が満期になったので、2015年に1度中国に帰国しました。ところが、私はなにもしてないのに戸籍を取り消されていました。その後何度も帰って手続きしましたが、なかなかできなかつたです。戸籍の事でどうしたらいいか分かりません。行政に助けてほしいです。
留学	30歳代	男性	主に困っていること: 1. ビザ更新手続きがあまりにも面倒くさいです。本人は現在博士3年生です。文科系5年卒業できるのがとても難しいですから、延長ビザ申請するのは一年一回しないとだめです。ビザは一年間の許可しかおりないので、ビザを更新しないとほかの手続きにも影響します。とても困ります。2. 仕事就職活動情報が少なすぎます。卒業後自分が専門知識関係ない会社に就職する例は珍しくありません。自分が一生懸命勉強した専攻知識を活かせないから、とても悔しいです。人材の無駄使いが多い。3. 日本の法律知識本に、中国語の訳文は大まかな内容しか訳されていない。これから、日本で働く間に法律に違反するかどうかは分からないので、心配です。中国語訳文をもっと詳細的に書いてください。
永住者	50歳代	女性	日本で生活するのがとても忙しいです。何かの手続きする時、あまり面倒くさくて時間がかかりすぎる。この時間を短くできれば有効的な時間が多くなります。入国管理局に毎回電話しても、ほとんど通じない状態です。町から離れて郊外に住んでる外国人達も市政府との繋がりがほとんど感じられないです。異国にいる私達は当然に母国を愛していますが、これから日中友好関係をもっとよくなる為に自分なりに貢献したいです。
教授	20歳代	女性	日本で何かの手続きをするとき、とても面倒で時間がかかり過ぎる。親族訪問のビザ申請の手続きはもっと早く簡単に出来るよう、手続きを簡略化してほしい。
留学	20歳代	男性	他の自治体より外国人をサポートするよう努力する事が分かりますので、是非これからも頑張ってください。
留学	30歳代	男性	アンケート調査だけで終わらないで、外国人が生活しやすいように、日本人と共存しながら、仲良く出来る政策を実行してほしい。

永住者	40歳代	女性	労働法、年金、保険、遺族年金などについて、外国人のためのセミナーや講座を行い、外国人に対する適用についてよく考えて欲しいです。これらの法律は内容が分かりにくいので、理解したいと思っています。病院に行ったとき、書類が母国語だったら助かります。日本人の外国人に対する視線がもっと優しく、文化交流できる場所があればいいと思います。
永住者	40歳代	女性	お疲れさまです。これからも大変だと思いますが、外国人のためによりしくお願いいたします。
永住者	40歳代	女性	アンケートの枚数が多かったのでびっくりしたけど、県内に住んでいる外国人のために調査して把握したいという行動に感謝したいです。ありがとうございます。
永住者	60歳代	男性	1. 外国人住民たちに県と市の文化遺産を教えてください、市政の課題をオリエンテーションしていただければ、もっと愛郷心と市民意識が向上されると思う。 2. グローバル化されて行くなかで、市民達が外国人が持っている他国の文化に触れて見るプログラムを、機械を沢山作って置いてほしい。 (共存、共生できる為には文化交流と学び合う場がもっとほしいと思う)
留学	30歳代	男性	大きな問題は区役所などさまざまな場所における文書の記入についてである。英語の記入例があれば便利になるだろう。第二の重要な問題は日常生活に必要な情報を英語で提供してほしいということである。ゴミ処理、住居、住宅のメンテナンス、税金やその他の料金、医療サービス、補助サービスなど。外国人が利用できるサービスについて知らないことが時々ある。行政には情報を一度に提供してもらえると助かる。例えば外国人は区役所に住所を登録しなければならないので、その際に、英語で書かれたパンフレットや関係する情報について提供してもらえれば、必要な時に利用することができる。
留学	20歳代	男性	外国人の支援と意見を集めるために、行政に外国人の代表者を加えること。
技術・人文知識・国際業務	30歳代	女性	行政には住居問題に取り組んでほしい。外国人を差別する家主が存在し、永住権を持っていない外国人は家を買うことができない。家を買いたいと思ったら、永住権の取得に10年も待たずに家を買うチャンスを与えられるべきだ。もうひとつ行政に解決してほしい問題は、単に技術的な問題だが、入国管理所や運転免許センターで名前にハイフンを使えないことである。ハイフンがついたパスポートを渡すと他の身分証明書にはハイフンがついていないため、名前が一致しないと文句を言われイライラする。なぜ一致しないのか？ その原因は行政側にある。だからいつも大きな問題になるのだ！ 私は行政にいかなる変化も期待していない。行政はサービスや助けを提供していると答えるだけだ。さまざまな問題に関して何度も問い合わせたが、返事をもらったことはない。時間の無駄だった。
永住者	60歳代	男性	環境に関心を持つ人間として、「グリーンゴミ」のリサイクルシステムを作ってほしい。「グリーンゴミ」とはレタスの葉、古い野菜、食品廃棄物である。ヨーロッパやアメリカの先進都市では、「グリーンゴミ」をたい肥化再生工場に持っていき、農業用の高品質な有機肥料に再生している。燃やしたり埋めたりするよりもずっと良いシステムだ。通常、この肥料は地元の農業従事者に安く売られている。ゴミ処理の税金を既に支払っているのに、税金が有益なリサイクル製品に再生されることを期待する。「グリーンゴミ」を回収している都市では緑色のゴミ箱を設置して食品廃棄物を回収している。
留学	30歳代	男性	家探しに苦労した。大学に雇用されているのに、約20人の家主から断られた。保証会社に申し込んだが断られた。行政には外国人の住居をサポートするサービスを開設してほしい。ただし家賃が95000円以上であれば問題にはならないようだ。 法律上10名以上の従業員がいる会社は社会保険に加入していなければならないが、入っていない会社もある。行政は外国人の雇用状況を確認すべきだ。経営者が外国人である場合はなおさらである。
教育	20歳代	男性	見た目ですぐわかるように電気、水道、ガスなどの請求書にシンボルマークを入れてほしい。コンビニエンスストアでガスの支払ができるようにしてほしい。
日本人の配偶者等	30歳代	女性	日本在住の外国人に共通する問題は言語である。行政は特に子育てに関して外国人に言語サポートサービスを提供すべきだ。説明がなくても理解できるように、英文のパンフレットを作ってほしい。

その他			
技術・人文知識・国際業務	20歳代	男性	皆さん、お疲れさまです。現在、何も意見がありません。ご支援ありがとうございました。来年も宜しくお願いいたします。以上です。
特別永住者	60歳代	男性	特になし
日本人の配偶者等	30歳代	女性	特にありません。ありがとうございます。
家族滞在永住者	30歳代	男性	とくになし
永住者	50歳代	女性	特にはありません。
定住者	40歳代	女性	特になし。
特別永住者	70歳代	男性	なし
留学	40歳代	男性	特にないです。
永住者	30歳代	女性	1. 被災地の人口の流出を防止するために、外国人手当ての補助をする。 2. 被災地で連続働いている外国人スタッフを表彰する。 3. 一年に一度ぐらいに被災地に来て外国人を訪ねする。 4. 日本国内や世界に向けて宮城県の宣伝がてれから期待しております。
留学	20歳代	男性	まだないと思う…
永住者	30歳代	女性	とくにありません
技能実習	30歳代	女性	いわけをしない
日本人の配偶者等	30歳代	女性	特になしです。
永住者	40歳代	女性	特にはありません
留学	20歳代	男性	別なことはいけませんです。ありがとう
永住者	40歳代	女性	私は日本の宮城県仙台市に16年間住んでいます。初めて仙台に来た時、日本に「冬のソナタ」のドラマの人气があつて、日本にいる友人や知人に温かく迎えていただいた事が未だに忘れられません。自分にとって仙台市は第二のふるさとであり、16年間日本にいと日本人になったように感じる事が時々あります。特に、母国に帰ると早く仙台に戻りたくて長く帰省していられなくなる自分にびっくりした事もあります。日本の文化は奥深く、おもてなしや人に迷惑をかけるなどとてもすばらしいです。私は子どもの習い事で武道の剣道を通じてもっと奥深い日本の文化を知ることができました。仙台が大好きな私ですが、自分ができる事は何かを日々考えながら生活しております。いつも有り難うございます。
永住者	60歳代	男性	日本で暮らしている間は、特に困ったことはありません。日本政府と日本国民に感謝します。
永住者	40歳代	女性	なし
永住者	40歳代	女性	特になし
永住者	70歳代	女性	私はもう72才になりました。いろいろな事を勉強したいけれど、もうとても難しいです。病気もちで、血圧も高い、足も痛い、普段歩くのも困難です。すべて娘に頼っています。
留学	20歳代	男性	特にないです！
教授	40歳代	男性	特に無し
留学	20歳代	女性	問題なし。
特定活動	30歳代	男性	特になし。
留学	20歳代	男性	日本ではすべてがうまくいっている。
永住者	40歳代	男性	現状には大変満足している。
永住者	60歳代	女性	コメントなし。七ヶ宿町の行政の現状に大変満足している。
技能	40歳代	男性	日本に住んでいて幸せだ。住む機会を与えてくれて、ここでの生活を経験させてくれる日本に感謝している。
留学	20歳代	男性	このアンケートが役に立つことを望む。私は日本での勉強をととても楽しんでいる。

Ⅲ アンケート調査票

平成29年度 宮城県外国人県民アンケート調査

県政の推進につきましては、日頃ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

このアンケートは、宮城県が、外国籍住民の皆様の生活実態や意識を把握し、国籍や民族などの違いにかかわらず、県民の皆様が安心して暮らせる多文化共生(※)の社会づくりを進めるために実施するものです。

質問内容は、生活、言語、教育、防災など全部で55問の構成となっています。

この調査票は、宮城県内にお住まいの外国籍住民の皆様から、約1,900名を抽出し、郵送で配布しております。

回答に当たりますは、無記名で返信していただき、その結果は統計処理されますので、個人にご迷惑のかかるようなことはありません。

ご面倒をおかけし大変恐縮ですが、ご協力をよろしくお願いいたします。

(なお、この調査票は「やさしい日本語」で表記している箇所があります。)

宮城県経済商工観光部 国際企画課長 今野 佳浩

※「多文化共生」とは

国籍、民族等の異なる人々が、互いに文化的背景等の違いを認め、及び人権を尊重し、地域社会の対等な構成員として共に生きることを意味しています。

宮城県「多文化共生社会の形成の推進に関する条例」より

調査票の提出方法について

ご記入の調査票は、返信用封筒に入れていただき12月25日(月)

までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

なお、調査票は日本語版のほか、中国語(簡体字)版、韓国語版、英語版、ベトナム語版、ネパール語版を作成し、それぞれの方に最も適していると思われる言語版を送付しております。

ご回答は日本語版、外国語版のどちらか一方を使用していただき、使用した調査票のみを提出してください。

調査に関するお問い合わせや、受け取った調査票の言語では回答が難しい場合のご相談については、下記へご連絡ください。

【連絡先】 平日(月~金)9:00~17:00にお願いいたします。

宮城県経済商工観光部 国際企画課

電話番号: 022-211-2972 Email: kokusaik@pref.miyagi.lg.jp

1 あなたご自身についてお聞きします

問1 あなたの国籍は次のどれですか。
あてはまる番号に○をつけてください。

- | | | | |
|--------------------|----------|-----------|-------------|
| 1. 中国 | 2. 韓国 | 3. 朝鮮 | 4. ベトナム |
| 5. ネパール | 6. フィリピン | 7. 米国 | 8. インドネシア |
| 9. 台湾 | 10. タイ | 11. パキスタン | 12. バングラデシュ |
| 13. その他（国名： _____） | | | |

問2 あなたが住んでいる市町村はどこですか。
市町村名を記入してください。

市町村名 _____

問3 あなたの性別はどちらですか。
あてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

問4 あなたの年齢は以下のどれにあてはまりますか。
あてはまる番号に○をつけてください。

- | | | | |
|----------|---------|---------|----------|
| 1. 20歳未満 | 2. 20歳代 | 3. 30歳代 | 4. 40歳代 |
| 5. 50歳代 | 6. 60歳代 | 7. 70歳代 | 8. 80歳以上 |

問5 あなたは結婚していますか。
あてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. している（配偶者の国籍： _____） | |
| 2. していない | 3. していたが、死別又は離別した |

とい問6

現在あなたと同居している人はいますか。

次のうち、あてはまる方すべての番号に○をつけ、それぞれ()の
中に人数を記入してください。また、同居者の国籍について人数、国名
を記入してください。

1. 配偶者	2. 子ども () 人	3. 父親・母親 () 人
4. 祖父母 () 人	5. 孫 () 人	
6. その他の親族(兄弟姉妹を含む) () 人		
7. 友人・知人 () 人		
8. ひとりぐらし		
国籍:	a. 日本 () 人	
	b. 自分と同じ国籍 () 人	
	c. その他の国籍 () 人 (国名:)	

とい問7

あなたの在留資格は以下のどれですか。

あてはまる番号に○をつけてください。

1. 留学	2. 永住者	3. 特別永住者
4. 家族滞在	5. 日本人の配偶者等	6. 技能実習
7. 教授	8. 技術・人文知識・国際業務	9. 定住者
10. 教育	11. 技能	12. 宗教
13. 特定活動	14. その他 ()	

とい問8

あなたは今後どれくらい、宮城県または日本に住もうと思っていますか。

あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

1. ずっと宮城県に住み続ける
2. 日本には永住するが、宮城県からは転出する
3. 日本には永住するが、宮城県に住み続けるかわからない
4. 将来は日本を離れる
5. 日本を離れるかどうかわからない
6. その他(例: 母国との間を一定期間ごとに往復する、など) (具体的に:)

問9

あなたは日本国籍を取得しようとおもっていますか。
あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

- | | | |
|---------|----------|----------|
| 1. 取得する | 2. 取得しない | 3. わからない |
|---------|----------|----------|

2

日常生活についてお聞きします

問10

お住まいの地域の日常生活について、総合的に、どのように感じていますか。あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

- | | | |
|-------|--------------|---------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 |
| 4. 不満 | 5. どちらともいえない | |

問11

日常生活に関する次の個別の事柄について、どのように感じていますか。あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

生活情報	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	5. どちらともいえない
住宅環境	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	5. どちらともいえない
災害に対する備え	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	5. どちらともいえない
医療・福祉	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	5. どちらともいえない
近所付き合い	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	5. どちらともいえない
県や市町村が提供するサービス	1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	5. どちらともいえない

3 げんご ことば 言語についてお聞きします

問12 あなたの日本語能力を自分で判断するとすれば、次のどれにあたりますか。あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

A 話す	1. 不自由なく話せる	2. だいたい話せる	
	3. あまり話せない	4. ほとんど話せない	
B 聞く	1. 不自由なく聞き取れる	2. だいたい聞き取れる	
	3. あまり聞き取れない	4. ほとんど聞き取れない	
C 読む 〔漢字〕	1. 不自由なく読める	2. だいたい読める	
	3. あまり読めない	4. ほとんど読めない	
	〔ひらがな〕	1. 不自由なく読める	2. だいたい読める
		3. あまり読めない	4. ほとんど読めない
	〔カタカナ〕	1. 不自由なく読める	2. だいたい読める
		3. あまり読めない	4. ほとんど読めない
D 書く 〔漢字〕	1. 不自由なく書ける	2. だいたい書ける	
	3. あまり書けない	4. ほとんど書けない	
	〔ひらがな〕	1. 不自由なく書ける	2. だいたい書ける
		3. あまり書けない	4. ほとんど書けない
	〔カタカナ〕	1. 不自由なく書ける	2. だいたい書ける
		3. あまり書けない	4. ほとんど書けない

問15

問14で「2.」に○をつけた方にお聞きします。
あなたはどのように日本語を学んでいますか。あてはまる番号をいくつでも選び、○をつけてください。

1. 教材やインターネットまたはオンラインなどで自分で勉強している
2. 家族に教えてもらっている
3. 自宅に講師を招き、個人指導を受けている
4. 日本人の知人・友人に教えてもらっている
5. 通っている大学や学校で学んでいる
6. ボランティアの日本語教室に通っている
7. 語学学校（日本語学校）に通っている
8. その他（具体的に：)

問16

問14で「3.」「4.」に○をつけた方にお聞きします。
あなたが日本語を学ばない、学んでいない理由は何ですか。
あてはまる番号をいくつでも選び、○をつけてください。

1. 忙しくて勉強する時間がないから
2. 日本語教室や日本語学校の情報がないから
3. 近くに学べる場がないから
4. 勉強するお金がないから
5. 家族や友人などが通訳してくれるから
6. 母国の言葉だけで生活できるから
7. その他（具体的に：)

4 生活に必要な情報についてお聞きします

問17 あなたは、生活に必要な情報をどこから得ていますか。以下の中から、よく利用するものをいくつか選び、○をつけてください。

- | | |
|-------------------------------------|---------------------|
| 1. 外国籍住民向け相談窓口（みやぎ外国人相談センターや市町村窓口等） | 3. 新聞・雑誌 |
| 2. テレビ・ラジオ | 4. パソコンを使用したインターネット |
| 5. 携帯電話を使用したインターネット | 6. 職場・学校 |
| 7. 家族 | 8. 日本人の友人・知人 |
| 9. 母国出身の友人・知人 | 10. 近所の日本人、町内会の回覧 |
| 11. ボランティア団体 | 12. 母国の大使館・領事館 |
| 13. その他（具体的に： _____） | 14. 入手する方法がない |

5 居住についてお聞きします

問18 あなたは、通算して日本にどのくらい住んでいますか。また、宮城県、現在住んでいる市町村には、通算して何年間住んでいますか。以下の中から、あてはまる番号を選び、○をつけてください。

にほん 日本	1. 6ヶ月未満	2. 1年未満	3. 3年未満	4. 3～5年
	5. 5～10年	6. 10～20年	7. 20～30年	8. 30年以上
みやぎけん 宮城県	1. 6ヶ月未満	2. 1年未満	3. 3年未満	4. 3～5年
	5. 5～10年	6. 10～20年	7. 20～30年	8. 30年以上
げんざいす 現在住んで いる市町村	1. 6ヶ月未満	2. 1年未満	3. 3年未満	4. 3～5年
	5. 5～10年	6. 10～20年	7. 20～30年	8. 30年以上

問19

あなたは現在住んでいる市町村の前はどこに住んでいましたか。以下の
中から、あてはまる番号を選び、○をつけてください。

1. 宮城県内の他の市町村
(市・町・村)
2. 宮城県以外の都道府県
(都・道・府・県)
3. 日本以外の国・地域
(国・地域名 :)
4. 現在お住まいの市町村以外に住んだことはない

6 いりょう ふくし き
医療・福祉についてお聞きします

問20

以下のような保健・医療・介護サービスを利用したことがありますか。
あてはまる番号をいくつでも選び、○をつけてください。

1. 県または市町村の基礎健康診断
2. 県または市町村の各種がん検診
3. 県または市町村の健康相談
4. 県または市町村の心の健康相談
5. 休日・時間外の診療機関
6. 外国語で診療可能な医療機関
7. 介護保険サービス

問21

あなたが病気になるって病院に行くときに困ったことはありますか。
あてはまる番号をいくつでも選び、○をつけてください。

1. 外国語が通じる病院を利用したい
がどこにあるかわからない
2. 休日・夜間に利用できる病院が
どこにあるかわからない
3. 医師や看護師と言葉が通じない
4. 日本語の書類・案内が理解できない
5. 医療費が高すぎる
6. とくに困っていることはない
7. その他 (具体的に :)

問22

あなたが病気になるって病院に行くときに、どのような言語支援があると良いと思いますか。あてはまる番号をいくつでも選び、○をつけてください。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 通訳者 | 2. 母国語で会話ができるスタッフや医師 |
| 3. 母国語のパンフレット | 4. 言語支援の必要はない |
| 5. その他（具体的に： _____） | |

7 育児・教育についてお聞きします

問23

あなたには現在、18歳未満のお子さんがいますか。あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。また、「2.」に○をつけた方は人数を記入し、それぞれのお子さんについて下記のとおりお答えください。

1. いない	2. いる（ _____ ）人
	現在の年齢 日本で生まれたお子さんに○ 日本に移住したお子さんは、移住してきた年齢
1人目	（ _____ ）歳 【 _____ 】 【 _____ 】歳
2人目	（ _____ ）歳 【 _____ 】 【 _____ 】歳
3人目	（ _____ ）歳 【 _____ 】 【 _____ 】歳
4人目	（ _____ ）歳 【 _____ 】 【 _____ 】歳
5人目	（ _____ ）歳 【 _____ 】 【 _____ 】歳

問23 で選択肢 1 を回答された方は問31へ、
 選択肢 2 を回答された方は問24へお進みください

とい問24

あなたがご家庭でお子さんと会話するときに使う言語は以下のうちどれですか。あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

(1) 日本で生まれたお子さんがいる場合

- | | | |
|----------|---------------------|------------------|
| 1. 日本語だけ | 2. 主に日本語 | 3. 日本語と母国語が同じぐらい |
| 4. 主に母国語 | 5. その他（具体的に： _____） | |

(2) 日本に移住してきたお子さんがいる場合

- | | | |
|----------|---------------------|------------------|
| 1. 日本語だけ | 2. 主に日本語 | 3. 日本語と母国語が同じぐらい |
| 4. 主に母国語 | 5. その他（具体的に： _____） | |

とい問25

育児について、以下のようなことで困っていることはありますか。あてはまる番号をいくつでも選び、○をつけてください。

- | |
|-----------------------------|
| 1. 子育てに関する悩みを相談できる相手がいない |
| 2. 子育てに関する情報が日本語なのでわかりにくい |
| 3. 子育てについて日本人の家族と意見が合わない |
| 4. 同じように子育てをしている人と知り合う機会がない |
| 5. 保健師や保育士などとコミュニケーションがとれない |
| 6. その他（具体的に： _____） |
| 7. とくにない |

とい問26

以下のような子育て支援制度を利用したことはありますか。あてはまる番号をいくつでも選び、○をつけてください。

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 母子健康手帳 | 2. 妊産婦・新生児訪問指導 |
| 3. 乳幼児への予防接種 | 4. 乳幼児の健康診査、検査 |
| 5. 児童手当 | 6. 児童扶養手当 |
| 7. 放課後児童クラブ | 8. 子育てに関する各種電話相談 |

問27

教育について、以下のようなことで困っていることはありますか。あてはまる番号をいくつでも選び、○をつけてください。

1. 子どもが日本語がうまくできないので授業が理解しにくい
2. 子どもが学校になじまない
3. 進路、進学について不安がある
4. 子どもが外国人であることで差別を受けていると感じる
5. 言葉の違いなどから、保護者と学校との意思疎通がうまく行かない
6. 保育所が近くにない
7. 色々な費用が高い
8. その他（具体的に： _____）
9. とくにない

問28

あなたのお子さんは、学校で、以下のような制度を利用したことはありますか。あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

<p>A 日本語教室</p>	<p>1. 利用したことがある</p>	<p>2. 知っているが利用したことはない</p>	<p>3. 知らない</p>
<p>B 学校へのボランティア派遣制度</p>	<p>1. 利用したことがある</p>	<p>2. 知っているが利用したことはない</p>	<p>3. 知らない</p>
<p>C その他のサポート</p>	<p>1. 利用したことがある</p>	<p>2. 知っているが利用したことはない</p>	<p>3. 知らない</p>

【A、B、Cの詳細】

- A・・・日本語が不自由な児童生徒を支援する国際学級
- B・・・宮城県国際化協会の外国籍の子どもサポートセンター事業
- C・・・AやB以外の日本語学習支援講座や、ボランティアによる教育サポート

とい
問29

あなたはお子さんに母国語や文化についての教育を受けさせたいと思いますか。

あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

1. 現在受けさせており、今後も受けさせたいと思う
2. 現在は受けさせていないが、今後は受けさせたいと思う
3. 現在受けさせているが、今後は受けさせたいとは思わない
4. 現在受けさせておらず、今後も受けさせたいとは思わない
5. わからない

とい 問29 で選択肢 2、3、4 を回答された方は問30 へ、

選択肢 1、5 を回答された方は問31 へお進みください

とい
問30

問29 で「2.」「3.」「4.」に○をつけた方にお聞きします。現在受けさせていない、あるいは今後受けさせたいとは思わない理由は何ですか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。

1. 母国語や文化を教えてくれる場所がない・知らない
2. 母国語や文化を学ぶ必要はない
3. 子どもが関心をもっていない
4. 日本語や日本文化を身につける妨げになる
5. 日本での勉強の妨げになる
6. その他（具体的に： _____）

8 8 労働についてお聞きします

問31 あなたは現在、どのような形態で仕事をしていますか。
あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 経営者 | 2. 正社員 |
| 3. 派遣社員・契約社員 | 4. 自営業 (家業従業者、自由業等含む) |
| 5. パートタイム勤務、アルバイト、内職 | 6. 学生 |
| 7. 無職 (1～6以外で仕事を探している) | |
| 8. 無職 (1～6以外で仕事を探していない) | |

問31 で選択肢1、2、3、4、5を回答された方は問32へ、
選択肢6、7を回答された方は問35へ、
選択肢8を回答された方は問36へお進みください

問32 あなたの現在の職業は以下のうちどれにあたりますか。
あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。2つ以上ある場合は、
主なもの1つに○をつけてください。

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 教員 | 2. 医療関係職 |
| 3. その他の専門職 (弁護士、会計士等) | 4. 経営・管理職 (課長以上) |
| 5. 事務職 | 6. 技術職 (研究員、技術者等) |
| 7. 技能職 (工場労働者、運転士等) | 8. サービス職 (販売員、接客業等) |
| 9. 作業員 (清掃、建設・土木、配達員等) | 10. 農林漁業 |
| 11. その他の職業 (具体的に:) | |

とい
問33

あなたは現在の仕事をどのようにして見つけましたか。
あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

1. 家族の紹介（親の仕事を継いだり、家族の仕事を手伝っている場合も含む）
2. 新聞・求人誌・チラシなど
3. 学校の紹介
4. 母国出身の友人・知人の紹介
5. 日本人の友人・知人の紹介
6. 職業安定所（ハローワーク）の紹介
7. 仕事を紹介する民間会社の紹介
8. 自分で設立
9. その他（具体的に： _____）

とい
問34

仕事で困っていることや不満はありますか。あてはまる番号をいくつでも選び、○をつけてください。

1. 給料が安い 2. 雇用期間が短い 3. 労働時間が長い
4. いつ解雇されるか不安がある 5. 正職員になれない、又は昇格できない
6. 日本人とお互いの考えを理解しあえない
7. 上司や同僚との人間関係がうまくいっていない
8. 外国人として差別的な扱いを受けているように感じる
9. 希望する職種、業種ではない
10. その他（具体的に： _____）
11. とくにない

とい
問35

あなたは今後、宮城県または日本で働こうと思っていますか。
あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

1. 宮城県で働きたい
2. 日本で働きたいが、宮城県以外で働きたい
3. 母国に帰って働きたい
4. 日本と母国以外の国で働きたい
5. その他（具体的に：）
6. わからない

とい
問36

問31で「8.」に○をつけた方にお聞きします。仕事を探していない理由は何ですか。最もあてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

1. 就職できないから
(①から③のうち、最もあてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。)
 - ① 日本語がうまく話せないから
 - ② 探しても希望する就職先が見つからないから
 - ③ 外国人を雇用する企業が少ないから
2. 働く意欲がわからないから
3. 生活していく上で必要がないから
4. 人間関係がよくないから
5. その他（具体的に：）

9

しゃかいせいかついっばん き
社会生活一般についてお聞きします

とい
問37

げんざい、あなたには、なかよ くにほんじん
 現在、あなたには、仲良くしている日本人はいますか。a. しょくば がつこう
 職場、b. 学校、
 c. ちいき しょくば がつこう ちいきが
 地域、d. 職場・学校・地域以外のそれぞれについて、あてはまる番号
 を1つえら 選び、○をつけてください。

a. 職場

1. なん はな あ ひと 何でも話し合える人がいる	2. たまに たち ばなし ひと たまに立ち話をする人ならいる
3. あいさつをする ていど ひと あいさつをする程度の人 しかいない	4. まったく いない
5. ほたら いていない 働いていない	

b. 学校

1. なん はな あ ひと 何でも話し合える人がいる	2. たまに たち ばなし ひと たまに立ち話をする人ならいる
3. あいさつをする ていど ひと あいさつをする程度の人 しかいない	4. まったく いない
5. がつこう い いていない 学校に行っていない	

c. 地域
 (同じ ちやうない
 町内
 の人など)

1. なん はな あ ひと 何でも話し合える人がいる	2. たまに たち ばなし ひと たまに立ち話をする人ならいる
3. あいさつをする ていど ひと あいさつをする程度の人 しかいない	4. まったく いない

d. 職場・
 学校・地
 域以外

1. なん はな あ ひと 何でも話し合える人がいる	2. たまに たち ばなし ひと たまに立ち話をする人ならいる
3. あいさつをする ていど ひと あいさつをする程度の人 しかいない	4. まったく いない

とい問38

あなたには、次のA～Dのようなことで悩んだり困ったりした場合、家族や親戚以外で、誰にまたはどこに相談をしようと思いますか。

A～Dのそれぞれについて、あてはまる番号をいくつでも選び、○をつけてください。

A 人間関係	1. 母国出身の友人・知人	2. 近所の人	
	3. 日本人の友人・知人（2以外）	4. 母国出身者や日本人以外の友人・知人	
	5. 日本語教室の関係者	6. 民間の相談所やボランティア団体	
	7. 市役所、町村役場、県庁などの窓口	8. 市町村国際交流協会や宮城県国際化協会	
	9. その他（ ）		
	10. 自分で解決するので、相談しない	11. 相談する相手がいない	
	B 文化・習慣	1. 母国出身の友人・知人	2. 近所の人
		3. 日本人の友人・知人（2以外）	4. 母国出身者や日本人以外の友人・知人
		5. 日本語教室の関係者	6. 民間の相談所やボランティア団体
		7. 市役所、町村役場、県庁などの窓口	8. 市町村国際交流協会や宮城県国際化協会
9. その他（ ）			
10. 自分で解決するので、相談しない		11. 相談する相手がいない	
C 家族・生活		1. 母国出身の友人・知人	2. 近所の人
		3. 日本人の友人・知人（2以外）	4. 母国出身者や日本人以外の友人・知人
		5. 日本語教室の関係者	6. 民間の相談所やボランティア団体
		7. 市役所、町村役場、県庁などの窓口	8. 市町村国際交流協会や宮城県国際化協会
	9. その他（ ）		
	10. 自分で解決するので、相談しない	11. 相談する相手がいない	
	D 仕事・学業	1. 母国出身の友人・知人	2. 近所の人
		3. 日本人の友人・知人（2以外）	4. 母国出身者や日本人以外の友人・知人
		5. 日本語教室の関係者	6. 民間の相談所やボランティア団体
		7. 市役所、町村役場、県庁などの窓口	8. 市町村国際交流協会や宮城県国際化協会
9. その他（ ）			
10. 自分で解決するので、相談しない		11. 相談する相手がいない	

**とい
問39**

あなたは今後、地域の日本人とどのような交流をしたいとおもいますか。
あてはまる番号をいくつでも選び、○をつけてください。

1. 地域の行事にもっと参加したい
2. いっしょにボランティア活動などの社会活動をしたい
3. 日本人に母国の文化を紹介したい
4. 日本の文化や習慣を学びたい
5. いっしょに食事や買い物に行きたい
6. 家庭のことや子育てなどについて話し合いたい
7. その他（具体的に： _____）
8. とくに交流したいとは思わない

**とい
問40**

あなたは生活上、外国人だということでのいやかな経験やつらい思いをした（している）ことがありますか。あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

1. よくある 2. 時々ある 3. ほとんどない 4. まったくない
5. 過去に経験したことがあるが、今はほとんどない・まったくない

とい 問40で選択肢1、2、5を回答された方は問41へ、
問40で選択肢3、4を回答された方は問42へお進みください

**とい
問41**

問40で「1.」「2.」「5.」に○をつけた方にお聞きします。それはどのようなときに感じましたか。あてはまる番号をいくつでも選び、○をつけてください。

1. 仕事中 2. 日本人の友人との交際のとき 3. 住まいを探すとき
4. 仕事を探すとき 5. 近所との付き合いの中で 6. 子どもが学校などで
7. 買い物や食事をしているとき 8. 公的機関などでの手続きのとき
9. 移動しているとき（歩いているときや公共交通機関を利用しているときなど）
10. テレビ・インターネットなどのメディアの情報で
11. その他（具体的に： _____）

とい問42

あなたが生活している上で、現在最も困っていることは何ですか。
あてはまる番号を3つまで選び、○をつけてください。

- | | | |
|----------------------|-------------------------|----------|
| 1. 子育て・教育 | 2. 病気・けが | 3. 就職 |
| 4. 仕事 | 5. 生活費用 | 6. 住宅 |
| 7. 日本語の理解 | 8. 家族の介護 | 9. 老後の生活 |
| 10. 家族との人間関係 | 11. 家族に関する問題(1、8～10を除く) | |
| 12. 友人・知人や近所の人との人間関係 | | |
| 13. その他(具体的に:) | | |
| 14. とくになし | | |

とい問43

あなたは、仕事や学業以外で何らかの社会活動をしていますか。またはどのように考えていますか。それぞれについて、あてはまる番号を選び、○をつけてください。

1. 母国語や母国文化を生かせる交流活動	1. している 2. してみたい 3. する予定なし
2. 自分の仕事や学業(専攻)を生かせる交流活動	1. している 2. してみたい 3. する予定なし
3. 特技や趣味を生かせる文化・スポーツ活動	1. している 2. してみたい 3. する予定なし
4. 住民として地域のために役立つ活動	1. している 2. してみたい 3. する予定なし
5. 福祉や国際協力などのボランティア活動	1. している 2. してみたい 3. する予定なし
6. 母国出身者のために役立つ活動	1. している 2. してみたい 3. する予定なし
7. その他(具体的に:)	1. している 2. してみたい

10 ぼうさい き 防災についてお聞きします

問44 あなたは、平成23年3月11日の東日本大震災（以下「震災」といいます。）を経験しましたか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. みやぎけん内^{ない}で経験^{けいけん}した。
2. ほか^{ほか}の都道府県^{とどうふけん}で経験^{けいけん}した
3. 経験^{けいけん}していない

問44 で選択肢^{せんたくし} 1 を回答^{かいとう}された方は問45 へ、
問44 で選択肢^{せんたくし} 2 を回答^{かいとう}された方は問46 へ、
問44 で選択肢^{せんたくし} 3 を回答^{かいとう}された方は問50 へお進み^{すす}ください。

問45 問44 で「1.」に○をつけた方^{かた}にお聞き^きします。地震^{じしん}直後^{ちよくご}から1週間^{しゅうかん}までの間^{あいだ}に知り^したいことは、何^{なん}でしたか。
 あてはまる番号^{ばんごう}をいくつでも選^{えら}び、○をつけてください。

- | | |
|---|---|
| 1. 地震 ^{じしん} の情報 ^{じょうほう} | 2. 津波 ^{つなみ} の情報 ^{じょうほう} |
| 3. 福島 ^{ふくしま} 第一 ^{だいいち} 原子力 ^{げんしりょく} 発電所 ^{はつでんしょ} の事故 ^{じこ} の情報 ^{じょうほう} | 4. どこに避難 ^{ひなん} すればよいか |
| 5. 家族 ^{かぞく} ・友人 ^{ゆうじん} の安否 ^{あんぴ} | 6. 出国 ^{しゅつこく} の方法 ^{ほうほう} |
| 7. ライフライン ^{らいふらいん} （電気 ^{でんき} ・ガス ^{がす} ・水道 ^{すいどう} ）の復旧 ^{ふっきゅう} 状況 ^{じょうきょう} | |
| 8. 外国語 ^{がいこくご} で相談 ^{そうだん} できる窓口 ^{まどぐち} | 9. 行政 ^{ぎょうせい} の8以外 ^{いがい} の相談 ^{そうだん} 窓口 ^{まどぐち} |
| 10. 母国 ^{ぼこく} の大使館 ^{たいしかん} ・領事館 ^{りょうじかん} の情報 ^{じょうほう} | |
| 11. その他 ^た （具体的 ^{ぐたいてき} に： _____) | |

問46

地震直後から1週間までの間、知りたい情報はどこから得ましたか。
あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

1. 日本語のラジオ放送
2. 日本語のテレビ放送
3. 地域の災害エフエム放送
4. 携帯電話のワンセグテレビ・インターネット
5. パソコンのインターネット
6. ツイッター、フェイスブック
7. 新聞
8. 日本語以外のラジオ放送
9. 日本語以外のテレビ放送
10. 日本にいる家族・親戚
11. 国外にいる家族・親戚
12. 近所の人
13. 日本人の友人・知人 (12を除く)
14. 母国出身の友人・知人
15. 母国以外の外国出身の友人・知人
16. 避難所にいた人
17. 職場・学校
18. 行政のお知らせ
19. その他 (具体的に:)
20. 情報は全く得ることができなかった
21. 情報は必要なかった

問47

宮城県では地震が多いことを知っていましたか。
あてはまる番号を1つ選び○をつけてください。

1. 知っていた
2. 知らなかった

問48

地震発生後には、津波が来る可能性があることを知っていましたか。
あてはまる番号を1つ選び○をつけてください。

1. 知っていた
2. 知らなかった

問47・問48で選択肢1を回答された方は**問49**へ、
選択肢2を回答された方は**問50**へお進みください

とい問49

とい問47・問48で「1.」を選んだ方にお聞きします。

それはどのようにして知りましたか。

あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 日本に来る前から知っていた | 2. 家族や友人などから聞いた |
| 3. 先生から聞いた、または学校の資料で見た | 4. 職場で聞いた |
| 5. 防災訓練に参加した時に知った | 6. 自分で勉強した |
| 7. その他（具体的に： _____） | |

とい問50

『津波』、『高台』、『避難』、『注意報』、『警報』の意味を知っていますか。震災を経験した方は、経験前に知っていたかについてお答えください。

それぞれの言葉について、あてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

津波（つなみ）	1. 聞いたことがある	2. 意味も知っている	3. 知らない
高台（たかだい）	1. 聞いたことがある	2. 意味も知っている	3. 知らない
避難（ひなん）	1. 聞いたことがある	2. 意味も知っている	3. 知らない
注意報（ちゅういほう）	1. 聞いたことがある	2. 意味も知っている	3. 知らない
警報（けいほう）	1. 聞いたことがある	2. 意味も知っている	3. 知らない

とい問51

災害から自分の身を守るために、必要であると感じていることは何ですか。あてはまる番号を3つまで選び、○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1. 災害に関する知識を身につける | 2. 防災用品を準備する |
| 3. 住宅の耐震化や家具の固定を行う | |
| 4. 避難所の場所や避難経路を確認しておく | |
| 5. 母国語での情報提供を受ける | 6. 日本語の学習をする |
| 7. 日ごろから近所との交流を持つ | |
| 8. その他（具体的に： _____） | |

**とい
問54**

ぎょうせい ていきょう じょうほう じゅうじつ じょうほう
 行政が提供する情報のうち、充実してほしい情報はありますか。
 あてはまる番号を3つまで選び、○をつけてください。

- | | | |
|---------------------------|-----------------|------------|
| 1. 就職・雇用 | 2. 病院・医療 | 3. 出産・育児 |
| 4. 教育制度・学校 | 5. 税金、健康保険、年金 | |
| 6. 事故や災害など緊急時の対応 | 7. 在留資格、住民登録 | |
| 8. 公営住宅 | 9. 公共交通機関 | 10. ゴミの出し方 |
| 11. 地域の日本語を学べる場所 | 12. 外国語で相談できる窓口 | |
| 13. 通訳・翻訳などのボランティアに参加する方法 | | |
| 14. 地域での交流イベントや祭り・町内会行事 | | |
| 15. その他（具体的に： _____） | | |
| 16. とくになし | | |

**とい
問55**

ざいじゅう がいこくせきじゅうみん
 在住する外国籍住民にとって暮らしやすいまちになるためには、
 ぎょうせい
 行政はどのようなことをすればよいと思いますか。
 じゅうよう おも ばんごう
 重要だと思うことを3つまで選び、あてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1. 外国籍住民が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる | 2. 外国語の生活情報の提供を充実させる |
| 3. 外国語の相談窓口を充実させる | 4. 外国語の案内表示を増やす |
| 5. 子どもの教育における外国語サポートを充実させる | 6. 外国籍住民の就職を支援する |
| 7. 外国籍住民の住宅入居を支援する | 8. 外国籍住民の意見を行政に生かすための制度づくり |
| 9. 日本人住民の異文化理解を進める | 10. 日本人住民の外国語学習を支援する |
| 11. 外国籍住民と日本人住民が交流する機会を増やす | |
| 12. その他（具体的に： _____） | |

平成29年度宮城県外国人県民アンケート調査結果報告書

平成30年3月

【編集・発行】 宮城県経済商工観光部国際企画課
〒980-8570 仙台市青葉区本町三丁目8番1号
TEL 022-211-2972 FAX 022-268-4639
URL <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ftp-kokusai/>

【集計・分析】 東京商工リサーチ東北支社